

會社に入り大正十三年歸郷辯護士を開業す。洒々落落たる中に一片凌々たる氣骨を藏し天賦の偉器を抱いて目下雌伏せるの觀あるも將來實業界、政治界に期待する處多し。尙岡山瓦斯株式會社監査役たり。趣味としてゴルフに堪能、また乗馬に長ず。夫人は元岡山醫科大學長筒井八珠氏の第三女にして和氣藹々たる家庭なり。

態なく、公職の傍ら心を思索に傾け、兒島高德の史實調査をなし別に事跡私考を叙して、畏き邊りへ献上せり、其他雜誌恒心を経營し自ら執筆せしことあり、敬神の念殊に篤く常に純正神道を唱導す。

尾崎邦藏



君は明治十七年兒島郡琴浦町に生る。明治三十五年大阪帝國書院卒業後、箕裘を繼

小原俊二

小原商店社長

己に従はんとする所の事業は只自己の名利に走らす必ず國家の公益を期せざるべからざるは當然の事なり其の効を曠望せんと欲すれば困難も忍ばざるべからず。然して其の効の成るや又快心何物にも譬へ得ざるべし。今其の快心を味ふ人に小原俊二氏あり作州津山市東新町の人二十四歳松本商店に入り出でて獨立し日本橋唯一の大農業藥品問屋となり資産百萬と稱せらる。蓋し幸運兒なるかな。

尾形兵太郎

兵庫縣武庫郡精道村蘆屋

君は嘉永四年岡山市上内田町、岡山藩士徳藏氏の長男に生れ、安政四年岡山藩學校にて漢學を學び、慶應元年岡山兵學館にて、兵學の薰陶を受く。明治二十六年辯護士名簿登録を受け、明治三十年兵學三等教授に擧げらる。全三十五年大阪市選出衆議院議員に當選、續いて全三十六年、全三十七年當選、全三十九年日露役の功により勳四等、旭日小綬章を授けらる。讀書を好み、自然を愛す。

尾形惣三郎

岡山市東田町二九



君は邑久郡本庄村上山田の人。慶應二年五月を以て生れ、明治三十七年岡山

市役所市吏員となり、戸籍、稅務、經理、社會、水道の各課長を経て市收入役となり、昭和四年職を辭し爾來岡山購買信用組合副理事長、岡山市濟世信用組合各幹事等の榮職の外、神宮奉齋會岡山本部長の職にあり、資性謹直過去二十六ヶ年の市吏員生活中一点の過誤失

ぎ大阪市安土町に支店を設け尾崎商店と稱し、織物販賣業に従事し又原籍地に於て綿糸織物製造販賣を開始大いに活躍せり。明治四十四年備前織物組台長に當選し五ヶ年間勤務し其間支那視察に向へり。大阪に於て莫大小肌衣を製造し内外に販路を開く。後年莫大小部組織變更株式會社尾崎商店と改め社長たり。又尾崎商事株式會社と改名し社長となり、傍ら田ノ口運輸株式會社々々長味野稅務署所得調査員等の榮職に在り、家庭に三男あり。

尾崎生三

岡山市下之町

生家は代々豪農を以て知らる、治治三十二年同志とはかつて株式會社倉敷商業銀行を創立支配人として勤務すること三十四年業務取締役に擧げられ重任となり大正八年縣下銀行合併の機運に際會して進んで第一合同銀行との合併を斷行大正十年同行常務取締役にとなり更に昭和五年山陽銀行を併せて現中國銀行設立するに及び君又入りて取締役に就任今日に至る。寡言にして果敢實行力にとみ風姿堂々人をして一見推服せしむ。

尾崎東吾

君は明治五年兒島郡琴浦町に生る。明治三十八年黒住教琴浦教會所長に推され同教布教に努む。後織物問屋を経營し大正六年備前織物同業組合副組長に就任し大いに手腕を振ひ、大正八年岡山縣織物同業組合聯合會評議員となり傍ら岡山縣濟世委員囑託、日本輸出織物同業組合組長、日本輸出綿織物同業組合備前支部長に就任し今日に至る。

大岸與三郎

月エメチンの研究を以て醫學博士の學位を授與さる、君は刀圭界稀に見る情の人と稱せられ詩歌をよくし文學に親しむ。



慶應二年五月を以て生れ、明治三十七年岡山

市役所市吏員となり、戸籍、税務、經理、社會、水道の各課長を経て市収入役となり、昭和四年職を辭し爾來岡山購買信用組合副理事長、岡山市濟世信用組合各幹事等の榮職の外神宮奉齋會岡山本部長の職にあり、資性謹直過去二十六ヶ年の市吏員生活中一点の過誤失

大岸與三郎



君は明治十六年岡山縣岡山市橋本町に生れ岡山名物大干饅頭を以て著名創業實に天保八年といふ。明治四十年金光中學出身、よく父祖の遺業をまもり改良にあたり苦心丹精日夜その聲價を傷けざらんことをおそる。自ら店頭に交り家族徒弟を督して精製に没頭する宛も巨匠名工の入魂三味の境地に在るが如しす普通人の及ぶ所にあらざるなり、さればこそ顧客の嗜好と味覺を考察し得てその實質と内容とを以て各階級の絶讚を博せる所以蓋し大手饅頭の上に出づるもの少きは又君の技量によるとはいへ洵に信念の人にして一方の達觀者と稱すべく町總代に推され又濟世委員に擧られ盡瘁すること多年なり。君は金光教に歸依すること深く現に御野教會所屬教師として活動。教書を抱いて黙想散策するは四六時中君の最も安息の時なりといふ。夫人は邑久郡豊原村小林家の人にして六子あり。

醫學博士 大森斌彦 大阪市住吉區天神森一



君は岡山市一番町の人明治二十二年二月大森健八郎氏長男に生る。祖父大森松太氏は現鐘淵紡績株式會社岡山工場の前身たる岡山紡績株式會社創立の功勞者として知らる。縣立第一中學を卒へ、大正三年京都帝國大學醫學部を卒へ大學病院副手として數年、大正八年三月台灣總督府醫學專門學校教授に任せられ全總督府中央研究所技師を兼ね正七位高等官六等に敘さる。台灣に在ること三年從六位勳五等に陞叙再び京都醫科大學にて内科を修め大正十三年七月大阪堂ビル内に大森内科を開業今日に至る。之より先き大正九年一

尾崎東吾

君は明治五年兒島郡琴浦町に生る。明治三十八年黒住教琴浦教會所長に推され同教布教に努む。後織物問屋を經營し大正六年備前織物同業組合副組長に就任し大いに手腕を振ひ、大正八年岡山縣織物同業組合聯合會評議員となり傍ら岡山縣濟世委員囑託、日本輸出織物同業組合組長、日本輸出綿織物同業組合備前支部長に就任し今日に至る。

月エメチンの研究を以て醫學博士の學位を授與さる、君は刀圭界稀に見る情の人と稱せられ詩歌をよくし文學に親しむ。

大森多二郎

君は明治十三年岡山縣上道郡高島村大字新屋敷に生る。明治三十四年東京工學院土木科を卒業。大正七年岡山市技師を拜命。君は圓滿なる人格者にして且つ敏腕家としてきこへ新興岡山市における諸施設のうち就中都市計畫事業上水道の擴張下水調査旭川改修道路問題を初として宇野線の復線問題等細大君の手腕に期待さるゝもの尠からず蓋し適任者として囑望大なるものあり。

大野正夫



君は明治九年四月十五日兒島郡莊内村宇藤木に生る。閑谷齋出身、明治二十九年

米國に遊學在米五年にして歸朝神戸稅關に奉職し、後轉じて京釜鐵道株式會社、統監府鐵道管理局等に奉職中父の訃に遇ひ全四十一年歸郷す。全四十二年韓海水産株式會社、日本殖産株式會社を創立これが重役となる。選ばれて同村々長、續いて縣會議員に當選後宇野町に聘せられ町長となる。かつて參事會員となり現に副議長に擧げらるる等縣政につくし地方に於ては多くの公職を兼ねてその發展に貢献すること亦大なるものあり。更に町長として茲に特記し永く忘るべからざるものは多年の懸案たりし第二種重要港灣選定即宇野港開港場指定問題にして君の東奔西走努力の結果遂に昭和五年その指定をうけ方今これが完成に第一歩をそめたる、こはひとり宇野港のみの問題にあらずして岡山市否中國各種産業並運輸交通の發展期して待つべきものあり蓋し宇野港の今日ある時勢の然らしめたるものは云へ又君の力與りて甚だ多とせざるべからず。庭園に對する研究深し、謠曲觀世生花專敬流其の趣味深し。

岡山瓦町郵便局長

大林孫治

君は明治十九年岡山市瓦町に生る、岡山中學を卒業し、現に岡山瓦町郵便局長となりて郵便事務に従事す。大正六年岡山市會議員に當選、同十年再選され、都市計畫岡山山地方委員に擧げらる、又岡山市農會副會長となり市政並に市産業界に貢献する事大なり、此外關係事業として岡山縣教育會評議員、岡山市教育會幹事、岡山縣濟世顧問、岡山市信用組合監事。深抵獎學會、其他多數の要職に就き常に市發展に努力して今日に至る、夫人も岡山市愛國婦人會、岡山縣慈善婦人會、縣社會事業協會各幹事等の職にあり。

ローラー工場工務主任
大多和潤 姫路市博勢町



君は明治二十五年岡山縣吉備郡園部村の士族大多和俊氏の次男として生る、幼時

淺口郡玉島町に移り、明治三十九年岡崎合資會社に入り、朝鮮忠清南道江景において同社營業事務を担当す。四十五年歸省、大正二年大阪遞信局書記兼建設課書記となり、後工務課に移り技術員となる、在職十年にして大正十三年職を辞して大阪に洋服商を開業し、更に營業を轉じ義弟林義三郎氏の神戸市大日通五丁目木屋號において製作販賣する印刷用ローラーの製作工場に入り工務主任並に一手販賣に従事し今日に至る、該ローラーは同工場特製のものにして在來ローラーに比し耐久力其他頗る優秀全國印刷業者間に愛用せらる。

大澤 泰 津山市山下

君は明治十三年苦田郡高田村に生る、明治三十五年範多龍太郎氏の經營になる大坂鐵工所に入り、在職五年、次で現阪急電車の前身有馬、箕面電軌會社に入り土地課長となる、再び大阪鐵工所備後工場倉庫課長に轉ずるに及び歐戰いよ／＼酬となり、帝國艦隊の出勤參加を見、軍需物資の輸送に我が海運界荐りに動き、船腹の如き悉く拂底を告ぐ。茲に於て大正五年有志と共に糸崎造船株式會社並に

瀬戸因に一萬噸級の大船渠を有する山陽船渠株式會社創立に奮命し、其設立の後入りて兩社の専務となる、



既にして幾多の大船船を建造供給して我が造船界に貢献する所淺からず、大正十年歸郷し關當純氏の美作林産株式會社に入り、轉じて山陽銀行本店詰として庶務購買主任たりしが、昭和四年同行を辭して現岡山金融無盡津山出張所主任を擔當して今日に至る。

大石俊平 英田郡林野町

君は明治十三年英田郡林野町に生る、明治四十一年大阪府立高等醫學校を出て同校助手兼病院醫員となり明治四十五年現住地に醫業を開業し爾來二十年地方屈指の名醫として知らる。餘技として劍道あり。



大塚幾太 兒島郡莊内村

明治二十九年三月一日生れ明治四十四年東兒銀行莊内支店を振出しに、大正七年中備銀行莊内支店に勤務、全十四年支店長となり昭和六年十月妹尾支店長となる。趣味は碁、謠曲にして令夫人との間に一男一女あり。令夫人は賢夫人としてのほまれ高し。

日本勸業銀行理事同大阪支店長
大橋信吉 大阪市東區石町一ノ五

自宅 東京小石川區丸山町六ノ一七
明治十六年倉敷町大橋五郎氏の二男に生れ、伯父先代平右衛門氏の養子となり家督を繼ぐ。明治四十四年東京帝國大學法政政治科を卒業し、後日本勸業銀行に入り、やがて庶務課長、預金課長、割引課長、京都支店長等に歴任し、昭和三年その理事に擧げられ、貸付

課長、支店課長事務取扱ひを兼攝し、同七年八月前記現職に就かる。

兒島郡迫川郵便局長
大賀實太郎 兒島郡灘崎村

君は明治十四年を以て岡山

年岡山縣立第一中學校第四學年修了第六高等學校をへて東大英法科昭和三年東京遞信局に勤務、後航空局に轉ず、昭和五年京都伏見郵便局長を命せられ、通信事務官に補せられ現在に至る。家庭に夫人一女あり。

京都市長

大澤 泰 津山市山下

君は明治十三年苦田郡高田村に生る、明治三十五年範多龍太郎氏の經營になる大坂鐵工所に入り、在職五年、次で現阪急電車の前身有馬、箕面電軌會社に入り土地課長となる、再び大阪鐵工所備後工場倉庫課長に轉ずるに及び歐戰いよ／＼酣さなり、帝國艦隊の出勤参加を見、軍需物資の輸送に我が海運界荐りに動き、船腹の如き悉く拂底を告ぐ。茲に於て大正五年有志と共に糸崎造船株式會社並に

日本勸業銀行理事同大阪支店長

大橋信吉 大阪市東區石町一ノ五

自宅 東京小石川區丸山町六ノ一七
明治十六年倉敷町大橋五郎氏の二男に生れ、伯父先代平右衛門氏の養子となり家督を繼ぐ。明治四十四年東京帝國大學法政政治科を卒業し、後日本勸業銀行に入り、やがて庶務課長、預金課長、割引課長、京都支店長等に歴任し、昭和三年その理事に擧げられ、貸付

課長、支店課長事務取扱ひを兼攝し、同七年八月前記現職に就かる。

兒島郡迫川郵便局長 大賀實太郎 兒島郡灘崎村



君は明治十四年を以て岡山縣兒島郡灘崎村に生る、多年村會議員となりて村政に

干與し、又社寺總代其他村内の名譽職に就き、明治三十七年迫川郵便局長となる、君就職以來大々的刷新を加へて、區域内民衆の利便を圖り、開設當時軍事通信の如きは出征兵の安否消息を意味する通信關係上、之等の疑懼と遲滯を一掃し、又爲替、貯金等の事務簡捷を圖るなど成績著しきものあり、今や在勤三十年を閲し業いよ／＼隆盛を加へ君又日夜精勵して現在に至る、正七位勳七等に敘せる。



明治十六年上道郡高島村中井に亡大森久五郎氏の長男に生れ

明治四十一年大學を卒業し高文試験に合格し京都府屬に任官同府桑郡長を経て四十五年京助役に就き大正都府市天皇御即位の御大典に奉仕。五年熊本縣理事官に任せられ愛媛、神奈川警察部長、神奈川港務部長、長崎熊本警察部長、北海道土木部長、内務部長等に歴任し十二年行政視察の爲海外出張大正十四年山口縣知事昭和四年熊本縣知事同五年依願免官の後滿鐵理事を命ぜられ同六年地方部長となり、七年六月之を辭して京都市長たり。聖上岡山縣行幸中後樂園行在所より旭川堤に沿ひ高島村に御遠乗あり。氏の亡父の寄進せし社道と小石橋を御渡遊ばされたる事、又その地方が神武帝東征の砌りの行在所と傳説せられ天恩辟村の農民に及び又亡父崇神の微志意外に惠まれしと氏は新に光榮無上を感謝されつゝあり。

宇野、三井物産造船部技師 大野省三 岡山縣兒島郡宇野港藤井



君は明治二十六年岡山縣兒島郡莊内村に生る、現岡山縣會副議長大野正夫氏は實兄にあたる。明治四十四年岡山中學第六高等學校を経て大正六年東大工科部を卒業、三井物産造船部に入社、造機工作課技師として勤務、大正十五年社務を帯びて丁抹國に航し同國のパーメスターウエン會社に入りてダイセルエンヂンの研究を遂げ更に歐米各國の造船工場を視察昭和二年歸朝引續き同造船部に勤務して現在に至る。

大森繁治

君は明治十五年一月二日岡山縣上道郡西大寺町に生る。岡山縣立商業學校卒業、内山下小學校に商業科の設置と共に主任として之を担任、一ヶ年餘後一年志願兵として姫路歩兵第十聯隊に加り、日露戰役に出征戰功により勳六等旭日章並に一時賜金を下賜せらる明治三十九年大森家の人となりて以來在郷軍人會創立に奔走推されて其會長たると共に合資會社大森紙商店の經營者並に西大寺運送株式會社社長たり。眞言宗を信仰し、趣味に弓道書畫骨董、茶道、花盆あり、家庭に夫人二男健二藥專卒藥劑師あり。

京都伏見郵便局長 大野勝三 京都市伏見桃山

君は明治三十六年岡山縣兒島郡莊内村に生る、大野仁三郎氏は君の嚴父なり、大正十一

荻野元太郎 東京麴町區一番町一

古河電氣工業株式會社專務取締役
日光電氣軌道株式會社取締役
日本電線製造株式會社取締役
東亞興業株式會社監査役
日理放送協會理事
臨時産業合理活毛布單純化委員會々長

君は岡山縣士族石川光輝氏の長男に生れ、後荻野晴光氏の養子となり明治三十八年家督を相續す。同三十六年早稻田大學政治科を卒業し支那を遍歴して視察を遂げ、翌三十九年古河合名會社上海支店の創設を、や之れに入りて支店長となる。後同社の大阪支店に轉じ大正四年英國に出張し翌五年本店營業副部長兼營業課長となり、更に古河商會社常務取締役となり昭和六七年の頃には歐州各國を巡遊視察せり。同九年同社を退き現在前記諸會社に重役たり。

大橋博一 岡山縣小田郡金浦町大字西濱

君は明治三十四年淺口郡金光町に生る。笠岡商業學校卒業、青雲の志を抱いて東都に入り早稻田大學政治經濟科に學び大正十四年卒業後歸郷彌生製帽株式會社金浦工場長となり、精勵社業大に揚がる現に家屋稅調查委員、西濱漁業組合理事等の要職にあり。趣味は庭球、圍碁なり、家庭に夫人、令妹、令弟、長男あり。

大森佐吉 上道郡西大寺町明治八年生

にして現に岡山書籍株式會社取締役岡山縣書籍雜誌商組長西大寺山陽板紙株式會社監査役中國製紙株式會社監査役廣福製紙株式會社監査役たり。君は先代佐吉氏の長男なり、家代々廣谷屋と號して紙類書籍販賣を業とす。明治三十七年家督を繼ぎて幼名藤次郎を改めて襲名す。前記の諸職にありて旭東實業界の重鎮たり。

大橋平右衛門 倉敷市阿知町

大橋家は地方屈指の豪農由緒深き名門にして、大阪七手組の一人佐々木平内に創る、平内しばし再舉を謀りしも果さず流寓轉々備中に入り農を營み勤儉力行資を積み産を造り以て大橋家の基礎をなし、寶永年間倉敷町に居を移し備前備中備後三原の諸侯及石州濱田侯の用達をつとめしことあり。君は先代平右衛門氏の四男幼名元之甫長じて友之、三兄天折するに及んで家産を繼ぎ父平右衛門を襲名す。

す、篤志家にして、近郷の人々敬慕崇拜す、各種公共事業に寄附し貧窮者を救済したること枚擧に遑あらず。倉敷紡績會社創立は君の力によりたるもの也。大橋銀行を創立して、地方金融界のためにつくし、更に大正十一年、土居通博氏等と吉備貯蓄銀行を起して監査役たり。先年社團法人大橋農業倉庫を設立し以て地方産業の振興を圖る等又縣下財閥の中心人物たり。

大原五一 岡山市三番町六番地



君は明治二十一年倉敷市向市場町に生る。資性英邁大正四年京大法科政治科卒業

倉敷紡績株式會社に入社。大正八年十月第一合同銀行なるや同行營業部副長となり次で營業課長に轉じ銀行業務視察の爲め大正十二年四月同行より歐米へ一ケ年間派遣せられ歸朝取締役に就任、昭和五年十二月第一合同並に山陽兩銀行の合併されて現中國銀行と改稱さるゝに當りその常任監査役たり、然るに昭和七年八月同行を辞し倉敷絹織株式會社取締役に就任して現在に至る尙倉敷商農土地株式會社取締役たり。趣味に讀書、庭球、ゴルフを有し家庭に母堂夫人三男一女あり。

合資會社清水組土木部工事長 太田 稔 東京芝區白金三光町三六

明治二十一年吉備郡庭瀨町に始四郎氏の長男として生れ東大土木科に入り大正四年卒業直に清水組に入り現場工事主任、土木部副部長、芝浦鐵工場長等を経て現に其の工事長たり。曩に昭和七年米國に出張を命せられ具さに彼の地に於ける土木建築業を視察して翌八年歸朝せらる。母堂は元枝夫人安政四年生れ夫人は節子明治二十八年生れ、岡山縣安田重朝氏二女、日本女子大學家政科卒業長男健一君大正五年生れ、麻生中學在校二男康二君大正八年生れ三男三郎君大正十四年生れ四男隆四郎君昭和三年生れ弟收氏山一證券株式會社常務取締役は分家し、妹トモエ夫人は陸軍大佐坂井豊氏に、妹トメ子夫人は廣島地方裁判所部長判事渡邊彦士氏に妹芳子嬢は岡山縣醫師稻葉章通氏に嫁す。

小郷 虎市 神戸市六甲高羽

明治二十一年苦田郡香々美南村出身津山中學、立命館大學を経て、財政經濟學を研め京都商業會議所に入り書記となり傍ら京都帝大、大田博士につきて研鑽怠りなく大正七年抜か

大橋 鐵吉

大阪市道修町一ノ一

校主事に榮轉し、昭和九年前記の職に任じて再び本縣初等教育界に其の蘊蓄を傾く。

大橋家は地方屈指の豪農由緒深き名門にして、大阪七手組の一人佐々木平内に創る、平内しばし再舉を謀りしも果さず流寓轉々備中に入り農を營み勤儉力行資を積み産を造り以て大橋家の基礎をなし、寶永年間倉敷町に居を移し備前備中備後三原の諸侯及石州濱田侯の用達をつとめしことあり。君は先代平右衛門氏の四男幼名元之甫長じて友之、三兄夭折するに及んで家産を繼ぎ父平右衛門を襲名

年譜制せらる。母は元枝夫人安政四年生れ夫人は節子明治二十八年生れ、岡山縣安田重朝氏二女、日本女子大學家政科卒業長男健一君大正五年生れ、麻生中學在校二男康二君大正八年生れ三男三郎君大正十四年生れ四男隆四郎君昭和三年生れ弟收氏山一證券株式會社常務取締役は分家し、妹トモエ夫人は陸軍大佐坂井豊氏に、妹トメ子夫人は廣島地方裁判所部長判事渡邊彦士氏に妹芳子嬢は岡山縣醫師稻葉章通氏に嫁す。

小郷 虎市

神戸市六甲高羽

明治二十一年苦田郡香々美南村出身津山中學、立命館大學を経て、財政經濟學を研め京都商業會議所に入り書記となり傍ら京都帝大田博士につきて研鑽怠りなく大正七年抜かれて農商務省臨時産業調査局に奉職次で本省囑記、商務局商事課屬となり、大正十一年岡山商業會議所書記長に招聘されて赴任功績あり兵庫縣長知事の知遇を受けて同縣商工課に主事として勤務中兵庫縣産業協會を創設し自ら理事となり今日に至れり。社交に長じ頭腦明晰敏腕家として知らる。

岡山縣畜産界功勞者

大阪牛乳王

岡崎 趙七

大阪市郊外阪急沿線塚口

君は明治八年三月邑久郡太伯村神崎岡崎佐次郎長男として生れ長ずるに及んで嚴父の血をうけて鑑定に秀で奮闘的雄志に燃へ將來家庭必需品としての牛乳需用の有望を看取し明治二十五年早くも牛乳の仲買賣買を始め牧牛の改良に染手して遠く伊豆國に廣大なる土地を購入して牧場を經營す。明治三十五年末大阪市内及一圓の乳牛需要の激増に見る所あり。即本據を大阪に轉じ西成區神津の地に多大の犠牲と努力を拂つて岡崎牧場を設けて現岡崎牧場の大をなし其後四十年に至り岡山縣邑久郡産牛組合を創立する等大阪岡山兩府縣下に亘り一意事業の發展に盡せり、君の事業に熱心なる種牛購入の爲に遠く北米合衆國に航して優良種の改良につくし、常に阪神郷土間に奔走して至らざるなし。現在岡山、大阪兩牧場の飼育頭數裕に數百頭に達し大阪市及阪神一圓における需用乳牛量の過半は岡崎牧場及全系企業者の供給せるものにして名實共に牛乳王と稱せらる。

君は最も義侠心にとみよく後輩を導き今日大阪に於ける企業商にして直接間接君の恩恵をうけざる者殆んどなしといふ。

岡山縣師範學校附屬主事

大森 保平

上道郡高島村

君は高島村三石家に生る。岡山師範本科一部の卒業後自村小學校訓導に任じ、富山村小學校より附屬小學校に轉じ、教育科の中等教員免許狀を得て岡山師範教諭に榮轉の後、更に研鑽教育學を専攻して京都府師範附屬小學

校主事に榮轉し、昭和九年前記の職に任じて再び本縣初等教育界に其の蘊蓄を傾く。

大橋 鐵吉

大阪市道修町一ノ一

君は明治十九年後月郡出部村大橋良三郎氏長男に生る。岡山中學、第六高等學校をへて明治四十五年東大法科を卒業直ちに司法官試補に任せられ、東京地方裁判所詰に補せられ大正二年豫審判事を命せられ翌年大阪地方裁判所判事となり名判事として斯界に著聞し後官を辭して大阪に辯護士を開業して今日に至る。謙遜家にして硬骨辯護事務に従事し未だ嘗て君の名利に走つて兎角の評あるを聞かず。正義の觀念に強く權勢に阿附せず、舉措極めて質實一度辯護の爲に法廷に立たんか、別人の如く、懸河熱火の辯を揮て獅子吼するあたり、先天的弱者の味方として全使命とせるもの、浪華法曹界屈指の辯護士として推賞さる。

岡福松

明治二十五年八月生 岡山市上之町

明治十八年山陽新報と共に我岡山市に於ける新聞販賣店の開祖である、現在山陽新報、大阪毎日新聞、中國民報、並に知名諸雜誌の販賣をなし、市内小橋町中納言に支店を設け従業員二十六名餘、頭腦明晰果斷の本店の週營業モスリン店も我岡山市内屈指の店舗たり、乃木大將の崇拜者にして運動、讀書を以てたのしみとす。家庭に母堂、夫人一男二女あり長女壽子さんは聲樂家八馬圭一氏に嫁す

村社住吉神社々掌

大森 茂登治

都窪郡茶屋町

明治四年春生



神君の大御恵みに

活かされて
年老ひぬとも思はさりけり

中國銀行頭取
大原孫三郎



明治十三年七月都窪郡倉敷町の名門にして富豪たる大原孝四郎氏の長男に生る

。閑谷豊、同志社の學府を出づるや關西財界の頭目として將に爲す可きをなさんと徐に企劃するところあり、即ち先づ父祖の遺業を大成し、餘澤を郷土の教化、農事の研究改良に垂れ、爾來地方産業經濟の源泉たる金融機關の内容形式の充實統整、更に産業文化、社會問題に資する基礎的學究機關の施設並に厥の具現的事業を中國四國中心に起し、其の他人間品性陶冶に必須高級なる趣味的調度等其の施設事業の巨大なるもの十指を屈す可く、利得一徹の財閥を啓發するに足り、邦家に貢獻し社會に利便す。
蓋し内よりも外、國際的産業社會、經濟社會、學界、社會事業界等に眞價を玩味せられ、尊重せらるゝ事反つて甚大なり。

日華蠶糸株式會社東京主任

岡田榮太郎

東京西巢鴨宮仲三見
明治二十年眞庭郡勝山町三田に生る。幼より吳服店、精米手傳等に勵み勝山銀行見習等刻苦の生活、中都中外貯金の整理を機會に行移轉に伴ひ上京、晝間之れに勤務し夜間通學遂に大正七年中央大學法科を卒業す。
片倉組今井五介翁に知られ、日華蠶糸の前身東亞蠶糸組合上海勤務となる。大正九年本社事務の關係上歸京勤務、常に上海本店間を往復す。
其の他滿洲蠶糸株式會社監査役、青島合同煙草取締役等の要職にあり。母堂もと女史健在、節子夫人との間に三男あり。尙君今や弟妹九人の教育と結婚を了る。實に君の前半生は貧苦奮闘の生涯、既に立志傳中の人たるなり

鹿子木孟郎

京都市下鴨西林町三
君は明治七年岡山市東田町に生る。家代々岡山藩士、夙に丹青の道に志し、松原三五郎氏につきて研究二十三年上京共立學校に學ぶこと二年、小山正太郎氏の門に入り愈々洋畫の精髓に觸れ、二十八年文部省中等教員檢定試験に合格。



滋賀、三重、埼玉各縣立中學に奉職、全職、三十二

年大阪住友家から派遣されて歐米に渡り英米につき親しくその畫風を窺ひ、佛都パリ、白耳義、瑞西、伊太利の各美術界並に自然に接して得る所あり。三十七年歸朝居を洛陽に構へ京都高等工藝學校教師となる二年餘、再び住友家より佛國に留學しアカデミーに技を磨くと共に泰西美術の眞髓を究め、三十九年全國サロンに合格、翌年更に、ジミアンの賞牌及賞金を獲得四十一年歸朝現に京都高等工藝學校講師、關西美術院々長、文部省美術審査會委員等に擧げられ、本邦洋畫壇の耆宿たり。君人格頗る高潔識量技藝卓絶本邦洋畫家の大立物として名聲籍甚。

粕山八郎治

君は明治二十五年御津郡大野村野田に生る。夙に海軍軍人を志願し四十五年吳海兵團に入り、忠實精勵、大正九年海軍一等機關兵曹となり、勳七等に叙せられ大正十一年退役、直ちに山陽新聞社に記者となる。雄揮の筆、流暢なる辯、時に婉麗、時に辛辣縱横なる論說以て民衆の木鐸となり、指針となる。昭和三年九月郷黨に推されて縣會議員となり地方政界に進出、亦もや名聲を馳せ青年議員として多大の囑望を荷ふて今日に及ぶ。又自村村長、村農會長、御津郡町村長會長の要路にありて地方自治、文化の開發に力めて餘念なし。

前岡山市助役 金子藤一郎

君は東京府士族、神田區美土代町に生る。苦學力行して大正元年普通文官試験に合格、大正四年新潟縣屬となり、三年内務省屬に拔擢さる。幾もなく島根縣仁多部長に、地方事務官に昇進岡山縣地方課長に歴任、昭和四年岡山市助役となる。

金澤卓太郎



君は明治元年岡山市中之町に生る。教育



娘は昭和五年福山市役所に於いて閑院宮殿下、梨本宮殿下の接

與さる、實に地方模範の少女として知らる。

其の他滿洲鐵道株式會社監査役、青島合同煙草取締役等の要職にあり。母堂も女史健在、節子夫人との間に三男あり。尙君今や弟妹九人の教育と結婚を了る。實に君の前半生は貧苦奮闘の生涯、既に立志傳中の人たるなり。

金澤 卓太郎



君は明治元年岡山市中之町に生る。教育都市として名高き岡

山市に學生帽子の將來あるに着眼し、數名の職人を雇い入れ之れが製造を始めたは明治三十四年なり。純真なる學生の頭に戴く帽子を商ふ自己の天分の崇高を自覺し、親心となりて優秀製品の安價販賣を第一主義として、日夜奉仕の念を以て營業す。爲に忽ち報らるれて門前市をなし帽子と云へば直ちに金澤を聯想する岡山市唯一の代表的専門店たり。

龜山 俊藏

東京四谷區左京町一四

東京海上火災保險株式會社取締役
三菱海上火災保險株式會社取締役
明治十八年淺口郡玉島町に源平氏の五男として生れ、明治四十五年分れて一家を立つ。東大獨法科を明治四十三年卒業三菱合資會社に勤務し、東京本社生野鑛山を経て倫敦支店詰となり、尋いで三菱海上火災保險に轉じ、大正九年其の支配人となり同十四年取締役となる。今や更に東京海上火災保險會社取締役たり。

川崎 榮治

赤磐郡瀧瀬村肩背

君は大正三年岡山師範を卒業して現に兒島郡莊内小學校長たり。
君資性濃厚學徳を兼備し、兒童の訓育方法適切にして、就任以來本村教育の面目新まり、實績大いに擧る、青年團、婦人會、處女會にも關係し、地方の改善教導に力を盡す、教育界有數の人材なり。

川島 文江

同嬢は大正三年廣島縣深安郡千田村に生る。勉學の念止み難く昭和二年福山高女に入學六年優秀なる成績を以て卒業し褒狀賞品を授

多大の期望を荷ふて今日に及ぶ。又自村村長、村農會長、御津郡町村長會長の要路にありて地方自治、文化の開發に力めて餘念なし。

金子 藤一郎

前岡山市助役
君は東京府士族、神田區美土代町に生る。苦學力行して大正元年普通文官試験に合格、大正四年新潟縣屬となり、三年内務省屬に拔擢さる。幾もなく島根縣仁多部長に、地方事務官に昇進岡山縣地方課長に歴任、昭和四年岡山市助役となる。



娘は昭和五年福山市役所に於いて閑院宮殿下、梨本宮殿下の接待役を拜命し一族

の光榮これに勝るものなし家庭には祖母、父母、二兄、二姉、一妹ありて一家團樂羨望を受く。

嘉納 文治

兵庫縣御影町但馬口

君は明治三十一年苦田郡田邑村に生れ日本清酒界の雄菊正宗釀造元本舖本嘉納商店主加納治郎右衛門氏の愛婿にして現に全店常務取締役たり。生家は岡山縣財界の重鎮元貴族院議員土居通博氏はその實父なり。津山中學出身、現在本嘉納合名會社代表社員、大原セメント社長、日伯拓殖監査役を兼ね。抑々同店の創業は實に萬治二年以來九代に亘る釀酒釀造元にして大正八年株式會社となし資本金五百萬圓、養父治郎右衛門氏を社長とし本店を御影町濱東に、支店を大阪、東京、神戸、小樽、釜山に設け、一ヶ年釀造高最近減じて尙四萬石に上る。

金岡 助九郎

上房郡高梁町御前町



君は松山藩の大庄屋小野良造の二男にして明治八年上房郡津

川村に生る。岡山中學より岡山師範に轉じ、明治二十八年上房郡津川村今津小學校訓導を拜命、次で同校長、川面、有漢校長を経て有漢教員養成所長に轉じ、有漢高女校長兼務の後、昭和三年從六位勳六等に敘せられ、財團法人高梁學園を創設し、之が理事長として財團の經營せる岡山縣高梁正教員養成所、同女子正教員養成所、高梁商業學校長を兼營し、更に昭和五年君が令弟小野康治君病歿の後は其經營せし岡山縣高梁高等技藝女學校長を兼

營し以て今日に至る。君の著大正國民讀本、勅語衍義、明治の教皆世に行はる。

柿田 楨造

君は文久二年津山新茅町に生る。幼時大阪に出で小野春臺塾に入りて醫學を研究せしも、後官を志し明治十九年鳥取稅務屬を拜命司稅官となり、爾來在勤二十年。明治三十九年大藏省松江稅務監督局稅務屬に轉じ、幾くもなく罷めて鳥取縣に歸る、恰も其永年在住せし鹿野町は君に多大の囑望を寄せ同町長に當選す。在勤四年にして同四十四年退く。大正九年美作穀物同業組合検査員兼理事となり現職を維持し、昭和四年美作穀物同業組合組長に當選し現在に至る。

務、大正元年四月迄全科に於て研鑽を積む。全年四月鐵道院小倉工場醫と爲りしが大正二年一月九日大醫學



部整形外科教室助手として奉職し、大正六年獨立開業を志し依願解職。爾來原地に於て開業今日に至る。人となり温厚篤實社會奉仕の念に富み、地方自治に貢献せる枚舉に遑なく、推されて現上道郡醫師會長、財田村信用組合長たり。

片岡 誠一

大阪市北區若松町三

君は明治十五年吉備郡岡田村片岡尊志郎次男に生る。生家は累世岡田藩の庄屋たり。性穎悟明敏明治四十二年法政大學を卒業。翌年辯護士試験に合格、踵いで四十五年現在の大阪市北區若松町に法律事務所を開き、爾來民事專門辯護士として浪華法曹界に著聞し、大正十一年全會副會長に推され衆望甚だ厚し。

片岡 石夫

明治二十八年上道郡九幡村大字豊田に生れ、岡山師範本科一部出身、上道郡富山、可知兩小學校長を経て上道郡雄神村小學校長となり、専ら育英に従事し其の功著し。年齒尙春秋にとみ前途期待せらるゝ所甚だ多し。家に母堂、夫人との間に一男一女あり。

貝原 朝太

岡山市内山下三〇



君は明治十一年都窪郡菅生村生坂健太郎氏長男として生る。犬飼源太郎に漢學を

川崎 稔

津山市田町五五



明治二十二年福井縣足羽郡木田村に生れ、大正四年早大商科を卒業して實業界に

學ぶ。軍隊退營後有隣生命保險社員となりて昭和二年まで在勤二十餘年之を退き、後大正生命、日本教育生命兩保險株式會社岡山支部長として今日に至り、保險思想の普及徹底につきて餘念なし。俳句に巧にして不孤庵無腸と號す。長男尙知氏は岡山市深抵小學校訓導たり。

入り、翌五年大阪加島銀行に勤務同支配人となり、次で大分銀行營業部長、山陽銀行營業部長を歴任し、中國銀行美作支店監督、津山支店長となり、専ら行務を執掌し小松川土地建物株式會社取締役を兼ね。敬神崇祖の念厚く登山を好む、夫人との間に三女あり。

河合 元

君は明治十七年上道郡芳野村に生れ、今は財田村長岡に外科醫院を開く。明治四十二年熊本醫專を卒業直ちに縣立熊本病院外科に勤

川崎 平造

兒島郡莊内村

生家は舊幕時代の所謂年寄役たりし名門なり。元右衛門氏は村會議員等に就任して聞へたる人、君は其の第三男天資温厚謹直、明治三十七年岡山師範を卒業、西大寺小學校、兒島郡日比小學校に奉職、全四十四年吉備郡日

近、成器、庭瀨の各小學校長に就任、莊内小學校長に榮轉して今日に至る。君教育界に在る事既に三十有餘年、公共團體に關與盡す處大なり。

加計 正人

廣島縣山縣郡加計村



市參事會員となる。六年廣島縣會議員となり、

學ぶ。軍隊退營後有隣生命保險社員となりて昭和二年まで在勤二十餘年之を退き、後大正生命、日本教育生命兩保險株式會社岡山支部長として今日に至り、保險思想の普及徹底につきて餘念なし。俳句に巧にして不孤庵無腸と號す。長男尙知氏は岡山市深抵小學校訓導たり。

河合元

君は明治十七年上道郡芳野村に生れ、今は財田村長岡に外科醫院を開く。明治四十二年熊本醫專を卒業直ちに縣立熊本病院外科に勤

近、成器、庭瀨の各小學校長に就任、莊内小學校長に榮轉して今日に至る。君教育界に在る事既に三十有餘年、公共團體に關與盡す處大なり。

加計正人

廣島縣山縣郡加計村



廣島中學六高を経て明治三十九年東大文科卒業資性濃厚篤實

信望四隣に遍し。四十一年より大正十一年迄村民の熱望に依り、村長に就任大いに盡瘁村治の面目一新す。三十九年其の所有山林三十町歩の殖林事業企劃大正十一年施業案を編成して着手し、今や縣下有數の森林を造る。現に廣島縣森林會理事、大正十三年廣島縣產業調查會設立其の林業部を担当す、縣下殖林事業に關係すること二十有餘年貢獻すること多大なり。

門田嘉一郎

門田高等女學校長



君は明治四年廣島縣福山市地吹町に生る明治二十六年國學院

を卒業し、大分縣師範教諭を拜命、三十年大阪府立第五中學校教諭京都第一中學、佐賀縣鹿島中學教諭に歴任し、佐賀鹿島高女校長、福岡浮羽高女校長を経て大正十年より門田高等女學校を經營す。多年の体験と渾身の努力を女子教育の爲に捧げ、今やその名聲高く地方教育界に於ける重鎮たり。

勝田登一

君は明治八年吳市荒神町に生る、大正二年吳第一銀行頭取となり、同三年吳市營業稅調查委員に選ばれ、次で吳市に生魚株式會社の設置さるゝやその社長となり、五年吳市會議員

なり、翌五年大阪銀行に勤務同支那人となり、次で大分銀行營業部長、山陽銀行營業部長を歴任し、中國銀行美作支店監督、津山支店長となり、専ら行務を執掌し小松川土地建物株式會社取締役を兼ね。敬神崇祖の念厚く登山を好む、夫人との中に三女あり。

川崎平造

兒島郡莊内村

生家は舊幕時代の所謂年寄役たりし名門なり。元右衛門氏は村會議員等に就任して聞へたる人、君は其の第三男天資濃厚謹直、明治三十七年岡山師範を卒業、西大寺小學校、兒島郡日比小學校に奉職、全四十四年吉備郡日



市參事會員となる。六年廣島縣會議員となり、縣參事會員に

推舉せられ、縣市政の爲めに貢献す。爾來累進して、大正十四年吳市會議長、更に昭和二年吳市長第七代目に當選す。市區を改革して大吳市の建設を遂行す。又教育事業の如き、學校建築二十六校舎、男女青年團、赤十字社事業等著しき發展を見たり。實業方面には商工會議所に干與して實業の振興を計り現に吳第一銀行の外電軌取締役、帝國活動寫眞株式會社社長等の職を兼ね、大正十五年東京行啓の際市會議長として單獨賜謁の光榮を荷ひ、昭和五年大演習には御賜饌の榮を荷ふ。

金田經三郎

大阪市北濱

君は其の金辰商店の當主にして明治三十年先代辰藏氏二男に生る。辰藏氏は淺口郡玉島町の士族生れ、官尊民卑の甚しき明治十九年大阪に出で新進商人を以て自ら任じ大阪商業學校を卒へ梅原龜七氏の株式店に入り士魂商方以てその創業を圖り、漸次内外の信望を博して支配人となり、日清戰役巨利を獲得し遂に梅原王國の基礎を堅む、明治四十二年功成り獨立して仲買店を開業、經營よろしきを得て今日の金辰商店の信用を博せる人にして全時に株界の新聞廣告利用法、營業案内書の配布並株式高低表の作製等の創業者として知らる君は其の血を享けて生れ大正五年北野中學を出で全十三年先代の没後一切を繼承して店務を主宰し多年實地の經驗と縦横の奇才を以て今や北濱株界の信用を倍加す。尙至誠の新進財界人にしてスポーツを解し、現代的紳商の典型として大成の途を辿りつゝあり。長兄禹一氏日本大學に教鞭をとりて著はる。

神坂靜太郎

兵庫縣御影町郡家

君は明治七年邑久郡玉津村尻海、神坂與三郎氏長男に生る。明治二十九年同志社大學卒業直ちに身を操觚界に投じ東京、大阪各新聞社に奉職斯界にその名を知らる。就中原敬氏社長たりし大阪新聞時代は君の記者生活中最も痛快なりし時代にして本邦操觚界の大先輩た

り。然るに三十七年一轉して大日本紡績聯合會に奉職し、大に全會のため重用せられ献策する所多大。四十三年全會の印度出張所主事として派遣せられ任地に在ること五年。歸朝して聯合會理事となり。今日に及べり。一九一九年第一回國際



勞働會議に資本家代表武藤山治氏の顧問として出席し、更に昭和二年の全會議に同じく稻畑勝太郎氏の顧問として隨行、續いて獨、佛、西、英、伊の各國を遊歴して先進各文明國の紡績業を詳細に視察歸朝せり。讀書を趣味とし幸子夫人との間に二男二女あり。

梶村良次

津山市東新町四〇

君は曾て作州政界の雄として令名を馳せし故梶村平五郎氏の長男明治二十年生れ、四十年同志社を卒業、歸りて嚴父の創業に係る製紙原料商を繼承す。大正四年作州特産の和紙を以て、紙製帽子原料及紙布の製造に着手し研究加工の上、昭美織、昭美編を案出、特許を得て市場に發賣す。大いに外人の嗜好に投じ今や歐米各國に販路を有す。事業愈々進展工場の擴張を重ね、現に使用する女工優に三百人を超え、神戸市葺合區八幡通五丁目支店を設け津山市の特産品として大いに氣を吐く。君は津山初雪株式會社取締役社長、美作製氷、中國無盡、津山瓦斯各取締役、津山和紙監査役、商工會議所員、同副頭として津山市實業界に覇を稱へ衆望厚し。今回の行幸に際しては天覽、御買上等の光榮に浴したり。

龜井照雄

眞庭郡川上村上徳山

君は明治四十年本縣師範を卒業し、各地に小學校長として令名あり。遂に拔擢せられて現に久世小學校長として奉任待遇を受け縣下小學校長中重きを成す。性温厚快活、淡泊、衆に接して親切なり、父兄兒童の尊信厚く、育英以て自己の天職とし之れを全からしめんとする努力切なるものあり。

金谷喜一郎

久米郡吉岡村大戸

君久しく初等教育に身を投じ、強き信念を

以て子弟を導き信望特に厚し。衆望期せずして集まり自村々長に擧げられて就職、専心村治に執筆、眞摯、所信を斷行して、最も忠實覇氣旺盛他の追従を許さず。村政著々として進み、業績見るべきもの多し。勝久橋架設の如き君が熱誠縣當局を動かしたるもの又以て永久に其の遺業を裝るに足らん。

津山初雪專務取締役

金田孝治 津山市上之町

寡言實行の人、津山市に於ける新進の實業家として將來囑望せらるゝこと深し。現在津山商工會議所議員常議員、津山家屋稅調査委員、岡山縣商品陳列所出品協會評議員として多端なる業務の外、社會的に活躍貢獻する所多し。

上田光治



明治二十一年眞庭郡勝山町大字神庭に生る。明治十四年三月より

り大正十五年まで眞庭郡書記を勤め温厚着實治績擧る。現に岡山縣々會議員、眞庭郡農會長各種團體聯合會主事、眞庭郡家畜保險組長及岡山縣山林會眞庭郡支部長等の要職にありて活躍を續く。

陸軍少將從四位勳二等

河田正夫 岡山市四番町二二

舊藩士河田正信氏の長男として明治五年岡山市南方に生る。二十年陸軍幼年學校に入る



二十七年八年戰役には砲兵中尉として海城守備の任に就き武功あり。後砲工學校に普通、高等の兩科を卒へ、又野戰砲兵射擊學校に入りて其の技を磨き三十五年歐州に差遣せられて視察研究するこ

と四ヶ年。此の間野戰砲兵第九聯隊中隊長、大阪砲兵工廠製造所々員、兵器本廠検査官等に歴任して、四十年大阪砲兵工廠製造所長に補せらる。四十二年陸軍技術審査部御用掛を兼勤、大正四年長崎要塞司令官に轉じ、大正七年陸軍少將に進み大阪砲工廠附たり。八年八月歸命、同十一月豫備役に編入せらる。

片山一男

岡山市東中山下

津山牛乳監査役等を兼ね。性温厚篤實にして津山市政界並全財界の新進中堅人物として知らる。富子夫人との間に三男一女あり。

明治二十五年三月久米郡大井西村坪井下に生る。性快活にして談論風發、快男子にして

君は明治四十年本縣師範を卒業し、各地に小學校長として令名あり。遂に拔擢せられて現に久世小學校長として奉任待遇を受け縣下小學校長中重きを成す。性温厚快活、淡白、衆に接して親切なり、父兄兒童の尊信厚く、育英以て自己の天職とし之れを全からしめんとする努力切なるものあり。

金谷喜一郎

久米郡吉岡村大戸
君久しく初等教育に身を投じ、強き信念を



あり。後砲工學校に普通、高等の兩科を卒へ、又野戰砲兵射擊學校に入りて其の技を磨き三十五年歐洲に差遣せられて視察研究するこ

二十八年戰役には砲兵中尉として海城守備の任に就き武功

と四ヶ年。此の間野戰砲兵第九聯隊中隊長、大阪砲兵工廠製造所々員、兵器本廠検査官等に歴任して、四十年大阪砲兵工廠製造所長に補せらる。四十二年陸軍技術審査部御用掛を兼勤、大正四年長崎要塞司令官に轉じ、大正七年陸軍少將に進み大阪砲工廠附たり。八年八月歸命、同十一月豫備役に編入せらる。

君が慘憺たる苦心の結果考案したる速財野山砲の彈丸に應用す可き復動信管の創製の功績は、我陸軍武器發達史上特筆大書すべきなりと云ふ。現に第十師團管内在郷軍人會聯合司令部副長、帝國任郷軍人會岡山支部顧問、護國共濟會事務所方面委員、岡山縣濟世委員の要職にあり。悦夫人は故男爵黒瀬中將の二女たり。

河上 薰

淺口郡金光町下竹

君は明治四十五年岡山師範第二部の出身、淺口郡船穂小學校主席訓導として三宅校長を助けて、大いに功あり、遂に當局の認むるところとなり玉島第四小學校長に拔擢せられて今日に及ぶ。天資温良恭順名を求めず功を急がず、孜孜勤めて倦まざる今の世稀れに見る教育家なり。

龜山虎治

岡山市内山下一〇

明治九年都窪郡茶屋町龜山多賀治氏の長男に生る。佐藤銀行の創立に際り入りて行員となり孜孜精勵、株式會社茶屋町銀行と改組に及び大正六年其の取締役に選任せられ支配人を兼ね。其の第一合同銀行に合併せられ、中國銀行となるに當り引續き取締役たり。傍ら中國興業、茶屋町織布正織等の重役、又社會事業方面にも多年盡力するところ多し。

垣谷 猛



君は明治二十年津山市田町に生る。津山中學を経て早大政

治經濟科を卒業す。タオル類卸問屋を経営し津山市々會議員、商工會議所議員たるの外合資會社津山工營所代表社員、市信用組合監事

片山一男

岡山市東中山下

明治二十五年三月久米郡大井西村坪井下に生る。性快活にして談論風發、快男子にして威望あり。曾山陽銀行にありて令名聞ゆ。現に久米郡より選出されて縣會議員たり、郷土に貢献して聲望高く傍ら津山土地、東京小松川土地會社等の専務取締役、深謀遠慮其の材腕を揮ひて今日に及ぶ。

河内多治郎

津山市材木町

同家は福中屋と呼び代々足袋製造販賣を以て業とし、其の創業は遠く徳川の初期にして往時高名なる津山足袋の濫觴をなす。君は即ちその現主にして着實寡言の人、謙讓の徳高く聲望厚し。今や製造を中止して専ら福助足袋、アサヒ足袋の美作一手販賣をなし其の他雜貨商を兼營す。

菅 善七

久米郡福渡町

交通機關の發達は一時地方小都邑に寂寥疲弊を來す、往時津山街道の中間にありて平和に繁榮せし當町も亦其の一なり。君はこの地に生れたる簡素純情の徳望家たり、選ばれて町長たる事數年、常に町民の辛苦を思ひ特に財政經濟に留意し、地方産業の發達、町の更生繁榮を念願して貢献すること大、衆庶の期待頗る大なり。

片山範次郎

兒島郡兒島町

大正九年稗田郵便局長拜命、爾來複雑なる通信事務に執筆し、敏腕を以て民衆の期待に副ひ未だ嘗て事務の停滯なし。實に良局長にして地方民の信望篤く、大正十一年には兒島町會議員に選ばれる。以來改選毎に再選す町政に參畫し功績多し。稗田運送店は又君の經營にかかり、下津井輕便鐵道株式會社事業開始以來の店舗たり。

從七位 片岡倉太郎

赤磐郡瀬戸町大字瀬戸

明治二十三年吉備郡秦村大字秦に生れ明治四十年岡山師範卒業。縣下各小學校訓導並び

に校長に歴任、大正三年女子師範學校訓導に就任、九年赤磐郡視學を拜命、次いで十年瀬戸實科女學校校長事務取扱、縣視學、縣屬等に歴任昭和四年瀬戸高等女學校校長に補せられ今日に及ぶ。公務の外に郡聯合婦人會長、郡聯合女子青年團長たり。

金谷 鼎 岡山市巖井一〇五〇

明治二十六年小田郡金浦西濱に生る。大正二年岡山師範を卒業後、都窪郡帶江小學、倉敷小學、内山下小學校訓導を経て、昭和七年岡山市三動小學校長兼幼稚園長となる。君性來温厚篤實、岡山市教育會幹事、市教員協會幹事、市昭和會評議員、三動學區男女青年團長等の要職に就く、花枝夫人との間に三男三女あり。

笠井 誠一



君は吉備郡高松町の松町人明治二十一年生、關西中學を経て、四

十四年國學院大學を卒へたり。爾來育英界に身を投じ、岐阜中學、岡山一中、丸龜中學、廣島縣三次高女、岡山高等女子職業學校校長等を歴任し、現に關西中學校教頭たり。君は温厚なる人格を以て常に生徒に接し、德育を重んじ神道を奉ず。趣味として俳句、謠曲あり

片山 豊八



明治二十三年津山市西今町の生れ四十年津山中學卒業

年志願兵として野砲兵第十聯隊に入營、除隊後高等學校に入りたるも病を得て退き家業の竹皮商に従事す。阪路京阪神四國方面に及び美作に於ける特種の物産として其の名高し。尙今回 陛下の行幸に際し縣下唯一の蒐集家

として昆虫を献上し、御嘉納の榮を得たるは君の最も光榮とする所なり。現に所得稅調査委員として市民のためにも努力せらる。

菅 濟 治 岡山市巖井一八〇〇



君久米郡打穴村の人明治十二年の生れ、三十六年岡山市師範卒業

業後、久米郡各小學校訓導校長を勤務後、眞庭郡視學、落合高女校長、落合養蠶學校校長、落合公民學校校長を経て、昭和三年四月前記園長となる。曩に愛知以西二府十六縣感化院長を糾合して日本感化教育會關西支部を設立、君選ばれて促進委員となり大阪、滋賀、京都に遊説し、國立武藏野感化院建設を内務當局貴、衆兩院に建議して之れを通過す。氏は常に「不良兒の發生は母性愛の缺陷にあり」とし世の母に訴ふる事切なり。滋子夫人との間に一男二女あり。

正五位勳三等陸軍砲兵大佐 門田 宮 一 郎 福山市櫻町



明治九年廣島縣士族に生る福山中學卒業後士官候補生として

野戰砲兵第四聯隊へ入隊し、士官學校卒業後三十二年少尉に任官、更に野戰砲兵射擊學校卒業後台灣守備砲兵となり、日露戰役に參加し大いに武勳を立て勳五等旭日章並に功五級金鷄章を下賜せられ凱旋後中隊長、聯隊副官大隊長、聯隊付を経て大正十二年砲兵大佐に任せられ豫備役となる。現在福山義倉圖書館長、昭和三年十一月御大禮に當り賜饌の光榮に浴す。

片山 完一 兒島郡彦崎

明治十九年三月生君は明治十九年御津郡牧

石村王柏に生る、中等教育を卒へ四十二年現在正運組運送店を譲受け、専心その業務に精勵し、大正八年鐵道院の公認制度實施に際し第一回公認を受け、全九年四月岡山運輸事務所管内公認運送組合の組織に率先努力し評議員兼會計主任に當選す。爾後堅忍不拔の精神を以て奮闘を續け大いに斯界に貢献す。縣

年岡山市内山下三〇合資會社香登屋支配人となり、専ら貨物自動車運輸業に従事し大に信望を得、今や岡山一津山、岡山一笠岡、岡山一大阪、岡山一片上、岡山一和氣一林野、岡山一西大寺間を往復運送し地方産業の爲めに貢献するところ大なり。



の生れ 四十年 津山中 學卒業 一

年志願兵として野砲兵第十聯隊に入營、除隊後高等學校に入りたるも病を得て退き家業の竹皮商に従事す。阪路京阪神四國方面に及び美作に於ける特種の物産として其の名高し。尙今回 陛下の行幸に際し縣下唯一の蒐集家

卒業後古澤守備隊に在り、日露戦後、功五級し大いに武勳を立て勳五等旭日章並に功五級金鷄章を下賜せられ凱旋後中隊長、聯隊副官大隊長、聯隊付を経て大正十二年砲兵大佐に任ぜられ豫備役となる。現在福山義倉圖書館長、昭和三年十一月御大禮に當り賜儀の光榮に浴す。

片山完一 兒島郡彦崎

明治十九年三月生君は明治十九年御津郡牧

石村玉柏に生る、中等教育を卒へ四十二年現在正運組運送店を譲受け、専心その業務に精勵し、大正八年鐵道院の公認制度實施に際し第一回公認を受け、全九年四月岡山運輸事務所管内公認運送組合の組織に率先努力し評議員兼會計主任に當選す。爾後堅忍不拔の精神を以て奮闘を續け大いに斯界に貢献す。縣果物同業組合其他各種公共團體の指定を受け堅實なる發展を遂げつゝあり。

三越食料品部係長

金光光男

東京杉並區上井草町一四四四 明治十六年赤磐郡小野田村出生亦次郎氏の長男なり。雄志を抱き東大英法科を大正三年卒業後古河家に入り其の保險部に勤務せり。翌四年札幌支店長となり、同年三越呉服店に轉じて大連支店長たり。後本店洋服部係長を経て現時前職にあり。雛兒夫人との間に二男一女あり。

河原 收

事務所 大阪市北區堂島船大工町二〇 久米郡弓削町河原彌左衛門氏の次男明治二十四年生。金川中學、六高を経て大正七年東大獨法科を卒業。大阪原田汽船株式會社に奉職せしが、大正十年辯護士試験に及第。全時現事務所に於て辯護士を開業せり。海事々件に於て大阪市法曹界の白眉と稱さる。現に株式會社岸本商店、日本木煉瓦、攝陽汽船、原田汽船等の顧問辯護士たり。尙君の長女妙子嬢は長唄界に於ける稀代の天才として東西に知らる。

川上虎三郎

御津郡金川町

明治七年生、資性濃厚篤實、言行並び到らざるなく内にありては修身齋家、外にありては銳意献身。又夙に地方自治の不振を慨き、自ら奮つて町長の職に任じ、名を去り實に就き孜孜匪勉其の治績頗る舉り町民の絶對的信賴を博し産業に教育に貢献するところ多大なり。曩に日清日露の兩役に出征、戦功に依り勳七等に叙せらる。

香月辰雄

岡山市門田屋敷九九

明治三十七年大阪府豊能郡豊中町櫻塚に生る。關西學院高等部を卒業し一年志願兵たり砲兵小尉に任官後豫備役に編入さる。昭和三年

年岡山市内山下三〇合資會社香登屋支配人となり、専ら貨物自動車運輸業に従事し大に信望を得、今や岡山―津山、岡山―笠岡、岡山―大阪、岡山―片上、岡山―和氣―林野、岡山―西大寺間を往復運送し地方産業の爲めに貢献するところ大なり。

河野正勝

津山市三丁目

明治九年苦田郡郷村高山の素封家岸辰五郎次男に生れ幼にして河野家に入る。津山市時敏學舎、閑谷堂に學び西先生の門に入り薰陶を受くること四ヶ年、業を卒へて大阪に出で、商工業の研究をなし、二十九年歸津現住所に於て運送業を開業今日に及ぶ。嘗つては社會的公共の爲めに盡し勸業の興隆に献替したるが、今や専ら内にありて趣味の讀書畫に耽る。

國清寺住職

華山海應

岡山市小橋町

岡山市に於ける妙心寺派の巨刹國清寺住職たる君は名古屋の人、刑部玄氏の男明治五年生れ。本名近丸、法名海應。九才の時國清寺に入りて剃髮入道せり、十九才美濃國虎溪專門道場に參禪すること五年、造詣を深め三十二才國清寺住職となる。本寺は妙心寺派の別格寺にして、慶長の頃藩主池田輝政の建立する所。君國清寺保存會を創立してその衝に當り寺業の隆昌に努むると共に、子弟の教養に専念し以て啓蒙悟戒の重きに任ず。書を樂しみ達磨を描く入神の稱あり。

醫學博士

笠井經夫

岡山市東中山下



明治 二十五 年上道 郡富山 村の名 門に生 る。津 山中學 を經て

大正五年岡山醫專卒業後縣立病院に勤務、大正十一年岡山醫大附屬病院となりその耳鼻咽喉科教室に勤務講師となる。十四年六月岡山醫科大學助教授に任じ正七位に叙せられ、昭和二年十月依願免官、現住地に耳鼻咽喉科笠井病院を開業す。大正十五年腦膜炎性迷路炎

の實驗的研究、外參考論文七編により醫學博士たり。靜香夫人との間に四女あり。

片岡誠一

大阪市北區若松町
吉備郡岡田村の人にして累世舊岡田藩の庄屋たりし名門明治十五年生れ。嚴父尊志郎氏は郡書記、川邊村長等たりしが、後大阪時事新報社會計を掌ること多年。君は其の次男、性穎悟敏明、四十一年法政大學卒業、翌年辯護士試験通過、四十五年現住所に法律事務所を開き、爾來民事専門の辯護士たり。君尙ほ大正十一年來大阪辯護士會副會長に推されし外、常議員議長、財政調査委員等の名譽職を兼任す。

河原杏平

明治五年兒島郡藤戸町に生れ、二十八年岡山醫專卒業、後明治三十一年陸軍三等軍醫に任せられ、昇進して二等軍醫となり、日露戰役に參加勳六等旭日章を下賜さる。三十五年父孝順氏の跡を襲ひ醫業を繼承す。傍ら藤戸町會議員に四度當選し又中學校、小學校々々、兒島郡醫師會代議員となり大いに其手腕を發揚しつゝあり。

片山延寛

三誠社歐文印刷所主
大阪上福島中二ノ一
明治二十五年御津郡長田村元村長片山喜太郎氏次男に生る。岡山印刷會社に勤め後上阪、林歐文堂に入社勤続十年、將來の印刷は歐文要素の必要を看破し、獨學英語を研究し獨立して株式會社三誠社印刷所を開業す、資本金二十萬圓従業員百餘人、大阪屈指の印刷所たり。家に菊枝夫人との間に三男一女あり、在京定方塊石書伯は君の實弟なり。

川西敏夫

津山市鐵砲町
志操堅
實明治
二十七年
年現住
地に生
れ、勇
猛心に
富む。
大正四
年日獨戰に従軍し青島方面の包圍軍に参加し



て勳功あり。九年鐵砲町青年團の設立さるゝや選ばれて團長となり、常に團の志氣を鼓舞す。大日本聯合青年團、苦田郡長等より模範團體として表彰を受け團の面目大に昂る、傍ら久米郡佐良山村地耕作組合組長、津山市農會總代等の職に就き津山市園藝生産組合事務所に勤務し會計掛を擔當して今日に至る。

片山茂

大阪府豐能郡岡町
君は明治十六年岡山市三番町片山剛太氏長男に生れ、岡山中學出身三十八年東京高工電氣科を出で、吳海軍工廠技手となり、一ヶ年にして休職、四十年農商務省煙草專賣局工師を拜命す。四十二年古河鑛業株式會社日光電氣精銅所に入り、更に全四十五年宇治川電氣株式會社に入社爾來全社に勤続二十有餘年。その間十年十月事業視察の爲め北米合衆國に派遣され現全社線路課長として重きをなす。

河合廉一

東京牛込區津久土町三
羊毛製株式會社取締役
電氣日報株式會社監査役
東京石炭同業組合顧問
明治十五年河合與太郎氏の長男に生る。幼少より雄圖を抱き上京して日本大學法律科に入り、三十八年卒業直後判檢事登用試験に合格し、司法官試験に任ぜらる。同四十四年官職を辭し辯護士、辯理士を開業し、傍ら前記の職を兼ね尙東京晝夜銀行顧問、カルビス製造會社、日本石油會社、赤線檢温器會社等の法律顧問たり。又辯理士常任試験委員等其の兼攝さるゝところ頗る多し。

川上兵治郎

津山市東新町八三
君は明治十年
生れ、
家は津
山藩士
として
名あり
、米穀
商とし



て青年時代より刻苦勉勵財を積んで今日の大を致し、阪神方面に作州米の輸出をなし信用最も厚し。家業の傍ら美作米穀同業組合代議員、商工會議所議員として活躍するの外、合

資會社旭商會代表社員、合資會社津山肥料會社社員等の職にありて現今に及ぶ。

野村證券株式會社々長

片山繁雄

三井合名會社囑託
東京澁谷區佐々木山谷町九五

君は明治八年岡山縣士族片山勝太郎氏の長

川西敏夫 津山市鐵砲町



志操堅實明治二十七年現住地に生れ、勇猛心に富む。大正四年日獨戰に従軍し青島方面の包圍軍に参加し



君は明治十年生れ、家は津山藩士として名あり、米穀商とし、青年時代より刻苦勵財を積んで今日の大を致し、阪神方面に作州米の輸出をなし信用最も厚し。家業の傍ら美作米穀同業組合代議員、商工會議所議員として活躍するの外、合

資會社旭商會代表社員、合資會社津山肥料會社社員等の職にありて現今に及ぶ。

野村證券株式會社々長 片岡音吾 大阪東區安土町二丁目

明治十四年岡山市小橋町片岡篤太郎氏二男に生れ、四十年分家す。三十九年東京高商卒業後、日本興業銀行に入り累進して副支配人たり。偶々野村銀行創立に際り望まれて之れに入り經營の樞要に與る。大正十五年野村證券會社の創立さるゝやその社長に推さる。傍ら大阪信託社長、野村銀行取締役、大株代行株式會社、野村林業の取締役、大株取引所國債取引所員等の要職を占む。知賀夫人との間に二男四女あり。

神戸川島眼科病院長 醫學博士 川島 薫



明治二十年苦田郡東加茂村に生る。津山中學卒業、熊本醫專を出で博満州醫大の前身南滿醫學堂眼科教室に勤務し、尋いで朝鮮鎮南浦府立病院眼科主任として在職數年。大正十二年大阪鐵道病院勤務、昭和三年京大眼科研究室に入り、五年醫學博士の學位を受け、六年獨立して前記開業現在に至る。

龜井元太郎

君は明治十五年岡山市磨屋町に生る。三十四年姫路歩兵第十聯隊に入營し、全三十七年日露戰役に參加、九月四日遼陽の戰に於て負傷し、勳八等に敘せらる。三十九年軍曹に昇進し、除隊後現地に於て、看板揭示、サイン、ト裝飾、電氣廣告等各種請負を創業し、諸官署各銀行其他大商店の御用達たり。技術の精巧、確實迅速を以て信望益々高し。令息義一君は意匠廣告、圖案を擔任し、岡山市唯一の商店たり。

三井合名會社囑託 片山繁雄

東京澁谷區佐々木山谷町九五 君は明治八年岡山縣士族片山勝太郎氏の長男なり。東大法科に學び、明治三十一年卒業、爾來三井銀行支店長、同外國課長、朝鮮銀行理事、三井信託副社長、朝鮮南鐵道取締役會長等に歴任し、現時稍々閑を得て前記の職にあり。満壽夫人岡山市弓之町石本於茂太氏令妹との間に二男三女あり。

川西五郎治



明治十三年津山市鐵砲町に生る、三十四年父の死に會ひ家を繼ぐ。三十八年戰役に召集せらる。四十三年合資會社青物市場業務擔當社員大正三年美作生果株式會社取締役、全七年美作鑄物監査役、同十一年美作自動車專務取締役等となる。昭和三年美作生魚取締役を辭任し相談役たり。君は亦質屋營業主にして市古物商組合頭取、質屋組合頭取並びに濟世委員、津山市農會區長等の榮職を兼有し、今や津山市重鎮の人たり。

垣見秀男 岡山市巖井一三

明治九年吉備郡足守町に生る、三十一年岡山師範卒業、吉備郡總社小學校長を経て四十二年英田郡視學となり後兒島、苦田郡視學を歴任し大正九年縣視學となり、翌年海外教育視察としてハワイ、米國、英國、佛國を経て十年九月歸朝せり。十三年退職翌年十一月岡山市役所に入り社會課長たり。啓子夫人との間に一男四女あり

龜山政三 岡山市高砂町

明治二十二年古京町に綿糸商龜山合名會社を創立し代表社員となる。三十七年現營業所に移轉、大正三年大阪市東區瓦町に大阪支店を設置、大昭十年資本金十萬圓の合名會社とし業務を擴張、その販路大阪以西各地にわたる。其の他備前織物專務取締役、釣鐘ゴム常

務取締役、茶屋町紡績取締役、淺口郡船穂村
よろづや足袋取締役、朝鮮釜山滿鮮貿易商の
巨頭大山商事取締役等たり。尙ほ岡山商工會
議所議員、岡山木綿問屋組合長等の要職にあ
り。

廣島縣共鳴會幹事長

河野 龜市

君は廣島縣雙三郡三良坂町の人、夙に融和
運動の先覺者として名あり。大正十年同憂
の士前田三遊、中村桂堂、上島定氏等と偕り
、差別撤廢、同胞相愛を高唱し、廣島縣共鳴
會を組織して之が幹事長となり、第一線に立
ちて必死の努力を捧ぐ。爾後著しき實効を奏
し由來至難と認められし斯業も今や名實共に
解決の域に進めり。君が不撓の努力與つて大
なりと謂つべし。尙君の社會事業一にして足
らず、然も其胸奥に燃ゆる純眞の靈化は巖石
と雖も克く之を動かす事齊しく縣民の推服す
る所たり。大正十五年東宮殿下行啓の砌拜謁
を賜り、以後大饗、觀櫻御會等三回に亘り賜
謁賜餐の光榮を荷へり。

加島 正人

明治二十五年廣島縣豊田郡大長村に生れ、
幼より粉骨碎身農業にいそしみ孝子の名あり
。農家の將來果樹園藝並に果實罐詰の有望な
るを信じ、着々其の業に努力し優品を製造す
其前途倍々期待せらる。
昭和四年八月秩父宮殿下、同妃殿下に密柑罐
詰壹函、オレンジ壹函献上の光榮に浴す。家
に兩親、富子夫人との間に一男一女あり。

礦油商會主

片山 幹一 岡山市山崎町一六〇

明治三十年生れ、先代壽次郎氏は御津郡の
人。搾油、醬油醸造、製粉製麵、米穀肥料等



の業を営む。大正六年岡山市に出で現業を營
みしが昭和六年逝去、君之れを繼承す。岡山
一商十三期卒業、岡山驛前に店舗を設け業務

神原 貢

神戸市西須研平森町

明治二十五年三月兒島郡粒江村神原寛氏の
長男に生る。苦學力行齒科醫檢定試験に合格
せるは年齢未だ二十二歳の時、一度郷里に近
く倉敷に於て開業、後神戸に出で現地に開業
今日に到る。多年の苦心研鑽の効績は其の技
術に顯れ、一般の追従を許さざるものあり。

日に盛んなり。
今次特別大演習には自動車燃料の御用命奉仕
の光榮に浴す。君又時運を洞察してゼネラル
ビルディングを岡山驛前に建築して貸室を兼
ね、現に三井物産、新潟新津製油、米國コン
チネンタル、全ユー、エヌ、タイヤ各代理店
として業務を執る。

河村 驍

東京代々木富ヶ谷町五五

東京銅材株式會社取締役
日本電池株式會社取締役
鉛粉塗料株式會社取締役
三菱礦業株式會社顧問

君は岡山縣士族明治十一年河村恕一氏の二
男に生れ、大正十一年家督を嗣ぐ。明治三十
五年東大工科探礦冶金科卒業、三菱合資會社
に入り、尾去澤鑛山技師となり又同副長とな
る。大正二年本店詰となり、同四年同社の臨
時製鐵所建設課長たり。後又朝鮮兼二浦製鐵
所の建設工事に衝り、同七年其の製鋼部長と
なる。
同八年三菱製鐵會社本店詰となり前記の諸會
社重役たり。君專攻の事業視察の爲歐米に渡
る事前後五回、或は東京帝國大學講師を囑託
され、或は日本鐵鋼協會々長等斯業の爲に貢
獻せらるゝと甚大なり、大正十四年工學博
士の學位を授けらる。

片山裁縫女學校校長

片山 眞五郎 岡山市天瀬

君は吉備郡總社町向井彌須太氏の三男に生
る。十七才同郡日羽村小學校授業生として勤
務、次いで三須校に轉校、辭して岡山師範に



入學、
明治二
十九年
業を卒
へ、都
窪郡充
知並岡
山高等
小學校
に教鞭を
とること
二十有六
年の長き
に亘る。
大正十二
年鹿田小
學校校長
に榮轉。終
始功績少
からざる
故を以て
縣知事より
表彰さる。
退職
の後令閨
慶子女史
の經營にか
ゝる、片山
裁縫女學
校並に教
員養成所
校長となり
以て今日
に至る。

立て、郷關を出で、中央大學に學び業を卒へ
直に受験して合格し帝都の中央に進出して開
業す。靜江夫人との間に二息あり。

正六位内務事務官

龜山 孝一 澁谷區長谷戸三三

君は御津郡今村龜山理平太氏の長男として



の業を営む。大正六年岡山市に出で現業を営みしが昭和六年逝去、君之れを繼承す。岡山一商十三期卒業、岡山驛前に店舗を設け業務



に教鞭をさること二十有六年の長きに亘る。大正十二年鹿田小學校長に榮轉。終始功績少からざる故を以て縣知事より表彰さる。退職の後令閨慶子女史の經營にかゝる、片山裁縫女學校並に教員養成所校長となり以て今日に至る。

窪郡充知並岡山高等小學校

神原 貢

神戸市西須研平森町

明治二十五年三月兒島郡粒江村神原寛氏の長男に生る。苦學力行齒科醫檢定試験に合格せるは年齢未だ二十二歳の時、一度郷里に近く倉敷に於て開業、後神戸に出で現地に開業今日に到る。多年の苦心研鑽の効績は其の技術に顯れ、一般の追従を許さざるものあり。

日本赤十字社姫路病院事務長
片山 藤 市 姫路市北條口八〇



明治十六年苦田郡高野村藤本家に生れ、姫路市片山家の嗣となす。立命館大學に

學び明治四十一年卒業、姫路市役所に勤務、庶務課長となり、大正九年累進して市助役に擧げらる。同市が多年懸案とする水道計畫遂行にあたり、市長杉山義治氏を輔けて功あり。十三年五月任期満了して退職前記事務長となる。傍ら市購買組合理事、市教育會評議員等の要職に就き、奮勵努力以て今日に至る。

神原源平

兒島郡味野町

明治十五年兒島郡粒江村神原常太郎氏の二男として生る、岡山中學卒業後醫師たらんと志し、奮然笈を負ふて東都に上り濟生學舎に入り、幾多の艱難を嘗め螢雪の勞を積んで明治三十九年卒業、同時に内務省醫術開業試験に合格後東京佐々木病院に入り實地研鑽すること三年歸郷して現在の地に開業し名聲日々に高し。味野町會議員に當選し學務委員たり夫人との間に四男二女あり。

辯護士
栢原 語 六

東京麻布區霞町一九



明治三十年九月小田郡中川村淺海に生る幼より堅忍不拔志を

正六位内務事務官 龜山 孝 一

澁谷區長谷戸三三

立て、郷關を出で、中央大學に學び業を卒へ直に受験して合格し帝都の中央に進出して開業す。靜江夫人との間に二息あり。

君は御津郡今村龜山理平太氏の長男として明治三十三年千葉市に生る。大正十三年東大獨法科を卒業内務省に入り、更に岐阜縣保安課長、山口縣特高課長等に歴任して、現在は内務省衛生局事務官たり。家に母堂、絢子夫人、長男、二嬢並に令弟德二氏(東北帝大法科卒)あり。

神崎 勤

東京荏原大崎町居木橋一四三

明治二十五年三月上房郡有漢村に出生、君幼少より篤學の士、中學校の業を卒へ直ちに岡山醫學專門學校に入り、大正六年卒業後暫く同附屬病院並に教室に研究を繼續し、遂に意を決して大正十一年東上して現在の地に内科小兒科醫院を開業して今日に至る。基督教を信奉し寫真を娛しむ。

梶村 滋 三

津山市東新町四四



明治十年八月生れ三十五年岡山師範卒業兒島郡東兒高等小學校訓導拜命爾後全清

水尋常校長、苦田郡津山高導等を歴任、大正十年津山女子尋常校長兼津山商工補習學校長に補せられ、昭和三年勳八等に叙し瑞寶章を賜はり、翌年奏任官待遇となり從七位に敘せらる。更に五年津山家政女學校長を兼ねる等其の閱歴効績實に稀に見る所、特に徳望高く有終の美を濟す。君又技能的研究に興味を有し、竹細工其の他家庭工業的の藝術作品に秀ぶ。恭夫人との仲に二息(長男康君九大農科出)あり。

樺太工業參事販賣課長

川端 審 二

東京市芝區二本榎一ノ一七

明治十五年生れ助太郎氏の長男、幼より明敏志を立て東都に出で、慶應義塾法律科に入

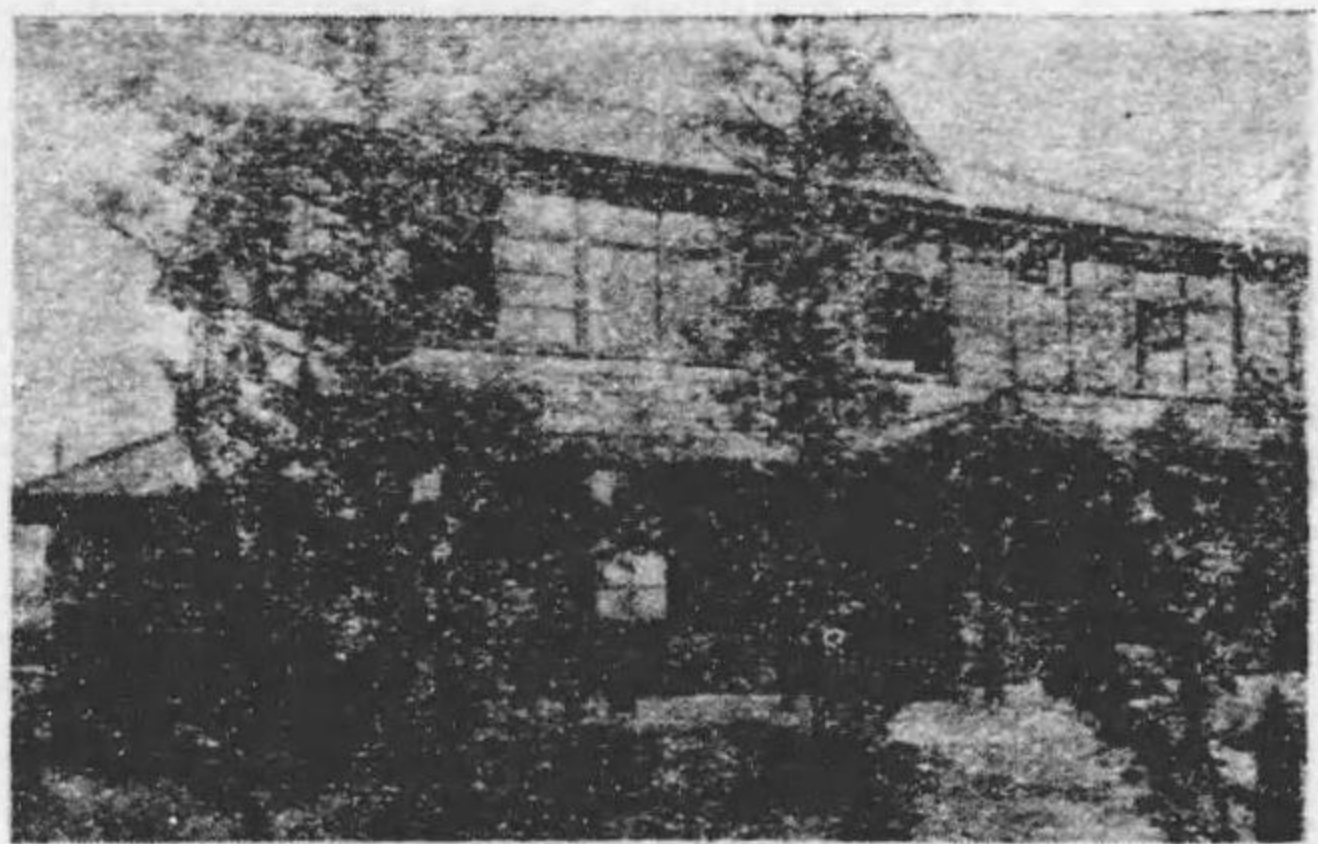
明治十六年八月十五日高知縣吾川郡八田村に生る、四十三年東大法學科卒業直後文官高等試験に合格、警視廳警部部に任官爾來同警視廳總督府警視、山口、廣島警察部長、警察講習所教授兼内務參事官に累進し、大正十一年歐米各國に出張を命ぜられ翌年歸朝、京都府警察部長、警視廳警務部長を経、福島縣知事となり昭和二年七月依願免官、同四年七月廣島縣知事に任せらる。歌子夫人との間に息太郎氏あり。



清田寂坦 津山市西寺町

眞庭郡河内村近藤貞一郎の二男明治二十四年生、田郡高

田村清田寂榮の養子となる。東京天台宗大學に學び大正四年卒へて津山市大圓寺の住職となる。恰も壇家中病苦に惱み施療に窮する者多し、君惻隱の情禁せず救療の施設を志す、



津山施療院是なり。同院は大正八年の創設にして、傳教大師一千百年の遠志を記念し君の主宰する所今や十五年を閱す。其事業には施藥救濟部、兒童健康相談部、產院部、窮民救濟部等を設け、内容頗る整頓し業績又著大なるものあり。縣下各種社會事業中實に理想的典型的のものなり。大正十年社會事業功勞者として知事の表彰を受け、今次の陸軍特別大演習の砌り特に侍從御差遣の事あり、同十七日には賜饌に召さるゝの光榮に浴せり。君岡山縣濟世委員、津山濟世會副會長等に推されて今日に至る。

陸軍中將

岸本綾夫

東京澁谷區幡ヶ谷中町一、三九

明治十二年勝田郡豊田村義時氏二男に生る。明治三十二年陸軍士官學校砲兵科卒業、成績優秀恩賜の時計を賜る。翌三十三年砲兵少尉に任せられ、三十七八年戰役に出征し、凱旋後帝國大學工科に入り四十二年七月卒業、大尉に陞進直ちに歐洲へ留學を命ぜらる。大正十三年陸軍少將に昭和五年八月中将に昇進し其の間陸軍省砲兵課長昭和五年陸軍科學研究所付等に歴任、其の後は陸軍省造兵廠長官として現職にあり。國交重大の今日軍國日本の新兵器研究に濫蓄を傾注、日夜渾身の努力を續けらる。

廣島修道院院長

北村 藤三郎

廣島市大須賀町

安政二年廣島縣の士族に生れ藩の碩儒石津宗二及梅圓順造兩師につき専ら漢籍を修む。後皇學大家に従ひ國史を學び、又國文を山田十竹氏に學ぶ。始めて鎮台を置かるゝや熊本鎮台にある事一年にして病母看護の爲退職歸廣、爾後小學校訓導及校長たる事久し。牛田小學校長時代、偶々地方に飢饉起り、通學兒

童の食に窮し退學する者多し、君五六名の孤兒を家庭に收容し、赤貧の子弟には自宅にて實用學科を無料教授せり。後修道學會を起し青年男女の指導に努む。之れ廣島縣青年會、婦人會の嚆矢たり。明治二十八年に至り私財を投じて院舎校舎を新築し當局の許可を得孤貧兒を收容して教養せり。之即ち廣島孤兒院慈惠學院なり。後之れを廢し廣島修道院と稱し今日尙獨力經營す。創立以來教を受くる者六七十萬人に及ぶ。君又神道本局大教院の教職にあり權大教正に榮進し今日に至る。かく社會救済に盡瘁し其功勞尠ならず縣知事並に各大臣の表彰は勿論、二十九年有栖川宮、梨本宮殿下に拜謁並に念品を賜ひ、皇太子殿下御慶典の砌り特に御紋章銀盃を拜受す、其外觀菊會陪觀の榮に浴し、東宮殿下に拜謁を賜はり



尚恩賜財團慶福會、關院總裁宮殿下より終身年金下賜

等の光榮に浴す。昭和三年即位大禮に際し特別勅定の藍綬褒章の御下賜を、今次特別大演習の砌り畏くも陛下より特に單獨拜謁を仰付けられ、剩へ賜餐拜受の榮を重ねたり。在院の次男孝義君は選ばれて全國社會事業大會に渡米出席し一ケ年後歸朝して益々斯業に貢献しつゝあり。

木崎式鐵網合資會社

木崎 儀

東京品川區大井出石町五二四

明治二十三年上道郡金岡村木崎善次郎氏の長男に生れ、芥南小學校卒業の後暫く農耕に従事す。後閑谷巖の三學年に編入進んで長崎高等商業學校に學ぶ。其の間全く苦學獨歩、大正四年卒業するや直に東京銀座の株式會社米井商店に入り、全六年株式會社三菱製鐵に入社、全三菱商事に轉じ、全十二年三月英國カメロン商會橫濱支店輸出主任に聘せられしも、關東大震災の危に會ひ同商會も破産多大を極め、君其の整理を完了して辭し、大正十三年獨立して合資會社鐵網工場を東京城東區大島町一丁目二五〇に設立し、専ら河川改修用蛇籠、建築用鐵網、保護網各種の製造販賣をなす。大阪に支店、岡山に出張所を有す。家にはスズ夫人との間に一男二女あり。

木原通一 岡山市天瀬

明治十一年十二月愛媛縣越智郡深上瀉町に出生、今治紡績工場を經營し製品販路擴張の爲明治の末年來岡して祖父代々の業綿絲商を創む。尋いで石炭部、電氣部を設け更に大正



十一年株式會社木原商店となし、古河鑛業、安川鑛業、東京電氣、富士電氣等の代理

店たり。一族を各其の重役とし、君はその取締役社長たる外山陽水電、中國合同電氣、岡山電燈、備前織物等の重役、岡山縣石炭同業組合長、岡山商工會議所顧問等の要職にあり長男六右工門氏は慶大出身、富士電氣社員たり。

世の法燈を繼ぎ今日に至る。

岸本恒重

明治十九年十月勝田郡大崎村中原に生れ、津中より東亞同文書院に學び、滿鐵在任十有餘年、後歸郷して村長に選ばれ、多年地方自治に執掌貢獻し、大正二年には郡民の衆望を荷ひて縣會議員に當選し、立憲民政黨に所屬地方政治界に活躍して今日に至る。君眞に寡言實行の人、今の世稀に見る人格者なり。

岸本愛治

上道郡古都村六廿

君は上道郡玉井村黒田家に生る。四十二年岡山師範第一部卒業、縣下小學校長勤務中、當局其の清廉敏腕を認め、拔擢して郡視學に採用す。郡制廢止に伴ひ兒島郡日比小學校長に任補、奏任官を以て待遇せられ名實共に縣下教育界有数の大校長として斬然頭角を抜く。今や有終の美を大成し職を退き閑にあり。

木畑竹三郎 岡山市内山下

君は明治三年生れ、二十七年岡山中學校教諭拜命以來大正十二年三月同校退職迄終始一貫、所謂十年一日の如く同校に勤務せらる。資性濃厚篤實、至誠以て人を遇し、善を施して話らず、徳を積んで誇らず自ら君子の風あり。夫れ教育家の尊き所以は智識才幹のみに非ず重きは其の品格徳望なり。徳を缺く材知は人を教化するの力なし、君の如きは眞に教育家の模範なりと謂ふべし。現に第六高等學校英語科囑託講師として今日に至る。

菊池太作

英田郡林野町

君は苦田郡田邑村の素封家水島家に生れ、菊池家に入る。初め作東銀行を興し重役として經營の衝に當りしも、時勢の進運に伴ひ、電燈事業を發起、美作電氣株式會社專務取締役となり、英田、勝田、赤磐三郡に亘り電燈電力を供給し、地方の便益に供す。遂に吉井川電力株式會社と合併し入りて常務取締役となり津山の本店經營の重任に當りしが家庭の事情に依り辭して現在は運送店を開業す。町會議員等地方の名譽職にあり。

祇園輝太郎

明治二十年邑久郡長濱村の生れ、四十三年岡山師範第一部卒業にして常に滿腔の熱誠以て、兒童教養の任に當り二十年間定に一日の



清山泰遠 吉備郡高松町大字稻荷

師は明治三十三年治九年妙立寺住職清山觀惠氏の息として誕生。年齡十二才にして吉備郡高松町稻荷山第二十世稻荷日勝師の弟子と爲り、大正十二年得度十四年東京立正大學豫科へ入學次で同大學宗教科に學び昭和六年大學を卒業す。偶々同年七月師日勝上人遷化に會ひ、同山の衆望師に集り、承けて稻荷山妙教寺住職として第二十一

木庭君治 岡山市天瀬

君は赤磐郡瀉船村江尻に生る。大正六年岡山師範第一部卒業、岡山市内山下校訓導拜命以來、御津郡加茂、上道郡芳野小學校長等を歴任して、現に御津郡野谷校長たり。性快活にして膽力あり、事を處して果斷、教育者中稀に見るの士、夙に教育者たらんと志望せることとて其の熱誠比類稀なり、されば各校にて村民の尊崇甚だ厚きものあり。

如きものあり。現に邑久郡裳掛小學校長の外



國立生園慰安會評

島取引所重役を始め、諸會社事業界に盡せる所甚だ多し。後功なり産を成し全家を辭して現住の地に野鶴を友として晩年甚多幸なり。



職清山 觀惠氏の息子として誕生。年十二才にして吉備郡高松町稻荷山第二十世稻荷日勝師の弟子と爲り、大正十二年得度十四年東京立正大學豫科へ入學次で同大學宗教科に學び昭和六年大學を卒業す。偶々同年七月師日勝上人遷化に會ひ、同山の衆望師に集り、承けて稻荷山妙教寺住職として第二十一

電力を供給し、地方の便益に供す。遂に吉井川電力株式會社と合併し入りて常務取締役となり津山の本店經營の重任に當りしが家庭の事情に依り辭して現在は運送店を開業す。町會議員等地方の名譽職にあり。

祇園輝太郎

明治二十年邑久郡長濱村の生れ、四十三年岡山師範第一部卒業にして常に滿腔の熱誠以て、兒童教養の任に當り二十年間寔に一日の



如きものあり。現に邑久郡雲掛小學校長の外、國立長島愛生園慰安會評議員となり又青年團、婦人會、處女會等の役員として指導誘掖の任に當り殊に部落教化に熱心盡瘁する等地方開發に盡力し社會事業に興味を有し功績多し。又劍道の名手、近野夫人との仲に四男二女あり。

島取引所重役を始め、諸會社事業界に盡せる所甚だ多し。後功なり産を成し全家を辭して現住の地に野鶴を友として晩年甚多幸なり。

岸本熊吾 香川縣高松市古新町齒醫師



明治二十四年兒島郡小串村に生る。當時の縣立岡山中學を経て、大正五年京都府立醫學專門學校を卒業、同年七月より大正十二年四月に至る迄、日本赤十字社香川縣支部病院に勤務、大正十二年五月より高松市古新町にて耳鼻咽喉専門にて開業、名醫の譽れ高し、家に養父母健在、夫人との間に二女あり。岡山市外龍之口山八幡宮の大信者たり。

木村勝彦 津山市山下八三

君は津山市の人。大正十年津山地方の竹細工を發展擴張せんと開店し、更に海外にも輸出せんとするの意圖起るや昭和五年、津山木竹細工販賣購買組合を組織し大いにその普及に努力し。遂に農林省副業獎勵費の補助を受けて作州一帯に家内工業として隆盛を圖る。勢ひ最初は美術細工、玩具を製作しむるも、最近に於ては實用的のもの多く、内地は勿論歐米にまで進出し各方面に珍重さる。君その組合長として活躍意氣益々壯んなり。

岸歌治

和氣郡伊部村伊部 文久二年生

君は意志強健、刻苦研鑽つひに功成り名遂げて錦を故郷に飾ざりし當代稀に見る奮闘の士なり。明治二十三年東京農大を卒へ、明治二十八年岡山縣廳に奉職、縣農學校を設置す。同四十年岡山市日本硫酸肥料株式會社に技師として入り、大正三年まで勤續社業大に揚る。同五年備前多木肥料株式會社に相談役として十二ヶ年を送り、町議外帝國黨業株式會社取締役たりき。こお子夫人との間に一子正志氏あり、生駒姓を名乗り帝大出身醫學博士なり。

岸信男 苦田郡鄉村

近郷屈指の素封家に生る。農大出身にして農學の權威なるのみならず郡書記、郡聯合主事を歴任し、天晴れ自治的手腕を現しつゝあり。現に郡農會副會長、郡在郷軍人聯合分會長、岡山縣信用組合聯合會支部長等の要職に在り。資性豪放、霸氣滿々たる稀に見るところにして今や農村の振興の聲喧しく農村多事るとき、君の存在や確に世人の意を強ふするに足ると共に農村民の期待は君の一身の上に集められつゝあり。

岸本勇 大阪市北濱二丁目

君は苦田郡高野村の生れ、帝國大學法科出身、卒業後直ちに野村銀行に入る。勤務數年遂に其の偉材は認められて一躍北濱支店長の要職に拔擢せらる。頭腦明晰にして機敏、人に接して何等の城壁なく、應答明瞭、日本財界の中心北濱の金融に與る銀行家として、最も適れ適所を得たるものと謂ふべく、同行の信用一層厚きを加ふ。大阪財界に於ける將來の人材として衆目の注ぐところなり。

祇園清次郎

大阪市住吉區松崎町

慶應三年六月岡山市に生る、年齡漸く十三才にして上阪、長者加島屋事福岡家に入店す。勤續忠勤一圖主家に盡し明治二十四年福岡家の加島銀行を組織するや出でて岡山支店次席となる。滯岡數年本店副支配人に昇格次で總支配人となる。其の間加島家代表として堂

岸本種次郎

苦田郡高野村

地方に於ける名門にして夙に村長に擧げられ村治に執掌すること二十幾年、其の業績大いに見るべきものあり。

縣會議員として縣政に關與すること二期、縣參事會員たること又數年、君寡言なれども剛腹、志操堅固にして苟も毀譽褒貶に捉らるれず、克く其の所信を貫徹遂行し、常に公益に力を致し殆んど寧日なし、政友會に席を置き地方に一大勢力を有す。陸軍大將岸本鹿太郎氏は君の從弟なり。

木村 佐吉

現住所 廣島縣深安郡法成寺村

君は明治二年十月現住所に生る。明治十九年下加茂村法成寺村戸長役場筆生とし漸次手腕を振ひ、同二十二年法成寺村組合書記となり、二十六年全組合收入役に勤務し、同三十四年全組合村長に就職し現在に至る。此外村組合農會長、組合軍人待遇會長、深安郡町村



長會々長、加長、加法信用販賣購賣利用組合長、深安畜産組合長、

深安郡農會議員、廣島縣農會議員、廣島縣自治協會深安郡支會副會長、同郡農會長等を勤務し其の功績大なるを以て大正十五年皇太子殿下行啓の際並びに昭和五年 陛下行幸に際し單獨拜謁の光榮に浴す。

岸本治賀造

上道郡光政村

手腕閱歷よりも寧ろ人格の高雅なる点に於て一村の師表として村氏を指導し、人心風教を匡正する縣下村長中にも類稀なる人物なり。家は代々庄屋を勤む。君は慶應三年四月生れ、幼にして慧敏漢籍を修めて造詣深く、長じて自由民權の政論に共鳴して自由黨に入り地方政界に雄飛し一勢力を成す。

大正十四年村長に就任、以來専心村政の發展に努力す。敬神崇祖の念一入篤く、皇室中心思想、國家觀念の養成に力め功績多し。今は閑にありて松聲を楽しむ。

喜多村松齋

岡山市内山下

君は廣島縣福山人慶應三年生れ、幼にして書を好み小野晴雲、三好雲仙氏等に師事して研鑽し名聲大に擧がる。明治十五年來東京、大阪、京都の各地に歴遊し、全二十八年京都に於て今尾景年畫伯の門に遊び茲に畫風一變し其の技益神に入る。全三十年歸郷専ら研究に餘念なく、傍ら山陽高等女學校外二三に教鞭を執る。得意とする所は花鳥、山水にして其の靈妙の筆は往々古人を凌ぐの概あり。曾て第五回勸業博覽會及岡山學藝展覽會等に審査員たり。大正三年十月御大典奉祝のため聖壽萬歲圖を獻納せる外皇太子殿下及び皇族殿下へ獻納し、無上の光榮に浴せし事一再に止らずと云ふ。

岸本晋亮

大阪市北區若松町三七

明治八年上道郡古郡村岸本鐵吉氏の長男に生る。年齢二十三才上京して早稻田大學校外生となりあらゆる螢雪の苦闘をつゞけ僅に講義録によりて獨學し、遂に全大學を卒業す。辯護士試験に合格、鳩山和夫氏の事務所につきその事務にあること數年、三十六年大阪北區若松町に開業し今日に至る。君は業務の外に雜誌法律世界を發行して大に斯界に貢献後進誘導に努む。

前日銀岡山支店長 君島 一郎

明治二十年栃木縣塩谷郡鹽原に生る、明治四十五年東大法科經濟學部卒業、四十五年日本銀行に入り、計算、國債、營業、調査等諸



局勤務を経て大正七年倫敦及伯林に派遣せられ、十年歸朝検査役、文書局調査役、大阪支店調査役、函館及松江支店長に歴任し、岡山支店長に來任、今尙縣人に深き印象を残す。

木畑浩四郎

岡山市内山下七

京都市左京區下鴨中川町六五

君は明治十四年生れ、岡山中學卒業陸軍士官候補生、陸軍歩兵少尉を経て、明治三十八年歩兵大尉として日露戰役に從軍、沙河會戰に負傷退役となり、正七位勳六等旭日章功五

大社諏訪神社宮司、同十年官幣大社月山神社、國幣小社出羽神社、國幣小社湯殿山神社等の各宮司に轉じ十一年正六位に敍せられたり。同時に皇典講究所主事兼國學院大學主事に就任し、傍ら全國神職會事務幹事を努め、又大正十三年官幣中社嚴島神社に勤務し今日に至る。

を匡正する縣下村長中にも類稀なる人物なり。家は代々庄屋を勤む。君は慶應三年四月生れ、幼にして慧敏漢籍を修めて造詣深く、長じて自由民権の政論に共鳴して自由黨に入り、地方政界に雄飛し一勢力を成す。大正十四年村長に就任、以來専心村政の發展に努力す。敬神崇祖の念一入篤く、皇室中心思想、國家觀念の養成に力め功績多し。今は閑にありて松聲を樂しむ。



大正七年倫敦及伯林に派遣せられ、十年歸朝検査役、文書局調査役、大阪支店調査役、函館及松江支店長に歴任し、岡山支店長に來任、今尚縣人に深き印象を残す。

木畑浩四郎

岡山市内山下七

京都市左京區下鴨中川町六五
君は明治十四年生れ、岡山中學卒業陸軍士官候補生、陸軍歩兵少尉を経て、明治三十八年歩兵大尉として日露戰役に従軍、沙河會戰に負傷退役となり、正七位勳六等旭日章功五級金鷄勳章を給はる、明治四十二年東京外國語學校卒業、大正八年四月京大文學部選科入學英文學專攻、英語科教師として、閑谷賢岡山分齋、關西中學校、岐阜縣立大垣中學校教諭となる、現在は京都同志社大學豫科教授たり。

木村克己

阿哲郡本郷村大字則安

大社諏訪神社宮司、同十年官幣大社月山神社、國幣小社出羽神社、國幣小社湯殿山神社等の各宮司に轉じ十一年正六位に叙せられたり。同時に皇典講究所主事兼國學院大學主事に就任し、傍ら全國神職會事務幹事を努め、又大正十三年官幣中社嚴島神社に勤務し今日に至る。

木村寅夫

兒島郡福田村南畝

縣圖書館司書
君は明治二十三年生れ、四十五年岡山師範卒業、兒島郡第一福田、味野、郷内、藤田、都窪郡水江各小學校に奉職、大正十年四月岡山縣圖書館司書となり現在に及ぶ。讀書を好み文材あり。雜誌、三友、更新等を發行し常に其の所懐を世に發表す、又著述多し。教育、社會事業に盡力し其の効績著々として顯る。

木村靜彦

賀茂鶴酒造株式會社取締役社長



君は元治元年廣島縣賀茂郡西條町に生る。明治九年官立廣島英語學校に入學、十一年縣立廣島中學校と改稱を十三年に卒業せり。其後父祖の業酒造業を營み、之れを學理的に或は實地の經驗に鑑み改良を重ね、遂に日本清酒の代表酌酒賀茂鶴を醸出するに至る。全國各共進會博覽會等に出品し最高名譽賞を得し事實に百數十回に及ぶ。大正四年大禮記念章同十一年綠綬褒章を下賜せられ、尙大正十五年皇太子殿下行啓に際し實業功勞者として拜調を賜ひ、其他日本赤十字社功勞章、紺綬褒章を下賜せらる。今次福山市に於て、今上陛下に單獨拜調を賜ふ。

嚴島神社

廣島縣佐伯郡嚴島町

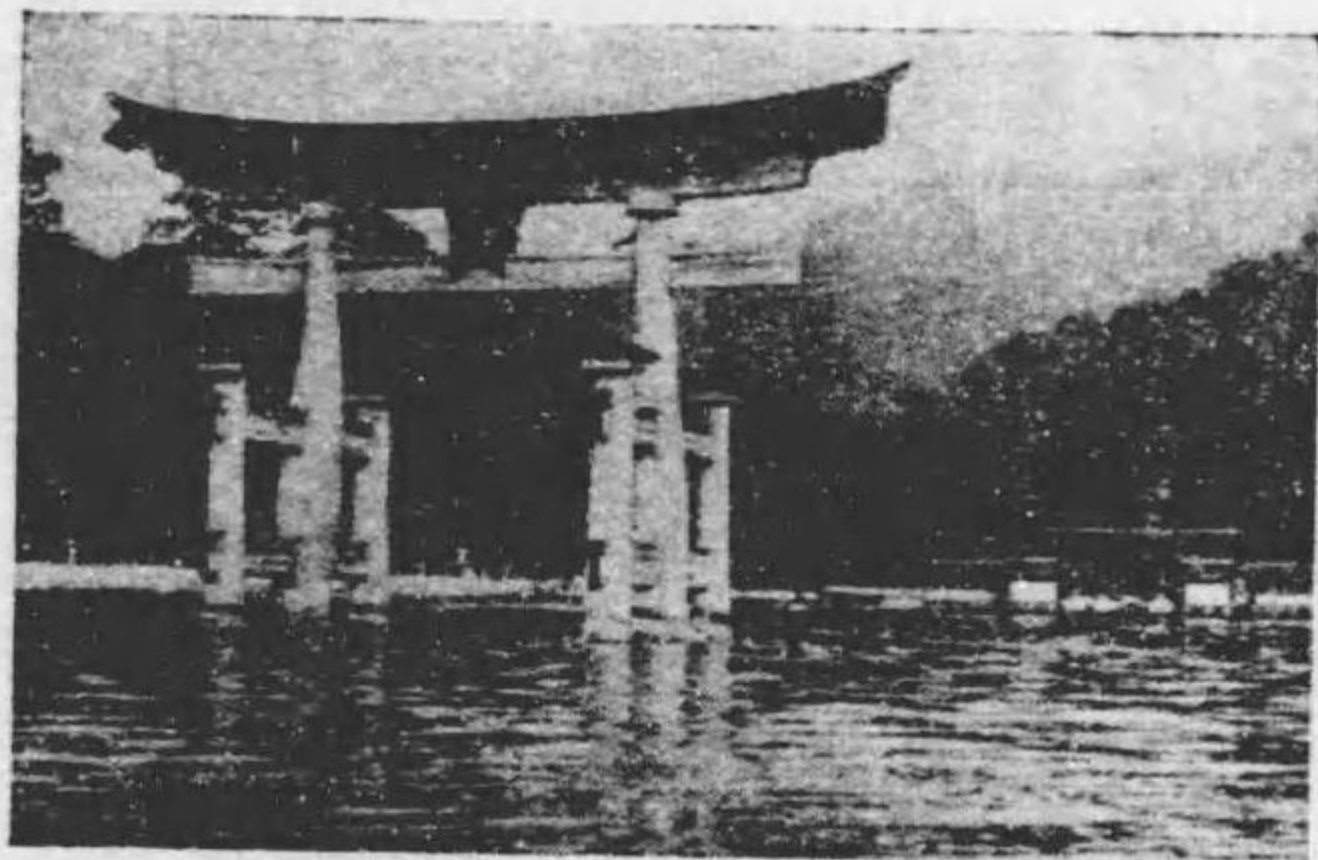


明治四年福岡縣伊達郡藤田町に生れ、二十八年國學院を卒業せり。後北海道、山形、奈良、群馬等各縣の中等學校教育に従事し、三十八年奏任官待遇となり同四十五年退職、大正四年に至るまで東京の各種學校にて教鞭を取り、其間清國留學生教養に盡力せり。四年三月國幣小社砥鹿神社宮司を拜命じ、同五年四月官幣

木村一一一

赤磐郡瀬戸町

上道郡角山村生れ後現地に移る。趣味に富み且技工に巧なる君は世の進歩に伴ふ書畫骨董の趣味需要に鑑み表具師たらんと志し、刻苦精勵大に其の技を磨き現住所に於て表具のかたはら書畫骨董商を營み地方の信望を得、家運大に隆昌となる。



一(79)(キの部)一

醫學博士
木村 敏 太 兒島郡琴浦町字下村



學校を卒業、大正七年五月岡山醫學專門學校を卒へ、岡山縣病院内科及び神戸市立屯田療養所に勤務し昭和五年八月論文を提出して學位を受領す。昭和六年五月現在地に開業盛大を極む。

木村 明 男 福山市明治町

君は津山市田町の生れ、土居銀行吉備貯蓄銀行に敏腕を振ひ、後山陽銀行に入りて營業主任たり。同銀行の合併せらるゝに及んで中國銀行津山支店次席に拔擢せられ現同行福山支店長たり。夙に土居通博氏に見出されて信任厚く、遂に今の基礎を築く。人に接して快感を與へ銀行家としては理想的の人格を有す、年齢尙若く將來に嚆望する處多し。

木村 繁 太郎



明治十五年津山市元魚町に生れ、津山中學卒業後專ら實業に従事す、津山市元魚

町にライディングサンの看板の堂々たる巨棟を見る是君が經營の商店にして、ライディングサン美作山陰一手販賣、日本石油株式會社特賣店、小野田セメント株式會社特約店、ユニオンビール株式會社特賣店等にして近時君は東奔西走して業務を擴張し、伯備線の聯絡開通後は鳥取市網代港油槽所及兵庫縣樂山港油槽所と連絡し、又鳥取市驛前に支店を設置す。津山實業家中屈指の資産家たり。

木山 淳 一 岡山市弓之町

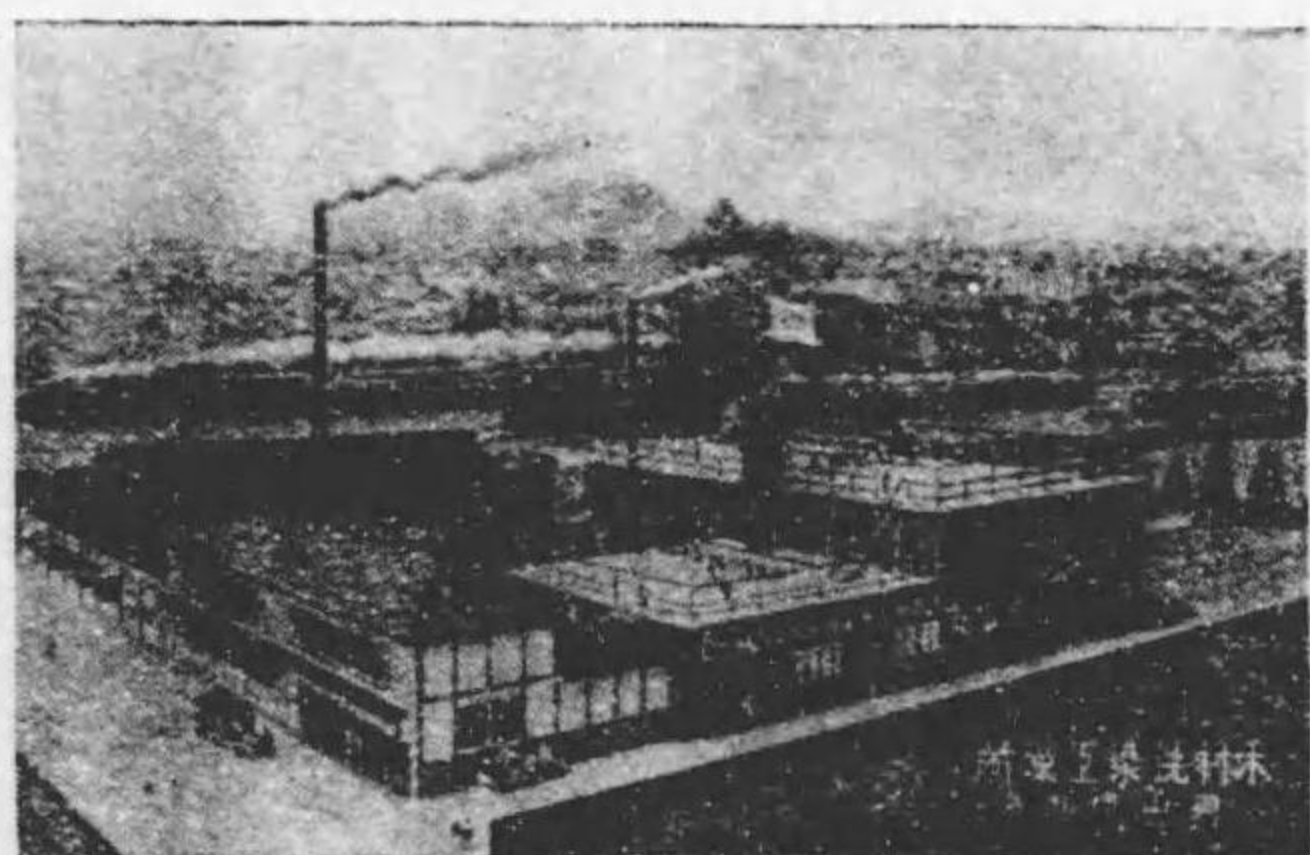
明治二十三年小田郡北川村に生れ四十二年

岸本 福雄 姫路市本町六〇

明治二十五年邑久郡玉津町に生れ、三十八年日露講和後姫路市に製靴業の將來あるを見て其の研究を志し、大正三年九月現位置に開業す、その技術の精巧にして且堅牢なるをもつて各地博覽會に於て賞状褒状或は感謝状を受くること十數回の多きに及べるを以て知るべし、製品は京阪神方面に卸賣す。君十六才

矢掛中學を優良なる成績を以て卒業後岡山師範本科第二部に入り翌年卒業し小田郡美川小學校に奉職し大正五年縣女子師範學校に轉任し、大正十年小田小學校長に榮轉す。十三年後月郡視學に、十五年岡山縣視學に昇進し、昭和二年一月岡山市視學に就任、五年津山市に市視學を置くや選ばれて就職し現在に至る初等教育に關する著書大いに斯界に貢献しつゝあり。

クリーニング工場主
木村 元 男 岡山市北方一、三五



明治三十年津山市東町の舊家に生る、小中學を卒へて東京藏前高等工業學校に入學す。歸郷後勝田郡瓜生村民有地内に金、銀鑛脈を發見し、爾來貳ヶ年鑛山經營に全力を傾注し其の努力と手腕は遂に三菱鑛業を動かし提携成立せるも大正九年財界の大變調に遭遇し閉業の止むなきに至り、轉じて日本郵船株式會社に入る。後英國アシル、セア會社に毛織物整理事業の完成せるを聞き研究の爲め入社す。大正十五年歸朝和洋の長所を合せ社會に適應せる獨特のクリーニング法を創始し郷土津山市に開業漸次殷盛を極めしが昭和四年縣會議員大池百治氏の共鳴を得て合資會社木村洗染工業所を創立し、岡山市北方の地に大工場を建設し備ふるに歐米の最優秀機械を以てし、倉敷、笠岡、新見、高梁、西大寺、和氣等縣下樞要の地に支店を置き、營業、外交、工場の三部となし、工場は乾式、濕式、染色の三課を置く。今次の陸軍特別大演習の際、朝香宮、賀陽宮、李健公殿下を始め大本營隨行の宮内大官の御下命を忝し、破格の光榮に浴せるも一つは拔群の技術と一つは又君の人格と多年の奮闘の賜と云ふべきなり。

岸川 龜 二郎

同汽船取締役、共立鑛業監査役等を兼ね益々重きをなす。



君は苦田郡泉村の人 明治二

ン美作山陰一手販賣、日本石油株式會社特賣店、小野田セメント株式會社特約店、ユニオンビル株式會社特賣店等にして近時君は東奔西走して業務を擴張し、伯備線の聯絡開通後は鳥取市網代港油槽所及兵庫縣柴山港油槽所と連絡し、又鳥取市驛前に支店を設置す。津山實業家中屈指の資産家たり。

木山淳一 岡山市弓之町

明治二十三年小田郡北川村に生れ四十二年

岸本福雄 姫路市本町六〇

明治二十五年邑久郡玉津町に生れ、三十八年日露講和後姫路市に製靴業の將來あるを見て其の研究を志し、大正三年九月現位置に開業す、その技術の精巧にして且堅牢なるをもつて各地博覽會に於て賞状褒状或は感謝状を受くること十數回の多きに及べるを以て知るべし、製品は京阪神方面に卸賣す。君十六才にしてバプテスト教會にあつて洗禮を受け後内村鑑三氏に師事すること二十五年の長きに及ぶ、熱烈なるキリスト教徒なり。又飛行機製作に深き興味を有し製作せる模型飛行機數を失らず、今尚姫路城の一角に保存せらる。神戸稅務署直稅課長岸本春雄氏は君の令兄なり。

岸本周造



君は文久二年上道郡光政村に生る明治十二年光政村々會議員に當選し、三十五年光政村長に當選就職し其後引續き當選、三十六年九月之れを辭し、四十三年六月同村々會議員に當選せり。明治四十三年十一月十七日の賜饌、昭和三年十一月十六日の饗饌同五年十一月十七日の賜饌に召さる。今や多くの公職を辭し、閑にありて讀書と敬神崇祖の道に親しまる。

從四位勳三等

公森太郎 東京西巢鴨池袋九一七

明治十五年都窪郡撫川町大内田に生る。明治四十一年東大法科政治學科を卒へ、大藏省勤務、爾後稅務監督局事務官又は稅務監督官として廣島、札幌、熊本、大阪の監督局に歴任。大正三年十二月青島守備軍司令部付として從軍、青島稅關管理兼卓頭局長たり。大正七年阪谷男爵の支那幣制顧問として支那政府に聘せらるゝや、秘書官となりて參與す。翌年海外駐劄財務官として北京に駐在、昭和四年上海に移駐す。五年八月日本興業銀行理事に選任せられて今日に至る。外に白山水電監査役、東株取引所國債委員長、日本共

資會社木村洗染工業所を創立し、岡山市北方の地に大工場を建設し備ふるに歐米の最優秀機械を以てし、倉敷、笠岡、新見、高梁、西大寺、和氣等縣下樞要の地に支店を置き、營業、外交、工場三部となし、工場は乾式、濕式、染色の三課を置く。今次の陸軍特別大演習の際、朝香宮、賀陽宮、李健公殿下を始め大本營隨行の宮内大官の御下命を忝し、破格の光榮に浴せるも一つは拔群の技術と一つは又君の人格と多年の奮闘の賜と云ふべきなり。

同汽船取締役、共立鑛業監査役等を兼ね益々重きをなす。

岸川龜二郎



君は苦田郡泉村の人明治二十二年生、大正九年村會議員に當

選し、大正十年苦田郡木炭同業組合代議員に擧げられる、同組合検査監督となり、専ら監督事務を執掌し村松、小沼、奥の組長を佐け今日に至る。同組合が今日の發展を見るに至りたるは歴代組長並に役員に依るも亦氏が終始一貫熱心に斯業開發のため寢食を忘れて奮闘されたる結果にして、組合員の等しく敬慕するところなり。

岸川國太郎 大阪市北區梅田町二二

明治十九年苦田郡泉村岸川君次郎の長男に生る。十八歳迄生家に在り後長野縣立小縣蠶種學校に學べり。卒業後京都、神戸の各市廳並岡山縣廳等に奉職し、後更に上阪して大正六年現市電の前身なる大阪電燈株式會社に入り在勤三ヶ年、全社を退いて獨力現在の地に



岸川電機商會主
岸川電機商會を開業して専ら電機器具、ラヂオ等の販賣に従ふ。傍ら株式會社宮田製作所の創立に劃策して社長となり、眞空管の製造販賣に扶掌、現に日本電氣同業組合代議員日本西部ラヂオ商工組合長、大阪電氣同業組合の専務理事等を兼ね斯界に於ける信用最も厚し。

岸信男

明治二十年苦田郡郷村に生れ東京農大の出身。在郷軍人會役員として勤績二十年會務に

盡瘁、功績多大の故を以て昭和五年十一月同
會總裁宮殿下より表彰状を拜受す。更に苦田
郡養蠶組合聯合會副會長全部木炭同業組合副
組長、郷信用購買販賣組合理事長、岡山縣信
用組合聯合會津山支所長たり、又曾つて苦田
郡書記、全部農會專任幹事等として君が地方
開發の爲め努力せられたる事故擧に遑なく、
信望愈々高し。

菊池貞太郎

岡山市島田

君は明治五年吉備郡山田村に茂八郎氏の長
男として出生。嚴父は知名の實業家たり。君
才智にすぐれた天性勤勉なる奮闘家として、同
郡會議長等に推されたりしが後岡山に移住、
坪田平太郎氏等と協力して、合資會社島田製
作所を起し、今日の島田製作所を成し、大正
六年岸本藤五郎氏經營の製織工場を買収して
會社組織に改め、現在の岡山製織株式會社を
創立自らその常務取締役として今日に至る。

岸本熊太郎

大阪市電運輸課長

明治十六年岸本力三郎氏長男として吉備郡
眞金村に生る。京都一中、三高を経て四十
一年京大法科を卒業。高文試験に及第して鐵道
院に奉職。爾來現業、各驛長、運輸事務所長
等に累進大正四年より全六年に至る間派遣せ
られて米國に留學し具に鐵道運輸事務情况其
他を視察す。歸朝名古屋鐵道局運輸課長とな
り、本省に入り監察官に任じ鐵道局參事、東
京鐵道局運輸課長に歴任せり。後官を辭し大
阪市電氣局運輸課長に聘されて今日に至る。
現農林省水産局水産課長三宅發四郎氏は君の
實弟なり。

國粹會岡山縣本部會長

木下唯助 岡山市天瀬千日前



明治十五
年香川縣
仲多度郡
郡家村に
出生、有
名なる矢
野動物園
主矢野楨
次氏の二
男なり。二十四歳にして先代藤十郎氏の養嗣
子となる。君生來義氣に富み仁俠全國に著は

る、大正十年國粹會の設置せらるゝや九津見
海軍少將等の下に理事長となり、後其の岡山
縣本部會長に選任せられて今日に及ぶ。又興
業界の重鎮にしてアームストロングサーカス
團々長たり。曩年映畫の眞價を洞察し現代世
相に鑑み娛樂の中に人道を鼓舞鞭撻し、卑近
通俗に社會教化の普及と徹底とを期する蓋し
之れに如くものなしとし、觀覽稅等負荷の重
きに堪えつゝ若玉館、金馬館、世界館等の常
設館を有し長男唯一氏に支配せしめ只管民衆
に利便すること甚大なり。夫人との間に二男
一女あり、益裁に趣味深し。

正四位勳一等大藏次官 黒田英雄

東京本郷區駒込追分町云

明治十二年津山の名門岡山縣士族黒田一
氏の長男に生る。第一高等學校を卒へて東大
英法科を明治三十八年卒業高等文官試験に合
格直に大藏屬に任ず。爾後大藏省參事官兼大
臣秘書官、同銀行局長、同主稅局長に歴任し
、昭和二年四月大藏次官に任ぜらる。四年辭
任して歐米各國の視察に赴き六年歸朝、再び
現に大藏次官たり。尙ほ曩の海軍機關學校長
海軍少將黒田琢磨氏は一道氏の二男、商工省
貿易書記官貿易課長黒田鴻五氏一道氏五男は
各々君の令弟なり。かく一門兄弟各々邦家の
爲に盡瘁せらるゝ事は家門の名譽此の上なく
、又實に郷土の誇りと謂ふ可し。

倉敷市助役 黒崎勝男

岡山市門田屋敷二丈



明治十七
年上道郡
幡多村關
に生る。
岡山縣雇
員の傍ら
勉學し、
明治四十
一年普通
文官試験に合格、岡山縣屬に任官、大正十五
年地方事務官に昇進して社寺兵事課長に任ぜ
られ、社會教育課兼務を命ぜらる。昭和六年
退官正七位勳六等に叙せらる。君縣政に功績
甚だ尠なからず、就中明治四十三年並昭和三
年の兩度陸軍特別大演習に際しては其の主務
官となり、北清事變、三十七八年戰役及日獨戰
争に當つて動員事務につくし、吉備津神社の

藤本恒之

岡山市廣瀬町二一七

明治三十一年小田郡北川村に生る、大正七
年岡山師範第二部を卒業、直ちに郷里小田校
に教鞭を執り在職六年の後岡師研究科に入り
、矢掛校訓導兼農商補習學校助教諭に任ぜら
れ、大正十五年岡山女子師範學校首席訓導に
拔擢せられ、初等教育研究會委員に擧げらる
。昭和六年岡山市宇野校長兼宇野實業補習學
校長兼岡山市第八青年訓練所主事に榮進す。

昇格等枚擧に遑なく、社會分區制度の確立又
君の功績たり。昭和八年末倉敷市助役に選任
せられて今日に及ぶ。

岡山縣果物組合理事 國末祐三郎

赤磐郡高月村大字馬屋の人、警察官たりし
も退いて未だ統制機關の完備せざる時に當り



男なり。二十四歳にして先代藤十郎氏の養嗣子となる。君生來義氣に富み仁俠全國に著は

勉學し、明治四十一年普通文官試験に合格、岡山縣屬に任官、大正十五年地方事務官に昇進して社寺兵事課長に任せられ、社會教育課兼務を命ぜらる。昭和六年退官正七位勳六等に叙せらる。君縣政に功績甚だ尠ならず、就中明治四十三年並昭和三年の兩度陸軍特別大演習に際しては其の主務官となり、北清事變、三十七八年戰役及日獨戰爭に當つて動員事務につくし、吉備津神社の

昇格等枚擧に違なく、社會分區制度の確立又君の功績たり。昭和八年末倉敷市助役に選任せられて今日に及ぶ。

岡山縣果物組合理事 國末祐三郎

赤磐郡高月村大字馬屋の人、警察官たりしも退いて未だ統制機關の完備せざる時に當り岡山縣果物同業組合に職を奉じ、組長を補佐して斯業開發に奮勵努力し、理事として五代の組長を援けて今日に至る、同組合が内地各市場は勿論朝鮮、台灣南洋各地まで進出、内七千有餘の組合員を一条亂れざる統制下に活躍せしむるも亦君の手腕によるものにして、斯界の功勞者として崇敬せらる。村にありては自治制の上に其他各種方面の名譽職にあり

男爵 黒瀬義一 岡山市富田町

君は岡山市の人陸軍中將男爵黒瀬義門氏の男にして明治七年大阪に生る。東京府立中學をへて明治三十六年東大工科を卒業し後台灣總督府土木局囑託電氣作業所技術員を兼ね、在職二年にして飯京大阪砲兵工廠技師、明治四十一年岡山縣立工業學校教諭、第六高等學校講師を兼任し、後和氣高等女學校々長に轉じ今やその職を辭し悠々自適讀書を樂しむ。

草信唯治 上道郡平島村字浦間



夙に岡山師範を出で多年岡山縣小學校教育に盡瘁し、大正五年上道郡平島小學校

長に榮進、尋いで大正十二年財田小學校長、全十四年可知小學校長に歴任し、昭和二年九月招聘されて岡山縣上道國民學校長に就任、昭和八年委任官を以て待遇せられ、功成り名遂げて退く。黒住教を信仰し至誠濃厚なる天賦の教育家として惜まる。二男二女あり、長男英明氏は日本大學出身辯護士たり。

藤本恒之 岡山市廣瀬町二二七

明治三十一年小田郡北川村に生る、大正七年岡山師範第二部を卒業、直ちに郷里小田校に教鞭を執り在職六年の後岡師研究科に入り、矢掛校訓導兼農商補習學校助教諭に任せられ、大正十五年岡山女子師範學校首席訓導に拔擢せられ、初等教育研究會委員に擧げらる。昭和六年岡山市宇野校長兼宇野實業補習學校長兼岡山市第八青年訓練所主事に榮進す。外に武德會岡山支部游泳教授たり。尙君が平素研鑽に基く教育實務に關する著は台覽の光榮に浴す。

大阪齒科醫專教授 醫學博士 黒田鶴治 大阪市東區南久寶寺町二丁目



明治三十年赤磐郡周匠村福田に黒田七三郎氏長男として生る。周匠小學校を終るや上阪して道修藥學校に學び、大正二年卒業、續て四年藥劑師試験に應じて之に合格、翌年大阪

齒科醫學校に入學、全七年卒業、在學中に齒科醫術開業試験に合格せり。直ちに母校に奉職在勤六年、君の素志は報ひられて大正十三年九月同校海外留學生に選拔せられ、獨逸ベルリン大學に留學すること五ヶ年、専ら齒科並藥物學の研究に没頭せり。在學中即大正十三年十月已に同大學はドクトル、メデチーネの榮號及デンタリエの學位を贈る。昭昭二年四月卒へ錦衣歸朝して再び母校の教壇に立ち、同年十一月醫學博士の稱號を授與さる。最近自宅に開業して一般の治療に當り名聲愈々高し。

辯護士 窪谷逸次郎 岡山市東中山下

明治六年淺口郡寄島町に生る。三十年東京法學院を卒業し、三十三年十一月判檢事登用試験に合格し、翌月文官高等試験に合格し同年司法官試補を拜命。三十五年東京地方裁判所檢事に補せられしが辭して東京市に於て辯護士を開業せり。後轉じて内務屬、大阪府警視、關東州民政署警視、關東都督府事務官兼

參事官、統監府書記官、警保局警務課長及び警務官練習所長に任せられ次で佐賀縣事務官、熊本縣警察部長、高知、群馬縣内務部長に歴任し、大正六年正五位勳四等に叙せらる。同十二年岡山市長に就任し温厚篤實よく市政の圓滿なる發達に資し市政上に貢献せり。滿期退職後現地に辯護士たり。

栗山精一 岡山市東中山下一一四

明治十六年京都府南桑田郡篠村に出生、四十一年京大法科卒業。京阪に於て電氣事業會社に關與せしが、大正二年三月岡山市に於て辯護士を開業し、その識見豊富所論卓越せるをもつて衆望を負ひ遂に擧げられて大正十年岡山辯護士會長となる。同年市會議員に當選の榮を得、更に市會副議長となり市政に貢献盡瘁する所多大。喜代子夫人は市内中納言福武家の生れ、禮子嬢東京女子高師在學を初め五女あり。

久保甚吉 岡山市古京町

明治三年五月内田家に生れて久保家を相續す、明治二十年萬年酢の醸造を創め、志保屋と稱して登録を有し萬年酢の聲價は年と共に世に喧傳せられ、第三回全國博覽會に金牌賞を得、其他評會共進會等に於て金銀牌賞狀を



覽會品各地博受けしこと幾十回。尙萬年酢の外にダマ印焼酎及味淋更に清酒百萬出等の醸造を爲し好評あり。君は信義にあつく同業者の信望を受け、市民亦敬服す。商工會議所議員に再選す。

串田藤吉

明治十八年上道郡金田村に生れ、四十二年岡山師範を卒業郷里開成小學校に教鞭を執り後、操南校等に轉じ大正十四年六月再び開成校長に就任、郷土青少年の育英に専心精進し大に集望を集む。人格圓滿高潔、質實明朗、組合村民の氣受よく講堂其の他の改築を連續完成し、形式内容を一轉す。奏任待遇を受け八年高踏勇退せり。夫人との間に一男三女あり。

久山知之

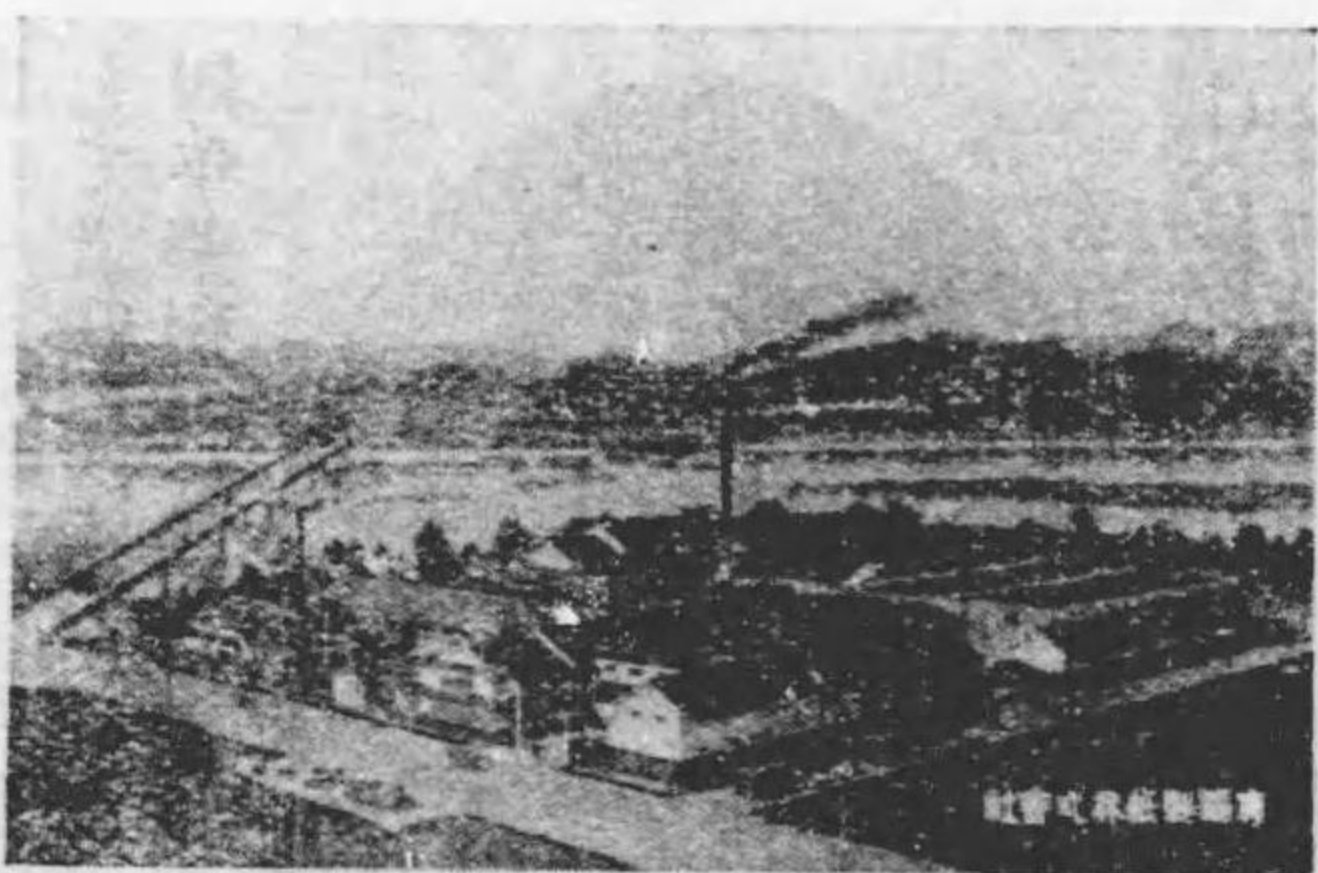
明治十九年久米郡大井西村に生れ、中學卒業後東郡に遊學する所あり

歸來少壯政友會岡山支部員に加り大正八年久米郡選出岡山縣會議員に當選傍ら岡山市に久山工業所を創立し、主として水力電氣の設計工事並請負に従事せることあり。後衆議院議員總選舉に當り、第一區より既に四度び選出されて國政に參與し今日に至る。現政友會本部幹事として重きを加へつゝあり。

廣福製紙株式會社專務取締役 久下美澄 津山市元魚町



英田郡林野町中山家に生れ久下家に入る、家は代々紙の販賣を以て知らる。前記



重役として其の經營の任に當り業績伸張に専心、君は津山市に於ける有力家にして、思慮周到不言實行の人、膽力供はりて自己の所信は斷じて行はずんば止まざるの氣概あり。久しく町會議として町政に關與、市政施行の當時其の盡力すること多大なり。

岡山測候所長 久山壽太郎

明治の末年書記として入所、爾來實地研鑽を積み勉學遂に累進して今日に及ぶ、其の努力熱誠懇切正確とは地方民の崇敬信賴を高め、德望益々高し。最近旭川改修工事に伴ひ所地擴張愈々設備の充實に力めらる。

日下惣太郎 津山市伏見町

家代々菓子製造卸問屋、津山市に於ける老舗なり。君は其の當主にして津山中學校卒業後、上京して明治大學に學ぶ。久しく台灣方面にありしが父の老境を案じ歸りて家事に従事す。地方稀に見る人材、大いに活動、家を興し地方公共の爲めに盡瘁する決して遠きにあらざるべし。

久山利雄 岡山市内山下三〇ノ七



明治二十九年生れ、大阪高等工業專

。現に兒島郡第二宇野尋常高等小學校長として奏任官を以て待遇せられ益々聲望高し。尚ほ同村補習學校長、青年訓練所主事、兒島郡教育會副會長、第三支會長の要職を兼ね。勝子夫人との間に息做夫君東大工科卒業あり。

岡山師範を卒業郷里開成小學校に教鞭を執り後、操南校等に轉じ大正十四年六月再び開成校長に就任、郷土青少年の育英に専心精進し大に集望を集む。人格圓滿高潔、質實明朗、組合村民の氣受よく講堂其の他の改築を連續完成し、形式内容を一轉す。奏任待遇を受け八年高踏勇退せり。夫人との間に一男三女あり。

久山利雄

岡山市内山下三〇ノ七



明治二十九年生れ、大阪高等工業專攻科卒業。後大正九年十月現住地に鐵網、鋼鐵、諸機械設計製圖等を營業課目として創業し、業績目覺しきものあり。其の取引廣く地方專賣局納入品の如きは全國に及び、



久山式壓搾器は頗る出色の優品たり。君は忙中の閑に釣を垂れ、福久子夫人は長唄を娛しむ。

黒田高康

英田郡林野町

田淵屋は古く舊幕時代よりの老舗にして、閑靜優雅、設備完全、接待亦丁寧親切、作東の旅客の齊しく稱讚するところ、君は其の當主なり。濃厚寡言の人、流石に名門の流れなることは、其の風格によりて窺ひ知るに充分なり。曩年秩父宮殿下の御假泊を賜してことを始めとし、高貴の御宿泊所として幾度か光榮に浴す。

熊澤

亭

兒島郡莊内村長尾

明治十八年生れ、四十年岡山師範本科一部の卒業、以來縣下初等教育界に身を投じ茲に二十數年終始一貫一日の如く、至誠以て育英の爲めに盡瘁し効績顯著なり。宜なり幾度か教育功勞者の故を以て各方面より表彰せらる

日下惣太郎

津山市伏見町

家代々菓子製造卸問屋、津山市に於ける老舗なり。君は其の當主にして津山中學校卒業後、上京して明治大學に學ぶ。久しく台灣方面にありしが父の老境を案じ歸りて家事に従事す。地方稀に見る人材、大いに活動、家を興し地方公共の爲めに盡瘁する決して遠きにあらざるべし。

。現に兒島郡第二宇野尋常高等小學校校長として奏任官を以て待遇せられ益々聲望高し。尙ほ同村補習學校長、青年訓練所主事、兒島郡教育會副會長、第三支會長の要職を兼ぬ。勝子夫人との間に息倣夫君東大工科卒業あり。

日下商店社長

日下安太郎

岡山市内山下石山



。傍ら縣商工團體聯合會幹事、縣實業組合聯合會副會長、市商工協會幹事、市織物雜貨卸組合長及び岡山運輸聯盟會幹事に選ばれ、又會商工會議所議員たり。人格、識見共に高く社會的貢獻亦尠からず。今次大演習には福田大將の宿泊を受く。(寫眞追録參照)

黒住忠道

御洋郡今村

當家は黒住教祖の一族にして前管長宗子師の實弟なり。累代黒住神社に奉祀す。天資溫順にして君子の風あり、十年一日の如く神前に奉仕して謹嚴、傍ら古典を研究し其造詣深し。村内に於ける公共的方面にも活躍し村民の尊崇高し。

中國合同電氣株式會社取締役

久山猪八郎



君は苦田郡二宮村に於ける屈指の舊家に生る。家は代々醬油釀造を以て業とす

。曩に地方有志と偕り津山町に美作製織株式會社を創立し取締役として大いに斯業の振興に努む。又備作電氣株式會社の取締役に就任し後その中國合同電氣株式會社に合併するや入りて取締役となる。君は實に地方有數の實

業家にして且つ政界にも潜勢力を有し作州の中堅人物たり。

日下吉平

東京麴町區三年町二
大和毛織株式會社專務取締役
鶴見木材株式會社取締役

慶應元年一月生れ、山室喜久衛氏の令弟なり。日下貞五郎氏の養嗣子明治二十年家督を續ぐ。少壯の頃橋本卯太郎氏等と共に岡山縣教育界に身を投せしことあり。當時同志雄圖を談じ君先づ決然上京、引續き盟友上京す。明治二十六年東京法學院卒業、實業界に投じ今前掲重役たり。

黒住教前管長 黒住宗子



師は明治三十年二月管長に就任し、三十二年大教會所を大元の地に創立し、本廳

を設けて教務を統轄し、教規教則の改正を行ひ、大いに信仰靈界の爲に精進されしが、今や退きて入洛して閑地に自適さる。

昭和銀行神田支店長

黒住章

君は岡山市門田に生る。家は世々素封家を以て郷黨に鳴る。前代代五郎氏は岡山市會議員として自治に功勞ありし人、其の二男にして今は分家す。岡山一中に學び第六高等學校より進んで京都大學商科に學び商學士なり。業を卒へて近江銀行に入り直ちに名古屋の支店長となり、遂に近江銀行理事となる。後近江銀行新に昭和銀行となるや入りて東京神田支店長となる。よく經濟界の推移を察し理財に長じ、巨萬の富を成せり。

從二位勳一等樞密顧問官

窪田靜太郎

東京大森區田園調布四ノ二宛
日本赤十字社理事常議員

慶應元年九月生れ、岡山藩士窪田善之氏の長男なり。明治二十四年東大法科を卒業して内務省試補拜命、尋いで佐賀縣、徳島縣、兵庫縣、内務省等の參事官に歴任し、農商務書

記官、内務省衛生局長に進み、同四十三年行政裁判所評定官に轉じ、大正十一年同長官となり、遂に昭和七年一月樞密顧問官に親任せらる。傍ら前記の職に在り。大正五年法學博士の學位を受く。

三井物産石炭部

久山寅一郎

東京豊多摩下池袋二、六三
明治十九年二月津山市二宮松太郎氏長男に生れ、温厚着實の士たり。四十三年慶應義塾理財科を卒業後、三井物産株式會社に勤務し、現に前記市内販賣部主任として活躍、母堂並に二息あり。

就實高等女學校長

國富友次郎



明治三年淺口郡鴨方町素封家高戸家に生れ、國富家に入る。

三十二年岡山師範卒業後數年小學校教育に従事す。偶々縣教育界の耆宿たりし進藤貞範氏等と女子實科教育を提唱し、遂に其の實現を見る。後入りて校長となり校務を統理し、又高等女學校を完成し今日の隆昌を致す。傍ら縣政、市政に與り或は縣會議員、市會議員議長等として貢獻甚大なり。又嘗て歐米を視察して或は教育に地方政に寄與せるところ尠からず、正に地方の中心勢力たり。

醫學博士

古屋野定平

長崎市ロカヌ町一六
明治十九年九月都窪郡早島町に生れ、岡山中學校、第五高等學校を経て明治四十四年京都帝大醫科卒業、後同大學院卒業今や長崎醫科大學教授として令名高し。充夫人との間に三息あり。基督教に信仰厚し。

國司郁太郎

英田郡林野町
君は明治三十七年英田郡福本町福本に生る。岡山師範を卒業、し縣下初等教育に従事すること茲に三十年、終始一貫育英の業に當りて倦むなく、今の世稀に見る教育家なり、さ

郷司周宏



岡山市西中山下
明治十六年岡山藩士郷司豊次氏の長男に生る。中國鐵

れば門下亦この氣を汲んで人材輩出す。智育や易く、道徳的人格教育や難し、林野町の君を得たるは至幸と謂ふ可し。

兒山宗十郎

君は明治二十三年

支店長となる。よく経済界の推移を察し、現に長じ、巨萬の富を成せり。

從二位勳一等樞密顧問官

窪田靜太郎

東京大森區田園調布四ノ二宛

日本赤十字社理事常議員

慶應元年九月生れ、岡山藩士窪田善之氏の長男なり。明治二十四年東大法科を卒業して内務省試補拜命、尋いで佐賀縣、徳島縣、兵庫縣、内務省等の參事官に歴任し、農商務書

中學校、第五高等學校を経て明治四十四年京都帝大醫科卒業、後同大學院卒業、今や長崎醫科大學教授として名高し。充夫人との間に三息あり。基督教に信仰厚し。

國司郁太郎

英田郡林野町

君は明治三十七年英田郡福本町福本に生る。岡山師範を卒業、し縣下初等教育に従事すること茲に三十年、終始一貫育英の業に當りて倦むなく、今の世稀に見る教育家なり、さ

郷司周宏

岡山市西中山下

明治十六年岡山藩士郷司豊次氏の長男に生る。中國鐵道株式會社營業課勤務を振

兒山宗十郎



君は明治二十三年兒島郡小串村に生る。岡山中學校、第六高等學校を経て大正六年東大醫學部に入り藥學部を卒業、大阪市株式會社武田商店に聘せられ技師となる。昭和二年藥製研究の爲獨逸ベルリン大學に入學、研究を終へて佛、英、米諸國の製藥事業を視察して昭和五年歸朝し、引續き武田商店に勤務現在に及ぶ。學生時代より劍道選手として知られ今尙体育競技を好む。



第一相互貯蓄銀行取締役
後藤德太郎 神奈川縣鎌倉町二階堂二尺
慶應二年赤磐郡に岡山縣士族後藤貞三氏の長男として出生、明治十二年家督を相續す。明治三十二年關西大學を卒業し暫く教育界にありしが、同三十五年第一生命保險會社に入り、會計課長に進む。大正十一年其の傍系會社第一相互貯蓄銀行に轉じ、專務取締役となり現に取締役たり。夫人との間に二女あり。

黒正巖

京都市淨土寺石橋三六

明治二十八年上道郡可知村中山丈五郎氏三男に生れ、岡山市黒正家に養嗣子たり。岡山一中、第六高等學校を経て大正九年京大經濟學部卒業、十一年全大經濟學部講師となり、十二年獨米に留學就中獨逸ハイデルベルヒ大學に於て愈々斯學の研究を極め、十四年飯朝翌年京都帝大教授に任せられ經濟學博士の學位をうく。著書最も多く經濟史論、農業共産制史論、社會經濟史原論、封建社會の統制と鬭争、百姓一揆史談、日本經濟史、日本經濟地理學等枚舉に遑なく、殊に百姓一揆の研究は一躍都下の紙價を反騰せしむ斯道研究家として權威たり。

小橋賢郎

兒島郡味野町

明治十七年兒島郡赤崎村に生る。岡山中學校卒業岡山醫學專門學校に入學せしも在學一年餘にして家庭の事情に依り止むなく退學せり。後砲兵一年志願兵として入營し、公傷の爲め除隊の止むなきに至る。然れども君は現在味野鹽回送株式會社支配人並に日本食鹽回送株式會社取締役三期、味野町會議員に三度當選し、又學務委員として専ら實務の人となり、今や同町の重鎮として衆望を集む。

上坂熊勝

岡山市二番町

慶應三年現住所に生る。明治十四年金澤醫學校に學び全十八年醫師開業二十九



年大阪醫學教授となり、三十四年醫學博士の稱號を得、岡山醫專教授となり、大正二年

米國貿易株式會社販賣部支配人

後藤達也 住原區小山町五〇三

明治十八年後藤冬太氏の長男に生る。幼より氣宇濶達雄圖を抱いて夙に米國に航し、イーストマン高等商業學校及紐育大學に學ぶ。卒業の後鑛山業に従事し、更にナショナル、キャッシュユ、レジスター會社に入り、擢んでられて大正七年日本に派遣せられ、現に米國會社支配人たり。其の前途や實に洋々と謂ふ可し。君志夫人との間に三男あり。

學士院恩賜賞を受け、十一年岡山醫專の昇格せし岡山醫大教授となり、全十四年四月歐米視察に赴き同十月歸朝今日に及ぶ。學界に其の名高く多くの名醫を輩出す。

近藤榮松

明治十三年兒島郡莊内村に生る、全三十四年岡山中學校を卒業、後一年志願兵として入隊陸軍歩兵少尉に任官し、三十八年日露戰役に參加、功を以て中尉に進み、從七位勳六等功五級を授けらる。村會議員、郡會議員に選ばれ、大正十二年莊内村長に就任、各種施設を進め地方良啓發に盡瘁し、常に軍人精神の指導獎勵に努め治績見る可きもの尠からず。現職の外縣濟世會委員、兒島郡在郷軍人聯合分會長其他各種團體の要職に就き今日に至る。觀世流謠曲を能くす。

小林壽美太

大阪市西區京町堀一ノ元

明治十三年川上郡成羽町西方吉次男に生る。後大阪小林家に入りて之を習せり。岡山簿記學校に學び、三十四年上阪、郷里の先輩渡邊益太郎氏に知遇を得、大阪製菓株式會社に入り、工場部員として勤むること二年、後高麗橋販賣主任に擧げらる。其後會社の解散により君獨立して製菓業を開業、四十二年洋菓子の製造販賣に従事し、娘印ビスケットを發賣して好評を博し、漸次販路を各府縣は勿論遠く滿鮮支那植民地に及ぼし、更に特約會社として東洋製菓、森永製菓等大會社を網羅し愈々隆運の一路を辿るなり。

小梶誠一郎

小田郡笠岡町



明治二十年阿哲郡石蟹郷に生る。才智衆に優れ秀才の譽あり

大正六年辯護士試験に及第し現地にて開業衆望を集め名聲日に共に高し。大正十一年笠岡消防組頭に選ばれ大に陋習を打破し、組織改造をなし、面目を一新し優良消防組として知事より再度表彰さる。本縣消防義會理事、笠岡商工協會理事、其他多くの要職にあり。愛子夫人との間に一嬢あり。

高祖鶴雄

邑久郡牛窓町

明治二十八年牛窓町の豪家高祖吉太郎氏長男に生る。大正三年津山中學を卒へ後東都に遊學す。家は代々清酒醸造を以て近郷に鳴り、天保十四年吉三郎氏の創業にかゝる。嚴父吉三郎氏之を繼承銘酒天神山及高祖正宗を吟醸す。販路東京方面にも及び備中屋の名聲噴々たり。吉三郎氏は業界稀に見る徳望家にして、邑久上道二郡酒造副組台長として二十餘年勤績し功勞多し。君現に牛窓町會議員全商工會長に推され、銳意全町の發展に盡力して今日に至る。近年牛窓町の海水浴場完成の背後に君の貢献大なるは萬人の認むるところなり。因に神戸市高祖病院長は君の義兄たり。

高祖松太

邑久郡牛窓町

君は中國地方屈指の魚問屋邑久郡牛窓町中松商店の當主。俠氣に富み信望頗る厚し。創業は全地の素封家中尾より明治八年先々代松治郎氏分家して開業せるもの、父君松吉氏を経て君に及び事業益々發展し今日の隆盛を至せり。昭和五年陸軍大演習の砲長も御料鮮魚運搬奉納の光榮に浴せり。現に旭東四郡水産組合會長、三郡水産取引聯合會副會長として實權を握り、曾て水産功勞者として其筋より表彰を受く。又多額納稅者たり。店則に曰く『大膽にして細心、忍耐して勉強、相互の信用を重んじ、客の便利を先にして店の利益を後に』と。又曰く『賣買に無理ある勿れ』と。

小林彌一

岡山市上之町



明治二十八年廣島縣沼隈郡草戸村に生る。君が師團道に武道具一式の專門店を開業したるは大正十二年、現在の小林尙武堂は全店を茲に移せしもの店務愈々多望なり。君は厚く日蓮宗を信じ、趣味は古今東西武具の研究なり。家庭には春子夫人との間に一男三女あり。

小林病院長

小林只次郎

大阪市築港三條通四丁目

慶應三年吉田郡東加茂村に豊田莊治氏二男として生る。幼少小林家に養嗣子たり。東京濟

兒山破魔吾

兵庫縣御影町郡家下

明治十八年兒島郡小串村に生れ、東京錦城中學を經四十年東京高商を卒へ、室蘭日本製鋼所に入り、後大阪野村商店に入り、大阪屋商店の設立せらるゝや専務取締役となり今日に至る。趣味は登山、夫人との間に二男二女あり。因に武田製藥會社技師兒山宗十郎氏は令弟、元岡山縣選出代議士にして文人たる赤木格堂氏とは從兄弟たり。

生學舎に學び明治三十四年卒業、順天堂病院に入り外科主任となり、翌年文部省檢定試験に合格、更に東大醫科に入學小兒科を専攻して一旦郷里に歸り開業せり。後上阪現在の小林病院を設立院長となる、内外眼各科及皮膚、耳鼻咽喉科をも設け一般治療に應ず。又各種公共團體に盡力奉仕して衆望あり。嘗ては大阪市會議員に推され市政參與の歴史あり。

醫學博士 高祖敏雅 神戸市中山手通六

大正六年辯護士試験に及第し現地にて開業衆望を集め名聲日に共に高し。大正十一年笠岡消防組頭に選ばれ大に陋習を打破し、組織改造をなし、面目を一新し優良消防組として知事より再度表彰さる。本縣消防義會理事、笠岡商工協會理事、其他多くの要職にあり。愛子夫人との間に一嬢あり。

秀才の譽あり

生學舎に學び明治三十四年卒業、順天堂病院に入り外科主任となり、翌年文部省檢定試験に合格、更に東大醫科に入學小兒科を専攻して一旦郷里に歸り開業せり。後上阪現在の小林病院を設立院長となる、内外眼各科及皮膚、耳鼻咽喉科をも設け一般治療に應ず。又各種公共團體に盡力奉仕して衆望あり。嘗ては大阪市會議員に推され市政參與の歴史あり。

醫學博士 高祖敏雅

神戸市中山手通六

明治二十一年邑久郡牛窓町岡田陰平氏四男に生る、高祖病院長にして現政友明總務岡田忠彦氏はその長兄現東京府地方課長岡田包義氏は令弟、陰平氏は初等教育功勞者として知らる。岡山中學、岡山醫學專門學校を経て四十二年京大醫學部卒業、後數年全大學に於て専ら婦人科を研究し、大正十一年神戸市現位置に於て開業、現神戸市醫師會代議員、兵庫縣產婆試驗委員たり。園藝、讀書を趣味とし、登代子夫人は牛窓町の名門にして富豪高祖吉太郎氏の長女一男四女あり。

後藤江三郎

岡山市内山下

明治二十年赤磐郡葛城村に生る。私立岡山中學卒業時に三十七年、十八才の青年にして居村収入役に用ひられ、三十九年玉島稅務署を拜命、同四十年稅務屬に任官、加古川、明石、大阪、東神戸各稅務屬に勤績、後上郡稅務署直稅課長、次で倉敷、吳、岡山等の直稅課長たりしが大正十三年退職、岡山商業會議所書記長として久しく貢獻ありたり。

甲元確二

津山市西今町一九

明治三十四年生家は代々松平藩主の御用人にして、筆紙、墨、小間物、化粧品等を商



ふ。君に至りて十三代に及ぶ老舗なり。岡山中學を経て明治

大學商科を卒ふるや、直ちに歸津文房具專門店として蓋蓄を傾けて經營し、今日の信用と盛況を見事に於ける代表的文具店となる。君在學中常に陸上競技選手となり活躍す、現に市聯合青年團副團長体育部長として後進を指導し、幾多の優秀なる選手を輩出し人望高し。

開業したるは大正十二年、現在の小林備武堂は全店を茲に移せしもの店務愈々多望なり。君は厚く日蓮宗を信じ、趣味は古今東西武具の研究なり。家庭には春子夫人との間に一男三女あり。

小林病院長

小林只次郎

大阪市築港三條通四丁目

慶應三年苦田郡東加茂村に豊田莊治氏二男として生る。幼少小林家に養嗣子たり。東京濟

兒山破魔五

兵庫縣御影町那家下

明治十八年兒島郡小串村に生れ、東京錦城中學を經四十二年東京高商を卒へ、室蘭日本製鋼所に入り、後大阪野村商店に入り、大阪屋商店の設立せらるゝや専務取締役となり今日に至る。趣味は登山、夫人との間に二男二女あり。因に武田製藥會社技師兒山宗十郎氏は令弟、元岡山縣選出代議士にして文人たる赤木格堂氏とは從兄弟たり。

國府精一

君は國府代吉氏の長男

明治十三年吉備郡服部村に生る。岡山中學、第一高等學校を経て、三十九年東大法學部政治科を卒業、直に住友銀行に入り本店に勤務す。大正五年同行米國桑港支店開設と共に渡米し、副支店長として活躍する事六星霜、同行東京支店長に轉じ、更に十二年大阪本店支配人に擧げらる。十四年住友の日出生命保險會社創設専務取締役に轉じ、その後東京本店に駐在せしが、十五年同社を住友生命保險會社と改稱し、本店を大阪に移すや之れが専務取締役に今日に及ぶ。

津山砂糖會社取締役

後藤修一

津山市西今町



君は片山善五郎氏の次男明治二十年出生。幼にして隣家後藤家に入る。

勝田郡湯郷三星城主後藤左エ門尉勝基の後裔にして、津山魚町に居を構へたる時善五郎氏母堂を後見したる關係上君を以て家督を相續せしめたるなり。津山中學を経て大阪高等工業製造科に入り研學中養父の死に遇ひ廢學家業を繼ぐ。家業醬油醸造業は養父幸四郎氏が明治二十三年創業したるもの、その三ツ星印醬油の名は近郷に響く。君また推されて前記の職にありて活躍す。

大阪醫大教授醫學博士

古武彌四郎

明治十二年岡山縣人古武

彌津治氏二男として出生、同三十七年大阪府立醫學校卒業、京大醫學部助手として荒木博士に就き醫化學の研究に没頭すること二年、獨逸に留學し歸朝後大阪府立高等醫學校教授

に任せられ醫化學を擔當す。全校昇格し現に醫科大學となりて今日に及ぶ。大正二年醫學博士の榮號を得、東大の熊谷、京大の荒木兩博士と並稱され本邦醫化學界の三星と謔はる。内外の信望厚く著書頗る多き中『トリプトファン』の中間代謝に關する研究』こそ博士學生の事業とも稱され、前後無慮十五ヶ年間の尊き研究の結晶にて世界的新發見として全世界の絶讃嘆賞を受け、斯界に偉大なる貢獻を爲せり。つる子夫人との間に三男二女あり。

是友猪作

岡山市内山下三〇

明治三十六年御津郡金川町に出生、理想的高級理髮を志し、多年刻苦勉勵昭和二年一月現在内山下に開業し、その練磨されたる技術を以て多くの客の満足を買ふ。今次大演習には當路より理髮御用を拜命し光榮に感激して奉仕せり。趣味に馬術 寫眞、スキー等あり。

小島 藤吉 津山市二ノ一九

君の嚴父藤助氏は早くより石油商の將來あるを洞察し、明治初年衆に先んじて



獨神戶に至り外人に就きその販賣方を契約して開業す。眞に津山市に於ける鑽油商の元祖なり。漸次石油の需要増すに至り今日の大をなす。君は未だ若年なるも愛弟正吉君と協力、父の遺業を繼ぎ愈々奮勵努力して家業隆昌を極む。津山中學校第十九回卒業生。

(寫眞は先代藤助氏)

高齊 堯三

君は眞庭郡勝山町の人。明治三十九年岡山師範卒業後、九ヶ年間郷里の小學校に奉職し、大正四年渡滿、十年間遼陽、公主嶺、吉林の三校に訓導兼校長として勤め、十四年四月勝山小學校長に歸任し、落合小學校長に轉じ、六年再び勝山小學校長となる。現に郡教育會長、郡小學校長會長を兼ね、教育功勞者として、奏任待遇の光榮を荷ふ。

河本英雄

眞庭郡勝山町明治二十七年生れ、家は舊幕時代累代庄屋を勤む。嚴父直一郎氏は戸長、川西村長、町會議員、町長、郡會議員等々選任令名縣下に高き人なり。

那辻家に生れ、後岡山市河本家に入り家を襲ぐ、明治二十三年本縣師範を卒業し哲多郡神代校、岡山市清輝校を経て全二十六年弘西小學校長となる。爾來勤績三十三年、功績顯著の故を以て文部大臣より小學校教育功績狀を授けられ、賞勳局より銀盃を賜ひ、大正九年奏任官を以て待遇せらる、從七位勳七等。全

君大正七年明治大學卒業、大正十四年町會議員に當選、今日に及ぶ。所得稅調查委員の外勝山銀行創立委員、勝山養魚會社創立委員、製絲株式會社々長等を兼任し、實業界にも精彩ある活動を續け、社會の健全なる發達を致さんとする努力寔に敬服に價するもの多し。

衆議院議員

小谷 節夫 岡山市西田町一七

明治十八年生れ、幼にして海外發展の志を抱き東



亞同文書院卒業後、古河鑛業社員となり後辭して、青島に渡り青島新報

を發刊現にその社長たり。傍ら青島天侑公司を經營し海外にありて岡山縣人のため大いに氣を吐く。三年四十四歳にして政友派より出陣美事當選し、七年再び當選政友會の重鎮として政界にも前途を囑望さる。

小林康太郎

津山市總社

津山市々會議員として名聲高し。また青年團長に推され、軍人分會長に擧げられ、西日本體育協會を創立し同會副會長に就任する等全市若人憧憬の的なり。明治三十一年生れ大正十一年早大出身、一年志願兵として入營、陸軍少尉に任官。今や前記要職に在り。父君元治郎氏も又自治上の功勞者なり。

兒島荒太

和氣郡本莊村

明治二十四年五月本莊村に生る。四十三年開谷中學校を卒業するや、一身を初等教育のため捧げんと岡山師範に學べり。和氣郡鶴山小學校を振出しとして、和氣郡内の神根、修養小學校を経て現在の三石小學校長となれり。神道を奉じ、趣味としては文學、美術、運動をよくし、衆望を一身に集む。



河岡市門 本市田屋 亮敷 明治二年 兒島 郡甲浦 村大字

粉川虎之介

津山市船頭町

津山驛に下車、今津屋橋を渡りて右に高壯なる日本建物を見る、これ即ち君の店舗なり。先々代の頃より麻裏表の製造販賣を營む。抑々津山産出の表は、其の品質優良、其の技術の優秀なるを以て聞ゆ、産額亦全國第二位にあり。可れも津山市近郊に産出するものに

師範卒業後、九ヶ年間郷里の小學校に奉職し、大正四年渡滿、十年間遼陽、公主嶺、吉林の三校に訓導兼校長として勤め、十四年四月、勝山小學校長に歸任し、落合小學校長に轉じ、六年再び勝山小學校長となる。現に郡教育會長、郡小學校長會長を兼ね、教育功勞者として、奏任待遇の光榮を荷ふ。

河本英雄 眞庭郡勝山町明治二十七年生れ、家は舊幕時代累代庄屋を勤む。嚴父直一郎氏は戸長、川西村長、町會議員、町長、郡會議員等々選任令名縣下に高き人なり。



河本 岡山
市門
田屋
亮敷
明治二
年兒島
郡甲浦
村大字

小學校を経て現在の三石小學校長となれり。神道を奉じ、趣味としては文學、美術、運動をよくし、衆望を一身に集む。

那辻家に生れ、後岡山市河本家に入り家を襲ぐ、明治二十三年本縣師範を卒業し哲多郡神代校、岡山市清輝校を経て全二十六年弘西小學校長となる。爾來勤績三十三年、功績顯著の故を以て文部大臣より小學校教育功績狀を授けられ、賞勳局より銀盃を賜ひ、大正九年奏任官を以て待遇せらる、從七位勳七等。全十五年高踏勇退、教育生活實に三十七年なりき。

近藤敬次郎

兒島郡銚立村

兒島醬油の代表『赤玉印』『玉龍』の醸造元近藤家は天明年間の創業已に五代に及ぶ。其の製品優秀にして東西各地博覽會等に出品して常に最高賞牌を受領せること枚擧に遑あらず。特に日英大博覽會、第五回内國勸業博覽會に於て名譽金牌を受領せり。東京、京阪神に販路を有し醸造高實に三萬石を越ゆ。尙君は明治三十一年岡山縣醬油醸造組合長に推され、後其の顧問たり。宜なる哉今回の行幸に際し實業功勞者として、特別の光榮に浴す。

河本舜吾



明治二十六年上道郡津田村に生れ、大正六年大阪府池田師範卒業後大阪市西成區津守小學校に奉職、大正九年歸縣上道郡操南、西大寺兩校を経て赤磐郡江西校に轉じ、昭和四年和氣香登、翌年邑久郡靜修小學校長に轉じ、現在母校上道開成小學校長たり。温厚の人、事に處し熱心名校長として父兄の信頼厚し。數子夫人との間に道子嬢あり。

近藤幸一

岡山市内山下

君は赤磐郡石生村の人。故代議士萬代嘉平治氏に就て漢籍を修む。萬代氏は君の將來を察知し、神戸の某貿易商會に紹介せり。君はその傍ら神港商業學校に通學し大正五年同校卒業後、歸來伊部土管株式會社に入り、更に味野商事、釣鐘護謨會社に營業部長として就任、後同社を辭し悠々風雲の機を待ちつゝありしが、トモエ自動車株式會社に聘せられ支那人となり今日に至る。

粉川虎之介 津山市船頭町津山驛に下車、今津屋橋を渡りて右に高壯なる日本建物を見る、これ即ち君の店舗なり。先々代の頃より麻裏表の製造販賣を營む。抑々津山産出の表は、其の品質優良、其の技術の優秀なるを以て聞ゆ、産額亦全國第二位にあり。何れも津山市近郊に産出するものにして、今日の此の盛況を見るに至りしは君の先代の指導誘掖其宜しきを得たる結果なりといふ。君之れを繼ぐに及んで益々改良を加へ其の聲價愈々高く、地方特産副業品として將來益々飛躍を期待せらる。

光島美作男 西宮市和上町



君は明治十五年勝田郡北和氣村に生れ、西宮市に轉住已に久しく鑛油商を營み尙各種事業會社に關與し同市に於ける實業家として知らる。君常に市の發展興隆に奔走盡力すること多く、西宮市々制實施以來市會議員に當選すること二回、現に兵庫都市計畫委員たり。其の手腕信望は遂に擧げられて、縣會議員となり現在に及ぶ。

金光文孝

金光町大谷

現管長金光長家師の令弟にして、現在金光教管理、大教會所御用掛、全復興造營副奉行、全維持財團代表理事、並金光中學理事等の樞機に衝り、傍ら岡山縣濟世顧問囑託たり。書畫に通じ特に洋畫に造詣深し。基子夫人との間に四女あり。

近藤惠左久

大阪証券株式會社支配人 大阪市内區上本町三丁目

明治十四年赤磐郡山方村に生る、三十五年岡山師範卒業、爾來十六年間育英のことに従ひ大正七年職を辭して北濱の大阪株式現物問屋に入り、後大日本證券株式會社に入りて活躍、君が敏腕は重役間の信望を踵め忽ち産を興し、大阪財界に漸く重きをなす。現に同社支配人となり専ら事務を擔當す。人と爲り潤達、機を見るに頗る敏奮闘以て今日に至る、家庭は繁子夫人との間に息一志氏あり。

香西貞都子 神戸市荒田町三丁目



女史は淺口郡玉島町の人元兵庫縣會議員、同參事會員香西敬一氏の未亡人にして

岡山藩士故點々居竹孟二世小橋忠明氏の長女明治五年生れ。夫君に従ひ神戸に轉住奮闘内助大いに産を積む。今や夫君逝去に遭ひ養嗣子紀一郎氏と遺産を護る。常によく世態を解し社會公共の事業に盡し巨萬の財を抛ちて吝しむなし、夫君在世の當時より其の郷里玉島町道、學校、公會堂等へ寄附し、又大倉山圖書館、常照院、圓城院の建立等に寄進し、賞勳局、市長町長等より感謝状を受くること數回、今も神戸市婦人會役員として社會奉仕に餘念なし。因に香西覺太郎氏は亡夫君の令弟、麥稈眞田業を營み神戸市實業界に令名あり。

勳八等 金藤傳四郎 小田郡笠岡町

君は明治二十年生れ、四十年歩兵第五十四聯隊に入隊再役して大正元年歩兵曹長に昇進、後滿洲駐劄として奉天遼陽の守備に就き、五年八月特務曹長に上り、八年十二月豫備役に編入と全時に歸郷、現住地に於て酒醬油食料品の販賣に従ふ。公共心に富み現に消防組副組頭、帝國在郷軍人會笠岡町分會長、笠岡商工協會常務理事等の公職に在り。安子夫人との間に四男あり。

醫學博士 近藤恂二 姫路市中吳服町

明治十八年四月兒島郡銚立村に生る。岡山中學出身、後京都帝大醫學部卒業、小兒科を專攻研究して學位を受く。人爲質實懇切専門に相應はしく、現地に開業して市民の信頼厚し、蓋し學位を有する小兒科は頗る稀れとす。夫人との間に四男三女あり。

國府一房 大阪市東區寺山町

大阪市東區北久寶寺町大阪三品取引所仲買人國府商店主たる君は岡山市東中山下に明治十六年出生、二十四歳上阪單獨にて雜貨商を營みしも、後貴志商店に入りて店務を見習ひ、漸次内外の信用をあつくして大正七年株式會社大阪三品取引所仲買人第一部棉糸の免許

を得、十五年更に第二部棉花の免許をも得て資産信望共に成る。現在全取引所第二部取引員組合四十九商店中首位を占め聲望隆々。君國士の風あり、夙に免因保護事業の完成を期して大正自治會を組織し又東區教化委員會常務理事等として私財を投じて社會事業に貢獻せる枚擧に遑なし。又嘗ては民政黨大阪支部幹事として全黨の爲盡力し又安部磯雄氏に私激し社會民衆黨支部長として東奔



西走せる等商工界稀に見る熱の人として畏敬せらる。久子夫人並に一女あり。店舗は大阪市北久寶寺町三丁目。

近藤一男 大阪市住吉區阪南町

上道郡財田村近藤門之次氏の次男明治十一年出生。十三歳の時故ありて岡山市關新吾氏に養はる。後廣島農學校に學ぶ。天性の活動家にして早くより精煉並に鑛山事業を經營せり、大正二年大阪市上田林業株式會社に入社、多年研磨の精煉鑛業植林の事業に成功し、今や其の専務取締役として奇才縱橫、傍ら上田鑛業、日本製藥、東洋化學工業株式會社の各専務取締役を兼務して今日に至る。いと子夫人との間に二女あり。

津山市長 小沼敬三郎 津山南新座

君は茨城縣鹿島郡諏訪村の生れ、東京法政大學を出で、大藏省、内務省に勤務す。笠井岡山縣知事の知遇を受け來つて赤磐、小田、苦田郡長に歴任し、津山町長に選任す。市制施行に盡力して遂に之を實現し、市長として刷新興隆に善處し、今や交通に産業に教育に其の他の諸施設着々進みし面目躍如たり。

近藤房忠 兒島郡灘崎村



明治二年生れ、詩文を三島中州翁に學び後東京法學院に學ぶ。三十三年兒島郡書

記、大正十三年岡山縣屬に擢んでられ、年末赤磐郡長となり、十五年郡廳廢止と共に辭任。小串村長に聘せられ、自村々長に選ばれる。終始一貫職務に勵精常に治績擧がれり。詩歌を嗜み刀劍に精しかりき。

津山名産南山燒竈元

岡山縣商卒業後父業を繼ぎ専らその經營に當りよく今日の盛況を至せり。諸種の設備店員の應待等斷じて他の追従を許さず以て氏の人格の全班を窺うに足る。刀劍を愛しその鑑定に通じ今や刀劍會岡山支部長として重きを成す。禪宗に歸依し春子夫人との間に一男二女あり。

専攻研究して學位を受く。人為質實懇七専門に相應はしく、現地に開業して市民の信賴厚し、蓋し學位を有する小兒科は頗る稀れとす。夫人との間に四男三女あり。

國府 一房

大阪市東區寺山町 大阪三品取引所仲買人國府商店主たる君は岡山市東中山下に明治十六年出生、二十四歳上阪單獨にて雜貨商を營みしも、後貴志商店に入りて店務を見習ひ、漸次内外の信用をあつくして大正七年株式會社大阪三品取引所仲買人第一部棉糸の免許

記、大正十三年岡山縣屬に擢んでられ、年末赤磐郡長となり、十五年郡廳廢止と共に辭任。小串村長に聘せられ、自村々長に選ばれる。終始一貫職務に勵精常に治績擧がれり。詩歌を嗜み刀劍に精しかりき。

津山名産南山燒竈元

小池寅治郎

津山市京町 鈴鹿屋と號し古き陶器店にして君はその四代目なり。人望厚く、現に津山市商工會議所議員たり。今その南山燒の由來を述べれば三代之祖壽高天保の昔京洛の陶工を迎へ神南備山の麓より陶土を採りて試に花器と茶器を燒きしが南山燒の濫觴なりとす。現主家を嗣ぐに及び陶工福郷柳山師を招聘して共に研究し昭和六年五月初めて廣く之を世に發賣するに至れり。時偶々岡山縣代表的名産二十五品中より六大名産の詮衡を廣く社會に求められ其推薦投票の結果最高位にて當選す。然も該品發賣以來日尙淺きにも拘らず地方を始め廣く他府縣各地よりも豫想以上の賞用を受く。

小山美登志

岡山市上西川



明治二十一年淺口郡船穂村に生る。大正二年東大法學部卒業、大正四年株式會社

台灣銀行に入り、六年高雄支店長兼支配人となり、九年本店支配人代理を命ぜられしが幾くもなく辭して歸郷、岡山市に住し辯護士となり、現地に事務所を設置、岡山法曹界に令名を馳す。大正十五年縣會議員に當選、昭和四年岡山市會議員に當選縣政市政上貢獻する所頗る大、又昭和護謨株式會社監查役等を兼ね現在に至る。園藝に興味を有す。

眼鏡店主 小林種次

岡山市下之町



明治三十年生れ。岡山市に於ける最も古く最も信用ある眼鏡店主なり。

其の他の諸施設着々進歩し面目躍如たり。

近藤 房忠

兒島郡灘崎村



明治二年生れ、詩文を三島中州翁に學び後東京法學院に學ぶ。三十三年兒島郡書

岡山縣商卒業後父業を繼ぎ専らその經營に當りよく今日の盛況を至せり。諸種の設備店員の應待等斷じて他の追従を許さず以て氏の人格の全班を窺うに足る。刀劍を愛しその鑑定に通じ今や刀劍會岡山支部長として重きを成す。禪宗に歸依し春子夫人との間に一男二女あり。

兒島久富

津山市川崎

君は津山中學出身、一年志願兵として姫路第十聯隊に入營、中尉に陞級現に在郷軍人として分會長たり。剛壯にして膽力あり、人に頭目たるの氣量を有す。現地にありて農用發動機、ポンプ其他農具の販賣店を經營し益々業務の伸展に力む。

加島屋商店主

近藤 照一

岡山市内山下

明治二十二年御津郡伊島米穀商近藤千代治氏の末男に生る。少壯にして上阪し北濱株式商の一店員となりて刻苦奮勵大いに店主の信任を受く。大正五年歸岡有價証券現物問屋加島屋株式店を開き、本場永年の經驗を基礎に細心剛膽に取引し一躍信望を集む。八年資本金貳百萬圓の岡山證券株式會社を創設しその専務たりしが、再び現地に於て加島屋として營業を繼續し益々隆昌を極む。傍ら商工會議所議員に當選己に三回一方の重鎮たり。乗馬を娛しみ俱樂部員たり。

津山砂糖會社社長

甲元 胤一

津山市今町



明治九年生れ、日露戰役に當り姫路十聯隊騎兵隊員として出征す。後町政に與り

雷名大久保を以て知られたる甲元平三郎翁の養子となり、大正二年其物故の後を襲ひ家業を繼ぎ、唯一の砂糖商として知らる。近來津山砂糖株式會社を經營取締役社長となり美作實業界の一霸者たり。家に光代夫人との間に三女あり。

近藤 信夫

岡山市丸ノ内石山

明治十八年九月岡山縣兒島郡莊内村に生る。三十七年岡山中學校を経て早大政治科卒業

同郷の先輩近藤榮松氏と謀り、共同出資を以て小倉を主とする織物會社を設立し、業務を擔當して經營に従ひ木綿織物の小倉地を主とし、克く當業家の機先を制したると需用の年々激増に伴ひ巨利を博し好轉に次ぐに好轉を以てし、販路關西に普し。進んで社會郷黨のため多大の醜金をなし公共事業に餘力を注ぐ。社民俱樂部重役禁酒會館理事等の職にあり。郷黨以て畏敬す。

小山一篤

岡山市大供表町

明治八年生れ、五歳にして父君を喪ひ家を繼ぐ。家は代々大庄屋名字帶刀を許され、數代前より家運愈々隆昌素封家として知られ、藩主も屢々邸に臨み休養せり。近くは有名な福島大將の宿泊せし事あり、蓋し君が壯年軍籍にありてその混成旅團、聯隊司令部附たりしに由るか。夫人との間に二男二女あり。

小泉品十郎

上道郡金田村

明治十年三月三郎次氏の長男に生る。家は代々醬油醸造販賣業を營む。其の日の出醬油の販路は近郷岡山市は勿論、吉井川沿岸一帯の地に及び名聲高し、近時白線ソーヌをも製造しその進出目覺ましきものあり。傍ら村會議員、學校組合會議員として村治にも貢献す、特に年々學童の雨傘の寄附、或は先年二宮翁銅像の建設を小學校に寄贈せる等教育其の他公共に盡さる。養嗣子清一氏は岡山師範出身、孫女五人あり。

津山市木材商組合長

後藤誠三

津山市南新座

明治二十一年生れ、明治初年先代の材木商開業當時は微々たるものなりしが精勵信用を得漸次發展現在に及んで製材工場となる。君はその傍ら建築請負の業を兼ね。津山木材商組合創立せられ君其の組合長となり、同業者間の信任を重ねつゝあり。

近藤兵八

兒島郡莊内村

萬延元年生れ、資本家として其名聲近郷に高し。天資濃厚一舉一動必ず規矩あり徳望一村に聞ゆ。公共の爲めには財を惜まざる實に得難き人格者たり。常に村會議員の要職にありて村治に盡すこと決して少からず。現に備前物産株式會社監査役たり。

小島杉門

津山市田町

君は明治三十二年山口縣阿之武郡萩町の士族に生る。上田蠶糸卒業、現に縣蠶業津山支

店長たり。由來作州は氣候風土に恵まれ、古くより良繭の産地として全國的に著はる。然るに世界的不況は繭糸價を極廣に暴落せしめ地方農家は多大の打撃を蒙る。君常に糸價の恢復は漸く兆しつゝありとの樂觀說の下に、隱忍持久よくこの苦しき體験を基として轉禍爲福たらしむべしと唱導し、同業者の指導激勵に當りつゝあり。



繭の産地として全國的に著はる。然るに世界的不況は繭糸價を極廣に暴落せしめ地方農家は多大の打撃を蒙る。君常に糸價の恢復は漸く兆しつゝありとの樂觀說の下に、隱忍持久よくこの苦しき體験を基として轉禍爲福たらしむべしと唱導し、同業者の指導激勵に當りつゝあり。

小島銀治

久米郡打穴村

明治六年現住所に於て生る。岡山中學校卒業、後村政郡政に參與せり。其間製絲會社を創設し社長となる。三十六年縣會議員に當選縣政上貢獻する所鮮からず。大正四年以來村長となり久米郡町村長會長に推され、又曩年の製絲會社は組織を變更産業組合と改め組合長となる。大正十五年岡山縣乾繭倉庫設立するや常務理事に擧げられ、又大正五年以來岡山縣製絲同業組合長に推され、永年縣並に地方産業の發展と民力涵養とに努力しつゝ今日に至る。

近藤正

岡山市中出石町

久しく岡山縣衛生課に衛生技師として勤務、昭和五年辭して岡山市役所に入り、衛生課長の要職に就き今日に及ぶ。極めて謹直、些の非曲を許さず、格勤精勵、孜孜として其の職に忠實なれば漸次人の認むるところとなり、其の治績著々として伸張し、大岡山市の衛生施設も逐次改更徹底を期待せらる。

五領田元太郎

明治十三年廣島縣豐田郡大長村に生れ、早大政治科卒業後大長村長、農會長として大



の向上發展に努む。又大長信用購買販賣利用組合組合長、尾道稅務署郡部所得稅調查委員

辯護士 香山親雅

津山市東町



明治二十二年香山勇太郎氏の長男に生れ、金川中學校に入る。

、大長汽船株式會社取締役、豊田郡教育會副會長、小作調停委員、産業組合豊田郡部會々長等の榮職にあり。其の功績大なるを以て曩に觀櫻御會に招かれ、皇太子殿下行啓の際拜謁仰付けられ、尙産業功勞者として地方饗饌の光榮を賜ふ。しかして君は大正二年より春秋二期恒例として早生温州密柑及ネーブル、オレンヂを畏きあたりに奉獻す。息武夫氏は京大去學部出身なり。

近藤兵八 兒島郡莊内村

萬延元年生れ、資本家として其名聲近郷に高し。天資濃厚一舉一動必ず規矩あり徳望一村に聞ゆ。公共の爲めには財を惜まざるに得難き人格者たり。常に村會議員の要職にありて村治に盡すこと決して少からず。現に備前物産株式會社監査役たり。

小島杉門 津山市田町

君は明治三十二年山口縣阿之武郡萩町の士族に生る。上田蠶糸卒業、現に縣蠶業津山支

五領田元太郎

明治十三年廣島縣豊田郡大長村に生れ、早大政治科卒業後大長村長大長村農會長として大いに農村の向上發展に努む。又大長信用購買販賣利用組合組合長、尾道稅務署郡部所得稅調查委員



の向上發展に努む。又大長信用購買販賣利用組合組合長、尾道稅務署郡部所得稅調查委員

辯護士 香山親雅 津山市東町



明治二十二年香山勇太郎氏の長男に生れ、金川中學校に入る。四十二年德島地方

牛窓町長 小橋廣衛 邑久郡牛窓町三三三
明治七年生君は元代議士小橋藻左衛門氏、高草美代藏氏の令弟にして、久しく邑久郡朝日村々長として格勳精勵功勞多し。曩年選ばれて縣會議員となり、縣參事會員に推さる。頭腦明晰にして、快辯流暢、時に毒舌あり、諧謔あり、談論風發、明朗又坐談に巧なり。今や町長として自治に餘念なし。

近藤辰次 廣島市白島東中町



君は明治十年廣島縣廣島市白島東中町の士族に生る。三十三年廣島師範卒業後双

三郡三次小學校、師範附屬小學、釜山公立小學校訓導等に歴任、四十三年釜山高小學校長に任命され、大正元年八月韓國併合記念章を下賜さる。大正十年現職に任じ、十四年勳八等、瑞寶章を拜授す。其の他縣知事に表彰され、昭和二年學校代表として葬場殿大葬儀に參列し、昭和四年大禮記念章を賜はる等、初等教育者としての待遇厚し。

古屋野橋衛 倉敷市萬壽

明治十一年都窪郡豊洲村横尾利八氏次男に生れ、幼にして古屋野惣七郎氏の養嗣子となる。同志社中學、三高をへて三十八年京大法科を卒業、貿易業視察の爲渡米業務に従事して在米十七年に及ぶ。歸來選ばれて萬壽村長に就任、大正十二年縣會議員に當選更に再選す。其の間國富友次郎氏等と歐米視察に派遣せらる。又倉敷市會議員、同議長等に選任し地方自治政治の爲貢獻多大なり。民政黨に屬し其の重鎮なり。

河本熊造 上道郡角山村

君は明治十四年生れ、濃厚篤實にして仁俠に富み虚飾空言なく克く難苦に堪へ世故に通じ、人に接し懇切なれば地方に於て信望厚く、東備製糸株式會社の會計として大に其の手腕を振へり。日露戰役には近衛師團に屬し各地に轉戦し武勳を奏し同郡在郷軍人分會の役員たり。尙村會議員當選數回、信用組合理事等として地方自治團體に對して盡す處多大、現在角山村助役として村政の爲活躍しつゝあり。

養鯉家 小山隆次郎 眞庭郡久世町

君は元鮮魚商、養鯉の有望世を裨益するならんと多年養鯉方法を研究し、久世町奥の天然池を利用して之れを始む。其の成績良好註文殺到、愈々規模を擴張し、今や數萬坪の養池を設けて養殖し、更に輸送の研究、斯業後進の指導等に一段の努力勵精を續く。



廣島第一中學校校長 古賀圓太 廣島市泰國寺町

小倉市京町の士族、明治五年生れ。明治二

十年福岡縣豊津中學卒業後三十五年迄長崎ス
チイル、カレツチに入りて語學其他を研究
、三十五年文部省の檢定に合格、爾來大正六
年迄長崎、佐賀、廣島の各縣、朝鮮等にて教
諭を勤務し、尋いで昭和三年迄、私立修道中
學校長たりしが、廣島第一中學校長に任せら
れ、廣島縣教育會理事其他教育諸團體の要職
に就き、生徒に自修的訓練、園藝其他の作業
を課し、専ら教化の最善を圖りつゝ、今日に至
る。

岡山ホテル

小西從吉

岡山市柳川筋交叉点

曾て舊然東都に上り研鑽數年、歸岡して、
『寫眞は美術なり』と高調し、三層洋館の寫眞
館を建築し聲名を博したる君は明治十八年の
生れ、實に獨特の卓見を有す。今や岡山ホテ
ル、支店西川ホテルを經營して、頗る簡單低
廉に傳統を破つて専ら旅客本位に利便を圖る
、利用者日に益多し。抑々その創業動機たる
や、前記寫眞業の場合も等しく一に君の義憤
的犧牲的氣象に基くものにして、中國文化を
誇る岡山に内容外觀の美を備へ、文化的設備
の適切なる旅館の生れざるを遺憾とし、且つ
は當時尙未だ表町に建築美の顧みられざるを
慨嘆して大正十五年數萬金を投じて開始され
たるなり。米子夫人との間に二男二女あり。

岡山高等女子職業學校長

兒島元三郎

岡山市南方



明治十年津山
川崎町に生る
。三十二年岡
山師範を卒業
、津山小學校
訓導となり圖
書科中等教員
の免許狀を授
け、尙東京美
術學校の業を
卒へり。直ち
に九龜中學教
諭、韓國官立
漢城高等學校
及漢城師範韓
國教科書編纂
委員、京城第
一高等普通學

校、廣島縣増川高等女學校教諭等を歴任し、
正七位に敘せられ、今や前記の重職にあり。
花代夫人との間に三男二女あり。

小島熊吉

青島市外四方



明治十六
年都窪郡
早島町に
生る。生
來着實燈
誠大正八
年渡青し
、銳意苦
心遂に染

料及び織物業維新化學工藝社を設立して今日
の隆昌を見る。爾來來公共事業に貢献し、現
に全地居留民團民會議員、全學務委員、全行
政委員、低利資金諮問委員、全民友會長、全
武德會幹事等にして、屢々領事、民團より感
謝表彰を受く。重野夫人との間に二男一女あ
り。

近藤 齊

兒島郡莊内村

齒科醫院 明治十六年十一月生れ、中年にして獨學專
攻遂に上



京して東
京齒科醫
學校に入
り、大正
十年業を
卒へ同十
四年文部
省開業試

驗に合格し、歸郷して特に莊内村小學校前に
開業し、實兄と共に其の職にあり。學校齒科
醫囑託を受け特に青少年の口腔衛生に貢献さ
る。満津野夫人との間に一女あり。

東京府知事

香阪昌康

山形縣米澤の人香坂昌邦

氏の長男、明治十四年二月東京市に生る。大
正の始め本縣警察部長として來任、再來昭和
四年七月本縣知事たり。君人と爲り謹直、細
心にして膽略あり、宏量寛容然かも威信あり
、加ふるに該博深奥なる學識を以て談論縱橫
、應酬自在、威德兼備の手腕風格は以て曩に
縣警察界の革新志氣の振作を遂げ、知事とし
ては縣治の面目を一新せり。特に今次の風駕
奉迎送の際りては萬遺漏なきを期し、官民共
に聖恩に浴し光榮を傳ふるの歡びを得せしむ
。今や去つて前記の顯職にあり。

洋家具店 小寺孫三郎 岡山市上之町

小寺洋家具店は明治三十五年先代甚太郎氏



の創業な
り。當時
稅務屬と
して官界
に在りし
君は、斷
然官家

、稻扱機、バーチカルポンプ、發動機、麥摺
機、スビー粉摺機、キリンゴム臼、スビーロ
ール、米摺機等の特許及實用新案を得て大い
に斯界に貢献せり。其の販路は遠く南洋、印
度にも及び全國農具共進會、大日本勤業博覽
會、全國特産品調査會其他發明品調査會等に
出品し毎に金牌、名譽金牌、銀牌並に表彰狀



校、廣島縣増川高等女學校教諭等を歴任し、正七位に叙せられ、今や前記の重職にあり。花代夫人との間に三男二女あり。

心に於て膽略あり、宏量寛容然かも威信あり、加ふるに該博深奥なる學識を以て談論縱横、應酬自在、威德兼備の手腕風格は以て曩に縣警察界の革新志氣の振作を遂げ、知事としては縣治の面目を一新せり。特に今次の風潮奉迎送に際りては萬遺漏なきを期し、官民共に聖恩に浴し光榮を傳ふるの歡びを得せしむ。今や去つて前記の顯職にあり。

洋家具店 小寺孫三郎 岡山市上之町

小寺洋家具店は明治三十五年先代甚太郎氏



の創業なり。當時の創業なり。當時の創業なり。當時の創業なり。

套を脱し經營方針を一新、製品も亦嶄新優美堅牢を旨とし、大いに活躍斯業界の權威たるのみならず、實に岡山に於ける生産品として重要な立置を占む大正十五年五月攝政宮殿下行啓の砌又今次 今上陛下行幸の砌台覽、天賢を賜り、御買上の光榮に浴せる單に同店の光榮に止まらず、本縣の大いに誇りとす所なり。

、稻扱機、バーチカルポンプ、發動機、麥摺機、スビー粉摺機、キリンゴム臼、スビーロール、米撰機等の特許及實用新案を得て大いに斯界に貢献せり。其の販路は遠く南洋、印度にも及び全國農具共進會、大日本勤業博覽會、全國特産品調査會其他發明品調査會等に出品し毎に金牌、名譽金牌、銀牌並に表彰状を受く。外に朝鮮總督より功勞賞状を授與する。宜なり今回の行幸に際し産業功勞者として賜饌の光榮に浴せらる。

中國合同電氣會社取締役 榮谷藤十郎 岡山市東田町

京大法科の出身、岡山電燈株式會社支配人、吉井川電力株式會社常務取締役を経て備作電氣株式會社に入り同社の新興に參與し、或は水力、火力發電所の増設、送電線路の布設、配電線路の擴張、増燈、農事電化の普及等に力を致し、或は縣下に幾多分立せし電燈會社の統一合併に盡力して遂に今日の中國合同電氣株式會社とし、君は其の取締役營業部長たり。尙現に岡山商工會議所副會頭として重きを爲す。

坂谷芳郎

東京市小石川區榮町

氏は備藩の名儒坂谷朗菴翁の四男にして文久三年一月を以て生る。幼少穎才群を逞へ後帝國大學法科に政治經濟を専攻し聰慧儕輩を壓す。業を了へ大藏省に出仕し累進して主計局長と爲り、明治三十二年法學博士の學位を授けらる。亞て大藏省總務長官に進み明治三十九年一月の西園寺内閣に大藏大臣を拜命し、同年特旨を以て男爵を授けられ華族に列し、四十年日露戰役の功を以て勳一等に叙せらる。四十一年桂冠尾崎行雄氏の後を襲ふて東京市長となり、爾來市政に貢献し其功績枚擧に遑あらざりしが電燈問題に關して多數市會議員と意見を異にし斷然職を去れり。現に勅選貴族院議員たる氏は政界革新乃至公共事業に盡瘁し功績顯著なり。琴子夫人は澁澤男爵の愛嬢にして二男五女を擧げ和氣堂に溢る。

佐藤農具店主 佐藤庄次郎 岡山市内山下



研究に努力し、明治三十八年稻苗正條植器の特許を得、爾後冷齒式護謨摺機、田草取機

明治八年生れ、農村振興に農具の改造を急務とするに着眼し、専ら農具の

廣島女子専門學校長 齊藤鹿二郎 廣島市千田町

君は東京高等師範學校の業を卒へ、直ちに東京女子師範學校教授として教鞭を執る。その後廣島縣立廣島高等女學校長として就任、その手腕を振ひ同校の改善發展に努力し、後廣島女子専門學校長に轉じ引續き女子教育に只管貢献す。今や縣下教育界に於て重きをなし名聲噴々、大いに將來を囑望さる。

佐藤亮一郎 兒島郡興除村



父豊氏は八濱戸長、興除村長を勤め信望地方に高かりし人にして、君はその長男として明治二十七年生れ、四十五年天城中學を卒業、大正九年興除郵便局長となる。頭腦明敏にして事務的材能に長じ、職務に忠實業績大いに揚る。又青年團長として青年の指導監督の任に衝り鳥港俱樂部々長たりしことあり、銃獵は最も好む所にして兩備獵友會の副會長をも勤む。幸子夫人との間に一男三女あり。



坂田 勳
高松市宮脇町

君は明治二十八年五月久米郡神目村に生る。大正五年岡山師範卒業、岡山縣下に於て初等教育に従事。傍ら中等教員檢定に合格。九年宮崎縣師範學校教諭に轉じ、翌十年香川縣師範學校教諭拜命。今日に及ぶ。學究的にして孜孜として倦まず、人格亦崇高。信望校の内外に高し。閑子夫人は同郷の人、一男一女あり。

佐々木忠亮

久米郡大井東村中北下。明治四十二年岡山師範本科第一部卒業後、久米郡内に於て勤務すること數年、青年の元氣止みがたく一時實業界に入りて活躍したるも、故ありて再び復歸自己の天職は此の道にありと、實業界にて嘗めたる經驗を基礎として愈精勵今や認められて現に苦田郡小田小學校長として信望村内外に重きを加ふ。

佐藤重功

岡山市門田徳吉



大正四年岡山師範本科第一部卒業、内山下小學校訓導、大正十年九月休職

科中等教員免許狀を獲得せり。十二年拔擢されて母校師範學校体操科教諭に任せらる。都窪郡常盤小學校長となり、御津郡芳田小學校長に轉じて今日に至る。常に体操科の普及徹底の爲縣下に各小學校に講師として盡力する所頗る大なるものあり。畏くも今次の大演習に際し君の著述体操寫眞帖は献納の光榮を賜る。柔道二段大日本武徳會教師、現に全會岡山支部教授たり。

齊藤諸平

御津郡馬屋下村大窪

君は明治三十七年岡山師範卒業同校訓導を

經て奈良女子高等師範學校訓導となる、多年研究遂に教授法に一新機軸を開き我國初等教育界に名を馳たり。本縣當局の囑望を荷ひて、玉島小學校長に歸任、後更に轉じて倉敷小學校長に就任す。毎年一回開催する同校の研究發表會は全國的のものたりき。後職を退き岡山縣視學に在職五年、岡山市に入りて學務課長たり。

佐藤馬之丞

岡山市福濱

君は慶應二年六月御津郡福濱村に生る。明治三十五年衆望を以て福濱村長に擧げらる、



の輕減、小學校々舎の改造、村街の改造事務の刷新、橋梁道路の改修、

信用組合の創設、上水道布設工事等に盡瘁功績多大なるものあり、昭和四年五月に至る勤績實に二十七年。其間岡山縣會議員たること二期縣參事會員を兼ね、信用組合理事長、衛生會顧問等たり。日露戰役の功により勳七等青色銅葉章を授與さる。曩年村民頌徳碑を妙法寺境内に建立して永く其の徳を傳ふ。

佐藤秀海

眞庭郡木山村

木山寺は木山神社と共に、木山々上にあり、古來近郷に聞ゆる名利なり。師は即ち其の住職なり、多年各地に修業、歸りて法燈を繼ぎ、益々斯教の修業に精進して、娑婆の名利に煩はさるゝことなく實に近世稀に見る善知と謂ふべし。年々一回行はるゝ法會には作州一圓は勿論、兩備の地善男善女集り來りて、般盛を極む。

從四位勳三等

大日本セルロイド株式會社查監役

昌谷 彰

東京豊島區雜司ヶ谷町五ノ七四〇

明治三年岡山縣士族昌谷千里氏の長男に生る。明治二十九年東大法科を卒業し、高等文官試驗に合格し、爾來宮崎縣三重縣神奈川縣參事官を経て、滋賀、福岡、京都、東京各府縣書記官に歴任し、大正十三年樺太廳長官に任せられ、同十五年退官して頭書の職にあり。マス夫人との間に二息あり。阪大醫學部長楠本長三郎夫人三重女史は君の令妹なり。

正五位勳四等

酒井 薫

東京澁谷區神山一五

明治十七年二月久米郡西川村に生る。明治四十二年東大農科を卒業直に山梨縣技師拜命、秋田縣

て今日に及ぶ。資性温厚篤實、その職にあるや孜孜として倦まず。以て本縣土木事業進展のために貢献するところ甚大なり。

佐藤毅一

明治二十年兒島郡灘崎

從四位勳三等
大日本セルロイド株式會社查監役
昌谷 彰 東京豊島區雜司ヶ谷町五ノ七〇
明治三年岡山縣士族昌谷千里氏の長男に生
る。明治二十九年東大法科を卒業し、高等文
官試験に合格し、爾來宮崎縣三重縣神奈川縣
參事官を経て、滋賀、福岡、京都、東京各府
縣書記官に歴任し、大正十三年樺太廳長官に
任せられ、同十五年退官して頭書の職にあり
。マヌ夫人との間に二息あり。阪大醫學部長
楠本長三郎夫人三重女史は君の令妹なり。

齊藤 諸平 御津郡馬屋下村大窪
君は明治三十七年岡山師範卒業同校訓導を

正五位勳四等
酒井 薫 東京澁谷區神山一五

明治十七年二月久米郡西川村に生る。明治
四十二年東大農科を卒業直に山梨縣技師拜命



勤務たり。主として農業水利關係の要務に扶
掌し、用排水改良事業指導監督に任ず。美智
子夫人との間に四男一女あり。

佐藤 清七郎 明治二十八年岡山市

橋本町に生れ、大正三年岡山一中をへて神戸
高商を全七年卒業、直ちに家業を繼げり。抑
々丁香本舗の創立は安永六年の古、専ら婦
人用髮油及家傳丁香の製造販賣をなせるも
のなり。君は七代の店主たり。新智識を活用
して華々しき營業振りは、老舗の堅實なる信
用と相俟つて益々伸展著し。製品は全國的稱
讚の的にして年産遂次に増額す。趣味として
は新興の高山植物の蒐集栽培なり。

最相 楠市 岡山市上石井

明治十五年二月生れ、吉備郡總社町の人、
温厚篤實簡素實行主義の人格者なり。備作電
氣創業當初より入りて庶務課長となり、其の
後幾多の變遷を経て今日の中國合同電氣とな
る其の間終始一貫精勤、社長坂野鐵次郎氏の
認むる所となり、秘書となる。益々格勤内外
に重きをなす。

笹岡 文二



君は明治
二十四年
生れ、四
十二年岡
山縣工業
學校卒業
。京都水
道部課に
勤務し後
歸縣して大正八年四月より岡山縣土木課勤務
、大正十三年四月勝山土木出張所長に轉じ、
後高梁、倉敷、津山、土木出張所長に歴任し

て今日に及ぶ。資性温厚篤實、その職にある
や孜孜として倦まず。以て本縣土木事業進展
のために貢献するところ甚大なり。

佐藤 毅一 明治二十年兒島郡灘崎

村に出生、京都府立醫專に學び四十二年卒業
し實地の研鑽を積み、翌四十三年本籍地に開
業す。今や開業二十年地方刀圭界の重鎮たる
のみならず、修養機關團體を組織し、常に實
踐躬行を唱導す。濟世顧問、學校醫等の要職
を兼ねて今日に至り、其の修養講話を聴かん
とするもの頗る多く多忙を極む。

佐藤 力男 岡山市弓之町一三五

明治二十年の生れ、大正十二年西中山山下に
て岡山興信所をば創立開業す、地方興信界の
嚆矢たり。其の旬刊興信司報は又岡山地方産
業界の消長、進退を窺ふに最も便利たり。加
入會員の激増と信用調査の多忙は、遂に昭和
四年現地に移轉株式となし、印刷工場を併置
して遂に今日の充實を來たせり。尙岡山東西
仲介告知業組合長たり。

齋藤 一夫 上道郡三幡村



明治二十
年上道郡
雄神村に
生る、四
十年岡山
師範を卒
業し、操
南校訓導
を拜命、

富山校に轉じ、四十三年岡山縣師範學校に助
教諭たり。大正七年富山校長となり、翌年操
南校長に任せられ、岡山師範代用附屬校長を
歴任す、上道郡教育會長、同校長會長、旭東
四郡教育會幹事、縣教職員互助會監查役等の
要職に就き、傍ら郡消防組、男女青年團長其
他村内各種の名譽職を兼ね、教育功勞者とし
て内務大臣の選奨を受く。昭和七年二月奏任
官待遇となる。稀に見る教育者として縣教育
界に重きを爲せしも今は引退悠々自適禪を修
道し、謠曲を娛しむ。

定兼 榮三郎

勝田郡植月村植月中の人、温厚篤實、推さ
れて村長たること前後四期、其間選ばれて勝
田郡會議員となり諸調査委員等を兼ね、至誠
一貫公共に盡せり。勝田郡町村會長に擧げら
れ、幾度か縣議候補者に凝せられて上下の推



の人物として信望甚だ厚きものあり。

薦をうく
るも、毅
然として
地方自治
のため頑
として顧
みず、名
實共に全
地方一流

正四位勳三等

澤田豊丈

東京麻布區材木町五七

朝鮮電氣興業株式會社取締役
明治十四年國富與三郎氏の二男に生れ、後岡山縣士族澤田正泰氏の養子となり、明治三十九年分家す。同四十年東大獨法科を卒へて、内務省に入り、山形縣事務官より朝鮮總督府書記官に任じ、同道事務官監察官たり。更に慶尚南道、慶尙北道各知事に歴任して退官、大正十五年東洋拓殖會社理事を命ぜられ、昭和二年再選して朝鮮に駐在せしが、六年五月之れを辭して現在は前記重役たり。靜夫人との間に三女あり。

眞田雅一



明治三十
年兒島郡
興除村會
根七二一
に於て生
れ大正四
年岡山縣
立商業卒
業、一年

志願兵として入隊、大正十年陸軍少尉に任ぜられ、昭和二年中尉に昇り後從七位に敘せらる。大正十三年陸軍大將川村景明子爵より、關東震災救護指揮官として其の功績顯著なりとの感謝状を授與せられ、昭和四年四月興除分會長として帝國在郷軍人會長一戸大將より賞状を受くる等、其の人格を窺ふに足る。



二準井笹

町崎福郡崎神縣庫兵

三年滿期退任、大正九年三月再度推されて重任現在に及ぶ。正しき社會の認識と高邁なる識見とは、農村自治振興に與りて其の施設常に當を得、功績著しきものありき。今當村の

明治二十三年吉備郡日近村に生る、四十四年縣師範卒業、縣下小學校に勤務の傍ら歴史科法制及經濟科の中等學校教員免許狀を獲得、大正九年文部省圖書局に勤め歴史編纂の事務に従事す。十一年茨城下妻中學教諭全十二年岡山一中教諭兼舎監を経て十五年兵庫福崎高女教諭高等官五等待遇教務主任たり。著書小學國史原據の研究、小學國史解説は好評を以て初等教育界に迎へらる。嘗つて茨城縣西念寺附近に住居し、親鸞上人の事蹟に就て研究し歸依するところ深し。

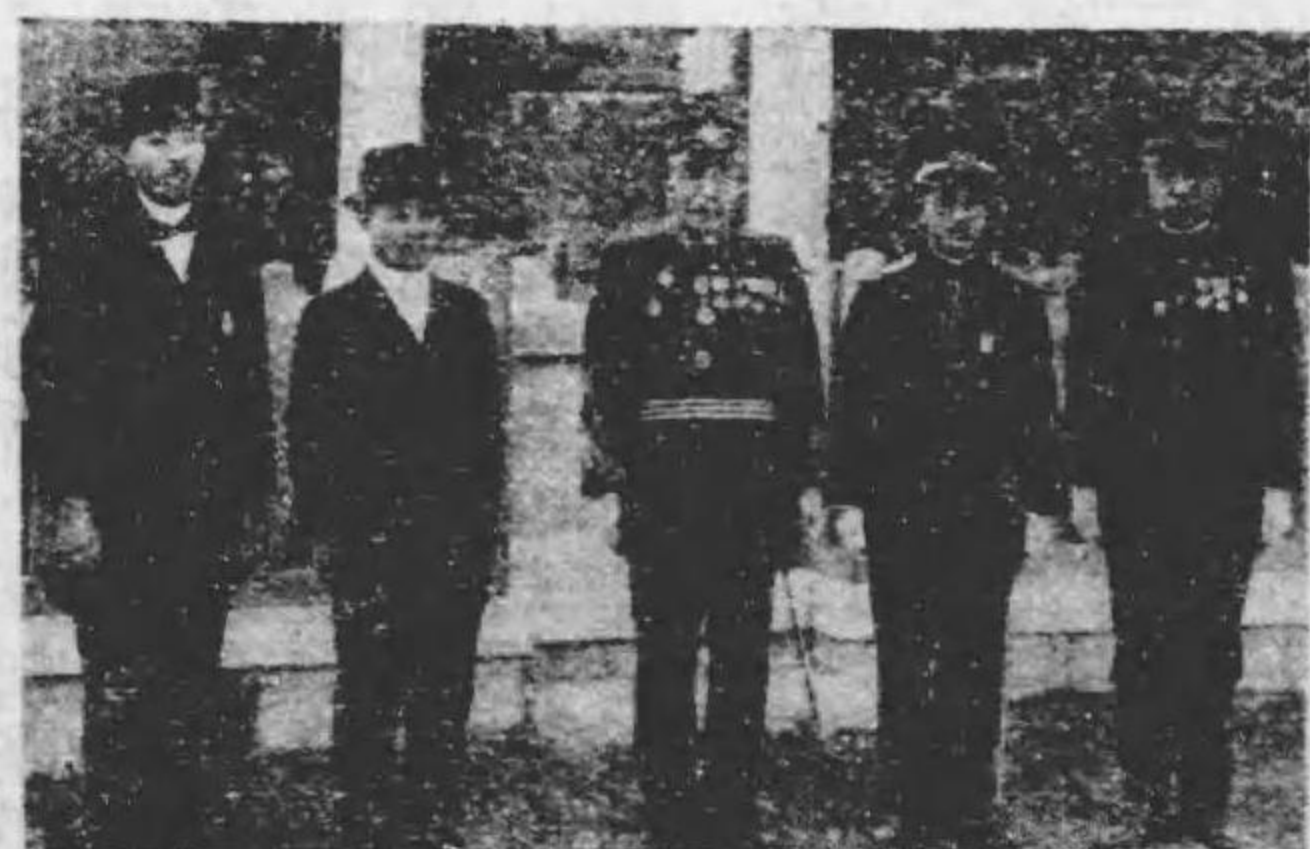
佐々木太一

勝田郡吉野村

納税成績良好、自治の圓滿なる運用、村内活氣の横溢、縣下の模範村理想郷として羨望の的とされつゝある、吉野村長として大正十年推舉せられ爾來道路を拓き信用組合を設立し、一意村民の經濟力増進を圖り、一面自治精神、郷土感念、協力意思の喚起を促し日夜勵精治績に見る可きもの多し。現に信用組合長、村農會長等を兼ねぬ。眞に最近の町村自治界稀に見る所なり。

陸軍歩兵少佐

坂川美太郎



君は明治元年兒島郡藤戸町の土族に生る。士官學校を経て陸軍大學校出身。明治二十四年歩兵少尉に任官、四十四年病氣の爲め豫備役に編入さる。現役中は參謀本部出仕、台灣守備混成第二旅團參謀、第四師團參謀等たり。又出征して日清戰役に勳六等旭日章功五級を、又日露戰役に勳四等功四級金鷄勳章を授與せらる。大正十三年軍事功勞者として陸軍大臣より置時計を、同十五年帝國在郷軍人會總裁宮殿下より有功章を授與せらる。又昭和三年御大禮に際し陸軍大臣より銀杯を拜受す。尚ポーランド國政府より「ダルシャングイルツチ、ミリタリ」勳章を拜領す。帝國在郷軍人會兒島郡聯合分會長、藤戸町分會長、藤戸町學務委員の榮職にあり。

佐古美一

上道郡御休村矢井

君は小野彌平氏の長男として明治四年出生、明治二十五年佐古常三郎氏の養嗣子となる。明治四十三年衆望を擔つて村長となり大正

定延竹窓

書塾 大阪市住吉區阿部野筋二ノ七

赤磐郡笹岡村に明治十三年定延嘉三郎二男

關東震災救護指揮官として其の功績顯著なりとの感謝状を授與せられ、昭和四年四月興除分會長として帝國在郷軍人會長一戸大將より賞状を受くる等、其の人格を窺ふに足る。



二準井 笹
兵庫縣神崎郡福崎町

軍大臣より置時計を、同十五年帝國在郷軍人會總裁宮殿下より有功章を授與せらる。又昭和三年御大禮に際し陸軍大臣より銀杯を拜受す。尚ボローランド國政府より『ダレンシャングイルツチ、ミリタリ』勳章を拜領す。帝國在郷軍人會兒島郡聯合分會長、藤戸町分會長、藤戸町學務委員の榮職にあり。

佐古美一

上道郡御休村矢井

君は小野彌平氏の長男として明治四年出生、明治二十五年佐古常三郎氏の養嗣子となる。明治四十三年衆望を擔つて村長となり大正

三年滿期退任、大正九年三月再度推されて重任現在に及ぶ。正しき社會の認識と高邁なる識見とは、農村自治振興に與りて其の施設常に當を得、功績著しきものありき。今當村の元老として、公共の指導に當りつる。

更井久正

岡山市西大寺町

明治九年の生れ、各種ネル、婦人小供服生地の専門店として明治三十九年創業今日に至る。傍ら幾多の名譽職にありて、各事業に關與す。大正十年より引續き岡山商工會議所議員に當選、大正十五年、昭和四年二回副會頭の重職に就く。又岡山地方裁判所商事調停委員、備作製絲株式會社取締役、岡山商船株式會社取締役、岡山被服株式會社取締役等たり。



美子夫人との間に三男二女あり。

佐藤峰次

明治三十二年川上郡落合村大字福地に生る。大正八年岡山師範を卒業し、卒業後川上郡成羽小學校訓導に任じ、松原小學校を経て、十二年成羽尋常小學校長に榮轉し、十四年縣師範學校訓導を拜命、昭和四年阿哲郡新見町恩誠小學校長たり。眞に初等教育界の逸材、町教育の面目一新せりと評せらる。

佐野志解

岡山市榮町三〇



女史は明治三年生れ、明治二十年より蒲園蚊帳の専門店を創業、岡山市における斯

業の開祖として尊敬さる。その營業いたづらに華美に流れず質實、老舗としての風格を保ち専ら品質本位を以てし親切丁寧なり。その販路は縣下は勿論遠く京阪神方面に卸賣りして好評噴々たるものあり。金光教の信者、長唄を愛好す。

定延竹窓

書塾 大阪市住吉區阿部野筋二ノ七

赤磐郡笹岡村に明治十三年定延嘉三郎二男に生る、本名信光南畫界の巨匠姫島竹外翁の高弟。既に九歳の頃和氣泰山の揮毫せるを見て畫道に志し、大阪の吾妻湖山、川田月樵の門に遊ぶ。明治四十年竹外に就き専心刻苦して山水、花鳥、人物を研修す。由來南宗畫は士夫の畫として高邁なる氣品と勁度なる筆致とを以て立ち漢學の隆凋と盛衰を共にせしため、漢學の凋落と洋畫の輸入とによつてその漸く忘れられんとする時、君其の技術の向上品性の高尚を期して南畫界の爲に孤城を死守し、師匠竹外翁の畫風を操守して隱然一家を爲す。明治四十年財團法人竹外南畫院を設立し、自ら其の理事を努め水田竹圃、赤松雲嶺、畫伯等と共に飽迄斯道に盡瘁して怠る所なし。黒住教信者たり。

佐藤喜平

岡山市中之町十四

明治九年生、當時の新人たりし君は明治二十六年斬新なる舶來雜貨商を開きしが、時人の歡迎する處となり、業績目覺ましく、經營四十年の今日にありては諸官衙各學校銀行等に牢固たる信用を有し卸部の活躍亦著し。君は久しく商業會議所商議員として斯界のため盡瘁する等岡山市に於ける實業家の元老たり。夫人との間に一男一女あり。



は久しく商業會議所商議員として斯界のため盡瘁する等岡山市に於ける實業家の元老たり。夫人との間に一男一女あり。

佐々木志賀二

岡山市山崎町

君は和氣郡和氣町、長谷川家に生れ、佐々木孚一郎翁の養嗣子となる。六高卒業後帝大法科を出で、朝鮮に在官數年、養父の喪に會ひ歸岡して家事を見る。後衆議院議員に當選し大正十四年貴族院議員となる。

坂田義一

津山市田町一〇

明治十年一月苦田郡香々美南村に生れ、三十四年岡山師範卒業、三十九年苦田郡久田尋常小學校長、四十四年倉敷女學校長及同小學校長を兼任す、視學、教員養成所長その他を経て大正十年津山男子尋常高等小學校長とな



尾道商業會議所議員たること二十七年、市卸商組合長たること十五年、市教育會理事、中小學校評議員、慈善會理事たること十二年、尾道市會議員たること二十年、其他銀行、會社重役等として地方に貢献したる事蹟甚大なり。

八年十二月を以て生る。尾道市商工會議所會頭たり。



に奉職し、同校創設の佐藤範雄校長退職の後十三年校長に就職す。爾來熱心校務に執掌、縣下における私立中學校として名聲噴々たり。尙全國三百三十の金光教青年會理事長なり。夫人は佐藤範雄氏の息女、息一徳君東大文科出身。

佐藤 一夫 淺口郡金光町

君は金光教の功績者として、信望を一身に集めたる宿老佐藤範雄氏の實弟にして、夙に金光教本部に入り各汎の事に當り其の功勞最も多大、現に主として金光教々徒社々長、金光教健兒母園々長等の重職を兼ね、機關紙の經營と婦人教徒の指導誘掖の衝に當り、身命を賭して奔走殆ど寧日なし。金光教が他の宗教に比し現代的活動性に富む所以は斯る側面的の進取機關の施設運營の宜しきを得るに由る。君の貢獻亦大なりと謂ふ可し。

坂田齊次郎 吳市岩形通四丁目一〇五



後月郡出部村の人
明治三年十月出生
夙に東京に萬年筆工場を経営して自ら製造販賣に従事す、當時毛筆萬能時代においてこの企業先見と謂つ可し。かくて中央職業紹介局に入り中央委員たる事數年。吳市に居を移し吳商工會議所特別議員、吳金融無盡株式會社々長、其他各種團體數種の要職に就き吳市實業界の一權威たり。市の御眞影奉安庫、消防器等は君が還曆記念献金にかゝる。功を以て紺綬褒章を授けられ、明治四十五年東宮殿下東京のペン工場御巡覽の當時より拜謁又は賜饌の榮に浴すること五回、勅任官待遇たり。

佐藤富三郎 岡山市門田屋敷

君は東京高師卒業の後、大阪、佐賀、宮城奈良の各府縣中學校、師範學校教諭、校長の職を経て大正九年四月歸りて關西中學校長と

に貢献し遂に村長の榮職に就く、端倪すべからざる手腕と力量、豊滿なる識見と人格、蓋し植月村長として最も適材たり。燃ゆるが如き情熱と滿身の精力を傾倒して、東奔西走日夜寢食を忘れて席の温まるを知らず。村治愈揚りて村民より慈父の如く敬慕せらるゝものあり。

佐藤 金造

明治十三年淺口郡金光町大谷に生れ、三十年東大文學部哲學科卒業、同年金光中學校

なる、性潤達にして果斷、後進を憐むの情深く誘掖開發至らざるなく、英斷以て從來の情弊を打破し校規を刷新し、同校の面目聲望大いに加はる。君又事業家、政治家として非凡の材幹を有す。校務の傍ら各種の事業を起し縣會議員たること既に二期、不偏不黨侃諤の言論以て大いに縣政壇上に重きを成す。

佐野 寶松

明治十六年兒島郡福田村に生る。岡山中學校に學び、三十七年入隊し累進して特務曹長となり、昭和五年三月陸軍歩兵少尉に任ぜらる。かつて山銀茶屋町支店長たり。兒島郡戰友會々長、縣眞田組合代議員、日本眞田聯合會代議員、高梁川東西用水組合會議員等の職にあり。



大正元年勳八等瑞寶章を授けられ、岡山聯隊區司令官並びに本部長川村

元師等より賞状を受け、昭和五年には閑院宮殿下より有功章を親授せられ、今次大演習には賜饌の光榮に浴せり。

櫻井 澄 阿哲郡上市村

君は識見非凡、人格圓滿をもつて聞へ生徒及び部下職員より慈父の如く敬慕さる。君は明治九年現地に生れ、岡山師範を明治三十三年に卒業し直に哲西小學校訓導となり、同三十四年七月神代小學校長に榮轉し以來郡下各校に校長たり。大正十二年上市小學校として就任、青年指導、社會教育に貢獻多大なり。

齒科醫 佐野公平 岡山市東中山下三一

明治二十三年出生。四十一年岡山一中卒業大正元年十月私立日本齒科醫學專門學校を卒業、同附屬醫院主任に就任し歸岡開業するや推されて岡山縣齒科醫師會評議員及理事を歴任し、大



正十三年縣齒科醫師會副會長に就任十五年同會健康保險部副部長並に審

査委員となる。昭和二年縣齒科醫師會長及同會健康保險部々長に就任現在に至る。今次大演習には衛生事務の囑託を受くるの光榮に浴す。

坂本隣之助

岡山市天瀬本町

君は本縣政界に高名なる故坂本金彌氏の息なり。大正八年岡山醫卒業、音樂の天才ありピアノの彈奏の如きは全く神技なり。曾て三層の新築を建て洋菓子の販賣店を經營せり。君尙春秋に富む大いに爲すあるの日遠からざる可しと期待せらる。

福山高等女學校教諭
坂本龍作



明治二十年福山市古野上町に生る。明治四十四年福山中學卒業四十五年小學校本科正教員の免許を得たり。其後日本体育會体操學校高等科を卒業、其間陸軍歩兵少尉に任ぜられ、正八位に叙せらる。後東京九段精華高女教師兼精華學校教師、並びに日本体育會体操學校女子部教官たり、更に福山高等女學校教諭に轉任して今日に至る。今や陸軍歩兵中尉に昇進し、從七位に叙せられ高等官七等を以て待遇せらる。傍ら帝國在郷軍人會福山市霞分會長の榮職にあり

耳鼻醫院

皿井立三郎

大阪東區平野町二丁目

明治四年十月岡山市四番町武市又太郎氏二男に生れ、幼にして皿井安太郎氏の養嗣子たり。岡山醫專卒業後母校坂田博士の外科助手より、外科副醫長、同講師となり、明治三十四年獨逸に留學有名なるロストツクのキヨルネル博士に師事する事三年、ドクトル、メヂチーネの學位を得て歸朝し、大阪の現地に開業す。學識經驗兼備加ふるに温情の人、患者殺到す。夫人は元鴻池銀行重役島村久氏の令妹なり。

佐藤吉五郎 岡山市富田町

秋田縣由利郡西瀧澤村の人明治三十五年出生。大正十五年東京音樂學校甲種師範科の業を卒へて岡山女子師範校の教諭に任せられ、

音樂科を擔任す。ヴァイオリン、ピアノ、聲樂、作曲の各面に造詣最も深く音樂界の權威たり。



殊に初等教育の教材取扱方に就て指導適切を極む。乃ち本務の傍岡山縣

音樂指導員を囑託され、之が指導に當る。又佐藤音樂會を組織し、現に會員三百余名を有し、毎年春秋二期に音樂會を開き一般に公開して之が批判を仰ぐを例となす。

岡山市助役 齊藤勸治 岡山市下石井

明治十八年八月山口縣美福郡大嶺に出生、山口中學を経て三十七年東京法學院法律專門部に入る。卒業の後福岡縣企救郡書記拜命、門司書記、東京府屬、兵庫縣屬、內務省復興局屬に歴任し、大正十三年八幡市主事庶務課長兼社會課長となり、十五年吳市主事庶務、社會課長兼務、昭和三年吳市助役に登り七年六月滿期退職す、八年五月二十五日岡山市助役となり六月都計岡山市地方委員會委員、七月市吏員任用試験委員たり。

正四位勳三等貴族院議員
坂野鐵次郎 岡山市富田町

大阪市住吉區松ヶ崎町二ノ一四
中國合同電氣株式會社取締役社長
片上鐵道株式會社取締役社長
鳥取電燈株式會社取締役社長
東備電燈株式會社取締役社長
岡山縣士族坂野半四郎氏の長男明治六年御津郡野谷村に生れ、昭和三年家督を相續す、三十一年東大法科を卒業して高等文官試験に合格、遞信省事務官、同書記官兼關東都督參事官、東京郵便局長、大阪遞信管理局西部遞信局長等に歴任し、官ヲ辭して今や前記の如く諸會社の重職にあり、尙外數社の重役たり。家に母堂健在、夫人との間に二男、養女あり。昭和七年貴族院多額納稅者議員として選出せらる。

哈爾濱小學校長
白髮隆孫

兒島郡琴浦町山村



君は明治四十二年三月岡山師範第一師範部卒業、兒島郡内小學校に

せる君は直ちにフォード自動車岡山縣下一手販賣の特權を獲、茲に在神財界の有志を説き大正十四年資本金十萬圓柴田自動車株式會社を創立し今日に至る。

鹽飽敏太

吉備郡總社町

明治二十三年小田郡陶山村生れ、四十五年岡山師範本科第二部卒業、小田郡外神島小學校主席訓導として奉職大正六年同郡吉田小學校

四年獨逸に留學有名なるロストツクのキヨル
ネル博士に師事する事三年、ドクトル、メヂ
チーネの學位を得て歸朝し、大阪の現地に開
業す。學識經驗兼備加ふるに温情の人、患者
殺到す。夫人は元鴻池銀行重役島村久氏の令
妹なり。

佐藤吉五郎 岡山市富田町

秋田縣由利郡西瀧澤村の人明治三十五年出
生。大正十五年東京音樂學校甲種師範科の業
を卒へて岡山女子師範校の教諭に任せられ、

白髮隆孫

兒島郡琴浦町山村



君は明治
四十二年
三月岡山
師範第一
部卒業、
兒島郡内
小學校に
教鞭を執
ること數

年、師範學校訓導に拔擢され、大正六年滿鐵
より招聘を受け渡滿以來殖民地教育に従事し
て今日に及ぶ、幾多の業績を擧げて信望を博
し、父兄生徒の尊信甚だ厚し。現に哈爾濱日
本人小學校長たり。今や該地の事情に精通、學
校の餘暇を以て種々社會公共の爲に盡瘁す。

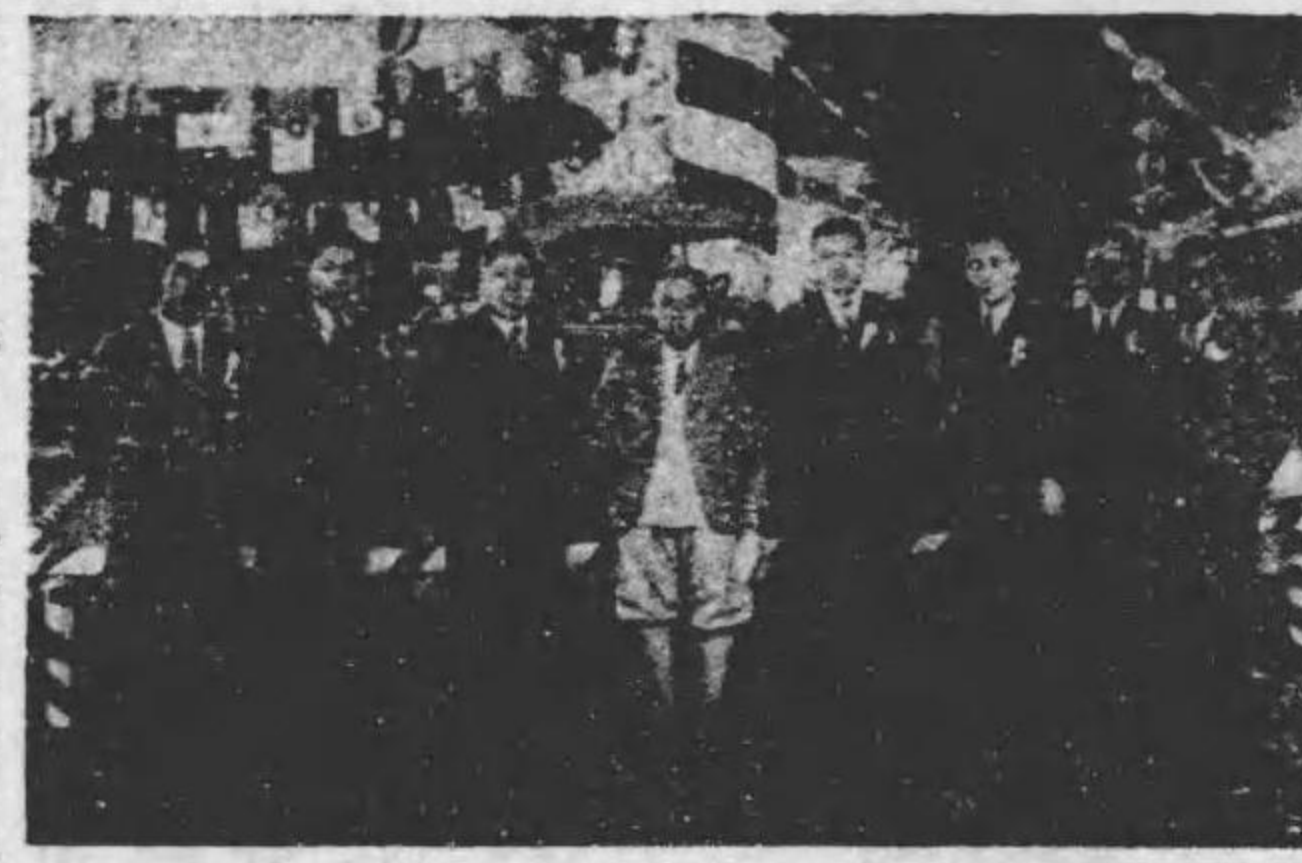
清水福次郎

岡山市橋本町一一

丸福商店は元治元年の創業、太物吳服商と
して當時は岡山市に於ける唯一の店舗なり先
代福次郎氏は市會議員、商業會議所議員、中
國鐵道株式會社、岡山電鐵株式會社等の創立
に參畫し創立後は重役たりき。現主宗三郎氏
は元治元年一月廣島縣芦品郡の素封家猪原家
に生れ、三十九年入りて清水家を繼ぐ。明治
三十七年コロンビヤ大學卒業、直後日露戰爭
に陸軍通譯として従軍せり。例のアレキサン
ダー將軍の所有せる紅大字の帶劍を許可する
旨、時の大山司令官より傳達の命を帯びて同
將軍に會見したるは最も名譽ある大任たりし
なり。君又後年歐米列強を漫遊して更に見聞
を廣む。

柴田言寬

岡山市上石井一八三



君は明治十七年神戸
市野崎通六丁目の生
れ。渡米ウイスマコン
シン大學卒業直後同
校助教に在職數年
、後辭して計理士を
開業す。偶々勝田汽
船社長勝田氏の囑望
により歸朝同社外國
部長の重職に當る。
在米十八年世界各國
を漫遊實業界方面を
視察すること二回、
各國の事情に通ずるを以て同社の爲め貢献す
ること尠からず。又自動車内地普級に着目

合格、遞信省事務官、同書記官兼關東都督參
事官、東京郵便局長、大阪遞信管理局西部遞
信局長等に歴任し、官ヲ辭して今や前記の如
く諸會社の重職にあり、尙外數社の重役たり
。家に母堂健在、夫人との間に二男、養女あ
り。昭和七年貴族院多額納稅者議員として選
出せらる。

せる君は直ちにフオード自動車岡山縣下一手
販賣の特權を獲、茲に在神財界の有志を説き
大正十四年資本金十萬圓柴田自動車株式會社
を創立し今日に至る。

鹽飽敏太

吉備郡總社町

明治二十三年小田郡陶山村生れ、四十五年
岡山師範本科第二部卒業、小田郡外神島小學
校主席訓導として奉職大正六年同郡吉田小學
校長を拜命し、十二年岡山市三動小學校主席
訓導を経て十四年邑久郡視學、翌年岡山縣視
學となり、昭和四年山本農蠶學校長拜命、五
年吉備郡總社小學校長となる。國民教育實務
上教育行政上効績著しきものあり。現に郡教
育會長、郡校長會長、郡青訓聯合會々長等の
要職にあり。

香登町長 柴部一之 和氣郡香登町

君は明治二十四年和氣郡香登町に生る、四



十三年縣
立岡山工
業學校を
經て、大
阪高工に
學び、大
正三年業
を卒へて
滿鐵に入

り、無順炭坑老虎台に勤務す。擧げられて同
地の岡山縣人會々長となる、九年同坑新屯坑
主任を命せられ、又同龍鳳坑主任に轉じ、十
二年同塔連坑主任、同萬達屋坑主任を歴任し
、昭和二年大連滿鐵本社詰を命せられ經濟調
査會委員に擧げらる。昭和五年同社を辭して
歸省す。偶々十一月郷黨の推す所となり町長
に就職し現在に至る。

柴田壽男

岡山市東田町

眞庭郡八束村進家に生る、岡山縣内務部土
木課に入り多年勤務、累進して遂に英田郡長
となる。郡制廢止に伴ひ退官す。昭和四年八
月岡山市地家屋管理株式會社を起し専務取締
役として實業界に活動今日に至る。性淡泊に
して快活、頭腦明晰にして思慮周密謹直なる
人なり。趣味に圍碁、俳句あり。

島居哲

尾道市土堂町

君は明治二十年兒島郡に出生、後現地島居
家に入りて嗣子たり。大正二年京大法科卒業
後東京、名古屋等に在住、歸つて廣島縣聯合

青年團長等として貢献せり。大正十年市民に推されて堂々衆議院議員に當選、其の後二回引續當選、田中内閣の當時鐵道大臣秘書官たり。現に前職の外尾道鐵道監査役、島居商店社長、市藥種商組合長等實業界の要職にあり、又市商工會議所會頭たり。

ラヂオ店主 塩見壽治 岡山市西中島

明治二十六年上道郡平島村に生る、四十二年大阪關西商工學校に入り電氣科を卒へ、大



阪電燈野田製作所試験係りとなり、大正二年大阪電軌會社に轉じ、六年大阪逓信

局岡山技術駐在勤務となる。當時日本放送協會搖籃期たり、君期するところありラヂオの研究に潜心没頭、遂に十三年率先岡山市にラヂオ店を創設し、拮据奮勉今日の聲望を受く。

篠山 仲治 神戸市上野二九九

篠山家は味野町に於ける名門なり、明治二十三年生れ、十才母に別れ十六才父を失ふ。かくて親に代りて多くの弟妹を養育す。志を立て、關西大學専門部に入り大正五年卒業、岡山地方專賣局に入りて書記を拜命。八年九月製鹽運送専門の株式會社の創立せらるゝに當り官職を辭して入社現に調査係主任の要職にあり。傍ら株式會社神港商店の取締役たり、將來大いに實業界に活躍するの素地を有す。春子夫人との間に一男あり。

日本タンカー株式會社專務取締役 穴戸 嘉惠次 東京澁谷區神山五八

明治十六年小田郡に生る、穴戸卷次氏の令弟、笈を負ふて東上し、明治三十九年早稻田大學政治經濟科を出で、直に日本郵船會社に入り、調査課長に進みたりしも大正十一年退き、近海郵船會社專務取締役となり、同十五年日本タンカー株式會社取締役に轉じ、今日其の專務取締役たり。尙秋口自動車株式會社、昭榮社各取締役に在職。芳子夫人との間に二男あり。

辯護士 柴田 治 津山市椿高下

明治三十三年勝田郡豊田村に生れ、負笈上阪し大正六年西部逓信局通信生養成所電信技

術を修業し、神戸三宮郵便局電信課に勤務する事一年



大阪辯護士會の長老山口房五郎氏の下に關大法律豫科、大阪基督教青

年會理科學院中等部、全英語學校等の夜學部を卒業。更に大正十二年專檢に合格し、全年四月關大専門部法律科に入學、卒業後高等試験司法科試験に合格。昭和三年大阪に開業其の年末現地に歸りて開業し今日に至る。眞に刻苦研學の士と謂ふ可し。

塩田 貫三郎 姫路市景福寺前

明治六年兒島郡灘崎町大字奥迫川の生。陸軍教導團歩兵科に入り二十七年歩兵少尉に任ぜられ、二十七年九月日清戰役に從軍し金州、南山、營口に轉戰。三十八年奉天戰に参加、馬軍丹附近に於て負傷姫路豫備病院に入院す。全快の後第十師團兵站基地司令部付となる。後四十一年第六高等學校書記を拜命、大正八年同校体操科講師囑託、翌年九月姫路商業學校書記並に教諭となり現在に至る。喜久子夫人との間に一男四女あり。

瀬戸實業學校々長 柴部 壽男

君は明治二十二年和氣郡香登町に生る、四十二年岡山師範第一部を卒へ、爾來引續き十



五ヶ年間和氣郡に於て小學校に勤務し、大正十三年阿哲郡視學に拔擢せられ在職

二年、十五年岡山縣視學に榮進し、在職三年六ヶ月、昭和五年現職に就任今日に至る。君學校教育の傍ら修養團岡山縣聯合會の幹事として、青年指導、社會教化の爲め貢献する所甚大なり。八重野夫人との間に二女あり。

從四位勳六等 陸軍二等主計 臺灣銀行頭取 中華滙業銀行理事 鳥田 茂 品川區上大崎長者九三五

白神 壽 阿哲郡新見町



吉備郡總社町の人、明治十七年に生る、四十年縣師範

大學政治經濟科を出で、直に日本郵船會社に入り、調査課長に進みたりしも大正十一年退き、近海郵船會社專務取締役となり、同十五年日本タンカー株式會社取締役に轉じ、今日其の專務取締役たり。尙秋口自動車株式會社、昭榮社各取締役に在職。芳子夫人との間に二男あり。

辯護士 柴田 治 津山市椿高下
 明治三十三年勝田郡豊田村に生れ、負笈上阪し大正六年西部遞信局通信生養成所電信技

哲那視學に拔擢せられ在職二年、十五年岡山縣視學に榮進し、在職三年六ヶ月、昭和五年現職に就任今日に至る。君學校教育の傍ら修養團岡山縣聯合會の幹事として、青年指導、社會教化の爲め貢献する所甚大なり。八重野夫人との間に二女あり。

從四位勳六等 陸軍二等主計
 臺灣銀行頭取 中華滙業銀行理事
 島田 茂 品川區上大崎長者九三五

明治十八年島田秀和氏の長男に生れ、雄圖壯々帝都に上り帝大法科經濟科に入り、明治四十五年卒業後直に高等文官試験に合格し、先づ大藏省に入り鳥取、永代橋各稅務署長となり、名古屋、東京各稅務監督局、間稅部長、大藏書記官特殊銀行課長に歴任し、昭和二年臺灣銀行理事に任せられ、同年八月現職に就く。綠夫人との間に四男 女あり。

霜山松太郎 明治十四年岡山市東古松の素封家に生る。嚴父の早逝によつて家事を見遺産を守り悠々生花、茶の湯、書畫に親しむ。長男幸八郎氏は東大農科出身、長女淑子女史は東京齒科醫專出身、外に次男次女あり。

清水煤太郎 神戸市旭通五ノ九三
 明治二十年小田郡笠岡町清水榮次郎氏の長男に生れ、三十三



年十三歳にして、獨上神、一時無名の商館に入る。將來紙器工業の有望なるを知り、四十一年神戸市雲井通五丁目合資會社清水商店を開業、洋紙及紙器の販賣製造に従ふ。是れ現店舖清水紙器工業所の前身、爾來二十餘年間の長きに亘り經營擴張し、今や一般紙器及護謄製函等獨得の技術と内外多大の信用とを以て其名著はる。夫人との間に二男あり。

下山治四郎 岡山市桶屋町
 實家は勝田郡公文村にして地方の名門なり。君は慶應三年生れ、幼時岡山に出で專心製菓業を研究し、明治二十年獨立して下山松壽軒を起し、岡山名物鶴の玉子を創製發賣せり。畏くも明治大帝及び大正天皇の御買上げを蒙り、二條公、久我侯はじめ中央の名士高官の贊辭を受けしもの、類似品の到底比肩し得べからざる歴史を有す。現在君は業を息にゆづり悠々閑日月を楽しむ。

島田秀知 津山市院庄
 島田家は舊津山藩士にして地方の名門なり。幼少より漢籍を修學し風格嚴正、苦田郡書記時代其の力量手腕群を抜いて令名あり。今や自宅に悠々風月を友として餘世を楽しむ。長男島田秀和氏は臺灣銀行總裁たり。

白神 壽 阿哲郡新見町



吉備郡總社町の人、明治十七年に生る、四十年縣師範卒業縣下小學校に勤務の後師範學校訓導に拔擢せられ、研究數年大いに初等教育會に氣を吐く、後上房、小田、苦田郡に視學として敏腕を振ひ遂に縣視學となり、昭和二年新見農林學校の新設に際し校長に擧げらる。開校尙日淺きも既に聲望頓に高く、本縣實業教育界に重きを成す。

元妹尾町長 正保千代藏 都窪郡妹尾町

君は和氣郡神根村生れ、岡山縣立農學校第一回卒業生たり。成績の優良を以て岡山縣試驗場の技師に任せられ斯業に貢献するところ多大。當時正保家に入り、職を辭し地方自治の爲めに盡瘁し衆望を負ひ再度まで町長に選ばる、現に地方公共に盡し名聲有り。

廣島市聯合分會長 志岐重義 廣島市千田町



鹿兒島市にて慶應三年士族に生る。明治二十六年陸軍歩兵少尉に任せられ漸次累進して大佐たり。從五位に敘せらる。退役後帝國在郷軍人會廣島市聯合分會長として功勞あり、載仁親王殿下より有功章を拜授し、尙陸軍大臣より賞狀及銀杯を授與さる。日清、日露、日獨戰役及台灣守備に參加し大いに功勞有り。勳三等瑞寶章、功四級金鷄勳章を賜ふ。又支那共和國政府より三等文虎章を受く。今次大演習行幸の際福山市にて單獨拜謁、岡山市賜饌場に於て賜饌の光榮に浴す。

軸原憲一 君は明治三十年十月七日鳥取縣東伯郡下北條村覺藏氏の長男に生る。少壯の比上道郡九幡の名家太田恒三郎邸にありて、其の漢籍の講義を受け人格修養に努

む。十六才にして上道郡財田校に准教員奉職、大正二年岡山地方法裁判所検事局に雇員となり、全四年文官試験に合格す。五年上京して司法省秘書課となり、七年巢鴨刑務所看守長を拜命、十年辯護士試験に合格し、直後歸岡して開業す。現に山崎町本行寺上にその法律事務所あり。園基は日本基院初段又益裁を樂しむ。令弟壽雄氏は六高を卒へ今東京帝國大學法學部在學。

從四位勳三等功四級
新免行太郎 廣島市白島東中町二七



慶應二年
英田郡大野村に生る。西嶺山の門に入り漢學を修む、陸軍士官學校を出

で、少尉となり、日清の戦役には中尉として從軍、軍功に依り大尉に進む。陸軍大學に入り卒業後姫路砲兵大隊長となり、轉じて佐世保要塞に參謀となり、日露の役に出征軍功を積む。平和克復に當り獨立第十三司令部に高級參謀として樺太に駐屯數年。廣島野砲隊第五聯隊長、廣島第五師團參謀長、第一師團參謀に累進、野砲兵第三旅團長となり、後ち中將に進み退役。常子夫人との間に長男勝氏あり、醫學博士台灣總督府結核療養所長たり。

塩見邦一

邑久郡大宮村の出生、明治三十八年高松農學校卒業、縣農事試験場に勤務後上道郡農會に轉じ幾もなく試験場に再任、大正十四年技師に任じ、更に縣農會主任技師に榮轉勤續二十年。行政的手腕と學究的技術とを兼備せる農村指導者の權威にして、多年一貫して岡山縣産業の進歩改善に盡力し、就中米作土壤に關する研究最も深し。

霜手源市

店舗 大阪市東區安土町三



久米郡大井東村霜手岩吉氏の三男明治七年生れ、二十年大阪に至り有名なる西善

紙店に入店し、主家の爲に粉骨碎心。君紙商の將來は印刷知識の兼備を必要とし、奈良市明新印刷合資會社に入社し實際を研究すること前後三年、機漸く熟するを見て和、歐及石版印刷業を獨力現地に開業して今日に至る。以來三十有餘年、昭和三年推されて大阪印刷同業組合代議員に選ばれ信用最もあつし。

下山美登

津山市川崎

明治二十三年津山市の名門に生る。かつて津山和紙株式會社取締役たり、現在津山信用組合東支店長として活躍す。土地を所有すること多く大地主として聞ゆ。寡言温厚にして謙讓の徳あり、人に接して圓滑、園基を趣味とす。

岡山油類商組合長
島 賀太郎 岡山市小橋町

島屋と稱し安政年間祖父才治郎氏創業の油商なり。



君は明治十六年生れ、岡出身近衛歩兵に徵され日露の役に從軍して遼陽の激戦に参加す、軍功により勳八等桐葉章を賜はる。今や前記の外商工會議員に選ばれること三回、貢獻するところ大なり。初子夫人との間に二男一女あり。

清水長郷

東京澁谷區神山二五

明治二十一年三月七日後月郡芳井町長花利平氏の二男に生る。岡山縣農學校卒業の後上道郡富山村清水宗勝の養子となる。四十一年早稻田大學政治經濟科を卒業し、岡山縣農會雜誌編輯主任たりしが更に上京して國民新聞記者、讀賣新聞經濟部長、東京朝日新聞經濟部長等たり。曩に大正十五年、昭和五年岡山縣第一區より出で衆議院議員に當選、今は立憲民政黨に屬す。富子夫人との間に二男一女あり。

姫路銀行常任監査役

正六位勳五等 庄田梅吉

姫路市北條口

明治五年邑久郡太伯村に生る、家は代々大里正たり。二十五年岡山中學卒業、二十七年岡山縣收稅屬に任官し、西大寺、味野稅務所を経て、三十年五月大藏省稅務屬に轉じ司稅

官に任じ、大阪稅務監督局直稅部長、大正二



年堺稅務署長、六年東京兩國橋稅務

方餘力を以て同志と共に日華實業協會、日華學會を創設して其目的貫徹に努め又夙に近衛公等と共に東亞同文會を設立し現に其理事長たる等、常に日支親善提携を主張せる對支發展の先覺者として其殊勳第一に指を屈すべき

多年一貫して岡山縣産業の進歩改善に盡力し、就中米作土壤に關する研究最も深し。

霜手源市 店舗 大阪市東區安土町三



久米郡大井東村霜手岩吉氏
の三男明
治七年生
れ、二十
年大阪に
至り有名
なる西善

雜誌編輯主任たりしが更に上京して國民新聞記者、讀賣新聞經濟部長、東京朝日新聞經濟部長等たり。曩に大正十五年、昭和五年岡山縣第一區より出で衆議院議員に當選、今は立憲民政黨に屬す。富子夫人との間に二男一女あり。

姫路銀行常任監査役
正六位勳五等 庄田梅吉 姫路市北條口
明治五年邑久郡太伯村に生る、家は代々大里正たり。二十五年岡山中學卒業、二十七年岡山縣收稅屬に任官し、西大寺、味野稅務所を経て、三十年五月大藏省稅務屬に轉じ司稅

官に任じ、大阪稅務監督局直稅部長、大正二



年堺稅務署長、六年東京兩國橋稅務署長、七年大藏省主稅局事務官に歴任轉補、

大正九年官を退き報德銀行神戸支店長となり、十四年辭して大藏省囑託主稅局勤務、昭和四年三月依願退職の後郷里太伯村に迎へられ、村長たりしも、同年辭して現職に就き今日に至る。

東亞興業株式會社取締役 白岩龍平 東京赤阪區青山南町

明治三年英田郡宮本村折衛氏三男に生れ少壯播州三日月の碩儒岸南岳の門に學び、十八年上京二十二年荒尾精氏の清國より歸りて日清貿易の急務を提唱するや君大に共鳴し、小松原英太郎氏に謀り野崎武吉郎氏の資助を得て日清貿易研究所に入り、専心勉學清國の實情を專攻し二十六年業を終る。偶々翌年日清の間に戰端開かるるや、召されて通譯官となり皇軍の爲めに盡すところ多し。戰ひ歛まり馬關條約に依つて揚子江の航海權吾が手に歸するや再び上海に渡り清人と共同して大東新利洋行を起し上海蘇州杭州間に海運業を開始せしも、戰後とて清人の感情融和するに至らずして艱難一方ならず、君極力情理を盡して慰撫につとめ漸次理解を深め杭州鎮江の航路を擴張し、引續き洞庭湖の水利調査に着手し其の有望なるを確認するや、我國朝野の間に奔走したる結果湖南汽船株式會社の創立となり、追の英國人をして顔色なからしめ、やがて大東汽船、湖南汽船、日本郵船、大阪商船等參加し桃源の夢破られて茲に繁華を築くに至つたが、同業徒らに相競争して漁夫の利を他國に奪はるゝの弊を悟り、大東湖南郵船商船の四會社合同計畫の提唱となり、明治四十四年資本金八百十萬圓の日清汽船株式會社の實現を見る、君擧げられて専務取締役に就任す。又曩に日露の戰後溢澤子等と共に日清起業調査會を發起して之れが幹事となり、進んで支那企業の計畫となりて東亞興業株式會社設立せられ君は専務として献身的に活動し、鐵道、土木、鑛山、造船、電氣並に投資金融等に盡し、日支經濟連絡に貢獻し、又山東鑛業株式會社を創立して之れが重役となり、一

方餘力を以て同志と共に日華實業協會、日華學會を創設して其目的貫徹に努め又夙に近衛公等と共に東亞同文會を設立し現に其理事長たる等、常に日支親善提携を主張せる對支發展の先覺者として其殊勳第一に指を屈すべき大功勞者たり。内助の譽高き艶子夫人は西毅一氏の次女、佐々木信綱博士の高弟にして家集采風、白揚等歌道の著あり。

姫路高等女子職業學校設立者 摺河靜男 姫路市南畝町

明治二十五年和氣郡伊部町に生る。早大政治科を出で邑久郡書記、飾磨郡書記を経て大正十五年兵庫縣屬となり學務課に勤務す。偶々女子中等學校入學難を見て共愛裁縫女學校を姫路に設立す。爲に入學難の緩和を得愈々前記に改稱、官を辭し經營の衝に當る。偶々東京女子美術專門出身摺川ウメ女史(現夫人)來援、昭和六年甲種女子商業を併設、東京高師出菊田茂三氏を教頭に、摺川夫人校長として内容充實と共に名聲愈々高し。

杉山宇三郎 津山市山北



君は明治十七年久米郡埴和村の生れ、三十七年岡山師範卒業、同校訓導として多

年奉職の後、吉備、苫田郡視學を歴任、大正十四年津山實科高等女學校校長となる。君性來温厚謹嚴、眞摯なるをもつて、よく父兄生徒の信頼を得、作州教育會のため貢獻すること甚大なり。尙社團法人苦津教育會長、苦津聯合女子青年團長、苫田郡聯合婦人會長等の要職にあつて、一般婦人の向上に努力す。

杉浦直之丞 岡山市弓之町

明治十二年都窪郡三須村高杉家に生れ、吉備郡庭瀨町の杉浦家の養子となる。三十四年岡山師範を卒へて早島小學校長に任せられ、次で京都市立盲啞學校に轉じ教頭たりしが、大正五年職を辭して郷里庭瀨町に獨立の電氣商を經營し、電氣器具製作並に販賣に従事しモーター變壓器等の製品を主として販路を外國に拓き一大活動を爲す、八年中國合同電氣

株式會社に入り營業部に勤務して今日に至る、直堂と號し畫に湛能なり。

鈴木住太郎

岡山市西中山下
君は鈴木商店の經營主にして、洋傘メリヤスの販賣を營む、君の開業は明治の中年なりしが以來拮据黽勉、漸次發展今日の大を成し巨萬の富を積む。資性温良篤實、信用第一主義に漸進せらるる眞に地方成功者と謂ふべし。

杉山勸治



大正二十一年久米郡稻岡南村に生る。大正五年同村収入役となり、又誕生寺信用組合常務理事となる、昭和二年信用組合長

に選任せられ、常務理事を兼ね。抑々同組合設立は大正四年九月の暴風災に際し村民いたく疲弊し衆口期せずして金融機關の施設を齊唱し、村長志部仙太郎氏を中心として村議に謀り、忽ちにして可決せるなり。爾來二十年經營宜しきに副ひ、預金二十萬圓、貸付十七萬圓、準備及特別積立金三萬圓を超ゆ。同組合の發達は君不斷の努力に負ふ所大なり。

大阪商事株式會社調査役

杉山義夫

大阪府下北野田大美野

亡父龜太郎氏は長期名村長として知らる。勝田郡豊國村は君の搖籃の地なり。津山中學を卒へ早大政治經濟を専攻業を終へ、東洋經濟新報社に入り得意の婉麗辛辣の筆管を以て政治經濟を評論指導すること多年、後關西支局長として商都大阪に據るに及び、一段の研究と濫奥を高め。大正六年本邦証券界の先驅として上田源三郎、村治久治郎、溝口庄太郎氏等相圖つて大阪商事株式會社を創立し君調査役に招聘されその重職に任せり。

杉山美作夫

久米郡稻岡南村

永らく初等教育界にありしが、村民の輿望黙しがたく遂に辭して、同村村長に就職今日に至る。温厚篤實なる人にして、村宰として最も適任たり。同村信用組合の成績良好なるも、耕地整理組合の進展も其の他殆んど君の努力の與る處、村治着々向上信望愈々高し。

鈴木周三郎

岡山市内山下三〇

名古屋の人、明治三十五年生れ、名古屋市立商業を卒業し、自動車部分品及附屬品の販賣を開業



中、意を決して昭和二年岡山市に來たり、中國輪業商會を繼承開業す。資性寡言實行力に富み、着實なるサービスマンにより縣下一圓に販路を有し、グットリツチ、タイヤー。ジイ、エス、バッテリー岡山縣下代理店をも有し、前途に多大の期待と囑望を負ふ。

杉塚琢磨

株式會社横濱正金銀行監査役
東京市中野區沼袋南二ノ二

哲太郎氏の二男明治十五年阿哲郡野馳村に生る。明治三十六年分家す。四十二年東大法律政治科を卒業して逓信省に入り、貯金局事務官、同書記官を歴て、大正三年には宮内書記に轉じ、内匠寮經理課長、工務課長、大臣官房用度課長、宮内省參事官、大臣官房庶務課長兼秘書課長、内藏頭に累進し、昭和元年大喪使事務官、同二年には大禮使參與官を仰付けられたり。昭和四年官を辭し前記の職に就く。庫夫人との間に二男二女あり。

鈴木惠三郎

岡山市中之町三六



明治三十一年生れ、岡山縣立商業學校在學中病を得て中途退學家業を繼承す。代々樂器の製造販賣を營む。其の技術の精巧にして製品又優美且又其の販賣方法確實なるを以て顧客多し。琴三味線といへば一も二もなく直ちに鈴木を思はしむ偶然にあらざるなり。しかも君常に製作研究の陣頭に立ち技術者を督勵し今や關西に其の名愈々高し。爭於夫人との間に二嬢あり。

鈴木正次

岡山市中之町四九

明治十七年久米郡西川村に生れ後鈴木家に



の氣風あり、特に馬術を好み閑あはば遠乗を娛しむ。

養子となる、縣立工業土木科卒業、四十三年六月陸軍工兵少尉に任せられ正八位に叙せらる。明治四十年より鐵道、水道、瓦斯事業その他土木事業に従事し奮闘中、大正九年病を得て職を退き、兩三年間専ら靜養をなし現住に於て文房具店を開業漸次發展し今日の隆盛を見る。政子夫人との間に一男一女あり。

大正六年本邦証券界の先導として上田源三郎、村治久治郎、溝口庄太郎氏等相圖つて大阪商事株式會社を創立し君調査役に招聘されその重職に任せり。

杉山美作夫 久米郡稻岡南村

永らく初等教育界にありしが、村民の輿望黙しがたく遂に辭して、同村村長に就職今日に至る。温厚篤實なる人にして、村宰として最も適任たり。同村信用組合の成績良好なるも、耕地整理組合の進展も其の他殆んど君の努力の與る處、村治着々向上信望愈々高し。

養子となる、縣立工業土木科卒業、四十三年六月陸軍工兵少尉に任せられ正八位に叙せらる。明治四十年より鐵道、水道、瓦斯事業その他土木事業に従事し奮闘中、大正九年病を得て職を退き、兩三年間専ら静養をなし現住に於て文房具店を開業漸次發展し今日の隆盛を見る。政子夫人との間に一男一女あり。

鈴木竹藏 津山市上之町

君は明治十七年津山に生れ、少壯より獨營



にて和紙工場を創業し、半紙、障子紙、膏藥紙、膏藥厚紙、傘紙は勿論作州特産たる箱用

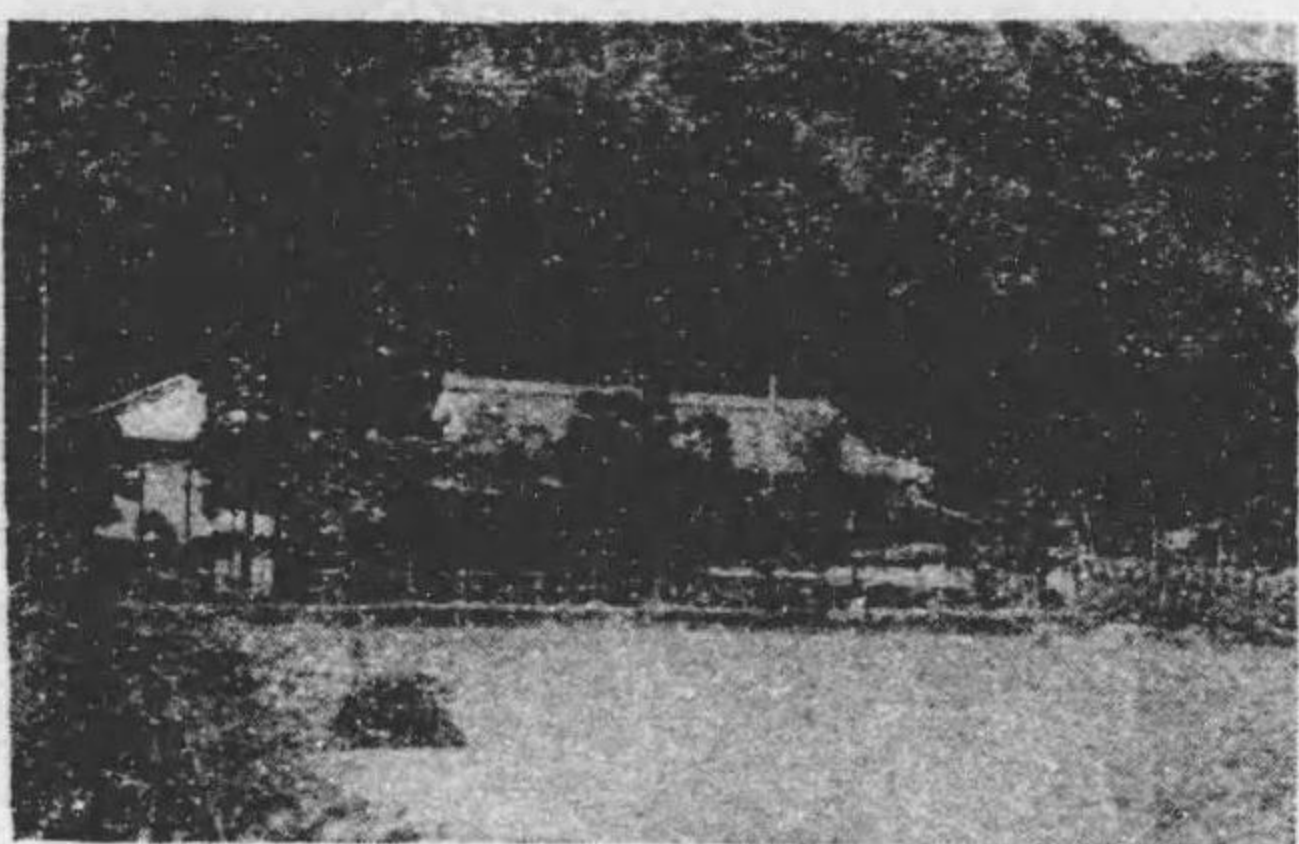
紙等の濶業に従事し、銳意其實務に當り、逐年規模を擴張し、津山製紙界の覇者たり。其製品は全國は勿論朝鮮方面に及び各地の大博覽會、共進會にて賞を受くること十數回。皇族貴顯の方々に臺覽を仰ぎ、又御買上げの榮を受けしことも數回に及ぶ。

杉山靜太

明治十九年上房郡高梁

町下町光太郎氏の長男に生る。明治四十四年姫路師範第一部卒業、兵庫縣美方郡村岡小學校に奉職ついで神戸入江小學校に轉任。大正七年歸郷高梁小學校より十三年巨瀬小學校長に榮轉、十五年上竹莊小學校長。昭和五年吉備郡日近小學校長、翌年同郡大井小學校長たり。補習學校長並青訓主事を兼任して今日にいたる。

鈴木鏗爾



師會副會長に推され今日に至る。君夙に剛健

明治十八年勝田郡勝加茂町に生る、岡山醫專に入り明治四十二年卒業、越へて四十年志願兵として岡山歩兵聯隊に入隊、翌四十四年九月迄岡山及小倉師團に軍醫として勤務し歸郷後現住所に醫業を開く。町會議員に當選し町政上に貢献する所多く、又苦田郡醫

家業を繼ぐ家は

代々樂器の製造販賣を營む。其の技術の精巧にして製品又優美且又其の販賣方法確實なるを以て顧客多し。琴三味線といへば一も二もなく直ちに鈴木を思はしむ偶然にあらざるなり。しかも君常に製作研究の陣頭に立ち技術者を督勵し今や關西に其の名愈々高し。爭於夫人との間に二嬢あり。

鈴木正次 岡山市中之町四九

明治十七年久米郡西川村に生れ後鈴木家に



の氣風あり、特に馬術を好み閑あらば遠乗を娛しむ。

辯護士 角南美貴

大阪市天王寺區上五

明治十二年勝田郡飯岡村角南萬次郎氏三男に生れ、岡山中學に學び四十二年京大獨法科卒業司法官試補として官界生活に入り、大阪、高松、札幌、東京、神戸各地方裁判所判事として歴任、就中大阪地方裁判所には前後三度、有名なる箕浦勝人事件の名判事として聲名あり。後二十ヶ年間の司法生活を一擲して大正二年現住所に於いて辯護士を開業し斯界に隱然たる一勢力を爲す。正五位勳五等國士的直情經世家の風格を具ふ。春子夫人との間に二男一女あり、團基は初段。

從六位勳五等

角田喜志太郎 津山市二丁目四



君は明治八年久米郡倭文中村油木に生る、身を軍籍に投じ大正四年六月陸軍一等

主計に任じ、十一月勳五等に叙し雙光旭日章を賜はる。豫備役となり直ちに入りて三重セメント株式會社支配人となる。大正七年津山市に小間物、化粧品、糸類の卸賣を開業せしが、恰も經濟界の好況期に遭遇し忽ちにして産を興す。後津山分會長、顧問等に選ばれ更に昭和四年津山信用組合理事に就職し、同組合西出張所主任を兼掌して今日に至る。

杉山幹一

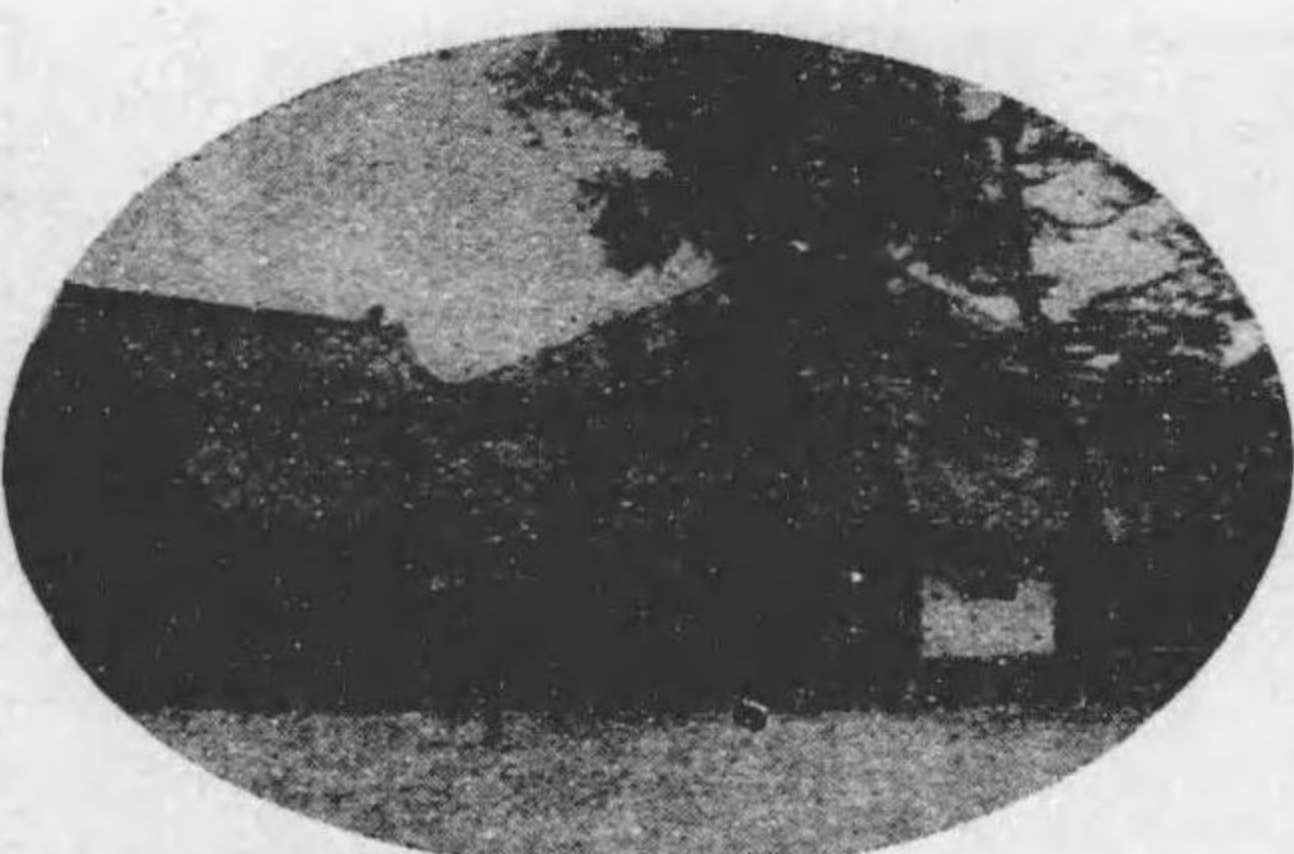
久米郡稻岡南村

明治の初年、自由民權の思想勃興の當時より、作州の闘士として馳驅其名を知る。後縣會議員に當選す。其の主義主張常に公明、侃諤の論説人を歴し令名噴々たり。今や年齒を重ねて表面的の活躍を避くるも元氣尙は櫻鑿耕地整理組合、山林問題等に對して地方隱然勢力を張り重きをなす。山陽新聞社主筆杉山榮氏は君の長男なり。

菅原信一

岡山市六番町

君は明治二十二年岩手縣東磐井郡黄海村の出身。四十四年岩手師範第一部を卒業、小學校訓導として在任。後六ヶ年、大正六年東高師地歴科卒業、直ちに任を上道郡視學にうけ、在任僅か一ヶ年にして文部省屬普通學務局勤務となれり。十一年東京高師教諭に兼任、從七位高等官七等に敘せられ漸次累進して十三年十二月群馬縣女子師範學校長に補せらる。昭和四年二月岡山縣女子師範學校長に榮轉爾來今日に至る。昭和七年一月勳六等に敘せられ瑞寶章を賜ふ。



寫眞は女子師範舊講堂……岡山藩學講堂

杉野一太

岡山市新西大寺町五八



明治三十年上道郡芳野村松崎の生れ。大阪市に轉居し西區朝上通泰西學館を卒業

、大正六年龍山歩兵七九聯隊入隊除隊後、顔染料福壽洋行に勤務、十二年歸國大阪に於て岡山産足袋卸商を營みしが數年にして財界一般の不振價格暴落に遭遇し歸岡す。後新西大寺町に支那料理を開業せしが時世に適合し漸次世人の歡迎するところとなり、昭和四年現住營業所に移轉し大いに業務の擴張を行ひ五年増築するの盛況を見るに至れり。

杉山岩三郎

岡山市西田町

君は岡山縣人とし景仰忘るべからざる備前西郷と謳はれたる故杉山岩三郎氏の養嗣子、家督を繼ぎて襲名す。岡山中學卒業京大法科の出にして、豪放苟も世の毀譽褒貶に捉らはれず、先代岩三郎氏の面影を窺うに充分なるものあり。現に中國鐵道株式會社取締役社長たり。馬術、ゴルフを趣味となす。

杉原靖三

岡山市巖井

明治十四年廣島縣世羅郡西大田村に出生。

妹尾熊男

岡山縣盲啞學校長

君は舊松山藩士松森安太郎氏の五男、明治十八年二月川上郡落合村に出生し、四十四年妹尾教平氏に養はれて現姓を冒す。四十二年縣師範學校卒業、川上郡成羽小學校奉職、次いで上房郡高梁校、吉備郡神在、穗井田、齋田校長に轉じ、大正十七年勝田郡視學に十

四十二年石川縣にて普通文官試験に合格、四十三年東京警察講習所を卒業、爾來本縣警察界にありて警察署長、保安課長として、敏腕を振ひ令名あり、遂に淺口郡長に拔擢せらる。郡制廢止に伴ひ退き、暫く閑地にありしが、岡山市長守屋松之助氏の信認厚く、擧げて岡山市主事會計課長となり、今日に至れるなり。天性溫良恭謙、雖然たる會計事務を處理して、業績大いに見る可く、岡山市役所幹部として樞要にあり。

鈴鹿工務所主

鈴鹿勤助

大阪市北區玉川町三丁目

明治二十四年久米郡吉岡村久木、鈴鹿平三郎氏長男に生れ、十五歳にして一見習工と爲り横須賀工廠に働くこと二年、其の間横須賀



補習學校夜學に通ふ。その熱心と努力とは早くも校長江藤正五郎氏の認むる所となり、當時全市一流の實業家白井儀平氏に紹介され杉浦重剛翁の東京日本中學に入學したるが不幸恩人白井氏の蹉跌と父の死去に際會す。されど不屈不撓決然東都に止り遂に日本中學の業を終へたり。當時君を知る石渡某は堀田貢氏に托して大正二年東京高等工業機械科に入學せしめ以て君の大成を樂まんとす。然るに病氣の爲に休學の止むなきに至りたるが後獨力遂に大正七年高工を卒業せり。直ちに下阪長瀬商會機械部に、次で橋本チエン工場等に就業す。君謂へらく將來文化の發達に伴ひ土木建築用の製圖紙の改良の切要必然なりとし、十一年少資を以て此花區に店舗を設けて茲に青寫眞業を開始す。研究の結果鈴鹿式感光紙塗布機を創案して新案登録を得、之を日本理化學研究所に納入して好評を博し、一躍して獨逸製オザリット陽畫感光紙を市場より驅逐し、更に青寫眞電氣燒付用光線調節器の裝置を工夫して登録を獲得し、兩者相俟つて完全に舶來萬能を打破し事業愈々繁盛を極む。理研陽畫感光紙關西代理店としては大阪、和歌山、京都、滋賀、鳥取、島根、岡山、兵庫の二府七縣に有す。現在大阪唯一のホトスタット寫眞燒付機の設備工場あるは全所のみ。君未だ春秋に富む郷黨青少年等の期待するところ多し。

ぶ。文部大臣縣知事より表彰され又遂に高等官六等を以て待遇さる。郡教育會長、男女青年團長に推選され公立實業



公立實業

年増築するの盛況を見るに至れり。

杉山岩三郎 岡山市西田町

君は岡山縣人とし景仰忘るべからざる備前西郷と謳はれたる故杉山岩三郎氏の養嗣子、家督を繼ぎて襲名す。岡山中學卒業京大文科の出にして、豪放苟も世の毀譽褒貶に捉はれず、先代岩三郎氏の面影を窺うに充分なるものあり。現に中國鐵道株式會社取締役社長たり。馬術、ゴルフを趣味となす。

杉原靖三 岡山市巖井

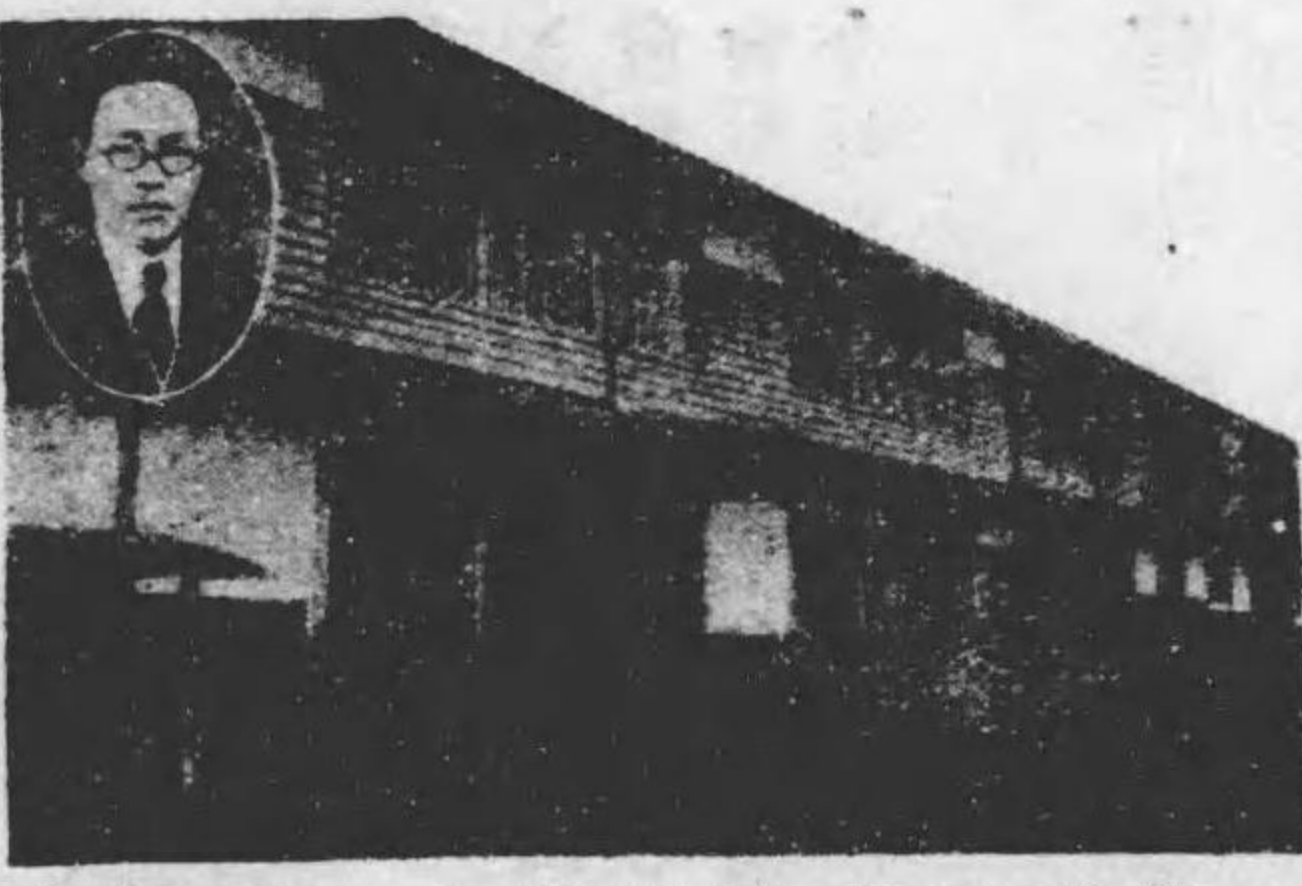
明治十四年廣島縣世羅郡西大田村に出生。

岡山縣官廳學校長 妹尾熊男

君は舊松山藩士松森安太郎氏の五男、明治十八年二月川上郡落合村に出生し、四十四年妹尾教平氏に養はれて現姓を冒す。四十一年縣師範學校卒業、川上郡成羽小學校奉職、次いで上房郡高梁校、吉備郡神在、穗井田、箭田校長に轉じ、大正十七年勝田郡視學に十年小田郡視學に轉じ十四年縣視學に累進す。昭和二年前記に榮轉して今日に及ぶ。

大阪鐵道學校 瀨島源三郎

大阪市天王寺區生玉町 眞庭郡川東村田原に生る。四十四年天城中學卒業日大文科、文科を出で、大正七年鐵道省官房人事課に奉職、昭和三年更に鐵道省教習所教務主任と爲る。其の間如實に民間鐵道學校の必要を感じ計畫するところあり。やがて昭和三年十一月之が認可をうくるや大阪市天王寺區生玉町に現大阪鐵道學校を設立、全校幹事となり經營の任に衝る。これを現在我國民間唯一無二の專門鐵道學校たり。かくて卒業生は鐵道省其他堅實なる交通現業員の有資格者として各方面に歡迎され入學志望者頗に激増逐日發展す。君餘暇あれば卒業生の訪問或は學校施設の爲に東奔西走眞に席温るを知らず。



現大阪鐵道學校を設立、全校幹事となり經營の任に衝る。これを現在我國民間唯一無二の專門鐵道學校たり。かくて卒業生は鐵道省其他堅實なる交通現業員の有資格者として各方面に歡迎され入學志望者頗に激増逐日發展す。君餘暇あれば卒業生の訪問或は學校施設の爲に東奔西走眞に席温るを知らず。

妹尾文七郎 岡山市湊

明治七年一月生れ、父福次郎氏は君四才の時没し、母の手一つによりて養育せられ、夙に白笠塾に入りて漢籍を修む。先代は目代御用係等を勤めて公共に盡す。君亦三十一年二月平井村役場書記として奉職以來着々堅實なる歩みを以て収入役となり、助役に進み、村長にあること久し。其の外、郡會議員、郡農會議員、郡水産會議員其他幾多の公職を兼ね、實に精力の非凡なるに感嘆に値す。

正七位勳六等 雙三郡三良坂小學校長 世良 茂

君は明治八年廣島縣甲奴郡田總村に生れ廣島師範を卒業、高田郡高等小學訓導を経て雙三郡三良坂小學校々長に任せられて今日に及

十一年少資を以て此花區に店舗を設けて茲に青寫眞業を開始す。研究の結果鈴鹿式感光紙塗布機を創案して新案登録を得、之を日本理化學研究所に納入して好評を博し、一躍して獨逸製オザリット陽寫感光紙を市場より驅逐し、更に青寫眞電氣燒付用光線調節器の裝置を工夫して登録を獲得し、兩者相俟つて完全に舶來萬能を打破し事業愈々繁盛を極む。理研陽寫感光紙關西代理店としては大阪、和歌山、京都、滋賀、鳥取、島根、岡山、兵庫の二府七縣に有す。現在大阪唯一のホトスタット寫眞燒付機の設備工場あるは全所のみ。君未だ春秋に富む郷黨青少年等の期待するところ多し。

文部大臣縣知事より表彰され又遂に高等官六等を以て待遇さる。郡教育會長、男女青年團長に推選され公立實業學校長を兼任す。されば又青年教育功勞者として文部大臣、縣知事より表彰され勳六等に叙し瑞寶章を授けらる。今次大演習に當り福山市役所に於て單獨拜謁仰付けられ、尙岡山市に於て賜饌の光榮に浴す。高等官六等待遇たり。



兼任す。されば又青年教育功勞者として文部大臣、縣知事より表彰され勳六等に叙し瑞寶章を授けらる。今次大演習に當り福山市役所に於て單獨拜謁仰付けられ、尙岡山市に於て賜饌の光榮に浴す。高等官六等待遇たり。

妹尾清助 大阪北區江商ビル五階

家は妹尾太郎兼康に出で、七百數十年傳統正しき家柄、嚴父寅藏氏は名代の魚問屋たり。君明治十一年成羽町に生る。信原塾に漢學を修め三十三年上阪伸銅業増田合名會社に二年、三十六年神戸鈴木商店に入社、砂糖及外米輸入方面を擔當し、新潟出張所主任として北陸販賣係となる、後沖繩出張所主任より大阪支店へ復社して砂糖部を擔任、爾來鈴木商店の組織變更の都度累進し、現在前記の職にありて實業界に雄飛今日に及べり。

勳六等 備後眞田同業組合 瀨尾賢次郎

萬延元年三月廣島縣御調郡立花村に生る。



明治十一年村小學校の教員を拜命し、翌年同村役場筆生として勤務、後同村戸長引續き同村長に當選し、爾後十期重任す。又御調郡會議員、廣島縣會議員に當選し、大いに地方自治に貢献する所あり。大正十一年帝國水産會議員と就り、翌年御調郡村會々長、廣島縣備後眞田同業組合副組長となる。爾來水産並に眞田業界にありて重きをなす。之等多年の功勞により勳六等に叙せられ、縣知事より賞品を授與さる。其外全國町村長會、水産會より表彰を受くること屢次。

妹尾與志夫

大阪市天王寺區細工谷町

明治三年眞庭郡木山村富豪妹尾與一郎氏長男に生る。君は関谷巖に學び、十四年東京法學院を卒業、全三十三年大阪藤本銀行に入り、次いで福島紡績株式會社に入社。三十五年美作製紙株式會社の破綻整理に着手したるが、動機となり遂に英斷を以て全社の經營に當り財界の好調に乗じて事業大い振興す。四十四年之れを處分して上阪妹尾製紙所を設立し、西成郡大庄に工場を設け板紙の製造販賣を開始し、更に大正元年野口定治氏を輔けて大阪製鋼所を設立し活躍業績伸張せしも、歐洲戰後一切の事業を斷ち、晩年を専ら育英教化に志し社會公共事業に奉仕し、清福を天王寺の一寓に求めて又他事なし。

瀨川 卯一

明治六年廣島縣安佐郡山本村に生る。



三十五年衆望を負ふて山本村長に擧げられ、終始一貫平和圓滿を旨とし

て自治の本領を發揮し、村治民風定に見る可きもの多し。尙ほ明治四十五年安佐郡町村長會長に當選し今日に至る。此外中國醬油株式會社々長に任せられ劃策よろしきを得て業績今日の隆昌を示す。家に三男一女あり。

關藤 誠太

上道郡西大寺町



明治二十年小田郡陶山村大字入田の名門に生る。矢掛中學出身四十五年岡山師範二部を卒へ、小田郡金浦、神島、陶山校等の訓導、校長を経て、大正十四年吉備郡視學を拜命、翌年岡山縣視學となり、後西大寺小學校長たり。上道郡教育會長、全小學校長會長として寸暇なき活動をなしつつあり。趣味は俳句霞堂と號す。

妹尾 盛親

岡山市内山下櫻馬場



中學卒業、第六高等學校を經東大文科に學べり、四十年長崎中學、四十二年三

次中學教諭、翌年九月笠岡商業學校長、更に米澤中學校長兼圖書館長、石川縣立小松中學、和歌山縣立海草中學、長野縣立上田中學等各校長を歴任し、大正十四年八月岡山高等女學校長に就任す。君が過去二十年にわたりて訓育せし子弟の數、今や萬をもつて數ふべし。君昭和八年高踏優退す、縣下教育界の元老として聲名愈々高し。

妹尾與平

兒島郡藤戸村天城

明治十四年生れ、三十七年岡山師範卒業、



小田郡笠岡女子、後月郡井原男子、都窪郡茶屋町小學校訓導を経て、全郡開成小

學校に轉じ、後大正九年三月學校廢止に伴ひ退職す。同年京都の田中柏蔭の門に入りて素志の南畫研究に着手し、郷里小田郡稻倉村岩倉に因んで石邸と號せしが、京都に井上石邸畫伯のあるを知り、漢詩の師上田丹崖より命名せられて雲石と改稱す。今や歸郷子弟數十名の爲めに指導怠るなし。京都南畫研究會、春風會、鳥城會員たり。先年大丸百貨店へ出品其令名大いに擧る。

關 順三

廣島市竹屋町一二九

明治二十五年津山北町に生る。四十三年津山中學卒業、上京上野松村寫真館に入りて、その技術の修得に努力勵精、大正元年より五年に至る。獨特たる技を修めて大正七年現在の地に開業今日に至る。市内各小學校は固より高等師範學校、文理科大學其の他殆んど之れに集注し、其の技術其の人格共に市内に高し。曾て海軍一等主計兵として吳海軍團主計監たり。

妹尾與太郎

高松市内本町

君は眞庭郡落合町の人、幼より勉學風に銀行界に入り、後吉井川電力株式會社勝山支店長として永年勤続せしが、再び山陽銀行に入り遂に拔擢せられて、香川縣高松支店長とな

掛となり、臺南支店勤務に轉じ、大正九年販賣部長たり。昭和五年三月社長及同業者麥酒販賣株式會社を設立するや入りて臺南出張所長となる。臺南外商會々長の名譽職に推され、臺支貿易の將來に貢献多大ならんと期待せ



大字入田の門に生る。掛中學出身。四十五歳。岡山師範を卒業、校長を経て、大正十四年吉備郡視學を拜命、翌年岡山縣視學となり、後西大寺小學校長たり。上道郡教育會長、全小學校長會長として寸暇なき活動をなしつつあり。趣味は俳句霞堂と號す。

品其令名大いに擧る。
動八等 關 順三 廣島市竹屋町一二九
明治二十五年津山北町に生る。四十三年津山中學卒業、上京上野松村寫真館に入りて、その技術の修得に努力勵精、大正元年より五年に至る。獨特たる技を修めて大正七年現在の地に開業今日に至る。市内各小學校は固より高等師範學校、文理科大學其の他殆んど之れに集注し、其の技術其の人格共に市内に高し。曾て海軍一等主計兵として吳海軍團主計監たり。

妹尾與太郎

高松市内本町

君は眞庭郡落合町の人、幼より勉學夙に銀行界に入り、後吉井川電力株式會社勝山支店長として永年勤続せしが、再び山陽銀行に入り遂に拔擢せられて、香川縣高松支店長となり、今尙全地に留まりて實業界に在り。其の頭腦性格眞に銀行家として最適と謂つ可し。詩文に巧なり。

世良萬龜男



明治十五年廣島縣深安郡道上村に生る。岡山普通學校を経て明治三十五年岡山師範

範を卒へ、後月郡高屋第一小學校訓導拜命、全四十年全校長に任せられ、後全郡井原小學校校長兼井原公民學校校長、井原幼稚園長、井原青年訓練所主事等たりしが、昭和九年三月上道郡西大寺尋常高等小學校長に榮轉せり。昭和三年勳六等に敘せられ、翌年奏任官を以て待遇せられ從六位に敘せらる。今次大演習に際しては賜饌の光榮に浴す。當縣教育會、縣教職員互助會等の幹部たり。

伏源旅館主 瀬戸健二郎

小田郡笠岡町

君は伏源の店主として笠岡町代表の旅館、割烹を以つて絶大なる好評を博す。文化的衛生的設備に到らざるなく接客應對頗る懇々、又風情を添へて旅情を慰む。輒近小田郡宇戶村鬼ヶ嶽、藥師温泉に其の支店を設け、四時遊覽の客跡を絶たず。鬼ヶ嶽は古來新庄溪と稱し、豪溪、天神溪と共に備中三景の一たり。

妹尾虎市

臺灣臺南市本町二丁目



明治二十四年十一月後月郡井原町に生れ、與護館に學び岡山實業學校卒業、

歸郷井原織物所勤務三年、決意して明治四十五年二月渡臺台北市近藤株式會社に入り販賣

關 當純

明治十四年津山市の名望

家に生る、幼名太田力雄。三十五年津山中學卒業、同三十九年早大政治科經濟專攻の業を卒へて歸省す。關家の養子となり名を當純と改む。養父當公翁は元津山銀行頭取として藉名あり、其の關係上同銀行常務取締役となり、在職四年後津山和紙取締役津山瓦斯監査役となる、關係事業鮮からず、岡山證券株式會社取締役、山陽自動車株式會社々々長等のころ實業界に重きを爲す、家に二男四女あり。

關 藤 碩 衛

兒島郡日比町

小田郡陶山村の人たり、曾て大阪府會根崎の泰西學館に學び、大正九年岡山縣赤磐郡長に任せられ、三年にして淺口郡長に轉じ、同十三年迄在任。恰も郡廳廢止期に方り隣郡都窪郡倉敷町の懇望に依りて退官して町長の職に就けり。多年懸案たりし倉敷市制實施の大業を遂げて昭和二年市制施行と共に初代の倉敷市長に就任し、諸般の施設を完成翌三年勇退の意を以て職を辭す。然るに閑地に入るを許さず、四年兒島郡日比町長に選任せられて今日に至る。丈子夫人との仲に二男あり、長男忠雄氏は醫學博士なり。

關 圓 次 郎

西ノ宮市川東町

明治四年十月御津郡福濱村橋本養太郎氏二男に生れ、幼時岡山市富田町關家に養はる。現北大名譽教授本邦農學界の權威橋本左五郎博士は其の實兄なり。初西徹山先生の源泉學舎に學び明治二十年文運の漸く隆昌に向はんとするに先ち主唱して私立關西中學を創立し、天城屋敷に校舎を置く。又御野銀行常務取締役に就任、後引責自職し、杉山岩三郎氏等と共に伊勢鐵道を創立、更に大阪カタン糸製造株式會社に關與して社長となり、三十六年知友石黒行平氏等と共に大阪に賣藥會社を起し、又株式及米穀仲買店の經營に任じ大いに活動する所等ありしが先年斷然事業界を去り、西宮市郊外に其居を定め、只管仙雲野鶴を友として晩年を樂しむ。米子夫人との間に喜和子嬢あり、西宮開成病院院長醫學博士關嘉一氏はその愛婿なり。

大日本酒麥株式會社取締役
神中鐵道株式會社取締役

高杉 晋 東京澁谷區永住町四一

明治元年十月生れ津窪郡三須村高杉幸之助氏の令弟。笈を負ひて東都に上り、専ら法制經濟の學を修め、後藤象次郎伯の知遇を得て、明治三十一年當時の帝都交通機關たりし、品川馬車鐵道會社に入りて支配人に擧げらる。翌年日本酒會社に入り、三十九年大日本酒株式會社成立するや擧げられて營業部長となり、商務課長を兼ね。爾來其の要路に立つ。たき夫人との間に三男三女あり。長男茂氏はオックスホード大學卒業三菱信託に勤務せらる。

株式會社 尾崎商店輸出部
高田 克治

兵庫縣武庫郡精道村芦屋古屋敷
店舖 大阪市北區老松町二丁目



君は明治二十二年
兒島郡琴浦町尾崎雄一氏二男に生る、現尾崎商事株式會社長尾

崎邦藏氏の實弟早島に於ける先代の生家を繼ぐ。大阪明星商業を卒業後は長兄邦藏氏琴浦町本店にあり、君大阪支店に據つて相呼應して内地各府縣より遠く支那、滿洲に亘りて綿布及内外メリヤス、加工線布を始め衛生衣絨、腿帶子、自造批發等の移出販賣に従事す。もと尾崎商店は先々代邦藏氏備前織物の全國的販路の擴張を目的として創業せるに初り、晩年大阪支店は適當の經營者なかりし爲閉鎖せるも、先代其遺業を承けて君を大阪に送り以て今日に至れり。としる夫人との間に一男あり。

玉野 知義

岡山市中出石町

君は明治九年生れ、和氣郡片上町の人。縣會議員に當選、幾許もなく衆望を負ふて議長に推さる、後昭和三年立憲政友會公認立候補して衆議院議院に當選せり。又かつて郡書記たりし事あり。君は所謂烟眼の士にして早くよりタクシー事業の將來に着眼し、岡山タクシー會社を起し現に其の社長たり。

高戸 郁三

君は淺口郡鴨方の人、生家は地方の名門なり。岡山中學をへて第三高等學校に入りしも嚴父天折に會して中途退學家政の衝に當る。明治三十二年縣會議員に當選、在職十二年參事會員を兼ね、或は議長として縣政に盡瘁して功勞からず。四十四年後進に之を譲りて實業界に投じ、各種銀行會社重役又は社長として重きをなせり。

高田市三郎 津山市東新町二五



君は明治六年八月眞庭郡川上村出身、早くより煙草製造に従ひしが三十八年斯業の官營移管に際して之を廢業し、肥料商を營み、四十年津山市に轉じ、紙の輸出並に製紙原料の賣買を以て立ち、逐年盛大を極め遂に津山製紙業株式會社を創立して、その取締役となり、傍ら中尾製紙株式會社監査役たり。長男豊治氏は津中出身、市聯合青年團副團長、津山市東新町青年團長等の職にあり。

高島 定次郎

津山市二ノ一七

君は明治十四年生れ兵庫縣揖保郡御津村の人。三十年前津山に來りて海產物販賣を始む。性來理財の材に長じ事業發展、今日の大を成す。津山海陸物產株式會社として代表者となる。美作、備北、山陰、兵庫縣西部方面を取引先となす。君外にありては飽までも活動的なれども、内にありては長唄を趣味として、家庭頗る圓滿前途亦多幸なりと云ふべし。

田外 速

久米郡佐良山村大字高尾

君は明治十八年四月生れ、四十一年岡山師範の卒業。久米郡秀實尋常高等に奉職。教員生活の傍ら書道に精進し、大正二年中等學校圖書科教員免許狀を獲得し、直ちに岡山縣津山高等女學校教諭に任せらる。君快活豪毅、しかも藝術家的良心を忘れず、座談巧みなり。七年八月退職、今や悠々として彩管の道に親しむ。家庭には夫人との間に三男あり。

多山 千代子 廣島市革屋町
廣島縣愛國婦人會支部幹事

明治二十年山口縣辻川家に生れ、三十七年

十七歳にして廣島市播磨屋町の多山家に嫁す

。夙に淑徳の譽高し、大正の初年廣島縣愛國

君は山口縣萩藩士明治十九年生れ。縣立荻中學校卒業四十年廣島高師本科英語部を卒業し、縣立廣島中學、奈良女子高師、大分縣立杵碧中學、全大分中學、岡山一中教諭を経て、大正十年五月岡山縣立高梁中學校長となり、十三年八月首記に任補せらる。本縣教育界に

玉野知義 岡山市中出石町

君は明治九年生れ、和氣郡片上町の人。縣會議員に當選、幾許もなく衆望を負ふて議長に推さる、後昭和三年立憲政友會公認立候補して衆議院議院に當選せり。又かつて郡書記たりし事あり。君は所謂炯眼の士にして早くよりタクシー事業の將來に着眼し、岡山タクシー會社を起し現に其の社長たり。

生活の傍ら書道に精進し、大正二年中等學校圖書科教員免許狀を獲得し、直ちに岡山縣津山高等女學校教諭に任せらる。君快活豪毅、しかも藝術家的良心を忘れず、座談巧みなり。七年八月退職、今や悠々として彩管の道に親しむ。家庭には夫人との間に三男あり。

廣島縣愛國婦人會支部幹事
多山千代子 廣島市革屋町

明治二十年山口縣辻川家に生れ、三十七年



十七歳にして廣島市播磨屋町の多山家に嫁す。風に淑徳の譽高し、大正の初年廣島縣愛國婦人會より選ばれて支部幹事の職に

就き、常に支部長を佐けて事業の促進發展を圖る。廣島は軍事の樞要地區を占め繁瑣を極む。夫人は此の間に介在して迎送應接、慰撫歎待の要衝に當り、在營兵、戦病歿者遺家族慰問等懇切周到を極め感激せざるはなし。大正十四年愛國婦人會總裁宮殿下より特別有功章を賜り、今次の特別大演習には召されて賜饌の榮を荷ふ。

竹久豊 津山市京町七九

君は明治二十七年生れ勝田郡植月村の人。第一回岡山醫卒業生。中學卒業後直ちに津山銀行に入り、山陽銀行を経て中國銀行に轉じ現在に及ぶ。君俳句を好くし陶牛と號す。八年前山陽吟社を組織し津山市の同好の士を募る。淡路の俳人、故高田蝶衣に師事す。最近に於ける秀句に

移り住みて袖ともつかぬ一樹かな
土手高し芒の上の秋の雲

岡山市清輝小學校長
高杉 藹 岡山市西中山下五三

明治二十三年生れ、關西中學校をへて岡山師範二部を卒業、市内小學校に勤務昭和六年旭東校長全清輝校長となりて現在に及ぶ。性



極めて謹嚴、寡黙にして身を以て人を率ゆ。輕佻浮薄、形式虚色に流れんとする時流を匡正し、逐時内容の充實を圖るの意氣頗る盛んにして多大の囑望を負ふ。

岡山縣立津山中學校長
玉木正行 津山市椿高下

君は山口縣萩藩士明治十九年生れ。縣立荻中學校卒業四十年廣島高師本科英語部を卒業し、縣立廣島中學、奈良女子高師、大分縣立杵碧中學、全大分中學、岡山一中教諭を経て、大正十年五月岡山縣立高梁中學校長となり、十三年八月首記に任補せらる。本縣教育界に貢献する所多く其名聲高し。謠曲を楽しむ。夫人との仲に三男あり。

高松農學校教諭
高田馬治 岡山市上石井二八五



明治十五年小田郡吉田村に生る、三十八年縣立農學校獸醫科を卒業、埼玉縣獸醫

拜命、同年一年志願兵として野戰砲兵第五聯隊に入隊、滿期退營後陸軍三等獸醫に任じ正八位に叙せらる。四十四年母校教諭心得を拜命次で同校教諭に任せらる。大正十五年五月皇太子殿下岡山縣下行啓の砌り拜謁を賜り、今次の特別大演習の砌りには親しく天顏に咫尺して御前講演の光榮を荷へり。現に舎監を兼任し、岡山縣實業補習學校教員養成所教師囑託たり。

關西信託常務取締役
瀧本得之 大阪市東區北濱四ノ二六

明治二年生れ後月郡井原町瀧本丈太郎氏の實弟にして高等商業を卒へて米國に留學すること三年、歸朝後紡績業に従事して印度を視察せり。後大阪山口銀行に入り金融業界に在ること十年西支店長となる。大正二年池田寅次郎氏等と相謀りて中央生命相互保險株式會社を創立し、取締役支部長となる。四年三月更に關西信託株式會社の改革に際し入社して今日に至る。

高谷清一郎 神戸市六甲八幡

上房郡高梁町の出身、大正八年明治大學卒業、辯護士試験に合格し在大阪辯護士森下龜太郎氏の事務所に入りて實務研究を積み後神戸市に於て辯護士を開業、昭和二年兵庫縣會議員に當選、參事會員となり兵庫縣方面委員、神戸辯護士會常議員として活躍せり。趣味は演説、信仰は立憲民政黨なりとは君の裝らざる言、將來を期待せらる。

坂井原村村長
平 房 吉

君は明治五年廣島縣御調郡坂井原村に生る。四十三年助役に當選し爾來村治の上に大いに貢献し、大正二年村長に推薦され現在に至る。傍ら坂井原産業組合長、坂井原村農會長等としてもその名聲噴々たり。基本財産造成、農事改良、耕地整理、生活改善、校舍建築、水力電氣設置等の事業も順次着々進捗す。事業の完成の日近きにあり。長男省之氏農業大學を卒業し官吏、二男壽氏は高商卒業會社員たり。



明治十六年淺口郡金光町岡野勝二の二男として生れ、

武部松太郎氏の女婿として入り、養父を助けて家業に精勵、小倉織の製織販賣に努力、遂に事業の發展に伴ひ備前物産株式會社を創立し、之れに事業の一切を譲渡し、専務取締役として經營の衝に當る。著實穩健なる經營振りは愈々信用を博して、製品の改良と共に益々事業の伸展を見今や本縣織物業界の爲めに大いに氣を吐く。君又日露戰役に従軍勳八等旭日章を受く。

大阪莫大小株式會社取締役
高田象一 大阪府下池田町

明治十五年四月岡山縣兒島郡琴浦町に生る、三十五年岡山縣立岡山中學校、第七高等學校を経て、京都帝國大學法科を卒業し、大阪福島紡績株式會社に勤務せしが、後大正二年大阪莫大小株式會社に入り、累進して現在に至る、他に明正紡績株式會社重役たり登山と魚釣を娛しむ。

春屋商店主
田中儀平 岡山市上之町、内山下

春屋の創業は約百五十年前君はその四代目、荒物雜貨を業として刻苦精勵今日に至る。明治四十五年四月現在地に於て、ガンソン石油、鑛油の販賣を開始す。スタンダード會社代理店、小倉石油株式會社、ダンロップタイヤ、三星印平板等の特約店並にミサミ工業株式會社岡山縣下代理店、日の本足袋株式會社、及アサヒ地下足袋等の岡山、香川縣下の特約販賣をなす。又主要地にポータルタンク二十數台を設置して一般の供給に應ず。上道郡西大寺町商工會議員たり。常子夫人との間に一男一女あり、息哲馬氏は早大商科卒業家事に従事。

小田綿絲常務取締役
武 鐘 卓 衛 兒島郡郷内村

明治二十一年生れ、兒島郡郷内村の人。十八歳にして郡内特有の足袋地、盲紺飛の機業に従事して巨利を收め、大正八年資本金十萬圓を以て大正織布株式會社を創立取締役工場

プッシュユ萬年筆大元堂主
田中富二郎 大阪市西區靱中通二丁目

君は苦田郡西加茂の出身、酒造家田中清一氏二男に生る。今日大阪大元堂プッシュユ萬年筆製造販賣元下味原に製造工場を、小賣部を横堀町に置き一代にして巨萬の富を積む。實に君は立志傳中の人、二十四年二十四歳僅かに十二錢を懐にして郷土を立ちて大阪に出で、活版小僧、菓子行商等具に社會の辛酸苦楚をなめ、最初松島千代崎橋畔に古本商を經營する迄粒々辛苦到底筆舌の及ぶ所にあらず。後滿洲に渡りて田中洋行を設立、關東都督府御用商人となつて在留邦人間に絶大の信用を得、次で貿易商に變り幾もなくして大阪に復へる。大正六年プッシュユ萬年筆を創案して製造に着手し之れを專業とするに至り商勢日に月に發展し遂に今日の大成を見るに至る、眞に惰夫をして立たしむものあり。君又創造の才に秀で今日廣く學生間に愛用さるゝ、ズツカ製カバン並に便所洗滌器は何れもその發案にかゝり專賣特許を得。後自ら主唱して發明家保護會を創立、會長となり、全出品會々長に擧げられ、現に發明協會主、大阪萬年筆製造組合副組長、大阪平野町聯合會顧問等に任せり。君は又情誼にあつく最近初て錦衣郷土にかへり、神社佛閣に多額の寄進改修を行ひ、後進青年に修養の資を投せり。

只友一富

君は明治二十九年苦田郡上加茂村大字青柳に生る。幼より頭腦明晰、關西中學校を卒業して岡山醫科大學を卒へたるは大正十一年なり。直後津山市中島病院に助手として勤務の傍ら研鑽懈らず、大正末年獨力醫院を加茂町に開業し爾來、専ら地方醫療の爲に貢献し今やその令名愈々高し。

武部茂平治 兒島郡莊内村

主任となり、専ら雲齋織の製造販賣を經營し、更に同年讃岐豊



濱に西讚織物株式會社を創立し、後資本金十萬圓に

谷 本 豊 岡山市内田本町

當選二回の後、陸軍參與官となりしも、普選第一回到落選職を辭す。君の實兄小橋藻三衛氏も元代議士として令名あり。

君は明治二十四年後月郡高屋町に生れ、大正二年師範學校第二部を卒業す。

二部を卒業す。

只友 一富 君は明治二十九年苦田郡上加茂村大字青柳に生る。幼より頭腦明晰、關西中學校を卒業して岡山醫科大學を卒へたるは大正十一年なり。直後津山市中島病院に助手として勤務の傍ら研鑽懈らず、大正末年獨力醫院を加茂町に開業し爾來、専ら地方醫療の爲に貢献し今やその令名愈々高し。

西大寺町商工會議員たり。常子夫人との間に一男一女あり、息哲馬氏は早大商科卒業家事に従事。

小田綿絲常務取締役
武 鐘 卓 衛 兒島郡郷内村
明治二十一年生れ、兒島郡郷内村の人。十八歳にして郡内特有の足袋地、盲紺飛の機業に従事して巨利を收め、大正八年資本金十萬圓を以て大正織布株式會社を創立取締役工場



主任となり、専ら雲齋織の製造販賣を經營し、更に同年讀岐豐濱に西讚織物株式會社を創立し、後資本金十萬圓に増資して

郷内織布株式會社と改稱し、更に十年合併して資本金三十六萬圓小田綿絲株式會社と改め常務取締役となり、業務を擔當繼續して今日に至る。君は此外個人經營の呼松織布工場、武鐘織布工場を併業し、主として帆布に屬する天幕地、靴下地、足袋用雲齋を製造し阪、神、東京方面に販路を有し業績倍々可良なり、君敬神の念に篤く岳父の業を繼ぎて呼松黒住教會長たり。



正二年師範學校第二部を卒業後、後月郡江原、出部訓導を経て、十二年縣實業補習教員養成所卒業、吉備郡吳妹實補助教諭、後月國民學校教諭として勤務、昭和四年御津郡福濱實補校長兼、福濱高等實踐女學校長に榮轉せり。七年更に岡山市福濱小學校長となり前職を兼務して今日に至る。

町長 高橋不竭太 兒島郡兒島町裨田

高 原 征 吉 岡山市上之町

舊岡山藩士族、代々人材を出して世に顯はる。祖父覺治氏は劍道に達し壯年にして師範に重用せられ、明治成辰の時奥州鎮撫の軍に従ひ各地に轉戦して武名あり。先考準太郎氏は小學校長として育英に従事し、後小田村時代の村長として多年村政に執掌した自治功勞者の一人である。君はその長男にして明治二十八年八月生、縣立農學校獸醫科に學び、卒業後姫路聯隊に一年志願兵として入隊三等軍醫に任官して歸る、後岡山地方專賣局味野出張所に奉職すること二ヶ年、大正八年琴浦町助役に推擧され、十四年小田村長に當選して其の職に就き、昭和三年町制を實施して小田村を兒島町と改稱、引續き町長として在職、町農會長、自警團長、消防組頭、衛生組會長、貯金組會長等を兼任す。尙眞に在郷軍人分會長として昭和二年迄約二十ヶ年。家庭に三男五女あり。

高 島 克 己 大阪市西區靱中通三ノ二

明治十七年兒島郡銚立村高島壽吾氏三男に生る。三十三年十七歳にして大阪に出で城南商業學校に學び、肥料商島羽商店に入り實地の研究に餘念なかりしが、偶々日露の役起るに及び召集せられて従軍す。其の間に主家の廢業に依り四十三年、獨立肥料卸問屋を開業、内外産の肥料を販賣して大阪近縣に販路を得業態愈々隆昌を極む。敏子夫人亦誠實にして内助の効多し。

高草美代藏 小田郡矢掛町大字矢掛

君は明治二年生れ、邑久郡朝日村小橋家の人。閑谷巖に學び、東京水産講習所卒業後、佐賀縣唐津中學教諭、岡山農事講習所講師を経て、福井縣小濱水産學校長に進み、辭任後政界及實業界のため活動し、小田郡會議員、同郡會議長、縣會議員、同參事會會員、縣水産會正副會長、清涼飲料水同業組會長、眞田組合副組長、縣除虫菊同業組會長、小田後月蒲荷同業組會長、備中電氣及東兒島電氣各專務取締役等となる。かくて革新俱樂部より出で

橋 鹿 一 岡山市東山官舎

君は明治二十三年兒島郡灘崎村生れの人、大正元年十一月兒島郡役所書記兵事係に任せられ、十年九月岡山縣屬拜命、兵事事務を担任し、傍ら帝國軍人後援會岡山支會幹事を囑

託せらる。昭和六年十二月勳八等に叙せられ



、昭和七年三月軍
事功勞者
として海
軍大臣よ
り表彰せ
らる。前
途寔に洋
々たるも
の存す。

高橋正雄

浅口郡金光町大谷

明治二十年後月郡高屋村生れ、早稻田大學文學部哲學科卒業。天資溫良謹直、信義に厚く其の言行眞に一世の師表たり。學校卒業後直ちに金光教本部、金光教教義講究所にある事久し、後驟然退かる。曰く自己の何ものにもあらざることに氣つき、其一物のまゝ生かざるゝまゝに生き、爲さしめらるるまゝに爲すと。求められて著すものに道を求めて、私の願、素、生のよろこび、ひとりごと、神に語る、にひ芽、などあり。

岡山醫科大學長

田村於兔

岡山市門田一〇五三

福島縣安達郡二本松町の生れ、君は幼時より識見、人格兼備稀に見る秀才なりき。明治四十一年福岡醫大(現在の九大福岡醫大)を卒業助手として同校にとゞまり、同四十三年其の講師となり、翌年助教授たり。大正四年九月岡山醫專の教授となり、昇格大正十一年同大學教授、昭和六年前學長田中文男博士の後を受け現職たり。令夫人との間に四男三女あり。

高原耕一

岡山市中出石町

君は多年警察界にあり格勤精勵を以て知らる。鬱勃たる青年の意氣よく小官吏として甘すする能はず、常に政界に志し偶々市會議員總選舉に際し、市政萎微甚だ振はず混濁せる市會の状態を見て遺憾とし、此れが淨化に力めんと斷然職を辭して一戦を交へ、當選の榮冠を得、以來至誠以て事を起し其の存在を認められて重きをなせり。

岡山第二中學校長

武居魁介

岡山市門田屋敷

山口縣生れ廣島高等師範學校卒業明治四十五年本縣師範教諭として來任、後本縣視學となり縣下初等教育の爲めに直接指導監督の任

に當り盡瘁すること數年。岡山第二中學校新設せらるゝや校長に榮轉今日に至る。多年の蘊蓄を傾けて熱誠寢食を忘れて事に當り、其の成績著々として顯現す。

翁軒主 田邊甲子太

岡山市紙屋町

翁軒は岡山市に於ける菓子屋としての老舗なり。開業は遠く徳川の中世に始まる。代を重ねること五代、羊羹を以て最も名あり。君は其の現主、濃厚篤實の士にして製造方法に就ては常は研究、新味を加へ商況愈々活氣を呈す。今回の行幸に際し、献上、天覽を賜り且つ御紋菓御調進の光榮を有す。

後月郡明治小學校長

高取秀雄

後月郡明治村

君は兒島郡灘崎村片岡の人、明治四十五年岡山師範第二部の卒業、性豪膽にして快活、人に接して明朗、各小學校訓導として認められ、現に後月郡明治尋常高等小學校長たり。婦人會の指導、補習教育の徹底に力め、其の成績大いに見るべきもの多く、村民の信望高し。

縣立廣島病院院長

醫學博士 谷野敬三

廣島市上水町三

明治二十年淺口郡富田村に生る。岡中出身第六高等學校を経て、大正二年東大醫科大學を卒業、直ちに同校助手となり近藤外科教室に研究。大正八年松江病院副院長、同九年縣立廣島病院外科部長、同十二年再び東大醫學部に研究、同十五年醫學博士となり。昭和三年縣立廣島病院長事務取扱、翌年病院長となり現在に及ぶ。令弟二人共に醫學博士金澤、名古屋醫科大學教授たり。



潮煎餅本舗 高木松月

廣島縣忠海本町通

廣島縣忠海の名産潮煎餅は元祖松月堂高木商店の製造にかゝり、廣く愛用せられ他の同店製菓と共に各地品評會、共進會、食料品評會等に出品して名譽賞牌を受けしこと枚舉に遑あらず。畏き邊りよりも屢々御買上の光榮に浴す。

從五位勳五等

辯護士 田村常造

津山市北町四

明治十三年生れ、御津郡長田村井原の人。明治大學を卒業後、高知、神戸、和歌山、岡

山地方裁判所津山支部、廣島控訴院



月文學博士の學位を得、本邦學界の泰斗たり。壽枝夫人は石川縣士族北村家の出二男あり。

清酒釀造業 多胡 薫

勝田郡勝加茂村

樽家は作東の名望家、代々の清酒釀造業、加葉五葉、増乃井、旭等の名聲は近郷は勿論遠く阪神、東京に響く。晩近副業とせる素麵さゝなみは同店獨特の技術によつて原料精選

すする能はず、常に政界に志し偶々市會議員
總選舉に際し、市政委微甚だ振はず混濁せる
市會の狀態を見て遺憾とし、此れが淨化に力
めんと斷然職を辭して一戰を交へ、當選の榮
冠を得、以來至誠以て事を起し其の存在を認
められて重きをなせり。

岡山第二中學校長
武居魁介 岡山市門田屋敷

山口縣生れ廣島高等師範學校卒業明治四十
五年本縣師範教諭として來任、後本縣視學と
なり縣下初等教育の爲めに直接指導監督の任

從五位勳五等

辯護士 **田村常造** 津山市北町四

明治十三年生れ、御津郡長田村井原の人。
明治大學を卒業後、高知、神戸、和歌山、岡



山地方裁
判所津山
支部、廣
島控訴院
判事等に
歴任、大
正十四年
津山市に
於て辯護

士を開業す。君私利を希はず公共正義のため
に透徹せる辯護の熱誠を以て業に應ず。龜代
夫人との間に三女あり、書畫を好みその鑑識
高し。

大成火災大阪支店長

高野孫一 大阪市住吉區橋本町天下茶屋

明治十七年久米郡稻岡南村、高野奎太郎氏
長男に生る。津山中學、東京中學に學び四十
三年中央大學英法科卒業。直ちに合名會社大
倉組に入り會計係勤務、漸次社長大倉喜八郎
男に認められ知遇を得て全社に重用せられ大
正九年男に直屬して東海紙料株式會社常任監
査役に拔擢され、十一年更に全系台灣新高製
糖株式會社常任監査役に榮轉、東海監査役を
兼ねぬ。十五年その製糖會社が武藤山治氏主宰
の大日本製糖株式會社の手に移るに及びて退
社し、昭和三年新しく大成火災海上保險株式
會社東京支店に入る。翌年一月抜かれて一躍
大阪支店長に擧げられ神戸出張所長を兼ねて
今日に至る。眞に獨力苦學立志傳中の一人、し
かも自らは今日ある全く嘉納治五郎先生の訓
育、花岡敏夫博士の薰陶に受くと師恩を感謝
して得とす。

京都帝大教授

大宰施門 京都市上京區三本木中之町



大文科卒業、同校講師第一高等學校教授、京
都帝大助教授となり現在に及ぶ。昭和六年九

明治二十
二年四月
一日岡山
市に生る
。岡山一
中、第一
高等學校
を経て大
正二年東

同九年縣立廣島病院外科部長、同十二年再
東大學醫學部に研究、同十五年醫學博士とな
り。昭和三年縣立廣島病院長事務取扱、翌年
病院長となり現在に及ぶ。令弟二人共に醫學
博士金澤、名古屋醫科大學教授たり。

潮煎餅本舗 **高木松月** 廣島縣忠海本町通

廣島縣忠海の名産潮煎餅は元祖松月堂高木
商店の製造にかゝり、廣く愛用せられ他の同
店製菓と共に各地品評會、共進會、食料品評
會等に出品して名譽賞牌を受けしこと枚舉に
遑あらず。畏き邊りよりも屢々御買上の光榮
に浴す。

月文學博士の學位を得、本邦學界の泰斗たり。
壽枝夫人は石川縣士族北村家の出二男あり。

清酒釀造業 **多胡 薰** 勝田郡勝加茂村

檜家は作東の名望家、代々の清酒釀造業、
加葉五葉、増乃井、旭等の名聲は近郷は勿論
遠く阪神、東京に響く。輓近副業とせる素麵
さゝなみは同店獨特の技術によつて原料精選
、製法改良の上發賣せるものにして品質良好
、主として關東方面に得意を有す。君才氣潑
、澗商機把握に明敏、今や作州に於ける實業家
として、政治家として重きをなし前途洋々た
るものあり。

高山吉太郎 岡山市上出石町一二九



君は明治
八年生れ
三十年醬
油釀造業
を創め刻
苦精勵、
家道日を
追ふて隆
盛に越さ
信望を高め、現に戸主會長、町總代弘西獎學
會幹事等の事に熱心盡瘁す。日蓮宗に歸依し
、壽子夫人との間に二男二孫あり。

岡山縣會議長

田口梁兵 苫田郡香々美南村公保田

岡山縣會議員、縣參事會員、香々美南村長
、縣町村會副會長、苫田郡町村會會長、縣農會
長、郡農會評議員、郡畜産組合長、朝鮮興業
株式會社社長等の顯職を兼任し、地方自治と云
はず、縣政界と云はず、將た亦實業界と云は
ず、八面縱横に馳驅して敏腕を揮ふ、現に前
記縣會議長たり。家は播州赤穂の藩士の後、
代々庄屋を勤む。君は明治八年生れ、長男朝
太郎氏は津中出身、現に青年團長たり。

高田爲義 眞庭郡川東村田原

明治十八年生、父祖代々の名望家なり舊幕
時代に祖父敬之助氏は庄屋を勤め、父信一郎
氏亦後を繼ぎ維新後は戸長を拜命し後村長た
ること久し。明治十八年長男として生る。三
十九年慶應義塾を卒業後四十四年久世稅務署
管内所得稅調查員となり、再選重任す。九年
眞庭郡會議員に當選し、昭和二年川東村々長
となり村農會長を兼ねぬ。第一合同銀行、中國
銀行、岡山縣農工銀行の重役として地方の金
融界にも貢獻淺からず。

田邑村長 田口寄文治



君は明治十三年苦田郡田邑村に生る、三十二年岡山中學を卒業、一年志願兵とし

て歩兵第三十九聯隊に入隊、三十七八年の日露戦役に従軍し陸軍歩兵中尉に任ぜられ、功に依り勳六等單光旭日章を授けらる。越へて三十三年選ばれて田邑村長の職に就く。爾來二十三年間現職にありて村治の發展に努力す。傍ら大正六年岡山縣濟世顧問に囑託、又田邑信用購買組合長、村農會長、苦田郡町村長會副會長等にあげられ、昭和六年全國町村長會長及び岡山縣知事より何れも自治功勞者として表彰せらる。君は又地方篤農家にして大日本農會總裁宮殿下より二回に亘り、名譽賞並に綠白綬有功章を親授せられ、今次大演習には實業功勞者として單獨拜謁、賜饌の光榮に浴す。夫人との間に四男あり。長子光臣氏東大法科出、大阪商船に勤め、次男久男氏廣島高師出の教諭。實弟易之氏は地方書記官中に令名あり。

田原藤一郎

阿哲郡神代村下神代

明治四年生れ、君少時既に穎悟奇才あり、輿望を擔つて、縣會議員に當選すること前後四回、縣參事會員を兼ね。又其の議長たりし事あり。阿哲畜産株式會社專務取締役をばじめ、郡畜産組合長、縣畜産聯合會副會長、縣煙草耕作組合聯合會副組合長等を兼ね、産業上の寄與功勞多し。五男二女あり、各己に立身榮職にあり。

高橋義惠

小田郡笠岡町

後月郡共和村の人、明治十八年生れ、四十年明治大學に業を卒へ、臺灣總督府警察部に入り、植民地の警備保安に竭すこと五年、大正七年歸郷小田郡神島外村助役に就任、同八年小田郡書記となる。又後山陽新聞、大阪朝日新聞記者として、獨特の論説を吐き大衆の輿論を喚起し政治的自覺を促し、社會の木鐸として操觚界に雄飛す。大正十二年縣會議員當選、參事會員となり、更に副議長となる。昭和二年再選せられて現在に及ぶ。

田中靜三

姫路市福中町三九



明治十七年英田郡江見村の出生、少壯にして姫路市に至り舶來雜貨商岡崎商店に

入り、勤績十二年間刻苦勉勵明治四十四年二十七才にして獨立全市西新町にメリヤス雜貨卸商を始む。津山以東幡但一圓に店員十數名を特派して販路の擴張に努め、今日の信用と名聲を博せり。趣味は謠曲、伊久榮夫人との仲に二男あり。

立石章

兒島郡日比町大字五

明治三年生れ二十五年岡山師範を卒業し、郡内小學校長として令名を馳せ、味野實科女子校長、郡立女子教員養成所教師等兼任、郡教育會副會長の要職に當り、縣下教育界の重鎮として功績顯著なるものあり。大正十一年退職の後青島渡航、調査研究すること三年大いに得る處ありて歸る。昭和三年衆望により町長の職に就く。治績著々として見るべきもの多し。一男二女あり。

且亮献

眞庭郡勝山町

家は勝山藩主三浦氏の臣天正三年三浦氏の没落と共に歸農、苗字帶刀御免庄屋を勤役す。父君基平氏は庄屋、戸長より次いで初代町長となり、自治の基礎時代に功勞多かりし人。君は明治四年生れ、二十五年岡山師範卒業後小學校訓導、校長として久しく初等教育界にあり、退職後大正十三年町長に當選し昭和三年再選今日に及ぶ。郡町村長會長、養蠶組合長、乾爾倉庫總代、町林野火防組合長等兼任、曾ては郡會議員、同參事會員、郡會議長等に歷任す。三男三女あり。



中田猪作

明治二十五年吉備郡高松大字高松に御津郡

生れ、大正二年岡山師範卒業、直ちに御津郡

中山小學校訓導拜命、七年吉備郡庄内小學校に轉じ、昭和二年邑久郡豊原小學校長に榮轉、五年吉備郡倉山小學校長拜命今日に及ぶ。傍ら婦人會、男女青年團幹部として盡瘁内外の信望あつし。植物學の研究を續け、その該博の知識及珍奇なるコレクションによつて斯界に貢献す。歌子夫人との間に一男一女あり。

接其の支配の責に當り効績顯著なり。岡崎氏が同社を山陽中央水電株式會社系に讓渡するに際り入りて常務取締役となり、愈々其の重きに任じ格勤精勵益々社運の隆盛を期す。山陽新聞社常務取締役 岡山市一番町三八 高見章夫 明治十年吉備郡吳妹村尾崎の生れ、三十三

岡山縣會議員
高橋義惠 小田郡笠岡町

後月郡共和村の人、明治十八年生れ、四十年明治大學に業を卒へ、臺灣總督府警察部に入り、植民地の警備保安に竭すこと五年、大正七年歸郷小田郡神島外村助役に就任、同八年小田郡書記となる。又後山陽新聞、大阪朝日新聞記者として、獨特の論説を吐き大衆の輿論を喚起し政治的自覺を促し、社會の木鐸として操觚界に雄飛す。大正十二年縣會議員當選、參事會員となり、更に副議長となる。昭和二年再選せられて現在に及ぶ。



中田猪作

合長、乾商倉庫總代、町林野火防組合長等兼任、曾ては郡會議員、同參事會員、郡會議長等に歷任す。三男三女あり。

中山小學校訓導拜命、七年吉備郡庄内小學校に轉じ、昭和二年邑久郡豊原小學校長に榮轉、五年吉備郡倉山小學校長拜命今日に及ぶ。傍ら婦人會、男女青年團幹部として盡瘁内外の信望あつし。植物學の研究を續け、その該博の知識及珍奇なるコレクションによつて斯界に貢献す。歌子夫人との間に一男一女あり。

立石敍一 津山市二宮

立石家は作州に於ける名門として知らる、先代立石岐氏の人格崇高なりしは、今尙ほ記憶に新なるものあり。君は東大法科を卒業し、常に東都實業界にあり。母堂家において婦人會の指導、幼稚園の經營に當り、廣く社會事業に盡瘁して善を施し、慈を垂れ、立石家の聲望更に高し。

武川笹一 津山市田町

君は苦田郡穀物検査所々長の要職にあり、斯道に關する見識は蓋し縣下其の右に出づるもの稀にして權威者として重きをなす。濃厚なる君子にして社交に長じ俗臭を脱す。されば衆望厚く成績大いに見るべきものあり。書を能くす。

高井愼一郎

明治十年眞庭郡勝山町に生る。四十年久世町長に就職、四十一年株式會社久世貯蓄銀行



創立委員、長となり、之が成立と共に、專務取締役に就任す。後大正十一年貯蓄業務を分離し、株式會社久世銀行となるや入りて專務取締役となる。更に全年吉備貯蓄銀行の監査役となり、次いで取締役に任ず。翌年銀行合併に依り作備銀行と改稱其常務取締役となる。十三年更に合併に依り山陽銀行を設立し、同常務取締役に任じ、昭和五年第一合同銀行と合併成り中國銀行となるに及び取締役に就任以て今日に至る。

高畠滋三郎 岡山市内山下

君は兒島郡に出生、夙に岡山市に於ける事業家岡崎増太郎の囑望するところとなり、入りて常に其の帷幄に參與し此の事業をして達成せしむ。就中岡山電燈株式會社の如きは直

高見章夫 岡山市一番町三八

山陽新聞社常務取締役
明治十年吉備郡吳妹村尾崎の生れ、三十三年岡山農學校卒業直ちに縣屬兼技手拜命、格勤精勵群を抜く。時の長官笠井知事其の手腕を認め擧げて岡山縣理事官第四課長に任せらる時に大正五年、以來益々奮勵本縣勸業界に貢献すること多大、大正九年六月川上郡長となり兒島、都窪に轉ず。大正十五年郡廳廢止と共に從六位勳六等に叙せられ退官、縣農會に入りて副會長の重職に衝る。傍ら山陽新聞社に關係し後山陽新聞社常務取締役として今日に及ぶ。

阿哲郡各種團體長
竹本 祐 阿哲郡新見町



阿哲郡農會會長として君の手腕は眞に現代的進取積極的にしかも確實備北に令名厚く、其の將來や全く多望なりと謂ふべし。

高田照吉 明治八年眞庭郡新庄村に生る。三十二年岡山師範卒業、四十年拔擢せられ阿哲郡視學たり。四十四年朝鮮總督府黃海道書記を拜命し、大正七年新庄村長に就任し今日に及び村農會長を兼任し、その傍ら新庄林業株式會社社長、信用組合理事長等を兼任す。自治に、産業に、將又教育に、寄與せしどころ頗る大。大正十年勳八等に敍せられ瑞寶章を賜り、今次大演習に際しては、實業功勞者として單獨拜謁の光榮に浴せり。

箭田小學校長

田邊靜太 吉備郡箭田村

君は明治三十八年本縣師範を卒業し縣下小學校に訓導として奉職すること數年、遂に拔擢せられて校長となり、現に前記の要職にあり。資性濃厚にして篤實、眞面目なる教育者

にして、決して名利を望まず、孜孜として育英のことに努めて自己一生の天職となす、されば衆望厚く父兄村民の尊信高し。

廣島縣賀茂郡農會長
竹内 遠



明治四年廣島縣賀茂郡吉川村に生る。山口の東崇一、廣島の長谷川恭平師に就き

和漢の學を修む。三十九年賀茂郡農會副會長に當選、大正十三年郡農會會長に當選今日に及ぶ。尙十五年郡養蠶組合聯合會長、郡畜産組合、産業組合郡部會長に推選され堅忍持久、活躍を續く。君は又社會事業家にして知事より銀盃を授けられ、尙大日本農會よりは綠白綬有功章を授與さる。皇太子殿下行啓に際し産業功勞者として拜謁の榮に浴せる事既に二回に及ぶ。

田邊善太郎

明治九年兒島郡粒江村田邊彦太郎氏の男に生る。三十五年拔擢せられて兒島郡書記を拜命し、既に羨望と期待とを受く。果して後自村の懇望によりて助役となり、翌年村長に推舉せらる。十數年の在職中功績頗る顯著。大正六年中國水電株式會社倉敷支店長、尋いで本店營業課長たりしが、第一合同銀行味野支店長に選ばれ、後本店營業部長たり。

從七位 高橋藤雄 世羅郡東大田村



明治十七年廣島縣世羅郡甲山町に生れ、三十八年廣島師範に業を卒へ、神石郡小島、世羅郡東部訓導より津久志小

學校長兼同農業補習學校校長拜命、西大田小學校長兼同補習學校長、大田小學校兼同補習學校長等に歴任郡中有數の教育者として知られ、尙大田圖書館長を兼務す。功績顯著縣知事より表彰せられ、公立實業學校校長高等官七等

を以て待遇さる、ツギノ夫人との仲に二男一女あり。

岡山縣教育會主事
田中筆次

岡山市一番町
明治十四年兒島郡甲浦村宮浦に生る。三十六年自村甲浦小學校に教鞭を執り、東兒小學校を経て大正四年銓立小學校長に拔擢せらる。格勤精勵業績見るべきもの多く名校長として謳はる。大正十二年岡山縣教育會主事に轉ず。盲啞學校縣管移管問題、岡山縣教職員互助會を創立等附帶の重大件案に善處し、現に教育の編輯發行、補習學校、小學校の教科用關係雜書の編纂、教育時事問題の解決、研究調査、講習會開催等直接間接其の衝に當り寧日なし。

高林孝太郎



岡山市難波町四八
家は岡山市に於ける古き醬油醸造家にして明治八年先代の創業にか

り、先々代よりの家業清酒販賣とを兼ね。君は明治元年生れ、三十八年以來岡山市商業會議所議員岡山市會議員として活動大いに聲名あり。就中地價修正委員としての功績と苦心とは市民の忘れざるところ、所得稅調査委員、岡山市民金庫創立以來の理事、萬歲酒造中國釀造兩社監查役たり。古登夫人との間に二男一女あり。岡山一中高林教諭(法學士)はその女婚なり。

從四位勳四等

株式會社 精養軒顧問
小倉石油株式會社取締役

高草朴介

東京杉並區天沼一ノ二六
明治十九年喜謙氏の三男に生る。四十四年東大法科政治科を卒業、同年高等文官試驗に合格するや鐵道院に職を奉じ、大正元年鐵道院副參事となり、參事に進み同書記官を経て、同十二年歐米に視察出張を命ぜらる。歸朝して仙臺鐵道局經理課長、鐵道局參事、東京鐵道局經理課長等に歴任し、昭和三年には鐵道書記官に任じ、經理局倉庫課長に累進せし

が、官を辭して今や前記の職にあり。フミ子夫人との間に二男あり。

田野口竹一

明治二十年吉備郡大井村大字粟井に生る。吉備郡内日近小學校訓導

記諸會社の重役として實業界に活躍す。コト夫人との間に一嬢あり。

瀧川定次

神戸市須磨區東須磨寺畑
明治十五年岡山市西田町岡山藩士瀧川彌平太長幸の三男に生れ、二十二年大阪高商卒業



學校長兼同農業補習學校校長拜命、西大田小學校長兼同補習學校校長、大田小學校兼同補習學校長等に歴任郡中有数の教育者として知られ、尙大田圖書館長を兼務す。功績顯著縣知事より表彰せられ、公立實業學校長高等官七等

島師範に業を卒へ、神石郡小島、世羅郡東部、津久志小

從四位勳四等
株式會社 精養軒顧問
小倉石油株式會社取締役

高草朴介

東京杉並區天沼一ノ二六

明治十九年喜謙氏の三男に生る。四十四年東大法科政治科を卒業、同年高等文官試験に合格するや鐵道院に職を奉じ、大正元年鐵道院副參事となり、參事に進み同書記官を経て、同十二年歐米に視察出張を命ぜらる。歸朝して仙臺鐵道局經理課長、鐵道局參事、東京鐵道局經理課長等に歴任し、昭和三年には鐵道書記官に任じ、經理局倉庫課長に累進せし

が、官を辭して今や前記の職にあり。フミ子夫人との間に二男あり。

田野口竹二

明治二十年吉備郡大井村

大字粟井に生る。吉備郡内日近小學校訓導奉命歴史を専攻して四十四年文部省檢定試験に合格、翌年笠岡高女に奉職、大正四年矢掛高女校長に榮轉。同六年總社町春靄高女校長となる。同校は總社町外十四ヶ村の組合立にして實績大いにあがり、校風一新昭和三年縣營移管となり引つゞき校長たり。同校の今日あるは君の功績甚だ大なるものあり。立志傳中の一人といふべし。

辯護士、辯理士

竹内賀久治

東京麴町區麴町三ノ六

明治八年倉敷市に竹内波次氏の四男に生れ、明治四十三年家督を繼ぐ。法政大學に學び明治四十年卒業の後、辯護士試験に合格し直ちに開業せり。今や傍ら國本社を創立し、その社員漸増益々重きをなす。現に其の理事たり。正枝夫人との間に一男六女あり。

普生醫院長 且美千與 奉天大西關

女子は眞庭郡勝山町に生れ、東上して東京



女醫學校を卒業し、東京にて施行の醫學開業試験に合格して免許状を受け、大正三年六月南滿洲鐵道奉天醫院城内分院に奉職醫員を拜命す。大正十年辭して獨立現地に開業し、爾後専ら日滿人の診療に従事し遠近に信任頗る厚し。

富士製絲株式會社取締役

士別軌道代表取締役

東京金網取締役

北海道電燈取締役

登帆炭礦取締役

北電興業監査役

高橋貞三郎

東京澁谷區神山四九

明治四年喜策氏の二男に生れ、大正四年分家せり。時運の大勢を洞察し夙に渡米して明治三十四年エール大學を卒業せり。翌三十五年歸朝し三井物産に入り大正二年には同大阪支店次長たり。大正四年之れを辭し、爾來前

正五位勳四等文學博士

東京文理科大學教授兼東京高師教授

田中寛

明治十三年上道郡西大寺町尾

崎若松氏の四男に生れ養はれて田中義市氏の家を嗣ぐ。岡山師範を卒へ、東京高師に學び、四十年卒業して山梨、岡山師範、岡山高女に教諭たり。大正二年更に京大文科哲學科を卒へ東大大学院に入り、同八年文學博士の學位を受け、東京高等師範學校教授に任じ、同十一年には歐米に留學を命ぜられ十三年歸朝、昭和三年全附屬中學校主事を拜命、同四年東京文理科大學教授に任じ、高師の教授を兼任す。其の著に人間工學、日本民族の將來、教育側定學、教育的統計法等ありて、教育學界に貢献するところ甚大。初音夫人との間に三男一女あり。

醫學博士 田川蟬太郎

岡山市上西川壺



君は明治二十四年兒島郡日比町に生れ、夙に刀圭界に雄飛せんことを志し、津山中學を経て大正三年第六高等學校を卒業、九大醫學部に入學す。大正七年全大學卒業後、

其の第一内科に止り専ら研鑽す。十一年十月岡山醫大に轉じ、翌十二年六月に講師更に翌年助教に進む。昭和元年四月二箇年間の歐米留學を命ぜらる。全年六月榮ある醫學博士の學位を得。歸朝後昭和六年現地に内科専門の醫院を開く。夫人との間に二男二女あり。

田邊綾夫 東京麴町區一番町四三

田邊ラヂオ商店 神田區小川町二ノ五
明治二十二年淺口郡鴨方村故碧堂田邊爲三郎氏(關西にて有名なりし南畫家)の長男に生る。敏夫氏はその令弟なり。大正五年東京帝國大學法學部經濟科を卒業し、横濱市増田貿易會社雜穀部長たり、更に日本ベニヤ株式會社專務取締役となり、後獨立して優秀なる國産、無線電信電話の製作販賣店を開設す。尙株式會社坂本製作所社長、荒手鑛業株式會社取締役たり。壽賀子夫人は故坂本金彌氏長女、二男二女あり。

正四位勳四等
京都電燈副社長 比叡山鐵道取締役
關西共同火力發電監査役

田邊隆一 京都市室町通大門町三六

明治十七年彦太郎氏の二男、中銀營業部長田邊善太郎氏令弟なり。高粱中學、一高を経て四十二年東大法科政治科を卒業し、高等文官試験に合格遞信省に奉職、同管理局總務部長、同經理局長、遞信大臣官房文書課長を歴て、大阪遞信局長兼大阪地方海員審判所長となり、昭和二年簡易保險局長に累進し、同三年二月官を辭して京都電燈會社に入りその副社長たり。靜子夫人との間に一女あり。

從五位勳五等
谷 馨

大阪市西成區粉濱中之町二ノ三



明治四年
津山市細工町故櫻井長平氏三男に生れ、岡山師範卒業後前後七ヶ年教鞭

を執る、三十六年東京高師國語漢文科を卒へ、廣島縣忠海中學校教諭に任せられ轉じて中學閑谷賢、津山高女、大阪府立天王寺師範、同泉南高女教諭に歴任、大正十年全市立西華高等女學校長に拔擢榮轉して今日に及ぶ。光代夫人との間に二男あり。

内科醫院 **谷高二郎**

神戸市西須磨西ノ東六ノ二
明治八年御津郡建部村谷千三氏長男に生れ、三十一年三高醫學部卒業、岡山縣病院内科助手となりて研究を積み、翌年當時鶴崎平三郎氏經營にかゝる須磨浦療病院に招聘さる。明治三十九年獨逸に留學ウルツブルヒ大學に學ぶ、ドクトルメヂチーネの學位を獲て四十二年歸朝副院長として再び須磨浦病院に復職す。十一年神戸市北長狹通五丁目現谷内科醫院を開業して今日に至れり。通子夫人との間に三男三女あり。

上道郡芳野小學校長

田中鹿男

明治二十九年上道郡幡多村生れ、大正六年岡山師範の卒業、上道郡操南小學校訓導に奉職し爾來十七ヶ年間其の校に勤績、子弟父兄に慈母の如く慕はるゝも宜なり。遂に昭和九年三月拔擢せられて同郡芳野小學校長に轉任す。

谷 正夫 岡山市門田町一ノ二ノ二



明治二十年和氣郡藤野村に生る、岡山中學校を卒へ廣島高師英語部を卒業、四十二年岡山高女教諭拜命以來山口、廣島、岡山各縣の中等學校に勤務、北野高女校長、閑谷中學校長を経て昭和六年四月岡山縣倉敷高女校長に榮進縣下教育界の重鎮たり。淑子夫人との間に二男二女あり。

從七位勳八等

谷田幸太郎 兒島郡郷内村林



明治二十八年生れ、岡山縣商卒業、四十二年郷内郵便局長就任現在に至る。職務の傍ら靴下製造工場を經營す、商號福本屋登錄商標通學印福本印なり。製品の光榮大正十五年皇太子殿下献上御嘉納並台覽、昭

竹田菊五郎

大正十三年吉備郡水内村竹田卯吉氏の五男
和三年 天皇陛下献上御嘉納、昭和三年 皇后陛下献上御嘉納、昭和五年 天皇陛下献上御嘉納並天覽、尙閑院宮、梨本宮、朝香宮、賀陽宮、李健公殿下等へ献上御嘉納あられ、又各地博覽會等に於て金銀牌賞狀を得。

大阪市東區紀伊國町九三



して勤務、神經精神主任代理となり、昭和三年岡山醫大講師に囑託せられ、昭和五年精神病學研究の爲め獨英米三國に留學すること一ヶ年、歸



を執る、三十六年東京高師國語漢文科を卒へ、廣島縣忠海中學校教諭に任ぜられ轉じて中學閑谷黌、津山高女、大阪府立天王寺師範、同泉南高女教諭に歴任、大正十年全市立西華高等女學校長に拔擢榮轉して今日に及ぶ。光代夫人との間に二男あり。

工町橋
井長平氏
三男に生
れ、岡山
師範卒業
後前後七
ヶ年教鞭



職務の傍ら靴下製造工場を經營す、商號福本屋登錄商標通學印福本印なり。製品の光榮大正十五年皇太子殿下献上御嘉納並台覽、昭

谷田幸太郎
兒島郡郷内村林

明治二十
年生れ、
三十八年
岡山縣商
卒業、四
十一年郷
内郵便局
長就任現
在に至る

和三年 天皇陛下献上御嘉納、昭和三年 皇后陛下献上御嘉納、昭和五年 天皇陛下献上御嘉納並天覽、尙閑院宮、梨本宮、朝香宮、賀陽宮、李鍵公殿下等へ献上御嘉納あられ、又各地博覽會等に於て金銀牌賞状を得。

竹田菊五郎

大阪市東區紀伊國町六三

明治十三年吉備郡水内村竹田卯吉氏の五男に生る。三十四年大阪府天王寺師範を卒業、大阪市汎愛小學校、東區第一小學校、全浪華小學校各訓導を経て西區三軒家第三小學校長に進み、大正十四年更に西區明治小學校長に擧げられ今日に至る。昭和三年正七位勳八等に叙せられ、五年教育功勞者として奏任待遇たり。

寶文館機械店代表社員
谷村敏太郎 大阪市東區平野町四丁目



明治十八
年吉備郡
下倉村向
井貞太郎
氏五男に
生る。本
邦教育機
械器具の
製作販賣

商として京都島津製作所と並稱さる、寶文館機械主たる君は四十年岡山師範卒業四十一年上阪谷村家に養はれ吉岡寶文館に入店。店主平助氏の指導を守りて一意運命を共にすること實に二十五年吉岡氏の没後機械店を分離したる合資會社寶文館機械店の創立さるゝや、君は其の代表社員としてその經營一切を擔任して今日に及ぶ。

竹井小野右衛門

大阪市南區八幡町九

明治二十一年川上郡日里村黒忠に生る。君は大大阪に於ける公證人中の第一人者、四十二年關西大學を卒業、大正十年辯護士試験に合格、東京に於て開業したるも公證人の將來有望なるを見るや大阪へ歸りて公證人となり、役場を現地に設け爾來今日に至る。現に大阪公證人會副會長となり、日本公證人同志會誌の發刊主宰者たり。

武野一雄

岡山市東中山下

明治二十七年岡山市萬成に生る。四十五年岡山中學をへて大正八年岡山醫專卒業、直ちに縣病院第一内科助手、岡山醫科大學助手と



して勤務、神經精神主任代理となり、昭和三年岡山醫大講師に囑託せられ、昭和五年精神稱號を授與せらる。昭和七年現住所に於て神經及内科醫院を開業今日に及べり。

湛増庸一

岡山市一番町

明治十九年久米郡倭文西村大字山手に生る。東大農學部出身、米國ミネソタ洲農科大學に學び歸朝大正初年山本唯三郎氏と圖り山本農學校を設立、同校長として大に努む。其後衆議院議員に當選中國民報社常務取締役として令名噴々今や實業界に飛躍せんとして待機雌伏す。富美子夫人との間に二男二女あり。

田淵正一

店舖 大阪南區瓦屋町三番町

明治二十七年苦田郡小田村塚谷田淵和一郎氏甥に生る。君の牛家は元里正を勤役す。大阪商人たらんとして上阪、當時下寺町に在りし攝津屑物消毒株式會社に入り勤續すること六ヶ年、獨立商業に志し資本の關係より毛織物百貨の買賣を始め。好運にも全業の需用頓に盛なるに乗じ、大正十年現在店舖の地に田淵商會を移轉擴張し、主として尾州産織物を初め大阪毛織會社、日本毛織會社等の製品を取扱ひ、販路滿鮮方面に及び、靴近既製品製作販賣をもなし益々盛況を呈す。

日商株式會社取締役
多賀二夫 兵庫縣武庫郡精道村芦屋大繪



南洋、濠洲方面との鐵、鑛油、棉花、小麥、砂糖、人絹及綿製品等の貿易をなす。日商

英田郡豊
田村北厭
に明治二
十年出生
、大阪北
濱五丁目
日商ビル
に本社を
置き印度

の存在は其の實質に於て全社取締役たる君の
創案設立にかゝり、開業以來日淺きにも拘ら
ず廣く内外に知らる。君は津山中學卒業、四
十二年東亞同文書院商務科を卒業、雄圖を海
外貿易に置き早くも大阪安國商會に身を投せ
り。四十五年更に轉じて當時日本貿易界の覇
業成れる、株式會社鈴木商店に入り、直ちに
香港支店長に擧げられ、漸次累進して上海、
孟買の各支店長に歴任、廣く南洋支那及濠洲
の事情に精通す。然るに會社鈴木商店の事業
縮小に伴ひ同社を去り、昭和二年同志と相謀
りて日商株式會社の設立に當りて常務取締役
の重職に就き今日に至る。

田中五郎 岡山市五番町

明治十三年上道郡西大寺町田中嘉吉氏の長
男に生れ、家庭嚴格所謂スパルタ教育の裡に
育つ。幼より才氣勝れ少壯の頃已に實業談話
會等を主唱創設商工界に献策し、又十四才に
して上阪商品を仕入し、二十才前後にして山
陽板紙、西大寺鐵道の創立企劃、土地買収、
工事施工等に衝り、更に西大寺電燈を創立し
其の支配人たる十年、岡山市に轉住して旭教
育品會社に入り、中水金川電氣の合併、和氣
銀行、西江原銀行の整理合併等其の關與せる
ところ頗る多し。基督教信者にして有名なる
讀書家たり。

辯理士 且六郎治 東京下谷區東黒門町八

明治十一年眞庭郡勝山町に生る。幼より俊



秀、日大の前身なる日本法律學校を卒業一舉に辯理士試験に合格、現地に開業ス

界の嚆矢先驅者たり。當時斯業を解せざる社
會に紹介宣傳して開拓に當り後進を裨益せり
、爲に東都に聲望隆々たり。家庭の幸福亦羨
望せらるゝところ、即ち以満子夫人との間に
五男二女ありて、長男武雄氏は東大法科出新
銳法學士にして父君を輔けて家にあり、其の
他各學にありて健康と成績皆可なり。

中備自動車專務取締役

高浦周二 小田郡金浦町西濱

南備の民衆交通機關として其の職能發揮に
精勵努力し、社運の隆運に劃策善處する君の

責任實に重大と謂ふ可く、地方人の齊しく其
の材腕に敬意を拂ふ宜なり。因に同社は昭和
三年七月資本金四萬圓を以て定期自動車株式
會社として設立、社長瀧本丈太郎、取締役淺
野富平、井戸岩松、長尾定治の諸氏等名實協
力して社運の進展と乗客の利便の爲に力む。
君は明治十八年生れ、福山中學出身、前記の
外井笠鐵道支配人等の要職にあり。

大阪海上火災保險株式會社々長

多羅尾源三郎

君は岡山縣土族鶴田藩士の家多羅尾光利氏
の實弟、慶應元年十二月を以て久米郡に生れ
多羅尾善治郎氏に養はる。弱冠大阪に至り烟
眼よく將來の大成海運にあるを先見し大阪商
船學校航海科に入り、十九年卒業大阪商船海
上勤務となり運轉士、船長に累進日清戰役に
は御用船々長として功あり、勳六等に叙せら
る。明治三十年本社詰となり造船監督のため
渡英を命ぜられ、傍ら親しく彼地の海運界を
視察す。歸朝人事課、調度課長となる。當時
其の多謀多策堅實無比の經營振りと手腕とは
、社長中橋徳五郎氏の傾倒措かざりし所にし
て稀世の偉才とさる。累進重役に押され大正
五年大阪海上火災保險株式會社の商船系の經
營に移るや、鬱然たる人材中より特に拔かれ
てその取締役となり、專務取締役に進み、遂
に衆望を擔ひて現社長として今日に及べり。
君は又船舶救助の方法に精通熟達本邦海運界
の第一人者を以て稱さる。曾て大阪商船大吉
丸の長江坐礁に赴き、完全に之を離礁せしめ
て大英ロイド會社賞金を獲得す、是れ本邦受
彰者の嚆矢なり。曾ては萬目の至難せる小型
基隆丸を操縦して布哇に渡航し列國技術者を
して慄然たらしめたる如きいかに其の豪膽に
して入神の技量を具備せるかを知るに足る。
擢ばれて内務省港灣調査委員となり、民間出
身の日本郵船茂木鋼之氏と双壁を以て稱さる
。今や巨萬の財寶を積み、外に北日本汽船、
亞細亞煙草、大阪商船、日本海事工業等の重
役たり。

林野町長 竺原宇一 君は明治三十七年
本縣師範卒業縣下小學校に教鞭を執り、格勤
精勵地方に於て信望厚かりしが、家事の都合
に依りて職を退き實業界に入る。一時製材業
に従事したりしが遂に擧げられて林野町長と
なり、英田郡町長會長となる。

君温厚篤實身を持すること謹嚴、常に新刊圖
書、見聞、知識高く、言葉地方に開明。

同十四年全国聯合在郷軍人本部評議員に選出
され、閑院總裁宮邸に召されて單獨拜謁午餐
を賜ひ、地方状況を言上し御言葉を賜はるの
光榮に浴す。之軍人會主唱の初めより二十有
五年なり。かくて昭和二年閑院總裁宮殿下よ
り有功章を親授さる。其他光州神社、乃木會
、義士會、佛心會、飛行會支部、都市金融組
合等を創立し之れが總代、幹事、理事等に選

界の嚆矢先驅者たり。當時斯業を解せざる社
會に紹介宣傳して開拓に當り後進を裨益せり
、爲に東都に聲望隆々たり。家庭の幸福亦羨
望せらるゝところ、即ち以満子夫人との間に
五男二女ありて、長男武雄氏は東大法科出新
鏡法學士にして父君を輔けて家にあり、其の
他各學にありて健康と成績皆可良なり。

中備自動車專務取締役

高浦周二 小田郡金浦町西濱

南備の民衆交通機關として其の職能發揮に
精勵努力し、社運の隆運に劃策善處する君の

今や巨萬の財寶を積み、外に北日本汽船、
亞細亞煙草、大阪商船、日本海事工業等の重
役たり。

林野町長 空二原宇一 君は明治三十七年
本縣師範卒業縣下小學校に教鞭を執り、格勤
精勵地方に於て信望厚かりしが、家事の都合
に依りて職を退き實業界に入る。一時製材業
に従事したりしが遂に擧げられて林野町長と
なり、英田郡町長會長となる。
君温厚篤實身を持すること謹嚴、常に新刊圖
書に親しんで識見高く、信望地方に聞ゆ。

城東土地會計課長

直原廣吉 大阪府中河内郡久寶寺村久寶寺
明治四年久米郡吉岡村大戸に生る。君の奉



職せる 城東土 地株式 會社 大正 八年資 本金一 千萬圓 を以て

設立されたる大土地會社にして現在植木米藏
氏を社長とし、所有地所坪數十萬餘に亘り、
本店を東區高麗橋一丁目におき、最も堅實な
合理的經營法によりて一般需要家の要求に
應ずると共に、東漸の大大阪市膨脹の緩和に
貢献す。在社既に十三年前記の職にあり。君
は嘗ては染色新報の編輯に従ひ、二十歳にし
て上阪以來或は染物事業に、或は内國通運會
社に、又或る時は遞信省に、北濱に株式仲買
に投する等、社會幾多の尊き體驗と世相の深
奥に精通す。

千原靜男

家は吉備郡日近村に於て代々庄屋を勤む。
君は其の第十世なり。有隣塾、師範學校に學
び後早稻田、明法に文學、法科を研究す。日
露の役近衛師團に従軍して叙勳さる。三十九
年全國在郷軍人統一の急務る覺り先づ岡山縣



軍人同志 會を企畫 東奔西走 三年渡鮮 大正二 年朝鮮光 州大和に 居をとし 保險火災、生命、徴兵各代理店、大阪毎日 通信員、京城日報支局長等に從事す。大正四 年大禮同地方賜饌に參列御下賜品を拜戴す。

同十四年全國聯合在郷軍人本部評議員に選出
され、閑院總裁宮邸に召されて單獨拜謁午餐
を賜ひ、地方状況を言上し御言葉を賜はるの
光榮に浴す。之軍人會主唱の初めより二十有
五年なり。かくて昭和二年閑院總裁宮殿下よ
り有功章を親授さる。其他光州神社、乃木會
、義士會、佛心會、飛行會支部、都市金融組
合等を創立し之れが總代、幹事、理事等に選
ばれ、或は學校、鐵道、軍營、稅務監督局等
の期成會幹事を囑託され、明治神宮外苑部委
員、國庫補助地方委員、軍人會館地方委員、
日本赤十字社特別社員、全支部協賛委員、愛
國婦人會贊助員等たり。與村五百子銅像建設
を主唱三度上京遂に光州公園に建設す。茲に
又東伏見宮總裁殿下より特別有功章を賜はる
更に昭和六年一月神社崇敬により兒玉政務總
監より表彰さる。渾身奉公の士と謂つ可し。

辻武十郎 眞庭郡勝山町

安政六年辻彌平氏の二男源一郎氏の令弟と
して生る。家は舊幕時代御納戸役を勤め、素
封家にしてその歴史極めて古く、酒釀業は約
百五十年前以前の創始。勝山銀行の創立、商工
會の組織、勝山製糸株式會社、小學校、女學
校等の創立委員として盡瘁貢獻甚だ大なり。



尙同町今 日の自治 教育、 産業等の 發達の決 定的礎因 を築ける ものと謂 可し。

曾ては勝山銀行頭取、町商工會の會頭を兼ね
。眞に人格圓滿なる手腕家にして社會公共に
奉仕せる事屢次、昭和二年六月多年の功勞に
依り、紺綬褒章を授與せられ、今次大演習觀
兵式の當日は御陪食の光榮に浴す。

三興社專務取締役

坪井松二郎 大阪市西區京町堀上通一

君は岡山市二日市町の人、明治十八年生れ
、岡山中學を卒業、令兄武田猪三郎氏の經營
する大阪武田商會の下關及び長崎支店に入る
。大正七年株式會社三興社を大阪に設立し專
務取締役となる。電氣に關する設計請負並に
電氣器具材料の製作販賣を營み、東京電氣代
理店、廣島電氣、京都電燈、合同電氣各社の

工事請負指定を受け累年業務を擴張し今日に至る。君頗る機略に富み才氣縱横大阪實業界に藉名あり。

醫學博士 津田 稔 岡山市難波町三一

明治三十一年御津郡牧石村中原の生れなり大正十年岡山醫大當時岡山醫專の出身にして昭和六年十月醫學博士となる。資性、温厚にして快活。内科醫師として其手腕は一般の認むる處大いに將來を囑望せらる。

塚本泰雄 大阪市東成區北中濱町二丁目 君は小田郡美山村の人、明治十七年生れ、



實父李太郎氏と家業にありしが二十九才驪然立志大阪に出で當時南區小田切虎一

氏經營の染物工場に入り前後五ヶ年、大正七年獨立して東區鴨野町に別珍の染整業を開始したり。之今日の塚本染整工場の創業、爾來事業の失敗工場の災火等に際會したるも不屈、十二年蒲生町に最も内容の具備せる新工場を建設して之に移轉一流織物問屋の信望を集め、更に昭和五年現地に工場を新築最新式の獨逸染整機を設置し別珍金巾類の染整に獨得の技術を發揮し、全業界屈指の大工場主として知らる。

津崎新藏 岡山市富田町

吉備郡の人、水川家に生る、津崎は其の養家の姓なり。四十一年本縣師範を卒業し、吉備郡小學校に奉職中岡村正義氏の懸請に依り、同校に赴任多年同校女子部を擔當格勤精勵よく勉めたり。遂に鹿田尋常高等小學校長に擧げられて今日に及ぶ。性極めて謹嚴不言實行の人にして、決して名利を追はず、孜孜として力むるを以て校風大いに揚がる。君は二宮尊徳翁に私淑し報徳教を信ず、又以て其の人格の全般を窺ふべきなり。

眞庭郡木炭同業組合 辻谷平治 眞庭郡勝山町

君は明治十五年眞庭郡富原村に生る。中等學校を卒へて三十五年鳥取歩兵第四十聯隊に入隊し、日露戰役に従軍し分隊長として各地に轉戦、三十八年三月五日の奉天戰において

多年の蓋蓄を傾けて熱誠事を處するを以て校風愈々揚り教授訓練共に見るべきもの多く、實に岡山市教育界の重鎮たり資性温厚、才氣あり、同情心に富み眞に圓滿なる識見人格兼備の名校長たり。

津下本英太郎 兒島郡日比町大字玉三三五



名譽の重傷を左腕に負ひ、勳七等に敍し金鵄勳章功七級を授けらる。四十年廣

島及び大阪の大林区署に勤務し、大正五年山梨縣に轉じ、十四年職を辭し歸郷、翌年眞庭郡木炭同業組合に入り、不具の身を以て終始公務に努力する外、昭和二年三月十日陸軍記念日を卜し、眞庭郡傷痍軍人會を組織し、會長に擧げられ、戦死者の慰靈、遺族の慰問、救護等に盡瘁して現在に及ぶ。

鶴見祐輔

君は明治十八年東京の人鶴見長憲氏の二男として群馬縣多野郡新町に生れ、四十三年東京帝大政治科卒業、直ちに高文に合格鐵道省に入る。後藤新平伯の女婿となり、躍進鐵道書記官となり、鐵道視察として歐米に特派さるゝこと數回。更に大正八年交通研究にて歐米留學、歸朝後鐵道省運輸課長となる。大正十三年退官後は講演と著述に没頭寧日なく、昭和三年普選第一回には岡山縣第一區に於て衆議院議員に當選す。談論風發、新人としての聞え高し。

醫學博士 辻 鹿子治 岡山市下石井



明治三十五年二月岡山市に生る。大正十三年岡山醫科大學卒業、全時に附屬病院

内科助手に勤務、次いで九州醫大内科助手として實地の経験を積むこと數年。昭和七年五月現病院を開業し、昭和六年二月醫學博士の稱號をうく。金春流大鼓の名手として斯界に知らる。

深抵小學校長

妻 井 一郎

明治十八年上房郡中井村西方に出生、三十八年岡山師範卒業、縣下小學校に教鞭を執る、校長となり、視學に榮進し、更に拔擢せられて岡山縣屬となり地方課に勤務數年、後再び教育界に復歸前職にあり

津田嘉平 岡山市内山下七



明治八年岡山市に於ける刀劍骨董商の權威津田龜三郎

同様に赴任多年同校女子部を擔當格勤精勵よく勉めたり。遂に鹿田尋常高等小學校長に擧げられて今日に及ぶ。性極めて謹嚴不言實行の人にして、決して名利を追はず、孜孜として力むるを以て校風大いに揚がる。君は二宮尊徳翁に私淑し報徳教を信ず、又以て其の人格の全般を窺ふべきなり。

眞庭郡木炭同業組合
辻谷平治 眞庭郡勝山町

君は明治十五年眞庭郡富原村に生る。中等學校を卒へて三十五年鳥取歩兵第四十聯隊に入隊し、日露戰役に従軍し分隊長として各地に轉戦、三十八年三月五日の奉天戰において

内科助手に勤務、次いで九州醫大内科助手として實地の経験を積むこと數年。昭和七年五月現病院を開業し、昭和六年二月醫學博士の稱號をうく。金春流大鼓の名手として斯界に知らる。

深抵小學校長
妻井一郎

明治十八年上房郡中井村西方に出生、三十八年岡山師範卒業、縣下小學校に教鞭を執る、校長となり、視學に榮進し、更に拔擢せられて岡山縣屬となり地方課に勤務數年、後再び教育界に復歸前職にあり

多年の蘊蓄を傾けて熱誠事を處するを以て校風愈々揚り教授訓練共に見るべきもの多く、實に岡山市教育界の重鎮たり資性濃厚、才氣あり、同情心に富み眞に圓滿なる識見人格兼備の名校長たり。

津下本英太郎 兒島郡日比町大字玉三三
明治二十八年赤磐郡高陽村大字河本に生る



天城中學卒業大正八年早大政治科を修へて歸郷現住地合資會社玉組に入り三井物産造船部に於ける運送業及請負業に従事、現に同組代表者として勉勵し地方の信望を一身に集む。趣味は謠曲、仕舞をよくす。千壽代夫人との間に一男あり。

酒造業 津崎守雄

明治十八年兒島郡兒島町に生る。三十九年岡山縣商卒業、酒造業を營み縣下に其名聲高し。熱心なる研究と明敏なる頭腦は衆人の認むる所となり、郡會議員、學務委員、兒島酒造組合評議員、縣酒造聯合組合代議員等の榮職に推さる。又岡山縣濟世委員たり。瀧代夫人との間に三男二女あり。

三井物産株式會社神戸支店長
津田弘視 神戸市下山手通五ノ八六

君は備前藩士故津田弘道の三男にして岡山在住津田弘仲君の令弟なり、明治六年生れ。二十七年東京高商を卒業し、三井物産會社に入りて本店、横濱、新嘉坡、桑港、上海等の各支店勤務を経て、大正七年香港支店長となり、同十二年前記の職に轉じて現在に至る。



桑港在勤後社命にシヨ及び南米諸國并びに歐洲を視察し、新嘉坡在勤時代日露交戰特別任務を帯びて活動し功を以て勳六等に敍せらる。尙又大正運輸、日本樟腦、神港担互館等の取締役を兼ね。榮子夫人との間に六男あり。

津田嘉平 岡山市内山下七



明治八年岡山市に於ける刀劍骨董商の權威津田龜三郎氏の次男に生る。二十五年父の出所たる下之町に時計、貴金屬、眼鏡、蓄音器等當時最も目新しき商品の店舗を創む。商品の時勢に適合と眞摯なる營業方針とは日々顧客を呼んで發展す。四十年店舗を現在の地に移し業務を擴張す。大正十二年遞信省の特許を得て正午時報を受信し、東京天文臺の正確なる標準時を示し時刻を一般大衆に示し時の宣傳に盡す。今や石山に別居して風月を樂しむ。

網島善五郎 眞庭郡津田村

備中美作を境する山頂津田村の豪農に生る。英氣潑瀾、敦厚誠實稀に見る人物なり。地方の各般の公共事業に關與し、日夜東奔西走所謂席温るの暇なし。遂に擧げられて村長となるや一切の弊風陋習を破り、村治の刷新に力め産業の振興を計り民力の涵養に餘念なし。電燈供給の組合を設け文化の恩澤に浴せしめ、村經濟の一助とするが如き着想其の識見を物語るものなり。

常尾清太 赤磐郡瀬戸町



明治十六年瀬戸町に生る。剛健瀟灑の士達に消現に消防組頭、町會議員、區長常設委員等に選ばれ、公共の事に貢献する所多く、岡山縣濟世委員常務たり。尙日露戰役に従軍功によりて金鷄勳章を拜受す。蒔子夫人との間に一男一女あり。

津下紋太郎 東京本郷駒込上富士前

明治三年兒島郡藤戸町に生る亡豊次郎氏の長男、幼より學に志し京都同志社に學び明治二十三年卒業、擢さんでられ同校教師として

育英十年、指導を受けたる後輩に知名の士多し。三十二年七倉家の経営事業たる台湾事業の總支配となり、林野の開墾、樟腦精製等の開拓を殆んど完成し、轉じて日本製鐵專務取締役、國池共同販賣所監事、寶田石油支配人同專務取締役、北辰會取締役會長たり。今や前記の外日本工業社長、日本石油、日本モスリン等の重役として産業界に重鎮たり。しづ子夫人との間に二男三女あり。

津田 龜吉

眞庭郡新庄村

舊姓は小椋、四十四年岡山師範卒業、縣下小學校に職を奉すること數年、遂に拔擢せられ視學となり、更に岡山縣社會教育課に入りて視學兼屬となる。後勝山尋常高等小學校長に擧げられて再び教養の實務に當り現在に及ぶ。眞庭郡教育會々長、小學校長會々長の要職にあり。思慮周密、常に滿腔の熱誠を以て事に當る。されば郡内教育界、父兄兒童の尊信厚く、作西の重鎮たり。宜なり奏任官を以て待遇せらる。

土田 永六

大阪市北區中野町五丁目

君は明治二十年生れ、川上郡成羽町土田藤太郎氏の二男覺五郎氏令弟なり。三十九年上



阪堺に出で大阪商船會社の代理店合資會社商盛組に入る。爾來勤績十八年全業の

内外に通じ、大正三年退社し自ら陣頭に立て同志と謀り株式會社太陽社を創立し、日本汽船株式會社の專屬として近海の荷客取扱に従へり。一進一退遂に斷乎解散し、餘力を以て後圖を畫し九大解船部を設け、本部を港區三條通四丁目に置き之れが主腦たり。現に解船三十餘隻を有し業績甚だ見るべきものあり。傍ら大阪市内に三四の劇場及び常設館を有し大衆奉仕を圖り、奮闘活躍寧日なし。

次田 虎雄

大阪商品普及協會本部理事長
大阪市浪速區立葉町一二八七

明治二十六年上道郡九幡村に次田仲次氏の長男として生る。幼にして志堅く夙に刻苦勵精大志を抱き、上阪して鐵工業に従事し所謂粉骨鐵腕を磨く。大阪騎兵第四聯隊に入營し退營の後、大阪精密螺子製作所を興して之れ

が經營の任に當る。昭和四年大阪市會議員に當選するや其の製作所を廢し、やがて大阪商會品普及會を設立せるものなり。昭和八年市會議員に再選、政友會大阪支部評議員たり。君の市議たるや眞に忠實なる公僕として、細大となく市民の訴を聞き其の希望要求を満足せしむるを以て欣びとす。されば之れを徳とする選舉區民は虎勢會を組織して其の後援に努む。春枝夫人との間に二男あり。

土田 覺五郎

大阪市東區常磐町二丁目



明治十六年川上郡成羽町古藤太郎氏長男に生れ、適齡に達するや單獨上阪

谷にありし異履物店に入り、勤績十二年其業を體認す。性來貯蓄心に富み少資を蓄積して主家を去り、高津四番町に獨力履物商を開業漸く緒につきたる時、不幸四十五年一月南區大火に見舞はれ、一朝にして商品家財什器を烏有に歸し、文字通り元の木阿彌となる。憤一番僅かに四拾五圓の融資を得るや、誠意と信用を楯に奮闘刻苦すること三年にして舊態に復し、更に小賣業より製造販賣に轉じ、今日に至るまで終始一貫信用愈々加り遂に全業者中屈指の資産と徳望を積み、組合評議員、會計等に擧げらる。

岡山縣會議員 土屋 源市

阿哲郡美穀村

明治二十一年七月生れ、四十一年岡山縣立農學校を卒業し、直ちに阿哲郡畜産組合の常務係技術員として勤務、後幹事を兼任し至誠事に當る。郡畜牛の品種改良發達に盡瘁すること實に二十有餘年、今や常務理事として其抱負の實現に専念す。曩に郷黨の推薦を受けて縣會議員たり。

從四位勳三等 貴族院議員 次田 大三郎

東京小石川區大塚仲町

明治十六年邑久郡幸島村に次田大三郎氏の四男として生れ幼名を七五三郎といふ。昭和三年分れて一家を立つ。明治四十三年東大法科政治科を卒業して内務省に入り、後茨城縣屬、石川縣事務官、同縣理事官、内務書記官、鐵道院參事、内務監察官、社會局健康保險

勝田郡廣戸村長 寺坂 伴治郎

明治二年生れ、三十八年收入役にあげられ、更に助役に進み大正六年村長の重職に推され、更に昭和二年信用組合を組織し組合長となり、其の内容の充實に盡力し、村民の福利増進、生活上に貢獻して今日に至る。昭和

部長、茨城縣知事、内務省土木局長、内務省地方局長、同警保局長兼警察講習所等を歴任して、昭和六年内務次官に累進し、同年十二月遂に貴族院議員に勅選せられて今日に及ぶ。妻靜夫人は明治二十八年生れ、前の滿鐵副總裁江口定條氏の長女、一男一女あり。

三十餘雙を有し業績甚だ見るべきものあり。傍ら大阪市内に三四の劇場及び常設館を有し大衆奉仕を圖り、奮闘活躍寧日なし。

抱負の實現に専念す。曩に郷黨の推薦を受けて縣會議員たり。

從四位勳三等 貴族院議員
次田大三郎 東京小石川區大塚仲町

大阪市會議員 大阪商品普及協會本部理事長
次田虎雄 大阪市浪速區立葉町一二八七
明治二十六年上道郡九幡村に次田仲次氏の長男として生る。幼にして志堅く夙に刻苦勵精大志を抱き、上阪して鐵工業に従事し所謂粉骨鐵腕を磨く。大阪騎兵第四聯隊に入營し退營の後、大阪精密螺子製作所を興して之れ

勝田郡廣戸村長
寺坂伴治郎
明治二年生れ、三十八年収入役にあげられ、更に助役に進み大正六年村長の重職に推され、更に昭和二年信用組合を組織し組合長となり、其の内容の充實に盡力し、村民の福利増進、生活向上に貢献して今日に至る。昭和二年縣の町村會長より表彰せらる。又大正九年村養蠶組合を創立し、大日本蠶絲會總裁宮殿下より表彰を拜受せり。家に夫人との間に三男四女あり。

部長、茨城縣知事、内務省土木局長、内務省地方局長、同警保局長兼警察講習所等を歴任して、昭和六年内務次官に累進し、同年十二月遂に貴族院議員に勅選せられて今日に及ぶ。妻靜夫人は明治二十八年生れ、前の滿鐵副總裁江口定條氏の長女、一男一女あり。

寺阪頼甫 岡山市巖井十一

明治八年苦田郡郷村井上家に生れ全郡高野村寺阪家に入る。岡山師範卒業後縣下小學校に勤務。後縣廳に入り遂に拔擢せられて會計課長となり、更に榮進和氣、吉備に郡長を歴任して令名あり。後岡山市に高級助役となり、成績大いに見るべきものあり。岡山市信用組合を創設するに當り常務理事としてその重衝に當る。文學に興味を有し和歌は岡直憲先生の門弟として出色其の名高し。和歌子夫人との間に一女ありて、女婿は下津井町に於て齒科醫たり。

寺岡槌三郎

君は明治十八年岡山市上之町に生る。岡山



簿記學校卒業後家業たる陸軍御用達商として一貫活躍信望益々加はる。大正十四

年岡山市會議員に當選、都市計畫岡山市地方委員をかね、爾後再選されて今日に至る。其の間備作製糸株式會社相談役たるの外、御津郡牧石村外一市四ヶ村用水組合會議員を始め、岡山市水産會副會長等の要職にありて敏腕を振ふ。

寺岡雄平 苦田郡大野村

君は明治二年生れ、累代庄屋を勤役す。先代利四郎氏は竹田貞永寺の區長を勤め、明治三十七年助役に、大正元年村長に就任し、自治の確立、道路の敷設改修、農事の振興等幾多の治績あり。君亦夙に農村の振興、農民生活向上に念を致し信用組合設置の急務を高唱し、同志と相謀り大正四年信用組合を創設し、爾來同組合事業の發達に貢献し、又學事教育のためには犠牲を厭はず盡力する等、一村の爲缺く可らざる人材たり。

寺野直一郎



君は文久三年廣島縣世羅郡上山村に生れ、高田郡可愛村洗心館塾にて漢籍を練り

、二十五年村會議員に當選し三十二年に至るまで再選、同年村長に就職以來現在に至る。かつて世羅郡會議員に當選し永年勤続す。又世羅郡町村會長、同郡農會長、縣農會議員、同縣町村會長副會長其の他に當選し頗る功勞あり。三十七八年戰役の功により勳七等青色桐葉章拜受。縣町村長代表として大正天皇大喪儀に奉拜參列の榮を賜ふ。家に三息あり、長男大吉氏は東大經濟學郡の出身なり。

寺尾順一

上道郡金田村長
明治十一年生れ、漢學者森氏に就て漢籍、國學を修む。皇室尊崇の念慮強く、思想界動搖の今日最も尊敬すべく稀に見る人物なり。現に村長、村農會長、日本赤十字社分區長、鴨越用水三ヶ村組合管理者等の要職にあり。又黒住教顧問にして第一教區長たり。又藤井教會所長、植ヶ原教會長を兼ね。家に四男二女あり。

寺尾常太郎 上道郡西大寺町

西大寺郵便局長
上道郡圓山城主寺尾七郎兵衛の後裔、四郎左衛門の代に當地に移住す、爾來二百五十年連綿として系統正しき家柄なり。先代は王政維新に際し活躍したる名士、君は慶應元年生

れ、漢籍を修めて造詣深し、初め古物商、呉服商を営み、明治三十六年綿花商を兼ね。後選ばれて西大寺郵便局長に就任し、爾來逐年規模を擴張し、通信機關の完備に努む。町會議員、郡會議員として地方自治貢献の功亦尠からず。外に西大寺鐵道株式會社取締役、東備製絲株式會社取締役、濟世顧問を兼ね、益々元老として精彩を放つ。

寺松國太郎 京都市上京區東大路二條下ル

本邦洋書界に寺松坦齊の名を聞くや久し、坦齊とは實に君の畫號にして鹿子木畫伯と共に關西洋畫壇の泰斗たり。明治九年倉敷市に



生れ、小、山正太郎、淺井忠の數氏につきて洋書を學び、四條派より出で、洋書を

加味して絢爛佳麗眼を奪ふ。特に美人畫に長じ夙に明治畫壇に異彩を放てり。明治三十五年文部省教員檢定試験に合格し、中學閑谷巽に職を奉すること三年、京都に移り大作に専念し廣く世の觀賞に翹へ傍ら致誠畫塾を開きて後進の養成に没頭せり。其間文展に入選すること八回。千九百十年日英博覽會に大原女を出品して褒状を、千九百十三年佛國サロン、アーティスト、フランセースに裸體畫を以て入撰し、全時に世界各國聯合文藝協會員に推薦さる。大正三年戰捷記念博覽會を始め京都御大典記念博覽會、大正三年、大正六年日本産業博覽會及大正五年全六年京都博覽會、大正九年全國勸業博覽會、昭和三年大日本勸業博覽會各美術審査員に囑託され、第一回聖德太子奉讀展覽會委員に擧げられ天人の大作を特別出品して傑作を歌はれたるは記憶に新なる所現に關西美術院教師、村雲門跡講師等たり。滿佐夫人との仲に一嬢あり、愛婿隆太郎氏は醫院を開業す。

友澤病院長

友澤昇 岡山市上西川

大正十年岡山醫專卒業、全年陸軍見習醫官近衛歩兵第三聯隊に入營、正八位三等軍醫任官岡山衛戍病院附となり、大正十二年三月依願退官。翌年岡山醫大柿沼内科教室に於て内科研究、大正十四年全上阪博士につき解剖學研究、傍ら岡山市下石井に開業。昭和二年二月醫學博士の學位を授かる。造詣深く仁慈の心厚く斯界の權威たり。且つ天性活潑人に接して城壁なく、爲に人皆其の徳を慕ふて集る。而も政治に興味を有し所論透徹山口縣人の血を受けて氣骨稜々、政界雄飛を期待せらる。明治二十六年山口縣佐渡郡防府町の生れなり。

林野高等女學校校長
鳥越保太

君は明治二十七年小田郡中川村に生れ、矢



掛中學を経て大正三年大阪府池田師範卒業。後獨學以て中等教員修身、教育、体操等の免許狀を得、更に健闘、昭和三年心理及論理の高等學校教員免許狀を受く。母校池田師範、奈良縣女子師範教諭を歴任、大正十一年西大寺高等女學校教諭となり、昭和五年榮轉して前職に在り。縣社會教育第九分區委員長となり今日に至る。傍ら社會教育に力を致し、團體觀念明徹叢書を自費出版し、有志知友に頒つ、既に四卷に及ぶ。別に信仰のすゝめ一巻、その他獨學者指導に對する著述二三あり。熊代夫人との間に一女三男あり。

戸室銀次郎 東京品川區五反田

明治十七年津山藩士戸室貞信氏の二男に生れ、東都に上り東京高工に入り機械科に學ぶ。三十八年業を卒へて芝浦製作所に入り遂にその所長となる。やがて長野縣技師に任せられ、數縣技師を歴任し、後官を辭して長野市に獨立の製鐵工業を起せしが、更に上京して品川の地に發條製造工場を興して今日に及ぶ。弓術に長じ琵琶に巧なり。菊野夫人との仲に一男一女あり。

土居通憲

岡山市弓之町

津山在の素封家にして元貴族院議員土居通博氏の一門なり。明治九年生れ、三十八年分家して實業に志し、土居銀行の全權を握る。日本柳織製造會社社長、津山製絲取締役、津山

土井内科小兒科醫院長
土井助一 東京日本橋區米澤町一ノ一

日本橋區醫師會理事、東京市醫師會議員。君は明治十八年土居正作氏の五男に生れ、幼より學究を樂しみ、遂に郷土を立つて東上

り。満佐夫人との仲に一嬢あり、愛婿隆太郎氏は醫院を開業す。

戸室銀次郎

東京品川区五反田

明治十七年津山藩士戸室貞信氏の二男に生れ、東都に上り東京高工に入り機械科に學ぶ。三十八年業を卒へて芝浦製作所に入り遂にその所長となる。やがて長野縣技師に任せられ、數縣技師を歴任し、後官を辭して長野市に獨立の製鐵工業を起せしが、更に上京して品川の地に發條製造工場を興して今日に及ぶ。弓術に長じ琵琶に巧なり。菊野夫人との仲に一男一女あり。

土居通憲

岡山市弓之町

津山在の素封家にして元貴族院議員土居通博氏の一門なり。明治九年生れ、三十八年分家して實業に志し、土居銀行の全權を握る。日本柳織製造會社社長、津山製絲取締役、津山電氣株式會社の創立その合併後の中國水力電氣株式會社の取締役、元衆議院議員、苦田郡會議員、郡參事會員その他の公職にありて力を致せしことすくなからず。君は英國風の濃厚なる紳士にして地方人の尊敬する處なり。

友道憲二

吉備郡岡田村字岡田



明治二十年廣島縣深安郡御野村に生る。大正八年北海道帝大農學部卒業、青森

縣立三本木農學校に奉職、十年朝鮮總督府營廠技手拜命、後岡山縣金光中學校に奉職五ヶ年に及ぶ。昭和元年岡山縣後月郡芳井町後月國民學校新設せらるゝに及び校長を拜命し、五年吉備都黃薇公民學校長に轉補せられて今日に及ぶ。園藝及狩獵を娛しむ。靜惠夫人との間に大阪女字藥專出身明子嬢あり。

東京專修大學理事 同商學部經理學部長
中央大學講師

道家齋一郎

東京市四谷區三光町二四

君は麴町の舊邸に生る。父君道家齋氏は岡山縣士族佐野藤之丞氏の三男にして道家の家を繼ぎ夙に東都に出て大學南校に學び學を卒はるや、官界に入り其の俊敏嚴正を認められ、遂に總理大臣秘書官に任せられ、法政局參事官、農商務省水産局長同農務局長等に歴任して大正九年官を辭す。同十二年貴族院議員に勅任せられ從二位勳一等に敘せらる。君は其の長男、學習院中等科高等科を経て京大法科政治科に入り大正四年業を卒へ、久原礦業に入社し日立製作所に勤務す。同九年本店詰となり十三年同社を辭す。同年東京市主事統計課長となり、電氣局勞働課長に轉任、昭和二年五月東京市より歐米各國へ都市行政視察に派遣せらる。歸朝前職にありしも昭和四年之を辭し前記の職にあり。

土井助一

東京日本橋區米澤町一ノ一

日本橋區醫師會理事 東京市醫師會議員
君は明治十八年土居正作氏の五男に生れ、幼より學究を樂しみ、遂に郷土を立つて東上日本醫專に學ぶ。大正二年其の開業試験に合格し、明治病院に勤務して研鑽を重ね、同五年帝都の中心たる現地に開業して今日に至る。君特に現代醫療中乳幼児學童の健康保護に重点を置き、進んで同所千代田小學校に校醫たり。久子夫人との間に二男一女あり。

正五位男爵 土倉光三郎

岡山市東田町

明治三年舊藩山藩主三浦子爵の男として生れ、舊備前藩家老贈從四位土倉修理之助正彦氏を嗣ぐ。岡山縣内務部權度課長となり、久しく技術官として令名ありしも、大正十一年辭して悠々自適風月を共とす、即ち刀劍、書畫、骨董、和歌、漢詩等を娛しみ、舊藩貴族の態面を固む。

土居通博

苦田郡田邑村

由來土居家は作州の名家として聲名高し、其の祖は四國土居家にして家系連綿數十代を傳へ、作州に來りても既に十四代を經、君は其の當主にして明治元年生れ、二十三年東京明治法律卒業、歸郷して父君指導の下に銳意自家經營の事業に力を致して倦怠なし。三十九年本縣多額納稅者貴族院議員となり、翌四十年再選せり。後同家經營の土居銀行を合併山陽銀行とし之れに頭取となり、更に第一合同銀行と合併中國銀行となりその副頭取たり。本縣金融界の爲めに貢献すること多く、其の他事業界に重きを成す。

富山二郎

神戸市北長狹通五丁目

明治二十六年生れ、淺口郡玉島町製塩家富山小三郎氏の次男、大正四年立命館大學を卒業し、全六年辯護士試験に合格し、數年間刑事専門の三浦辯護士事務所に於て實務を研究す。後獨立開業主として民事々件を専門とす。才氣潑洩、人に接して懇切城壁を設けず。辯舌巧にして又文材あり、神戸法曹界に重きを成し現に神戸辯護士會副會長たり。日本冷蔵海運株式會社其他二三の會社に關係して監査役たり。文子夫人との仲に一男二女あり。

鳥羽源四郎

大阪市天王寺區鳥ヶ辻町電氣局公舎

明治二十一年生れ和氣郡片上町東片上宮城

定吉氏の四男、後赤穂郡塩屋鳥羽家に入る。



大阪泰西
學館、關
西大學法
科に學び
、大阪市
電氣鐵道
課に勤務
し、夜間
及休日に

は研究を續行し、具に螢雪の苦難を積み、遂に大正元年全大學法科を出で、全時に大阪市電氣局に繼續奉職して今日に至り、累進して同局庶務係長となり効績著るく、勤績實に二十餘年上下の信望頗る厚し。さくる夫人との間に一男一女あり。

富山 博 吉備郡新本村

明治二十四年淺口郡玉島町勇崎に生る。四十二年金光中學校卒業、四十四年岡山師範第二部卒業、淺口郡玉島第四小學校訓導となり、爾來精勤小國民の教育に倦むことを知らず、昭和六年吉備郡新本小學校長に榮轉して現在に至る。公民學校長、青年訓練所主事を兼務す。地方青年の私淑すること甚大なり。夫人との間に二女あり

共益社 烏越義重 津山市中之町

君は明治九年津山市中之町に生る、今より二十餘年前同市京町有價証券賣買業共益社を創業し、自らその代表者として斯界に活躍し、その確實なる營業振は廣く知らるゝに至り年と共に盛大を來す。現に津山市商工會議所議員たり。君は又俳壇に於てその名を知らる。二子ありその次男は俳書界に於て前途を待望せらる。

時實照太 大阪市東區本町一丁目



明治十七
年生れ邑
久郡長濱
村故時實
繁次郎氏
の長男、
武田製藥
技師時實
杖一氏は

君の實弟なり。東都に遊學後富士紡績株式會社に入り、倉庫事務より販賣業務に亘る實務を研究、大正七年大阪市に於て單獨綿織物の輸出仲介業を始め、蓋し氏の實業界雄飛の第一歩たり。

十一年更に同志と合資して南久太郎町に時實商會を創立し、傍ら人絹製品の取扱に着手し、販途鮮滿南支に及び遠く印度にも輸出す。現在は主として人絹被服地の製造輸出に専念し、福井縣下に十五ヶ所の工場を有し年産一百万圓を超へ斯界稀に見る信用を博せり。松香夫人との間に二男あり。

土居脩治 岡山市二番町

明治七年苦田郡一宮村に生れ、幼時を京都に過し、某大生糸商に在りて勤務せり。二十七才にして歸郷、津山市に於て生糸商を獨力經營して産を作る。大正元年當時の備作電氣株式會社に入社、九年合併の後も引續き同社にありて精勵、その支配人、常務取締役となる、又岡山電燈の専務取締役となる。基督教に信仰厚く、精神修養に力め精神生活に餘念なし。

友金 藤吉 眞庭郡郡川上村西茅部

君は明治四十三年三月岡山縣師範第一部卒業にして、早く擢んでられ校長となり、大正五年既に群を抜いて縣知事より教育功勞者として表彰せらる。性極めて謹直、勤めて精勵、されば村民父兄の尊信厚く、子弟の敬慕すること切なり。稀に見る人格者たり。スキーに趣味を有し蒜ヶ山スキー俱樂部の開設者として知らる。

十時 菊子 吳市下山手町



生る。特別許可を得て中學傳習館にて勉學の後、東京女子學院に入學し、全科並

にフルベル式幼稚園保母科を卒業し、新潟縣高田女學校に奉職せり。青森市にて米國婦人ミス、ウキンと共に傳道の傍ら貧民學校を設け、午前は同學校に教鞭を取り、午後は女子師範、女子高等小學校に英語を教授す。又婦人矯風會青森支部を設くる等社會事業に貢献せり。明治三十八年九月より現地に於て海軍々人家族の傳道に従事し、又此等家族の下宿の必要を感じ、四十一年帝國海軍々人ホームを設け、一路邁進一大家庭となし、遂に今日

岡山市教育會主事 戸田音策 岡山市富田町一五九

明治十一年岡山市富田町に生る。三十一年岡山師範卒業後、上房郡斯道、高梁兩高等小學校訓導、御津郡牧山小學校校長、岡山市弘西小學校訓導を経て、昭和四年一月岡山市教育會主事に就任して現在に至る。曩に昭和三年敍勳の恩典に浴し、昭和三年御大典に際し

の榮譽を見るに至れり。尙女史は基て督教會の役員又吳婦人文化講座の幹事等として十年一日の如く献身的努力を續く、眞に稀に見る女丈夫と謂ふ可し。

友保資一郎 奥津村長苦田郡

奥津村村會議員として村政に參畫すること多年、其の効績顯著に見るべきもの多し、

和氣郡伊部町長

鳥山信次

和氣郡伊部町

明治七年生れ、邑久郡笠加村字箕輪の人。近江歩兵第三聯隊に入營、除隊後邑久、上道郡書記勤務、大正六年正八位に、七年從七位勳七等に叙せられ、大正十年郡農會名譽會員に、更に副會長に推される。十二年正七位に叙せられ、大正十四年十一月現職に推舉せらる。今や小作調停委員、町農會長並に和氣町村長會副會長たり。責任觀念強く、よく自治團體の本領を發揮せしめ、同町の繁榮を招致して益々信望厚し。

徳長久間太

君は明治十九年和氣郡藤野村に生る。大正四年岡山縣巡查を拜命し、岡山東署詰となり、大正十年巡查部長に進み巡查教習所勤務を命せらる。次で警部補に昇進して玉派出所詰となる。後再び巡查教習所に入り教官となり、大正十五年警部に任せられ津山署次席たり。昭和二年擢んでられ矢掛警察署長拜命、同四年成羽警察署長、同六年高梁警察署長、六年縣高等課長に累進し、七年西大寺署長に出で轉じて今日に及ぶ。

富田金一 岡山市七番町



明治十一年五月久米郡鶴田村に生る。或は小學教育に、或は選ばれて村長として

自治に貢献し、其の前半生は周圍の人の推舉と希望に任じて倫理的判斷の下に應諾し、犧牲的奉仕に邁進せり。大正五年名譽村長を辭して以後愛國婦人會岡山支部主事、職業紹介所長、日本赤十字社岡山支部主事を勤め、同支部病院特別會計とするに及び兼任事務長となり、十有七年全く東奔西走、官民の間に立ちて社業の進展、事務の遂行に善處し各々異常の進展を見る。

友保知

苦田郡奥津村

曾て永らく村宰として活躍村治の成績大いに上り、信望厚く郡内村長中一勢力として重きを成す。今や閑にありて専心地方開發、産業興隆の爲に劃策し、熱誠自力を以て之れに

當る。現に奥津温泉組合長、奥津保勝會長、奥津スキー俱樂部會長として活躍貢獻する所尠からず。目下新に副業として奥津遊覽客の土産品、木竹細工の奨励、ゼンマイ、ワラビ、ウド、スッポコ等の罐詰、糟漬等をも製造販賣し、更に天然療養所を計畫し奔走大いに力むるところあり。

富永久治郎

津山市材木町三六

明治三十五年津山市に於ける舊家に生る。明治元年先代久治郎氏の創業履物、雜貨の卸商を營む、其の販路は廣く美作一圓に及ぶ。君幼にして先代の計に遇ひ直ちに家業を繼ぎ、多數の店員を指揮して遺漏なく、恪勤精勵家運如斯愈々隆昌を見る。蓋し近代に稀なりとして世間前途に囑望すること多大なり。

後月郡芳井村消防組頭
外山芳文



君は明治二十九年後月郡芳井村に生る。大正三年矢掛中學校卒業、兵役に服し、

退營後家事に従ひ、同地信用組合設置に當り理事長となる。大正五年芳井村消防組頭、在郷軍人分會長に推舉さる。新機購入のガソリン車ボンブ二臺を有し、組員五百五十名の訓練等縣下團體中模範たるの故を以て大正十五年縣知事より表彰を受け、更に昭和五年組頭として知事の表彰を受く。現に信用組合理事、後月銀行頭取等の職にあり。

岡山縣會議員

土井將

岡山市下出石町七八

明治二十八年御津郡加茂村の生れ、夙に山陽新聞記者として操觚界にあること多年、婉麗なる筆致と、雄揮、侃諤なる言論以て縦横に世俗を剔抉し、一世を叱咤す。大正十二年縣會議員に當選、以來政友會に籍を置き、闘士として知らる。當選既に三回愈々重きを成す。其の政治生活の將來又以て窺ふ可きなり。

備前織物同業組合長、町會議員

土岐壽太郎

兒島郡琴浦町

君は猪三郎氏の長男、明治十二年九月生る

祖父槌四郎氏は足袋製造織物及び染色を業とし、父君之れを承け更に之れを繼ぐ。拮据經營に膺り、敏腕克く社會の變遷を洞察し時流に棹して漸次同地同業者間に德望篤く名聲を馳す。明治三十八年組合創立の有力なる一員として畫策奔走して組織成るに及んで評議

圓又本邦第一の大取引所たり。理事長は上島益三郎氏、總代に田島安治郎、竹原莊治郎、濱崎辨之助、豊田喜三、八田兵次郎、細字榮、岩本房吉の諸氏あり。

中川竹仙

岡山市上之町

彫刻細工に獨特の技を持ち、藝術的作品家

して以後愛國婦人會岡山支部主事、職業紹介所長、日本赤十字社岡山支部主事を勤め、同支部病院特別會計とするに及び兼任事務長となり、十有七年全く東奔西走、官民の間に立ちて社業の進展、事務の遂行に善處し各々異常の進展を見る。

友保 知 苦田郡奥津村

曾て永らく村宰として活躍村治の成績大いに上り、信望厚く郡内村長中一勢力として重きを成す。今や閑にありて専心地方開發、産業興隆の爲に劃策し、熱誠自力を以て之れに

明治二十八年御津郡加茂村の生れ、夙に山陽新聞記者として操觚界にあること多年、婉麗なる筆致と、雄揮、侃諤なる言論以て縦横に世俗を剔抉し、一世を叱咤す。大正十二年縣會議員に當選、以來政友會に籍を置き、闘士として知らる。當選既に三回愈々重きを成す。其の政治生活の將來又以て窺ふ可きなり。

備前織物同業組合長、町會議員

土岐壽太郎 兒島郡琴浦町

君は猪三郎氏の長男、明治十二年九月生る

。祖父穂四郎氏は足袋製造織物及び染色を業とし、父君之れを承け更に之れを繼ぐ。拮据經營に磨り、敏腕克く社會の變遷を洞察し時流に棹して漸次同地同業者間に徳望篤く名聲を馳す。明治三十八年組合創立の有力なる一員として畫策奔走して組織成るに及んで評議員にあげられ、副組合長なり現在に及ぶ。尋いで備前織物同盟會を組織して會長となり更に足袋同業組合の創立に盡力し、尙ほ町會議員、獵友會長、南兒織物合資會社代表者を兼ね、自治に實業に雄飛して治績實に偉大なり。

正四位勳三等 京城日報社長

時實 秋穂 京城太平通一丁目

明治十四年邑久郡長濱村に惣次郎氏の長男に生る。明治二十八年家督を相續す。明治三十六年東京帝國大學法科を卒業、文官高等試験に合格して岩手縣事務官、徳島、愛媛、島根縣等の警察部長、茨城縣内務部長、朝鮮總督府忠清南道知事、朝鮮總督府監察官、同京畿道知事等を歴任す。官を退き福岡市長に擧げられ後之を辭す。昭和六年四月京城日報社長に就任して今日に及ぶ。鶴子夫人との間に一男一女あり。

大阪株式取引所常務理事
中村秀五郎 大阪市西成區玉出町本通一



君は岡山師範の出身、岡山兵庫兩縣下に教鞭を把りたるも壯志教育界の一偶に満

足し難く、斷然教鞭を捨て、義兄不破福松氏の東京株式取引所の店舗に走りて實務を練ること前後數年、一躍天下の投株市場北濱に現れ、全支店の支配人となり取引所法の改正と共に、自ら取引員となり漸次信望を博して委員に擧げられ副委員長となり、大正十四年取引員側を代表して現大株取引所常任理事に互選せられ、今や斯界の耆宿を以てひとり取引所及市場方面の信賴瞻仰をほしいまゝにせるのみならず、浪華財界の人格者として名望最もあつし。因に君の主宰せる大株は明治十一年六月の創立、本邦取引所の最故參たる傳統と歴史を有し、現在資本金公稱四千五百萬

圓又本邦第一の大取引所たり。理事長は上品益三郎氏、總代に田島安治郎、竹原莊治郎、濱崎辨之助、豊田喜三、八田兵次郎、細字榮、岩本房吉の諸氏あり。

中川竹仙 岡山市上之町

彫刻細工に獨特の技を持ち、藝術的作品家として其の名高く、一物一基皆妙味に適ひ、一彫一刻盡く趣味津津たるものあり。全國各地の博覽會、展覽會に於て常に賞讃を博し、最近伊太利國博覽會に出品、日本藝術品として大いに氣を吐く。君人と爲り高潔にして、名利に奔らず、一意趣味に丹精餘念なし。

千里足袋會社々長

永山久吉



明治十四年兒島郡下津井町に生る。九平氏の二男、丸五足袋株式會社々長、帝國

足袋株式會社專務取締役たりしことあり。尙足袋同業組合議員、同組合長、營業調査委員、下津井町會議員、所得稅調査委員等引續き二十年に及ぶ。現に首記の職並に下津井鐵道取締役たり。其の製品の優秀なることに於て又其の生産能力に於て日の本足袋補助足袋に劣らず。今回陛下行幸に際し侍從御差遣の光榮に浴す決して偶然にあらざるなり。最近衆望を負ひ縣會議員に當選し縣政の爲め盡瘁貢獻するところ亦多し。

中桐彦太郎 大阪市住吉區平野政所町二

君は兒島郡福田村福田中桐壽一郎長男、萬延元年二月を以て生る。家代々農を以て業とし製綿、製油を兼ねたるも其の製法専ら手工に依るの外なく能率甚だ揚らず之が改良創案を志し失敗に歸し爲に家産を傾け遂に各地を流浪する迄に零落せり。明治九年近畿棉花の主産地たりし大阪府東成郡平野郷町に出づ。當時僅に拘繩業細工を以て糊口を凌ぐも素志を捨てず。偶々製油所の油搾機の運轉を見て之を應用し臥辛膏膽幾多の失敗に怯まず前後十幾年漸く完成を見中桐式綿繰機として特許を受く、偶々病床に呻吟し貧困尙洗ふが如きにも屈せず全機的大量製作販賣を以て蓄産を期し、十七年鑄造所を設けて製作に従ひ專念

販路の擴張に努め、十九年以降濱松、東京、下總の各所に賣捌店を特約し更に木製フレームを鐵製に改良して大に聲價を高め明治二十一年には南支那波、翌二年には上海にまで支店を設け中桐式の名頗に揚れり。然るに紡績業界急速の進歩を遂げ内地に於ける棉花の栽培漸次衰退せる爲め之を支那方面に轉せんと印度、南洋に渡りて視察し専ら長江沿岸に販路を求めて漢口に支店を設置し相當の巨利を博せり。後鑄鐵業に轉業。今や大阪屈指の機械鑄鐵工業所として聞へ、水道並に瓦斯用各種弁類、鐵蓋制水弁、消火栓其他水道用雜機を製作す。齡壽をすぎ尙矍鑠、慈善公共に盡すところ亦多大なり。

郵便局長
從六位 中山茂樹



明治元年
廣島縣沼
隈郡松永
町生れ、
二十九年
廣島縣收
税局拜命
、同年十
月官制改

草稅務局に任せらる。三十三年三等郵便局長に命せられ爾來終始一貫今日に至る。功績甚大昭和三年遞信大臣より功績章及銀盃を授與せられ、全月大饗第一日賜饌の光榮に浴す。更に昭和五年高等官七等を以て待遇せられ、勳六等瑞寶章を拜受せり。今次畏くも天皇陛下廣島縣行幸に際し、福山市役所に於て拜謁仰付られ、又岡山市に於ける賜饌に召さる。

岡山縣足袋同業組合副組長

中塚隆稔

明治十八年兒島郡兒島町に生る。關西中學卒業後専心勉學を重ね、朝鮮總督府郵便所長に任命され、傍ら蔚山學校組合管理者並びに蔚山郡農會參事員に推されその發展に貢献せり。後歸郷して兒島町會議員、岡山縣足袋同業組合副組長並兒島郡支部長を兼務し、手腕を發揮しつゝ今日に至れり。その他兒島足袋合資會社、兒島運送合資會社代表社員たり。

内藤胃腸病院々主

内藤七郎

君は兒島郡味野町の人、明治十四年生れ、四十年岡山醫專卒業の直後、東京長興胃腸院に入りて實地の研鑽を遂げ、四十一年歸郷内

科醫を開業す。業務の傍ら選ばれて味野町會議員、學務委員、醫師會議員等を兼ね、又兒島商船學校、味野高等女學校及小學



校の囑託醫として努力一貫以て今日に至る。

辯護士 内藤正剛

大阪市東區今橋五丁目

明治十六年阿哲郡新見町内藤基氏の二男に生る。三十七年關西大學全四十年中央大學研究科卒業、司法官試補となり神戸地方裁判所全檢事局に奉職。翌四十一年辭し大阪に辯護士開業、民事に精通、刑事辯論に長じ、快活溫情人と接して城壁を設けず東西群書を涉獵し、大阪法曹界に著聞す。君は又政治家にして早くより元立憲同志會に籍を置き曾て大阪支部幹事として盡瘁す。大阪府市會議員に當選すること二回嶄然斯界に一勢力をなし、大阪市會市部會議長又は府會議長等に推さる。現に市會議員、學務委員、關西大學理事、中央大學關西支部理事等多くの公職に在ると共に三十四銀行、日本麥酒釀泉顧問たり。辯護士内藤正知氏はその實兄、ゑい子夫人は龍野藩士田井家の生れ、鐵道省勅任技師田井九一氏の實妹なり。

中江幸平

苫田郡中谷村

岡山師範を明治四十二年卒業、苫田、眞庭二郡に訓導、校長として歴任、現に阿波尋常高等小學校長たり。一見溫厚なれども剛腹にして、自己の所信は貫徹せざれば止まざるの概あり。されば其の業績著々として顯はれ、年と共に地方民に理解せられて信望厚きに到る。

中元定一

津山市小田中

君は明治十七年生れ、大正四年牛乳搾取販賣業を開業し、一意専心家業の發展に努め品質の良好と廉價販賣を以て今日の盛況を招く。常に津山最大の牧場としてゼルシー十數頭、ホルスタイン三十頭前後を小田中高莊地數百坪の地に飼養し、未明より一家總出動、深更に至るまで飼育採乳の事に奮闘す。時代の推移による需要の増加と經驗とにより更に益々隆運の一途を辿る。

中村信康

岡山市花畑二二六

今回の行幸に際し教育功勞者として十一月十八日御座所に於て單獨拜謁の光榮に浴す。君獨り家門の譽とするのみならず本縣教育會の誇りとするところなり。君は明治六年都窪

中野鶴松

淺口郡黒崎村 都窪郡早島町

舊姓寺山、明治四十四年岡山師範本科一部卒業、教育界にあること數年、後實業界に入

岡山縣足袋同業組合副組長並兒島郡支部長を兼務し、手腕を發揮しつゝ、今日に至れり。その他兒島足袋合資會社、兒島運送合資會社代表社員たり。

内藤胃腸病院々主
内藤 七郎

君は兒島郡味野町の人、明治十四年生れ、四十年岡山醫專卒業の直後、東京長興胃腸院に入りて實地の研鑽を遂げ、四十一年歸郷内

中村 信 康 岡山市花畑二二六

今回の行幸に際し教育功勞者として十一月十八日御座所に於て單獨拜謁の光榮に浴す。君獨り家門の譽とするのみならず本縣教育會の誇りとするところなり。君は明治六年都窪郡豊洲村佐藤家に生れ、中村氏を繼ぐ。



明治二十年岡山師範卒業、岡山高等小學訓導、岡山市深樫校長、出石校長に歴

任、大正九年勳八等に敍せられ、昭和四年奏任官待遇正七位勳七等に敍せらる。常に温厚篤實、禮讓の念厚く身を以て人を導く真に師表たるの資格充分なり。茲に於てか德望頗る高く父兄子弟の尊信深し、今回の榮譽を負ふ決して偶然にあらざるなり。長男一夫氏は砲兵中佐、三男良夫氏も砲兵大尉にして共に現役、外に二男一女あり。

水田村長

難波 又四郎

上房郡水田村

明治十五年中津井村大字中津井の舊家數吉氏の長男に生る。家は今より三十年前現住に支店開設の爲め移轉し來り、自家醸造金鶴正宗の販路を地方に開きたり。少壯より上京早稻田大學政治經濟を修め、四十一年卒業して歸郷、廣島師團の主計に志願し少尉に任官、歸郷後軍人分會長の榮職に就き、大正十三年村會議員に選出され、更に同年村長に就任、爾來繼續在職せり。

中村 吉之助



君は明治十年兒島郡赤崎村に生る。大正十二年十二月赤崎村名譽村長に當選し、

昭和二年滿期退職せり。在職中、専念村治に盡し、四年再び推さる。現在は清酒醸造業を經營し傍ら味野塩業組合理事に就任してその手腕を振ふ。二男二孫ありて圓滿なる家庭な

中元 定一

津山市小田中

君は明治十七年生れ、大正四年牛乳搾取販賣業を開業し、一意専心家業の發展に努め品質の良好と廉價販賣を以て今日の盛況を招く。常に津山最大の牧場としてゼルシー十數頭、ホルスタイン三十頭前後を小田中高莊地數百坪の地に飼養し、未明より一家總出動、深更に至るまで飼育採乳の事に奮闘す。時代の推移による需要の増加と經驗とにより更に益々隆運の一途を辿る。

中野 鶴松

淺口郡黒崎村

都窪郡早島町

舊姓寺山、明治四十四年岡山師範本科一部卒業、教育界にあること數年、後實業界に入り運送業に従事す、現在は早島合同運送店代表社員たり。才氣潑瀾、智謀百出の士、早島町消防組々頭的要職にあり。政治に興味を持ち、地方に於て隱然一大勢力を有す。

辯護士

中江 濟

尼崎市西本町北通四丁目

明治十五年一月生れ、苦田郡中谷村中谷、中江喜志造氏の三男なり。明治三十八年關西大學法科卒業。通信屬として大阪遞信局に勤績九ヶ年、次で大阪府主事、市場現物調査のため河田嗣郎博士等と共に之に従ふこと二ヶ年、後大正元年大阪米穀商全業組合書記長に



招かれ、組合長上田彌兵衛氏を輔けて手腕を認められ、大正十年尼崎信用組合創

立に努めて理事となり、十一年辯護士開業試験に及第して北區老松町に開業、後現事務所西區阿波座上通一丁目府信用組合聯合事務所に移る民事に名あり。昭和三年尼崎市會議員に當選學務委員をかね、衆望を以て副議長に推さる。尙産業組合中央會兵庫支會講師、阪神電鐵會社顧問たり。つる子夫人との間に二男二女あり。

難波 信保

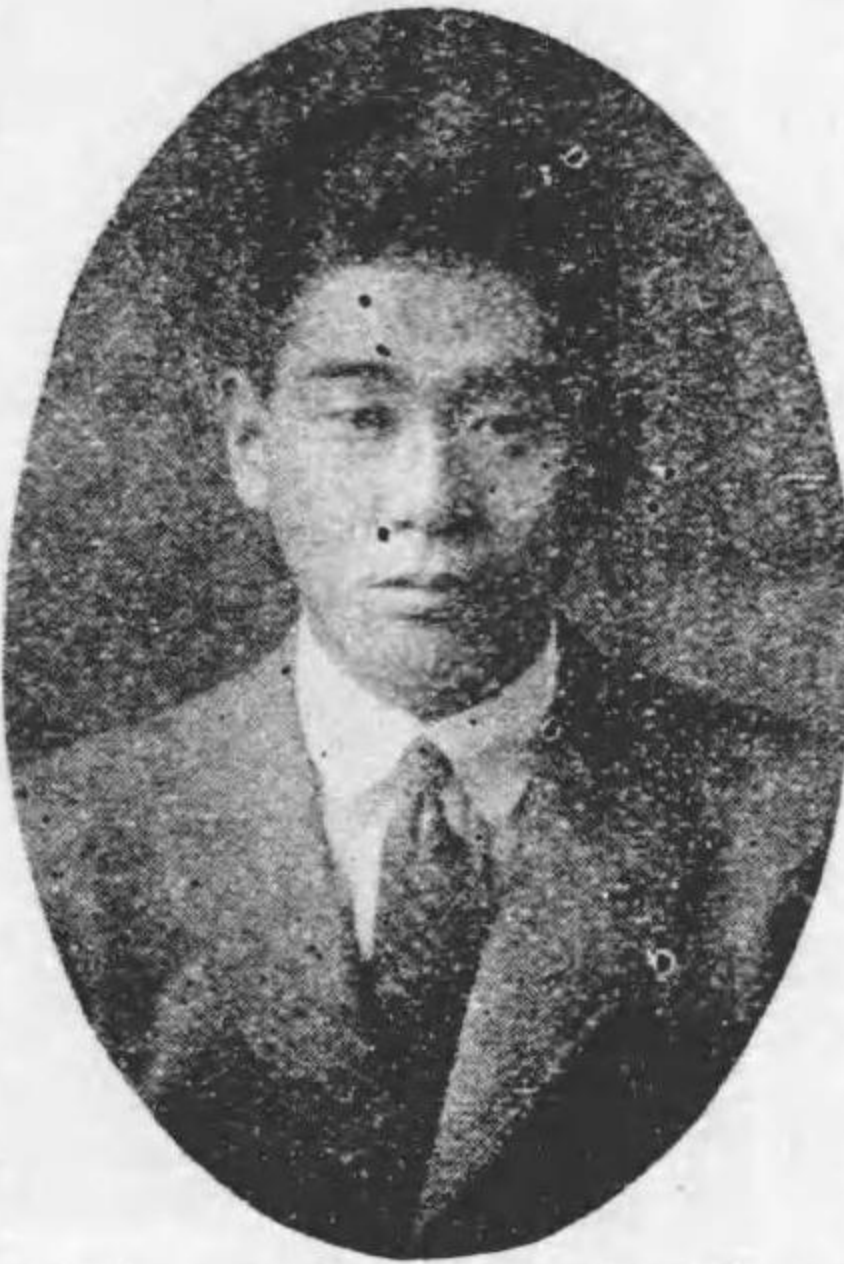
岡山市巖井九〇

明治十九年上房郡有演村に生る。獨學勉勵村會議員、村吏員たること數年、壯圖滿々片田舎に終るを潔よしとせず、岡山市に居を移し實業に就く。偶々今回の大演習に際し旅館錦園宮内省の御用命を賜るや氏は園主吉田清次郎氏を援助し、宮内大臣以下宮内省の高官宿所として萬遺漏なく其の責を果す。隠れたる功勞者たり。

永山 徳四郎

明治三十六年岡山市西田町に生る。岡山中學、山口高校卒業の後、東京帝大に入學經濟學專攻業を卒へ、昭和三年山陽銀行に入る。

今次の特別大演習に際り朝香宮殿下の御宿舎



の光榮に浴す。翌年六年銀行を退き閑につく。君の才的なり夫人眞

子氏は津山市有本家の生れ、讀書家として聞ゆ。

永田正史

吉備郡久代村

明治二十五年生れ、大正三年三月岡山師範第二部卒業、都窪郡妹尾小學校、同郡加茂野、吉備郡山田、久代、秦校訓導等を経て、昭和五年富山小學校長となりて現在にいたる。資性温厚篤實にして小國民の教育にふさはし。現に補習學校長、青年訓練所主事を兼務して教育報國の實績大なり。

辯護士

中務平吉

大阪東區淡路町一丁目



夜間東雲塾に通ひ以て普通學を修め、全四十年關西大學專門部法律科

に入學せんため大阪府巡查となり、隔日全校に通學すること三年に及び、業成り上京し辯護士三宅碩夫氏の門生となり、中央大學第三年級に編入、翌大正元年全校を卒業し次で辯護士開業試験に合格、茲に初て宿志を果せり。斯くて君は大阪にかへり先輩伊藤秀雄氏の事務所にあること僅に八ヶ月、西區靑南通三丁目目立に獨立開業後現住所に移れり。民事を以て最も得意とす、今や大阪辯護士會副會長、全會風紀委員會委員長、安田、第三、十五各銀行、日本信託等の各顧問たり。曩に御大

典記念事業として校舎建築費及教育用機械器具を郷里小學校に献金し、教育功勞者として紺綬褒章を授けらる。君不撓不屈努力によりて運命を開拓したる好典型、立志傳中の人と謂つ可し。

日本樟腦株式會社

檜本裕康

神戸區再度筋

明治四年六月岡山市中屋敷出生、幼名を太郎と稱す。二十三年水兵を志願し、同二十七年八年戰役に當り、軍艦高千穂の乗組員として、仁川、威海衛、澎湖島方面の海戰に参加す。歸省の後稅務官吏となり、縣下新見、林野、笠岡を経て廣島稅務監督局詰となり、次で神戸稅務監督局に轉じ、大藏省樟腦事務局神戸製造所庶務課長となり、主幹に進む。官にあること二十三年、大正七年四月日本樟腦株式會社に入り課長を勤務して現在に至る。

檜崎操一



明治二十年廣島縣宇品市府中に生る。廣島師範出身、高等師範卒業後山梨縣師範、岡山師範、高梁中學教諭を経て井原高女校長となる。同校の創立は明治三十六年現校地坪數一千三百十三坪。生徒總數五二八名、卒業生の志操堅固質實剛健は多年定評ある所に於て一つに校長の人格的訓育の結果なり。君は又生徒体育、家庭との聯絡に重きを置きて常に教養の實を擧ぐ。

長尾壽重

明治十一年眞庭郡久世町に生れ、縣立農學校の出身、夙に農事の改良農村振興を高唱せり。縣會議員、町會議員として自治の徹底的確立に努むると共に、産業經濟の發達にも盡瘁し、信用組合理事、作西聯合販賣組長、育英會理事として社會公共に盡す。君又水道敷設を主張して久世町の衛生状態を向上せり。家は舊家にして、國主森侯よりの温泉拜領御墨附は今尙當家に保存せらる。

中村孝平

倉敷市平田

明治二十二年生れ、四十二年岡山縣師範學校卒業、都窪郡菅生尋常高等小學校訓導拜命

り、奏任官を以て待遇せらる。蓋し異數の昇進なるべし。温厚篤實、熱誠以て事に當る、されば地方民の信望厚く生徒の尊任厚し、得難き良教育家なり。

に入學せんため大阪府巡査となり、隔日全校に通學すること三年に及び、業成り上京し辯護士三宅碩夫氏の門生となり、中央大學第三年級に編入、翌大正元年全校を卒業し次で辯護士開業試験に合格、茲に初て宿志を果せり。斯くて君は大阪にかへり先輩伊藤秀雄氏の事務所にあること僅に八ヶ月、西區靱南通三丁目に獨立開業後現住所に移れり。民事を以て最も得意とす、今や大阪辯護士會副會長、全會風紀委員會委員長、安田、第三、十五各銀行、日本信託等の各顧問たり。曩に御大

中村孝平 倉敷市平田

明治二十二年生れ、四十二年岡山縣師範學校卒業、都窪郡菅生尋常高等小學校訓導拜命、大正九年同校長、全三十三年全郡中庄尋常高等小學校長を経て昭和五年灘崎尋常



高等小學校長に轉じ現在に及び、奏任官を以て待遇せらる、補習學校長、青年訓練所主事兼務。趣味に花卉園藝等あり。

長江眞一 岡山市内山下

明治三十五年岡山師範卒業。岡山高等、内山下學校に訓導を拜命、認められて伊島校長となり、後三勳尋常高等小學校の新築に當りて再び校長となる。濃厚篤實なる人、在職數年、世の毀譽褒貶を外に着々として、教育の實績を擧ぐ、今日の教育者中稀に見る所なり。詩歌の造詣深く文章亦巧なり。

兒島郡下津井町長 中西幸太郎



明治十五年兒島郡下津井町に生る。三十三年京都同志社を卒業。後同町の發展に

努力し、大正六年町會議員に、同八年郡會議員に當選し、十年下津井町長に當選數回重任す。味野外五ヶ町村組合立女學校組合議員に就任し、其外所得稅調査委員、岡山縣會議員として縣政の上に貢献する所亦尠ならず。昭和五年岡山縣水産會副會長に選任され、農會長保勝會長、下津井漁業組合長等の職にあり。長男勝滿氏は同志社専門部の卒業なり。

長森繁一郎 苫田郡高田村上横野

明治四十三年岡山師範卒業、苫田郡内に於て初等教育に従事すること十數年、著々成績を擧げ、教育者としての手腕力量を認められ、遂に一躍拔擢せられて香登公民學校長とな

長尾壽重

明治十一年眞庭郡久世町に生れ、縣立農學校の出身、夙に農事の改良農村振興を高唱せり。縣會議員、町會議員として自治の徹底的確立に努むると共に、産業經濟の發達にも盡瘁し、信用組合理事、作西聯合販賣組合理事、育英會理事として社會公共に盡す。君又水道敷設を主張して久世町の衛生状態を向上せり。家は舊家にして、國主森侯よりの温泉拜領御墨附は今尙當家に保存せらる。

り、奏任官を以て待遇せらる。蓋し異數の昇進なるべし。濃厚篤實、熱誠以て事に當る、されば地方民の信望厚く生徒の尊任厚し、得難き良教育家なり。

兒島郡酒造組合副組長 中田岸

明治十七年兒島郡福田村呼松に生る。家は世々酒造業を營み、今より七代安永の昔創業其名遠近に知らる。銘酒歡月泉は阪路を大阪方面に有し、釀造年産千五百石を下らず、曾て宮内省大膳寮に御買上げを蒙り、其後も畏



き邊に献上御嘉納の光榮に浴す。今最近における出品入賞せしものを擧ぐれば

- 一、首都復興記念國產博覽會名譽大賞(五年)
 - 一、岡山縣清酒品評會優等賞(五年)
 - 一、備南清酒品評會優等一等賞(五年)
 - 一、淺口郡自釀清酒品評會一等賞(六年)
- 其他各會金銀賞牌十數個。傍ら前記副組長の外村會議員、戶主會長、社寺總代等に務め、溫良恭謙社會公共に寄與亦大なり。

那須剛介 岡山市南方玉江町

君は明治四十三年岡山師範を卒業し縣下初等教育界にあること數年、一度去りて實業界に入り、鳥取縣下に於て製鐵事業に従事せしが、再び教育界に復歸し川上郡大竹校、御津郡大野小學校長等として令名を馳せて今日に及ぶ。其の聲望の隆々只に學窓に學びたる學理の應用と經驗のみに依らず、一度實業界に入りて實社會生活の修養に基く人格の表現に外ならざるべし。

岡山市土地家屋管理株式會社取締役 中川重太 岡山市國富三九九



中川家は吉備津彦命の末裔君は勤王の歌人中川寛氏の孫、明治十一年英田郡河會

村に生る。潤達よく人を容る。四十一年岡山縣土木課技手拜命、後會計課屬となり昭和元年退官、現に前記取締役支配人として活躍す。とら夫人との間に四男あり。長男涉氏は東京農大卒業兵庫縣商工課勤務、次男は日大卒業兵庫縣警察に任官す。

元玉島町長

中塚一郎

浅口郡玉島町勇崎

元治元年屈指の舊家、千賀治氏の男に生る。幼にして慧敏、さきに村會議員、郡會議員、郡參事會、郡參事會、郡會議長、縣會議員、縣參事會、縣參事會の顯職の外、玉島町長、町衛生組長、町養蠶組長、玉島實業協會長、町農會長、青年團總長、玉島鹽業購買販賣組合理事長、浅口郡農會長、郡耕作聯合組長、大日本蠶絲會郡委員長、郡水産會長、郡町村長會長、縣農會議員、縣山林會淺口支部長、小作調停委員、全國港灣協會議員、全國鹽田國鹽會常任幹事等を兼任し、當時隨所に其の手腕を發揮せり。

中國銀行常務取締役

中村純一郎

岡山市西田町一一

明治十一年都窪郡帶江村帶高に生れ、三十三年早大政治科を卒業、茶屋町銀行專務取締役として就任、大正八年十月縣下六銀行合併に依り第一合同取締役となり、妹尾銀行常務取締役を兼ね、十二年第一合同銀行常務取締役に就任、昭和五年十二月山陽銀行と合併により現職に就任今日に至る。尙ほ岡山製紙取締役、宇野港土地取締役、正織監査役、廣島臨港土地監査役を兼ね、わが岡山財界の重鎮たり。壽野夫人との間に三男あり。

難波淳二

岡山市榮町二六

明治二十二年八月兒島郡鉢立村山阪の名家に生る、



其の祖は即ち高松城士落城の後來り住せるなり。家代々醬油醸造を業とし富裕なりしかば、先代は村治に貢献せり。君時運を洞察して上京してパンの製造を見習する事七年、歸岡して現地に製造販賣所を設け、自ら指導に立つて専心顧客に優品を販賣し、今やナニハパンの名愈々高し。或は天覽御買上等の榮を賜り、博覽會等に褒賞を受く

る事屢々なり。

南條 彰

阿哲郡新見町大字新見

新見町に於ける大元老にして、目下各公職を辭し山紫水明の地に風月を樂しむ。元眞庭郡及阿哲郡長を勤め其の効績顯著にして枚擧に遑なし。爲に今尙新見町の三元老として重きをなす。

赤磐郡高陽村小學校長

中 永 太郎



明治二十年赤磐郡西山村に生る。四十年岡山師範卒業、直ちに同校訓導に拔擢せ

られ特に複式學級の經營に就て研究し貢献するところ多し。後邑久郡國府校長、行幸校、赤磐郡石相校を経て昭和五年首記校長となり現在に至る。性温厚篤實身を持すること謹嚴人の師表として尊敬するに足る。曩に奏任官を以て待遇せらる。書畫骨董を愛好し書を良くす。

中村正人

都窪郡帶江村帶高

明治二十三年生、四十三年岡山縣師範卒業、同郡山手尋常高等小學校、全郡茶屋尋常高等小學校訓導を経て、昭和四年八月全郡箕島校長拜命、全六年帶江尋常高等小學校長に榮轉現在に及ぶ。幼稚園長、補習學校長、青年訓練所主事等を兼務し、効績噴々として見るべきもの多し。

中田 彌作

岡山市上伊福



明治二十四年現地に出生、關西中學卒業後官吏として奮闘努力し、誠意勤務する

事七ヶ年にして認められ岡山市會議員に當選す。猶ほ合資會社岡山荷札製造所の業務執行社員として同社の經營に力を盡し益々發展し日と共に隆盛に趣きつゝあり。君名譽慾に走

らず、謙遜自重の人たり。日蓮を信仰し、詩歌を良くす。貞子夫人との間に二男四女あり。

衆議院議員

東京品川区入新井町新井宿

の販路は中國一圓四國に及び岡山市製產品として重きを爲す、最近ガソリンの販賣を始め市内天瀬に店舗を有す。

君は岡山第一中學卒業後、神戸高等商業學校卒業、新進の實業家として將來を勵望せ



の後來り住せるなり。家代々醬油醸造を業とし富裕なりしかば、先代は村治に貢献せり。君時運を洞察して上京してパンの製造を見習する事七年、歸岡して現地に製造販賣所を設け、自ら指導に立つて専心顧客に優品を販賣し、今やナニハパンの名愈々高し。或は天覽御買上等の榮を賜り、博覽會等に褒賞を受く



四年現地に出生、關西中學卒業後官吏として奮闘努力し、誠意勤務する事七ヶ年にして認められ岡山市會議員に當選す。猶ほ合資會社岡山荷札製造所の業務執行社員として同社の經營に力を盡し益々發展し日と共に隆盛に趣きつゝあり。君名譽慾に走

らず、謙遜自重の人たり。日蓮を信仰し、詩歌を良くす。貞子夫人との中に二男四女あり。衆議院議員

難波清人

東京品川区入新井町新井宿
明治二十一年上道郡平井村に生る。早大法律出身、中外商業新報記者として經濟部に活躍すること久し。木堂翁に私淑師事すること亦久しかりしが、遂に大正十四年補缺選舉に際し當選、爾來政友會中の少壯議員として勢力を有す。當選既に三回期待せらるゝところ大なり。

中田修一郎



明治三十年兒島郡福田村に生れ。大正四年津山中學を卒業、父操平氏の呼松郵便局長なるの故を以て其下に遞信事務を掌管す。爾來恪勤之を既往の成績に比すれば呼松局區域は劃然面目一新す。地方住民の多とする所なり。局務の傍ら福田村公設消防組呼松支部長の職にあり。藝術寫眞は其趣味とする所、古今東西の美術寫眞を多數蒐集す。

中島琢之

津山市田町二二二

明治十八年三月苦田郡高野村に出生、四十二年東大醫學部卒業、附屬病院入澤内科にありて研究、後日本醫專教授及同附屬病院内科醫長を勤めて合名あり。大正三年歸津現在中島病院を開業し、爾來今日に及ぶ。傍ら郡醫師會長、縣醫師會長等として斯業發達のため貢献少からず。昭和五年盟友清水長郷氏と共に郷黨に推されて、第一區より代議士に當選民政黨に所屬す。又津山市會議長たり。

中藤重三

岡山市中之町



中藤商店は生蠟、蠟燭の製造販賣を業とし先代専次郎氏の創業に係る、其

の販路は中國一圓四國に及び岡山市製産品として重きを爲す、最近ガソリンの販賣を始め市内天瀬に店舗を有す。君は岡山第一中學卒業後、神戸高等商業學校に學ぶ、新進の實業家として將來を嚮望せらる。

中田梶太

大阪市東區今橋一ノ七

君は吉備郡足守町の人明治十五年四月生れ、夙に東都に學び、三十七年明治大學を卒業し、同年十一月判檢事登用第一回試驗に合格し、司法官候補を命せられ廣島地方裁判所、德島地方裁判所に轉じ、三十八年一年志願兵として第五師團歩兵第四十一聯隊に入り、累進して陸軍三等主計に至る。四十年檢事に任せられ德島、松江、山口、廣島、吳、舞鶴、福知山、京都の各地方裁判所を經、大阪控訴院檢事に拔擢せられ、大審院檢事に補せられ、大正十四年十月職を辭して現地に辯護士を開業し以て今日に至る。君在職中吳海軍工廠同盟罷工事件、シーメンス事件、大本教檢舉等に關係し其の功鮮少なからず。

中道卯之助

廣島縣酒造組合長



君は明治元年廣島縣安佐郡綠井村に生る。東京明法出身。以來遠大の希望を以て刻苦精勵。幾何もなく縣會議員、郡會議員及び議長に當選し、地方議會の爲大いに其の手腕を發揮せり。尙前記組合長、全國酒造組合中央會相談役、中國醬油取締役、廣島縣海外移住組合理事等の榮職にありて劇務を處理し、各其の業務の伸張に貢献するところ甚大なり。

難波誠四郎

東京澁谷區代々木西原町一〇〇六

難波今治氏の四男明治十六年生れ、東京帝大に入り四十二年其の法科政治經濟科を卒業し、直ちに明治生命保險會社に入社して活躍を續く。大正二年太陽生命保險會社に轉じ、昭和二年同社支配人兼募集部長を経て現職たり。

家族は喬子夫人の外に令甥二人あり。

元岡山市長

中山

寛 岡山市弓之町一三九

辯護士として市會議員として將又縣會議員として活動を続け、遂に衆望を荷ひ岡山市に市長となり、在任二期業績大いに擧がる。



今や閑地にあり僅かに都市計畫岡山市地方委員の現職にあるのみなるも尙且君に俟

つもの多く隠然岡山市元老たり。君安政三年生れ。長男清氏は中水社員、四男魏氏は東京美術學校出身新進洋畫家として令名高し。

正五位勳四等 文學博士

榎崎 淺太郎

東京板橋區練馬南町二ノ三八九三

明治十四年御津郡加茂村榎崎爲十郎氏の長男に生れ、岡山師範を卒へ、東京高師本科博物科卒業、四十三年更に京都帝大文科哲學科を卒り、大正九年東京高等師範學校教授に任ぜられ、十二年文學博士の學位を授けられ、昭和三年歐米に留學して五年歸朝し、東京文理科學教授兼東京高師教授を拜命今日に至る。登美子夫人との間に二女あり。

永井結核病研究所長
森ヶ崎永井療養所長

醫學博士 永井秀太

東京麴町區三番町四

明治九年邑久郡牛窓町永井昇氏の長男に生れ、二十九年第三高等中學醫學部を卒へ、司法省三池集治監の醫務署長に任じ、福岡縣赤池炭鑛病院長に轉じ、後郷里に開業醫たり。かくて研鑽學究の雄志禁する能はず、先進獨逸に留學し、専ら結核療法を研究し、歸朝の後今の結核病研究所を創立し、自ら其の所長として倍々努力を傾注す。大正十年醫學博士の學位を授けらる。淺江夫人との間に四男四女あり。長男立一氏は醫學士東京帝大、稻田内科勤務なり。

肛門病院長

中島 常

函館市鶴岡町三二一

明治十五年上道郡宇野村原尾島に生れ、東京郵便電信學校直屬電氣通信技術生を卒へ、

勤績、大正十年には勅任官待遇に進む。大正十三年高知高等學校長に任ぜられ高等官二等に敘す。昭和二年四月退官現地に安住す。峰子夫人との間に三男四女あり。

上道郡角山村長

更に教員檢定試験に合格、日本醫專を卒業し、通信書記補に任ぜられ逓信部内に奉職すること數年。岡山師範助教諭心得に轉じ、岡山



高女、岡山教員養成所、岡山外國語學校、東京女子体操音樂學校教師等歴任の後

、大正六年函館市に痔疾肛門病を専門として醫院を開業し病院長たり。更に今や函館健康保險署囑託醫其の聲名益々高し。尙君は専門の痔疾無痛療法を創案し著書に痔疾無痛療法あり。

中村 舜一

東京神田區錦町三ノ二五

眞に東京市政に献替し、常に市政の恢興に善處して渝らず、廣く自治政の爲に活躍する君を措いて又何れにか之を求めん。明治十三年岡山市の生れ、三十三年上京同郷の先輩秋山定輔氏を訪れ、二六新報社に入りて十七年所謂格勸勵精一日の如し。其の行文雄渾勁拔、當時の操觚界に噴々たる聲名あり。仍ち遂に選ばれて神田區より立つて市會議員たること既に四回。市參事會員たること二回、特別都市計畫委員に選ばれて帝都復興、大東京建設に其の濫蓄を傾注す。君號を吞牛と稱し、山を愛し、水を樂しむ。明治三十四年二六社の當時七月一日東京を發して半歳、行程千二百里東北日本を眞實の徒歩にて踏破し、西南日本の担当者中村樂天氏の千里徒歩に對應し十二月十五日歸京せり。兩雄日々の跋涉紀行を速報し、數萬の讀者をして熱狂せしめたる其の意氣惚ふに餘りあり。大東京總覽は其の著にして浩漭七百餘頁に亘る。

前高知高等學校長 正四位勳三等

内藤 馬藏

岡山市西田町一〇



君は倉敷市の人、明治六年生れ、三十二年東大文科史學科を卒業し、三十四年第六高等學校教授に任ぜられ、爾來二十三年間

保險、東洋織布、菱美電機商會等各株式會社 監查役。

永原 伸雄

小石川駕籠町二一八

明治五年上道郡財田村岡山縣士族醫師永原玄古氏の二男に生る、大正十五年分れて一家を建つ。君少壯にして期するところあり、東

後今の結核病研究所を創立し、自ら其の所長として倍々努力を傾注す。大正十年醫學博士の學位を授けらる。淺江夫人との間に四男四女あり。長男立一氏は醫學士東京帝大、稻田内科勤務なり。

肛門病院長
中 島 常 三 函館市鶴岡町三二
明治十五年上道郡宇野村原尾島に生れ、東京郵便電信學校直屬電氣通信技術生を卒へ、

君は倉敷市の人、明治六年生れ、三十二年東大文科史學科を卒業し、三十四年第六高等學校教授に任せられ、爾來二十三年間



勤績、大正十年には勅任官待遇に進む。大正十三年高知高等學校長に任せられ高等官二等に叙す。昭和二年四月退官現地に安住す。峰子夫人との間に三男四女あり。

上道郡角山村長
長森梅三郎 君は角山村竹原の人、少壯より或は小學教育に或は町村役場郡役所等に勤務して地方自治に精通す。久しく西大寺町助役たりしが衆望默し難く、自村々長に選ばれて就任令名高し。業勸に土木に



教育に衛生に其の蓋蓄を傾注して、村財政金融の根本的刷新、民風習俗の向上振作、其の治績定に見る可きもの多し。常に平和を尊び懇切鄭重を旨とす、舉村又克く其の意を體して衆望愈々厚く村民悦服す。

專敬流生花家元顧問
長 尾 俊 憲 岡山市東田町一九



君は明治四年吉備郡岩田村舊村長たりし長尾美賢氏の長男に生る、岡山中學卒業、明治三十八年以來岩田村長勤績二十八年に及び、内務大臣より模範村として表彰さる。岡山縣會議員として當選すること四回、縣政の爲めに貢献して効勞淺からず。此外吉備郡農會長、郡畜産組長、農業倉庫長、岩田産業組合長等の役職にありて地方産業界、教育文化、精神薫化に努む。教育功勞者として文部大臣より表彰されしことあり。花道は京都專敬流、大阪小原流の盛花瓶華の奥儀を極め廣く教授をなす。明治四十三年の特別大演習、昭和五年の大演習に插花奉仕の光榮に浴せり。靜代夫人との間に四男あり。

三菱合資會社理事 同造船株式會社、同航空機、同電機、同商事、同信託、同倉庫、同製鐵、菱華倉庫、東京海上火災保險、明治火災

保險、東洋織布、菱美電機商會等各株式會社監查役。
永原伸雄 小石川駕籠町二一八
明治五年上道郡財田村岡山縣士族醫師永原玄古氏の二男に生る、大正十五年分れて一家を建つ。君少壯にして期するところあり、東京高商に入學二十五年卒て三菱合資會社に入る。爾來四十有餘年孜孜として倦むところなく所謂恪勤一日の如し。宜なり累進して今日を爲す。三菱造船取締役たりし等その閱歴蓋し枚擧に遑あらざるなり。浪夫人明治十六年生れ、岡山縣士族香川讓三養妹との間に三男四女あり。

國幣中社中山神社
仁 木 大 次 津山市山下



君は苦田郡東一宮の人明治九年生れ、大正九年神戸市官幣中社長田神社禰宜に任補せられ、後美作中山神社社司に轉ず。日夕信仰の道に生き、皇室中心主義を高調し、大國主命を尊崇すること厚く、遠近其の徳を慕ひ集ふ者尠からず。又和歌をよくす。今次大演習の後賜饌に召され、ゆくりなくも玉座の眞正面に着坐せるかしこさにいやしき吾日の大御子の大御影いさめにあふくけふのかしこさ陛下の出御を拜みまつりて立ながら日の大御子のいてましををろがみまつるそあやにかしこき

正五位勳三等
西村丹次郎 岡山市上西川

慶應二年吉備郡秦村板野友太郎氏令弟に生れ、先代西村鶴太郎氏の養子となり、明治十四年分家す。二十三年東京專門學校を卒業し、歐米に留學して政治經濟科を専攻し、歸朝の後新聞記者として活躍す。衆議院議員として當選十一回に及び、臨時國民經濟調査會委員、臨時治水調査委員等として貢獻甚大なり。昭和六年農林政務事官に任じ、文政審議會、米穀調査會各委員仰付けらる。大正三四

年事變の功により勳三等に叙せらる。立憲民政黨に屬し、第五十五議會には衆議院全院委員長に推さる。居常簡素、誠直懇切眞に政界の名士たり。

滿洲國新民縣參事官

西崎肇 上道郡富山村の人、少壯より大志あり令兄と共に十九歳にして渡支、旅順公華學堂に入りて具に語學を専攻し、學を卒へ漢口に至り日支國交の爲居留民の代表として屢々國際的功績を積む。後鄭洲代理領事に拔擢せられ、濟南事變の爲めに一時歸國、再び往きて滿洲建國の爲め東奔西走し、彰武縣參事官に任じ、今回更に新民縣參事官に榮轉、滿洲國の健全なる發展興隆に献身の赤誠を傾注して活躍を續く。

眞庭郡勇山寺住職 僧正 西川秀英



眞庭郡木山村鹿田、勇山寺は人皇四十五代聖武天皇の神龜三年行基菩薩勅命を奉



じて建立、厄難除衆病悉除のため御丈六尺五寸の藥師如來を彫刻安置す。其後嵯峨天皇の朝に弘法大師四十二才來錫し、自ら丈六尺一寸一分の不動明王と等身の金伽羅、制多伽の二童子を彫刻安置す。これ所謂彼の成田不動の姉妹作にして日本三體の一なり。

明治三十四年八月藥師如來不動尊三體とも甲種國寶に指定せらる。僧正は阿哲郡矢神村上神代の出身、眞言宗京都中學卒業後佛典の研鑽を積み、大正二年五月當寺に住職たり。勇山寺に對する歸依信仰は師の人格と相俟つて益々高し。

醫學博士 西 業求

大阪市西區南堀江通 明治二十三年川上郡落合村西藤太郎氏五男に生る。家は地方の名門にして父は永く村長

を勤め、君は早くより醫學に志し、金澤醫專に入り大正四年之を終へ、直ちに東京傳染病研究所に入る。長興、宮川兩博士に師事して鋭意研究に没頭すること十年、大正十二年醫學博士の稱號を得、翌年兵庫縣今津の百瀬博士經營の起生病院に招かれ治療部主任として信賴高かりしが、十四年大阪に出で現醫院を開業して今日に至れり。

巴屋化粧品製造所取締役

西村新八郎 大阪府下泉北郡濱寺町

君は岡山市大工町の人、明治三十八年上阪化粧品製造工場に入り製造販賣の研究を遂げ、苦闘十五年大正九年株式會社巴屋化粧品製造所を創立して代表取締役となり、爾來十二年細密周到なる注意を以て製品の改良と經營に勞資の協調を理解せしめ之が萬全を期せり。年額七八十萬圓、販路を全國に普及するに至り、將來倍々多望なる事業家として矚目する。

西崎佐吉

岡山市門田屋敷明治八年上道郡古都村に生れ、金川中學卒業、岡山師範に學び小學校教員たること數年、偶々長澤別天氏の知遇を得て山陽新報社に入社、後田岡嶺雲氏の中國民報主筆となるに及んで同社に入り、出で、神戸にありしが幾何もなく山陽社に復歸し大阪支局主任となり、續いて編輯主席となる。大正元年夕刊岡山新聞を創刊、後岡山日々新聞を創刊久しく其の社長たり。武道興國論は有名なるもの柔道二段、大日本武德會岡山縣支部の功勞者たるなり。

岡山市内山下小學校長

西山富佐太

明治二十二年御津郡福濱村に生る。四十三年岡山師範卒業、自村小學校、女子師範、平壤小學校に勤務し、尋いて上道郡富山校長、同補習學校校長、男子師範訓導を兼任し、後内山下小學校訓導に轉じ、清輝小學校長となり久しく其の敏腕を振ひ今や内山下小學校長として市教育界に重鎮たり。

倉敷商業會議所議員 仁科清吉

君は明治二十八年西阿知町に生る。幼名を蒼一といひ、大正十四年父君清吉氏の後をうけて襲名す。岡山縣商卒業後岡山米取引所仲買店仁久組に入り、或は肥料商を經營せしこ



とあるも、父君の没後は専ら吳服商

の女丈夫と謂つ可く其の功績擧げて數ふ可くもなし。家に三男二女あり。 平和タクシー店主 岡山市内山下

明治三十四年八月樂師如來不動尊三休とも甲種國寶に指定せらる。僧正は阿哲郡矢神村上神代の出身、眞言宗京都中學卒業後佛典の研究を積み、大正二年五月當寺に住職たり。勇山寺に對する歸依信仰は師の人格と相俟つて益々高し。

醫學博士 西 業求 大阪市西區南堀江通
明治二十三年川上郡落合村西藤太郎氏五男に生る。家は地方の名門にして父は永く村長

導を兼任し、後内山下小學校訓導に轉じ、清輝小學校長となり久しく其の敏腕を振ひ今や内山下小學校長として市教育界に重鎮たり。
倉敷商業會議所議員
仁科 清吉
君は明治二十八年西阿知町に生る。幼名を蒼一といひ、大正十四年父君清吉氏の後をうけて襲名す。岡山縣商卒業後岡山米取引所仲買店仁久組に入り、或は肥料商を經營せしこ



とあるも、父君の没後は専ら吳服商に全力を傾注す。趣味としては彫刻、敏子夫

人との中に二男二女あり。

眼科醫院 西原亀一郎

明治二十三年兒島郡味野町に生れ、大正三年熊本醫專を卒業し、同校附屬病院眼科助手として勤務大正六年歸郷現地に於て開業す。懇切丁寧、患者の信頼篤く治療を乞ふもの頗る多し。又衆望を荷ふて町會議員に選ばれ常に町政の爲に善處重きをなす。

辯護士 西村禎一郎

明治十四年阿哲郡上市村西村幸藏氏六男に生る。四十五年帝大獨法科を卒業して村井銀行に入り、數ヶ月の後早くもその拔群の才幹を認められ支店長に拔擢され、大正二年全社の大阪に支店を設置するに當つてその局に當り設立なるや副支配人の名義を以て支店を主宰す。後全行を去つて大阪市に辯護士を開業して今日に至り大阪辯護士會副會長に推され衆望信頼最もあつし。

大日本婦人聯合會理事

關西聯合婦人會理事、大阪女教員會理事
從六位 西協りか 大阪市住吉區北田邊町

女史は苦田郡加茂町黒木の人明治十二年内田八十吉氏の二女に生る。本邦醸造細菌學界の權威者、大阪工業大學教授西協安吉氏に嫁し、現大



阪府女子師範學校首席教諭、女子育英の事に從へる外前記各理事として

活躍す。大阪府師範女子部を出で、三十七年東京高等師範學校卒業、現大手前高女の前身堂島高等女學校教諭、福井縣立高女、私立ウイルミナ女學校に歴任、大正三年九月現任校の教諭兼舎監に任せらる。眞に時運に不可闕

の女丈夫と謂つ可く其の功績舉げて數ふ可くもなし。家に三男二女あり。

平和タクシー店主 西下武夫

岡山市内山下

明治三十八年和歌山縣日高郡比井崎村に生れ、和歌山縣立田邊中學を卒業の後、岡山に來り大正十三年乗合貨自動車を開始し、十五年均一タクシーを開始し今日に至る。傍ウイルス、ホイベツトを販賣し、鳥取、廣島縣にも其の支店を有す。君は温厚の士勤勉の人なるを以て多數の従業員も心服し、家運日を追ふて隆盛なり。令兄西下正巳氏は醫學博士、現に廣島市八町堀に開業令名頗る高し。芳子夫人との間に一女あり。茶の湯、乗馬を娛しむ。

西岡實太

東京牛込區市ヶ谷砂土原三

明治十七年西岡六三郎氏の長男に生る。學を卒へて遞信省に入り遞信屬となり、内閣拓殖局屬に轉任し、樺太廳理事官、同廳事務官、鐵道事務官に歴任し後東京市主事、函館市長に就任せり。大正十三年東洋拓殖銀行に入り總務部長となり、東亞勸業、東商實業會社の取締役に就任、同十五年日本勸業銀行に入り庶務課長兼調査課長の重職にあり。寸暇園基を娛しむ。やす夫人との間に一男三女あり。

兒子喜六

御津郡馬屋下村

明治十八年生れ、四十一年岡山師範卒業。直に女子師範訓導奉職、爾後御津郡香橋小學、淺口郡玉島小學校兼農商補習學校助教諭、岡山市旭東小學校兼旭東實補校を歴任。大正十一年三動小學校長に榮轉し、更に内山下小學校長に榮進す。其の間初等教育、青年教育、社會教育界の爲に盡瘁貢獻せる事頗る甚大幾度か表彰を受け、奏任官を以て待遇せられ、實に岡山市、岡山縣の耆宿として教育界の權威たりき。

西野 護

津山市林野町野介田

市制施行後各町青年團を聯合して、津山市聯合青年團を創設するに際り、君多數の譽望を負ふて其の團長となる。品性高潔殊に文筆に長じ、言論亦透徹雄辯眞に市青年團代表として誇りとす。現に市内福岡小學校に教鞭をとり、蓋し少壯より獨力刻苦勉學今日を築く、尋常一様にあらざる努力家たるなり。

丹羽正近 大阪北區浪花町二三八

明治二十三年小田郡笠岡町に生れ、夙に上阪天王寺中學を卒業して四十四年大阪高工機械科の業を卒へ、大阪才賀電氣商會に勤務、



大正二年福島紡績に轉じて本店詰となり、後各工場に出張勤務して幹部社員となり、十一年徳島工場副長、十五年堺工場長、昭和二年姫路工場長、四年笠岡工場長として今日に至る。光枝夫人は梅花高女出身なり。

西林正 英田郡豊田村

家は清和源氏赤松則松の後裔、後故ありて轉々英田郡北原村に來り、字西林に居住し地名をとりて西林姓を名乗る。安政年間庄屋を勤めたる家柄にして、君は正に第十三代目なり。明治二十五年村役場書記となり、収入役に進み、一時穀物取引所仲買人たりしが三十二年廣島縣廳に奉職、三十三年廣島地方裁判所に入り、同年森林監として廣島縣大林區署に勤め、大正六年辭し後津山町役場書記兼收入役代理に選任、大正九年助役に進み、昭和三年自村々長に推さる。役場新築、公有林統一等懸案を解決し、縣道編入改修等その貢献するところ甚大なり。

西田健太郎 眞庭郡湯原村

明治十九年苦田郡泉村赤阪に生る。三十九年岡山師範卒業、眞庭郡湯原小學校、二川村精鍊小學校、川上村徳田校等を歴任して、大正十四年湯原小學校長に榮轉して今日に及ぶ。曩に縣知事より表彰せられ、昭和六年十二月勳八等に叙せられ瑞寶章を授けらる、現に委任官待遇の光榮を擔ひ、眞摯着實縣下有数の名校長たり。

西川米二

津山市々會議員としては、常に全市々政壇上に侃々諤々の議論を闘はし、多數階級市民の代表として一方の闘將たり。傍ら全市消防組頭として拾有餘年その功勞自他共に之を認む。君は、岡山縣英田郡林野町出身、幼少より膽力と奇才に富み、稍々長するに及びて津

山市南新座に移り、専ら産繭の仲買業に従ひて、株野町に在る實兄の製絲工場を輔く。

元山毎日新聞社長 西田常三郎 元山府城洞一〇

明治十三年眞庭郡二川村に生れ、夙に上京早大政治經濟科卒業、後渡鮮し活躍奮闘今や前記の外、元山海水浴取締役社長、全水産取締役、全畜産取締役、吉田倉庫取締役並にトキワ商會店主たる傍ら、咸鏡南道々



評議員、同水産會特別議員、元山商工會議所特別評議員等の要職にありて、之等各方面の重鎮として第一人者たり。今や産業に交通に國交に東鮮多端、將來君に俟つもの尠からず期待重大なり。秋子夫人との間に早大商科出身松坂屋在勤の一男共二氏あり。

岡山縣果物組合副組合長 西崎嘉太郎 上道郡古都村

明治十年生れ、家は古都村西崎家の宗家代々名主を勤め明治に入り戸長在職。父伊太郎氏は村會議員たり君は其の長男に生る。後村長たる事久しく令名あり。又産業組合長、農會長、果物組合長等として其の貢献頗る甚大なり。特に果物につきては自ら果樹園を有して當初より研究、又之れを郷黨に獎勵して今日の隆昌に寄與せる功勞者たるなり。

西 菊藏 上房郡中井村西方

君の祖は華山法王の御伴役として、當地に隨行して土着せる藤原道勝の後裔、後字名西を以て氏となし松山藩に屬し苗字帶刀を許さる。父君は仙吉氏明治八年長男に生る。少壯にして小學校教育に務め、三十五年岡山師範卒業、阿哲、上房の小學校教育に従事、大正五年病氣により依願退職す。同年郡會議員に推され助役となり、信用組合専務理事、農會副會長等を兼職し、昭和四年村長に就任、其の活躍貢獻せる所誠に甚大なり。

岡山菓子商組合長 西尾市太郎 岡山市岩田町

家は古くより同町に於て菓子製造販賣を業とす。君寡黙嚴格、製菓の技術を究め製品優

元笠岡町立高等女學校校長 西山森太 小田郡吉田村

慶應二年生れ、明治十七年岡山師範卒業後郡内平井小學校に奉職、三十二年岡山縣立農學校助教諭に拔擢せられ、三十八年中學

秀、正に斯業界の第一人者と謂つ可し。各博覽會共進會等に出品し、其の都度賞を受くる事屢次。曩に徳望信頼を累ねて岡山菓子商組合組長たり。今回の大演習行幸に際りては、御紋菓謹製の光榮に浴し面目をほごす。

奏任官待遇の光榮を擔ひ、眞摯着實縣下有數の名校長たり。

西川米二

津山市々會議員としては、常に全市々政壇上に侃々諤々の議論を闘はし、多數階級市民の代表として一方の闘將たり。傍ら全市消防組頭として拾有餘年その功勞自他共に之を認む。君は、岡山縣英田郡林野町出身、幼少より膽力と奇才に富み、稍々長ずるに及びて津

卒業、阿哲、上房の小學教育に従事、大正五年病氣により依願退職す。同年郡會議員に推され助役となり、信用組合専務理事、農會副會長等を兼職し、昭和四年村長に就任、其の活躍貢獻せる所誠に甚大なり。

岡山菓子商組合長 西尾市太郎

岡山市岩田町 家は古くより同町に於て菓子製造販賣を業とす。君寡黙嚴格、製菓の技術を究め製品優

秀、正に斯業界の第一人者と謂つ可し。各博覽會共進會等に出品し、其の都度賞を受くる事屢次。曩に徳望信頼を累ねて岡山菓子商組合組長たり。今回の大演習行幸に際りては、御紋菓謹製の光榮に浴し面目をほごす。

帝國冷蔵株式會社常務取締役 西原種雄

東京豊多磨町代々木一四 日本ドライアイス常務取締役 川崎製氷株式會社取締役

明治七年岡山縣土族津山町椿高下に生る。三十年東京高工機械科卒業、三十九年まで日本鐵道株式會社に勤績、四十二年まで雨宮輕便鐵道に勤務、帝國冷蔵に入りて現



職にあり。曩に昭和四年日本ドライアイス會社を創立し、其の他前記各社の重役として縦横に其の手腕を發揮して業界に重きをなす。

小田郡笠岡男子小學校長 西本 朗 小田郡笠岡町

西本 朗

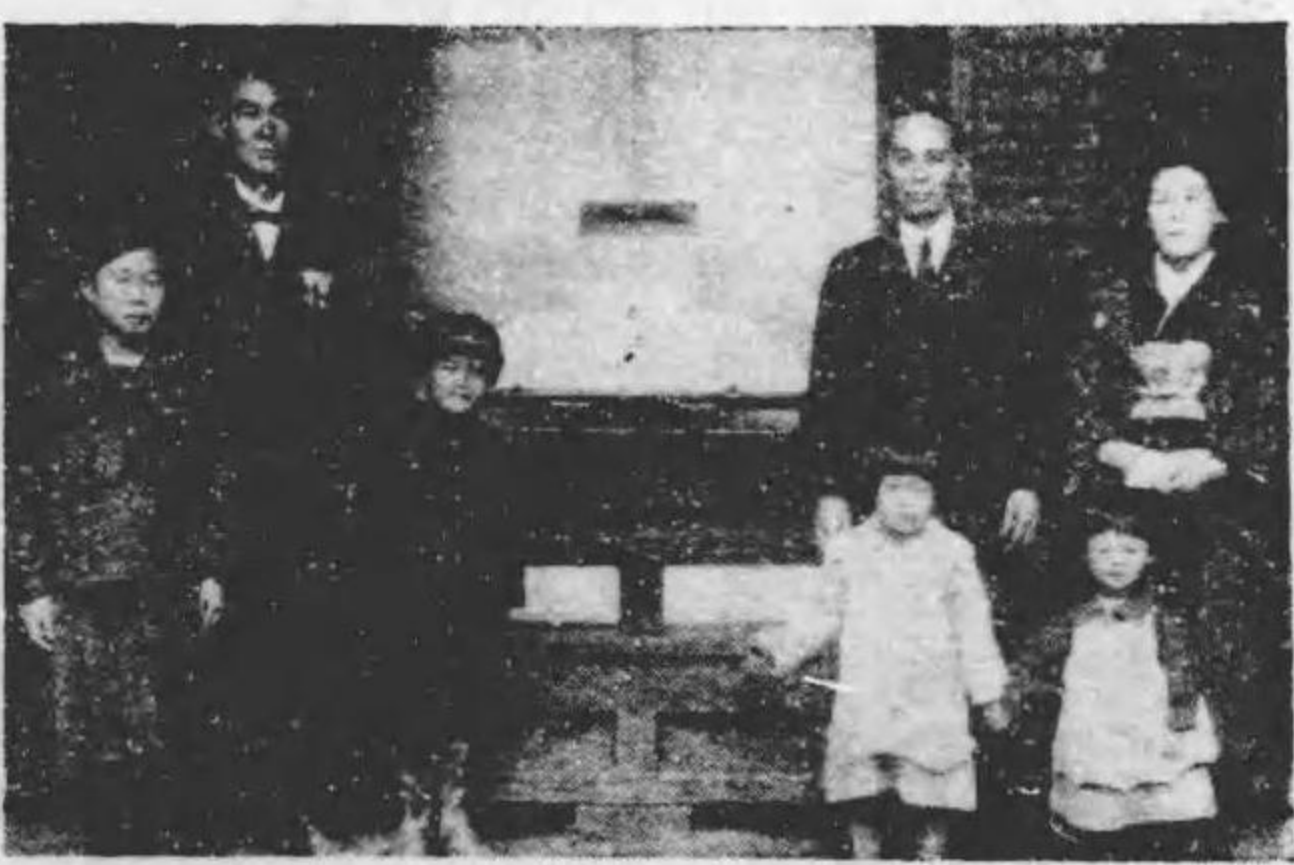
明治四年啓蒙社と稱して創立され、公立敬業小學校、笠岡小學校、尋常笠岡小學校、笠岡尋常小學校、女子部分離、富岡小學分離、高等科併置現在の校名となれる歴史ある本校々長として君は就任以來、所謂堅忍持久誠心誠意兒童教育、青年教化に盡瘁し、形式内容の充實完備を圖り、其の名聲縣の内外に高く。曩に奏任待遇を受け從七位に敘せらる。縣教育會幹事、互助會幹事、郡教育會長等の要職にありて縣下初等教育會の重鎮たり。

上道郡操南小學校長 西崎新太郎

岡山市弓之町 明治三十三年御津郡福濱村に出生、同村役場に勤務せしが、後岡山師範に入學し、大正九年三月卒業、直に師範訓導科全十二年抜擢せられて岡山縣屬學務課勤務を命ぜらる。昭和四年兼任視學となり同課主席職に進む。曩に八年專任視學に擢んでられ、今や前記校長たり。實に教育實務に行政に其の才腕知徳を傾け、縣下に其の令名頗る高く將來に期待せらるゝところ甚大なり。

元笠岡町立高等女學校校長 西山 森 太

小田郡吉田村 慶應二年生れ、明治十七年岡山師範卒業後郡内平井小學校に奉職、三十二年岡山縣立農學校助教諭に拔擢せられ、三十八年中學教員資格免狀を受け同校教諭に進み、四十年前記女學校校長を拜命、大正十年正七位に敘せられ翌年勳六等瑞寶章を賜はる。同年高踏優退して故山に歸り悠々自適老を養ふ。今次の大演習に當りかねて研究採集せる縣産民間藥用植物百八十種を選び、目錄と共に献上御嘉納の光榮に浴せり。



元勝間田農林學校校長 仁田 協 英 武

明治十三年宮崎縣宮崎郡樟村大字吉村に生れ、三十六年東大農科大學農學實科卒業、直に宮崎縣兒湯郡立農學校教諭、三十八年關東州民政署技手、翌年關東都督府技手拜命。四十一年岡山縣立農學校教諭として來任、大正十五年末前記校長に拔擢せらる。其の造詣其の教化實に本縣農業教育上忘る可らざる効績を傳ふ。眞に農學の學理學說を自ら實行に示し、德育の徹底に努め所謂活智活學實業教育の真髓妙諦を發揮したる大教育家たりしなり。今次大演習に際り自然生山芋を献上して御嘉納を賜り、服務將校、教諭一名、學校醫と共に賜饌拜受の光榮に浴す。



北海道拓殖銀行監査役 西森猷太郎 札幌市大通西八丁目

西森猷太郎

明治十四年淺口郡黒崎町に生れ、明治義會中學卒業、一高を経て東大法科卒業、直に大藏屬に任せられ、大正四年より鳥取、龜戸、神田橋稅務署長に歴任、大正七年より仙臺、東京各稅務監督局直稅部長拜命、十二年大藏事務官に累進し翌年より東京稅務監督局監督

官、函館税關長、札幌、仙臺各監督局長たりしが官を辭して今や前記の職に就く。藤江夫人との間に三男三女あり。

勝間田町長

額田次郎

勝田郡勝間田町

勝間田町の名門にして代々庄屋、戸長、村長を勤めて君に及ぶ。君亦現に勝間田町長なり。君資性濃厚篤實にして眞摯、人に接して偏依なく、且つ尊大の風なきを以て益々其徳望高く、今や地方に於ける聲望隆々町政大いに伸展す。嘗つては縣會議員、縣參事會員として縣政に參與して令名あり、現に勝田郡町村長會長の要職にあり。

宇治川電氣用地課長

沼野二郎 兵庫縣武庫郡大社村森具

明治十六年七月岡山市門田屋敷士族沼田九一氏實弟として生る。本邦五大電力會社の雄宇治川電氣株式會社は明治三十九年の創業、當初より村木正憲氏の多年會社支配の衝に任じたるため、自ら村木氏の誘掖指導をうけ全社に名をなしたる縣人多し。就中現用地課長たる君の如きは其の偉才なり。君岡



山中學を経て四十年早大商科を卒業、農林省鹽務局屬となり、岡山縣味野、日比出張所にも勤務す。明治四十三年宇治川電氣株式會社に入り、會計課倉庫係長となる。後日本電力株式會社用地課長に抜かれて全社にあること一ヶ年、昭和二年宇治川電氣の懇望によつて再び本社に復へり、電鐵運輸課長となり昭和四年以來現在其の重きに任せり。更に前途を囑望さる。

額田内科病院長

額田 豊

麻布區三河臺町一六

君は額田篤太氏の長男明治十年邑久郡美和村に生る。三十九年東大醫科を卒へ助手として研究を續行、同四十年獨逸ミュンヘン大學に研鑽し、歸朝するや東京帝大醫學部内科教室に入り、大正二年辭して前記の地に額田内科病院を開設し其の院長として今日に到る。同年二月醫學博士の學位を受く。尙其の著に

醫化學講義、内科臨床診斷學、安價生活法等十數あり。曾ては日本大學醫學科々長たり、今尙帝國女子醫學專門學校理事長、額田保養院長として醫學界指導の樞機に衝る。家にはシズメ夫人との間に四男二女あり。

東京帝國女醫專校長

神田小川町内科病院長

醫學博士 額田 晋

東京大森區山五二ノ二一七二

明治十九年生れ、邑久郡美和村額田篤太氏の二男、額田豊氏の令弟たり。東大醫科に入り、大正二年卒業同附屬病院に助手たり、當時分れて一家をなす。同八年醫學博士の學位を受け、更に理學博士の學位をも受く。今や帝國女子醫學專門學校長兼教授にして、同附屬病院長となり斯界に名聲高く、傍ら前記小川病院長たり。カツラ夫人との間に二男一女あり。

令弟坦氏は歩兵中佐、令妹靜子女史は川崎第百銀行員法學士小高氏に嫁す。かく令兄豊氏を始め兄弟姉妹各々志を遂げ東都に活躍せる、其の一家の榮與たるのみならず、其の郷黨後輩の取て以て範とし讚稱するところなり。

根岸 淺 太

上道郡角山村



明治十四年生れ、岡山普通學校を卒業、小學校教育に従事す。三十二年騎兵第十

聯隊へ志願入隊、大正四年豫備役編入、上道郡國民學校に教鞭を執り、地方青年徒弟の育成に精進し其の功勞大なるものあり。國民學校は現在に於て校舎の新築、其の他の設備完成し、生徒數も年と共に増し數百名の徒弟を收容するに至れり。君は終始一貫今日に至るまで同村篤志家石村金一翁、草信同校長等と共に、國民學校の精神を力説日夜奔走せるものなり。モトヨ夫人との間に三女一男をあげ和氣霽々たるものあり。

邑久郡神崎郵便局長

根木 芳 夫

邑久郡太伯村神崎

明治十五年生れ、邑久郡豊原村小林嘉之吉

二男、明治四十三年十二月根木家へ入籍し今日に至る、温厚の士衆望を得敬慕さる。遞信講習所卒業、大正十四年十二月神崎郵便局長就職、昭和三年十一月御大禮に付褒儀を賜る。多満乃夫人との間に二男一女あり。

事に當るを以て信望厚かりしが、遂に岡山縣會議員に當選すること數回昭和五年推されて其の議長となる。遠謀深慮、言行著實にして識見卓越、政治家としての手腕力量、禮讃するところ多し。されば郷黨より政治的將來に大なる期待を受く。

出張所

西大寺町助役

四年以來現在其の重きに任せり。更に前途を
囑望さる。

額田内科病院長

額田 豊 麻布區三河臺町一六

君は額田篤太氏の長男明治十年邑久郡美和
村に生る。三十九年東大醫科を卒へ助手とし
て研究を續行、同四十年獨逸ミュンヘン大學
に研鑽し、歸朝するや東京帝大醫學部内科教
室に入り、大正二年辭して前記の地に額田内
科病院を開設し其の院長として今日に到る。
同年二月醫學博士の學位を受く。尙其の著に

英に精通し其の功勞大なるものあり。國民學
校は現在に於て校舎の新築、其の他の設備完
成し、生徒數も年と共に増し數百名の徒弟を
收容するに至れり。君は終始一貫今日に至る
まで同村篤志家石村金一翁、草信同校長等と
共力、國民學校の精神を力説日夜奔走せるも
のなり。モトヨ夫人との間に三女一男をあげ
和氣藹々たるものあり。

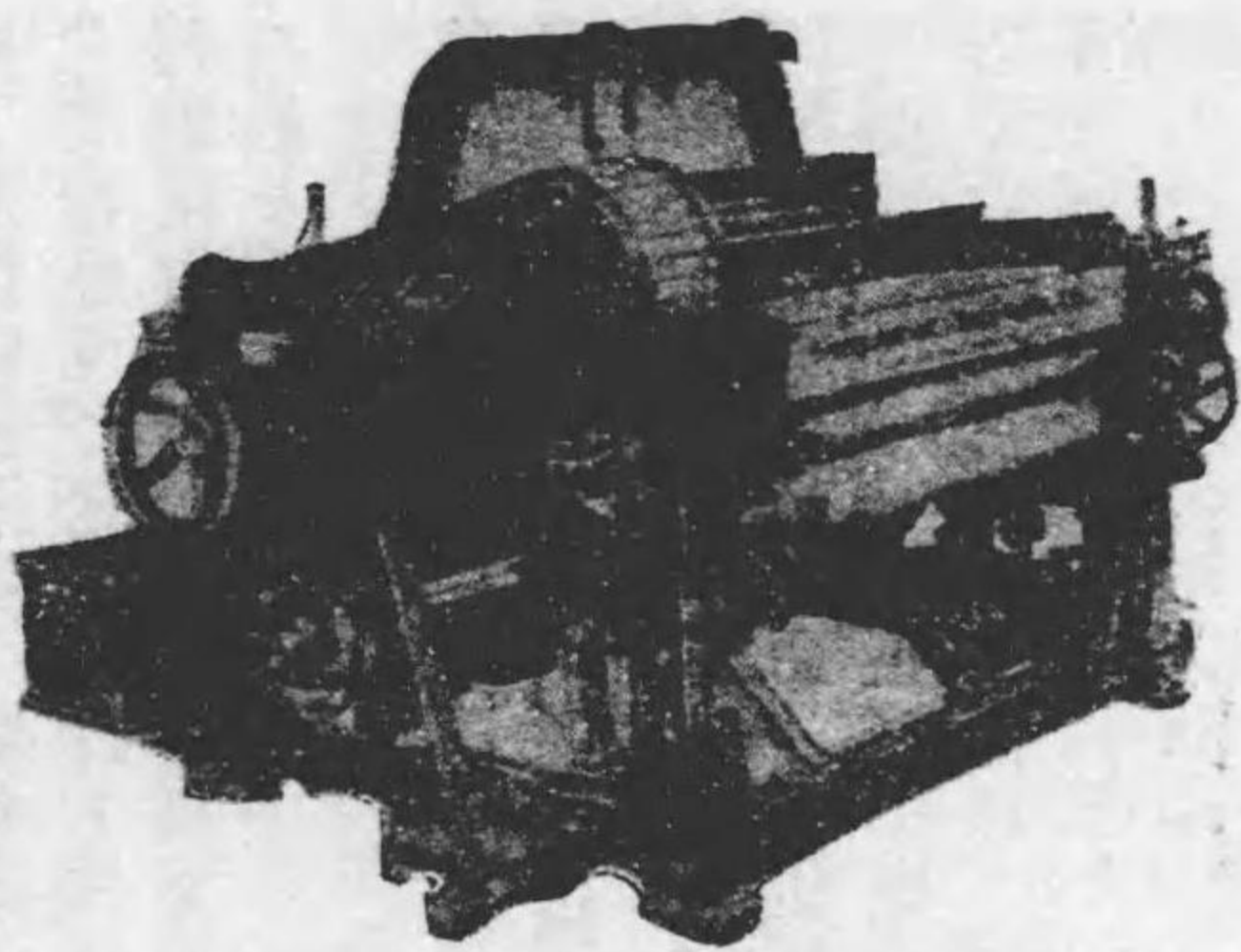
邑久郡神崎郵便局長

根木芳夫 邑久郡太伯村神崎

明治十五年生れ、邑久郡豊原村小林嘉之吉

二男、明治四十三年十二月根木家へ入籍し今
日に至る、温厚の士衆望を得敬慕さる。遞信
講習所卒業、大正十四年十二月神崎郵便局長
就職、昭和三年十一月御大禮に付饗儀を賜る
。多満乃夫人との間に二男一女あり。

事に當るを以て信望厚かりしが、遂に岡山縣
會議員に當選すること數回昭和五年推されて
其の議長となる。遠謀深慮、言行著實にして
識見卓越、政治家としての手腕力量、禮讃す
るところ多し。されば郷黨より政治的將來に
大なる期待を受く。



野上八重治

名古屋中市區御器所町向田

出張所 大阪西區土佐堀通一丁目

君は岡山縣出身の發明家たり。東大に數學
機械學を修め、明治四十年鐵道院技師となり
、大正元年日本車輛取締役技師長に轉じ、大
正五年辭して専ら織機の研究と發明に没頭し
、野上式自動織機をはじめ特許、實用新案等
數十件の發明をなす、爲に大正十五年帝國發
明協會より有功章、昭和四年同會より特等賞
を受領せり。今や其の發明にかゝる自動織機
、自動裝置、絹織機各種、二丁及四丁杼織機
、総線、大巾小巾ドビー機其の他を製作販賣
し、内地は勿論鮮滿支那印度等に廣く多量の
販路を有し、益々好評を重ねつゝあり。しか
も尙孜孜として日新の研究を遂げ改良と新發
見とに餘念なく、工業界貿易上貢献するところ
多大なり。

西大寺町助役
野崎意登七 明治二十一年上道郡九幡
村野崎奥造氏の長男に生る。四十三年岡山師
範卒業、大正五年迄師範學校訓導に在任、上
道郡富山代用附屬小學校に勤務し、苦田郡久
田小學校長に拔擢せられ、後上道郡西大寺小
學校に轉じ、同地方青少年教養の要衝に立ち
貢献甚大父兄の信頼極めて大なるものあり。
遂に昭和六年町民の囑望によりて同町助役と
なる。敏子夫人との間に二男一女あり。

安田銀行津山支店長

野村初次郎 津山市田町一七

京都市の出生、夙に安田銀行に入り京阪の



要地にあ
り。津山
興隆の機
運に際り
、支店設
置の議定
まるや特
に創業經
營の重任
を帯びて特派せらる。當時津山市には群小銀
行ありて傳統と因縁を以て割據せしが、克く
之等の間に介在して支店活躍の實を擧げ、又
信託業務の普及啓蒙に任じ、今や其の業績隆
々たり。

君の性格より顯る、懇切丁寧は同支店の特色
として行風となり更に市民に親まる。

伏見屋店主 則武董三郎 岡山市西中島

君は岡山縣立商業學校卒業後家業菓子司を
繼いで今日に及ぶ。伏見屋は古き菓子屋とし
て廣く知らる。其の原料を吟味し製造に注意
し研究に怠なきこと蓋し業界中稀に見るとこ
ろなるべし。されば人氣利遠近に顧客を有
す。今回の行幸に際し御菓調製の光榮に浴
じ、併せて自家製造に係るカステラを天覽
に供し、名物桃太郎しるこを献上御嘉納の榮
を賜ふ。君現に商工會議所議員、識見高く不
偏不黨常に所說適正將來を囑目せらる。

三越吳服店顧問
南米拓殖株式會社取締役

野崎廣太 東京澁谷區羽澤町九五

安政六年吉備郡庭瀬野崎道種氏の長男に生
る。明治三十六年慶應義塾の業を卒へ、直に
實業界に身を投じ精勵努力、或は中外商業新
報を創刊して其の社長となり、明治大正の内
外實業界を指導し、尋いで三越吳服店に入り
累進して遂に其の社長に就任し、百貨店の經
營開發を大成せり。かくて今や前記の諸職に
あり。家に長男精一氏千代田組銀座支配人夫
婦、三孫有り。

辯護士 則井萬壽夫 上房郡高梁町

明治十二年生れ、君辯護士として常に眞摯

尾道市會議長
野田茂吉 尾道市久保町

文久二年十一月尾道市に生る。明治十三年廣島縣醫學校を卒業、縣公費にて東京へ遊學、實地研鑽を積み、十六年歸郷し開業す。當時御調郡醫師會副會長、市醫師會役員、小學校々々醫、商業實務學校々々醫等たり、信賴厚きを加へ名醫の聲高かりき。後廣島縣醫師會々々頭たる事兩度、又尾道市會議長たり。其の他教育會副會長、慈善會理事、市衛生組合聯合會長、尾道看護婦學校講師等の榮職にあり。



野崎茂平 兒島郡味野村味野

先代定次郎氏は自治の確立に努め、多年村長、町長を勤めて徳望あり。君は其の長男明治十四年生れ、京都同志社中學校卒業後米國に渡りてネブラスカ、ハイスクールに勉學四十年歸朝慶應義塾に學び、歸國野崎家の鹽務部長として臺灣鹽田の開拓監理をなし、製鹽界に雄飛して斯業の發展に貢献す。大正十年先代の後を受けて町長たり。郡各種團體共同事務所理事長、縣海外移民組合理事、町農會長、郡農會評議員、縣會議員、參事會員等として盡瘁す。傍ら下津井鐵道取締役、阪急行電鐵取締役等として實業界に雄飛するところあり。

家は我國鹽業界の鼻祖として、全國に著名なる野崎家の分家

前岡山東警察署長
野田徳三郎 岡山市弓之町

明治十三年邑久郡行幸村服部に生る。三十四年岡山縣巡查拜命、爾後累進して四十五年警部補となり、大正三年東京警察官講習所を出で六年八月警部に任官し勝山、總社、倉敷各警察署長をへて昭和三年八月岡山西署長に轉じ更に昭和四年八月地方警視に任せられ東署長に榮轉す。今次の大演習には畏くも陛下御警衛の重責に當り、御鹵簿の先驅に奉仕するの光榮に浴し滞りなく大任を全うせり。多年警察行政に功ある故を以て正七位勳七等に敘せらる。昭和七年十月職を退き、今や岡山演武場主事として晩年を樂しむ。

則武音人 御津郡一宮村尾上八九六

騎兵第十聯隊に入隊、滿洲守備に當ること一ヶ年除隊後鐵道省に入る。岡山驛助役、彦崎驛長、西阿知驛長、木野山驛長を経て現在岡山驛助役兼鐵道局書記、岡山驛信號係主任なり。今回の行幸に際しては、警備掛主任、接待掛主任として御召列車發着時構内警備、司令部、奉送迎者及寫眞班の入場整列取締、皇族御乗降手配、統監部列車の乗車取扱、貴賓乗降手配、軍隊、團體の乗降誘導等の重責に當り、殊に陛下の御乗降前後八回、其の都度御出入口に親しく御警衛申上げて大任を果たす。其の光榮、其の功績讚嘆措かざるところなり。

陸軍少將

野中勝明 東京豊多摩千駄ヶ谷八四一



山船頭町に生れ、叔父野中銀造氏の養嗣子となり、後別家す。岡山中學出身、幼年學校、士官學校を卒へ、明治十九年砲兵少尉に任じ、廣島砲兵五聯隊小隊長、大隊副官、砲兵射擊學校教官を歴任し、二十六年獨逸に留學、二十八年招還せられて大本營附、大臣副官、旅順差遣の後再び獨逸に留學、三十二年當時鐵道未設の西伯利を経て歸國、射擊學校に再び勤務、北清事變に參與、三十四年中佐に任じ野戰砲兵八聯隊長。日露戰役に從軍の後、陸軍技術審査部附、四十四年少將に進み由良要塞司令官、重砲第二旅團長等に歴任、大正二年豫備役たり。爾後民間航空事業其の他公共的事業に貢献しつゝあり。家に長男夫妻外四男ありて三人までは陸海軍將校たり。

元宇野郵便局長
野口良香 兒島郡宇野町

明治二十四年生れ、四十五年岡山師範を卒業、師範訓導に榮進し、在職八ヶ年の後辭して前職に就く。傍ら町會議員に當選し、宇野開港期成同盟會常任委員として活躍する等地方自治に貢献多大なり。其の前途倍々多望各方面の期待するところたり。

野崎丹斐太郎 兒島郡味野町

明治二十五年生れ、武吉郎氏の男、京大に學ぶ。家代々耕地と塩田との經營を専らとし、他の事業に關與することなし。殊に先代仁徳として公共的精神に富み諸種の公益事業に

男宇一氏は高工教授、二男宙二氏は海軍少佐、三男乾三氏横濱地方裁判所檢事、五男龍伍氏行政、司法兩高等試験に合格尙學究繼續、六男虎六氏東大醫科在學中、長女次女(共に嫁して家にあらず)あり。

明治十三年邑久郡行幸村服部に生る。三十四年岡山縣巡查拜命、爾後累進して四十五年警部補となり、大正三年東京警察官講習所を出で六年八月警部に任官し勝山、總社、倉敷各警察署長をへて昭和三年八月岡山西署長に轉じ更に昭和四年八月地方警視に任せられ東署長に榮轉す。今次の大演習には長くも陛下御警衛の重責に當り、御鹵簿の先驅に奉仕するの光榮に浴し滞りなく大任を全うせり。多年警察行政に功ある故を以て正七位勳七等に敘せらる。昭和七年十月職を退き、今や岡山演武場主事として晩年を樂しむ。

男の他、其の事業に貢献しつゝあり。家に長男夫妻外四男ありて三人までは陸海軍將校たり。元宇野郵便局長

野口良香 兒島郡宇野町

明治二十四年生れ、四十五年岡山師範を卒業、師範訓導に榮進し、在職八ヶ年の後辭して前職に就く。傍ら町會議員に當選し、宇野開港期成同盟會常任委員として活躍する等地方自治に貢献多大なり。其の前途倍々多望各方面の期待するところたり。

野崎丹斐太郎 兒島郡味野町

明治二十五年生れ、武吉郎氏の男、京大に學ぶ。家代々耕地と塩田との經營を専らとして他の事業に關與することなし。殊に先代仁慈にして公共的精神に富み諸種の公益事業に盡し、製鹽業の發達を企圖し或は食鹽の品位を改良向上し、取引の便益を圖り或は自ら測候所を設けて業者に利便を與ふる等、銳意斯業の獎勵開發に盡したる結果本縣をして全國に冠絶せる製塩地たらしめたり。又遠く台灣に於て塩田を開拓し該地産業に貢献する所尠からず。内地人にして台灣に塩田を開拓したるもの實に氏を以て嚆矢とす。君家を繼ぐに及び家風を重んじ祖父の素志を繼承し、益々徳を布き善を施し里人の尊崇愈々厚し。塩業に就ては力を致し衆に率先してカナワ式製塩工場を創設し斯業の發達進歩を圖る。經營する所の塩田内地に百四十萬坪、台灣に於て百八十餘萬坪に及ぶ。夫人は子爵板倉勝朝の令妹一男三女を擧ぐ。

從四位勳四等 早川鐵治

東京澁谷區八幡通三ノ二一
橫濱護謨製造株式會社監查役
東京信用組合理事

岡山縣士族早川正誼氏の二男慶應元年生れ明治二十七年分家す。十七年札幌農學校を卒業、渡米してバスターグ法律學校、更に獨逸伯林大學に學び、歸朝後外交官試補として米、獨、韓等に駐勤す。後藤伯の農商務大臣秘書官に任じ同省參事官たり。やがて辯理公使外務省政務局長に歴任す。後官を辭して實業界に入り日本火災保險、帝國肥料、日本防腐木材、日本硫安肥料、小樽木材、日本倉庫、日寶石油等各株式會社の重役たりき。現在尙前記の重職にあり。明治四十五年長崎縣對馬より擧げられて衆議院議員に當選す。一男五女あり。

大日本麥酒株式會社取締役 東京硝子株式會社監查役

橋本卯太郎 東京澁谷區景丘町五〇

吉備郡秦村橋本源三郎氏の長男、明治二年三月生れ、少壯にして志を立て、東上、明治二十七年東京高等工業學校機械科を卒業し、創業日淺くあらゆる企劃と新興の意氣に燃ゆる日本麥酒會社に入り、遂に今日大日本麥酒會社の前記要路に立つ。マツ夫人との間に長

男宇一氏は高工教授、二男宙二氏は海軍少佐、三男乾三氏橫濱地方裁判所檢事、五男龍伍氏行政、司法兩高等試験に合格尙學究繼續、六男虎六氏東大醫科在學中、長女次女（共に嫁して家にあらず）あり。

元豐田郡町村長會長 勳六等 秦 靖造



文久元年廣島縣豐田郡善入寺村に生る。明治二年庄屋見習と

なり戸長に進み、十七年下北方村上北方村善入寺戸長、二十二年以來其の組合長に屢次當選。後縣會議員に擧げられ、尙北方産業組合長、縣農會副會長、煙草耕作組合長等として盡瘁するところ多し。日露戰役の功により勳七等、多年村長在職の功により勳六等瑞寶章を下賜せられ、拜謁賜饌の光榮に浴し、村民は徳を慕ひて頌徳碑を建設せり。

天狗足袋製造元 橋本平太郎 津山市安岡町

明治二十七年三月二十日生津山市は古來足袋の産地たりしが、輓近機械工場の發達に伴ひ大規模工場の壓迫を受けて漸次衰退今君僅かに其の名を存す。橋本屋の創業は徳川時代にして津山足袋の濫觴たり、橋本屋の天狗足袋は廣く世人に知られ、津山足袋製造元として代表的に存在す。君は四十三年岡山商業學校出身、家業を繼ぎ銳意改良を計り、能率の増進を盡し以て大量生産に對抗し孤壘を守りて津山足袋の爲めに大いに氣勢を揚げ、家運愈々隆昌に趣く。市會議員、商工會議所議員等の公職にあり、重きを成して活躍し市民の信望を加へたるも、近時一切の公職を辭して専心家業の發展に努力す、禪の研究深し。

神戸野田高女教諭

林 輝 明治二十年眞庭郡川東村遠藤

家に生れ、苦田郡香々美南村林家の養子たり。四十一年岡山師範を経て、大正二年東京高師物理化學科に業を卒業、埼玉縣川越高女、次で第二神戸中學校教諭に轉じ在任十年を経て、昭和元年神戸野田高女教諭となりて現在に至る。品性最も高潔常に孜孜教化を垂れて